

# 履修の手引き

令和8年度（2026年度）入学生用

## 【内容】

- I 科目履修に当たって知っておくべきこと
- II 教養教育について（獣医学部を除く）
- III 専門教育について【人文社会科学部】
- IV 専門教育について【教育学部】
- V 専門教育について【理工学部】
- VI 専門教育について【農学部】
- VII 共通教育・専門教育について【獣医学部】
- VIII 教育職員免許状・各種資格の取得方法
- IX 国際教育科目について
- X その他プログラムについて
- XI 関係法規等



国立大学法人

岩手大学

IWATE UNIVERSITY

令和8年度（2026年度）行事日程

前期	4月	2日（木）		外国人留学生オリエンテーション
		6日（月）		学部新入生学生証等配付
		7日（火）		入学式 編入学生オリエンテーション
		8日（水）		学部新入生オリエンテーション 新入生交流会（新入生歓迎実行委員会主催）
		8日（水）～10日（金）	前期履修申告	
		9日（木）～10日（金）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生）
		中旬		[奨学金]在籍報告 （前年度からJASSO給付奨学金を継続する方）
		14日（火）	授業開始【前期・クォーター（ ）】	
		14日（火）～20日（月）		定期健康診断（学部の令和8年4月入学生以外）
		14日（火）～20日（月）	履修申告訂正	
		30日（木）	水曜授業日	
		5月	8日（金）	月曜授業日
8日（金）～14日（木）	履修申告取消期間			
16日（土）			盛岡・つなぎ間ロードレース大会	
20日（水）			前期授業料口座引落日	
6月	1日（月）		開学記念日	
	8日（月）	クォーター（ ）補講日		
	9日（火）	授業開始【クォーター（ ）】		
7月	19日（金）～25日（木）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間		
	21日（火）	月曜授業日		
	29日（水）～8月4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
8月	中旬		[奨学金]前期授業料免除結果通知	
	7月29日（水）～4日（火）	前期・クォーター（ ）補講日		
	5日（水）～9月30日（水）	夏季休業		
	6日（木）		オープンキャンパス	
9月	8日（土）～17日（月）		全学一斉休業（閉庁）	
	8月5日（水）～30日（水）	夏季休業		
	18日（金）	前期成績発表		
	25日（金）		9月卒業式	
後期	10月	29日（火）～10月1日（木）	後期履修申告	
		9月29日（火）～1日（木）	後期履修申告	
		1日（木）		10月入学式
		5日（月）	授業開始【後期・クォーター（ ）】	
		5日（月）～9日（金）	履修申告訂正	
		16日（金）	全学休講	
	11月	17日（土）～18日（日）		大学祭
		20日（火）～26日（月）	履修申告取消期間	
		18日（水）	金曜授業日	
	12月	19日（木）	全学休講	
		20日（金）	全学休講	[入試]学校推薦型選抜 後期授業料口座引落日
		1日（火）	クォーター（ ）補講日	
2日（水）		授業開始【クォーター（ ）】		
中旬			[奨学金]後期授業料免除結果通知	
中下旬			[奨学金]継続願 （次年度もJASSO賞与奨学金を継続する方）	
1月	14日（月）～18日（金）	クォーター（ ）科目履修申告取消期間		
	23日（水）～1月4日（月）	冬季休業		
	28日（月）～1月3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）	
	12月23日（水）～4日（月）	冬季休業		
	12月28日（月）～3日（日）		全学一斉休業（年末年始休業）	
2月	12日（火）	月曜授業日		
	13日（水）	金曜授業日		
	14日（木）～15日（金）	全学休講		
	16日（土）～17日（日）		大学入学共通テスト	
3月	5日（金）～12日（金）	後期・クォーター（ ）補講日		
	12日（金）	木曜授業日（補講日）		
	19日（金）～24日（水）		入試準備日	
3月	25日（木）～26日（金）		[入試]一般選抜（前期）	
	9日（火）～11日（木）		入試準備日	
	12日（金）		[入試]一般選抜（後期）	
	19日（金）	後期成績発表		
3月	23日（火）		卒業式	
	24日（水）～31日（水）	春季休業		

上記の日程は変更になる場合があります。日程の変更及び令和9年度以降の日程は、アイアシスタントでお知らせします。

試験期間は特に設けませんので、試験については授業担当教員の指示に従ってください。

以下の日は、事務窓口が開いていないため事務手続き等（証明書自動発行含む）は行えません。

土曜日、日曜日、祝日（授業実施日含む）、全学一斉休業日及び入試等により入構できない日

# 目次

令和8年度（2026年度）行事日程

## 科目履修に当たって知っておくべきこと

1 大学の目的・教育目標	- 1
2 学期区分	- 1
3 本学の履修科目及び履修時期	- 2
4 授業科目の単位	- 3
5 成績評価	- 4
6 授業時間	- 4
7 時間割表の見方	- 4
8 総合学修支援システム	- 5
9 履修の申告	- 5
10 履修科目登録単位の上限	- 6
11 他学部開講科目の履修	- 6
12 他大学の授業科目履修における単位認定	- 7
13 放送大学の授業科目履修における単位認定	- 8
14 資格試験等による単位認定	- 9
15 ボランティア活動による単位認定	- 10
16 試験	- 10
17 成績評価に異議がある場合の問い合わせ	- 11
18 成績優秀者	- 11
19 卒業時に授与される学位	- 12
20 3年以上4年未満での卒業（早期卒業）	- 12
21 長期履修学生制度	- 12
22 転学部制度	- 12
23 転学科・転課程制度	- 13
24 学部3年次修了者の本学大学院への入学	- 13
25 その他	- 13
参考 学生の修得すべき単位数	- 14
学籍番号	- 14
用語集	- 15
I <sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I <sup>n</sup> Folio	- 16

## 教養教育について（獣医学部を除く）

1 教養教育の理念	- 1
2 教養教育の教育目的と修得すべき能力	- 1
3 履修方法及び開設授業科目	- 6
4 選択について	- 10
参考 開設授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表	- 11
5 各学部の履修単位数及び履修方法	
人文社会科学部	- 13
教育学部	- 15
理工学部	- 17
農学部	- 19

履修の手引きの訂正等は、アイアシスタントや掲示版でお知らせします。

## 専門教育について【人文社会科学部】

1 人文社会科学部の理念・目的	- 1
2 卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	- 2
3 人文社会科学部教育課程規則	- 1 6
4 人文社会科学部教育課程履修細則	- 1 7
5 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について	- 1 9
6 人間文化課程 科目等一覧	- 2 7
7 地域政策課程 科目等一覧	- 3 6
8 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧	- 4 6
9 取得可能な資格等について	- 4 8

## 専門教育について【教育学部】

1 教育学部の理念と目的，学位授与の方針，教育課程規則，課程等の紹介	- 1
2 教育学部の専門教育科目卒業要件	- 8
3 授業科目及び履修年次	- 2 3
4 副免及びその他の教員免許の取り方について	- 4 3
5 日本語教育副専攻科目について	- 6 6

## 専門教育について【理工学部】

理念と目標，教育目的，修得すべき能力	- 2
理工学部及び各コースの学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	- 2
1 岩手大学理工学部教育課程規則	- 1 6
2 理工学部専門教育課程	- 1 9

## 専門教育について【農学部】

農学部の理念と目標，教育目的	- 1
各学科等の教育目的，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	- 1
1 岩手大学農学部教育課程規則	- 1 3
2 学生が修得すべき単位数	- 1 4
3 農学部専門教育科目履修表 各学科カリキュラムマップ	- 1 5

## 共通教育・専門教育について【獣医学部】

獣医学部の理念と目標，教育目的	- 1
獣医学部の教育目的，学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針	- 1
1 岩手大学獣医学部教育課程規則	- 3
2 学生が修得すべき単位数	- 4
3 共通教育について	- 5
4 専門教育について カリキュラムマップ	- 1 1 - 1 5

## 教育職員免許状・各種資格の取得方法

1 教育職員免許状の取得に当たって	- 1
人文社会科学部	- 2
理工学部	- 1 1
農学部	- 2 0
2 その他各種資格の取得に当たって	- 2 2

## 国際教育科目について

1 国際教育科目の理念と教育目標	- 1
2 履修方法および開設授業科目	- 3

## その他プログラムについて

---

- |                         |     |
|-------------------------|-----|
| 1 数理・データサイエンス・AI教育プログラム | X-1 |
| 2 IHATOVグローバルコースについて    | X-2 |
| 3 イーハトーヴ協創コースについて       | X-4 |

## 関係法規等

---

- 1 岩手大学諸規則
- 2 関係法令

# 科目履修に当たって 知っておくべきこと

## 科目履修に当たって知っておくべきこと

### 1 大学の目的・教育目標

本学は、国立大学法人岩手大学学則において、次のことを「大学の目的」として掲げています。

真理を探究する教育研究の場として、学術文化を創造しつつ、幅広く深い教養と高い専門性を備えた人材を育成することを旨すとともに、地域社会に開かれた大学として、その教育研究の成果をもとに地域社会と国際社会の文化の向上と発展に貢献することを目的とする。

また、本学では教養教育と専門教育の調和を基本として、次のような資質・能力を兼ね備えた人材の育成を「教育目標」としてしています。

- (1) 幅広く深い教養と総合的な判断力を合わせ持つ豊かな人間性
- (2) 基礎的な学問的素養に裏打ちされた専門的能力
- (3) 環境問題をはじめとする複合的な人類的諸課題に対する基礎的な理解力
- (4) 地域に対する理解とグローバル化に見合う国際理解力
- (5) 柔軟な課題探求能力と高い倫理性

本学の学生の皆さんは、大学の目的・教育目標に基づき、それぞれ人文社会科学部、教育学部、理工学部、農学部、獣医学部に入学し、卒業するまでの4年間(獣医学部は6年間)に教養教育科目(獣医学部は共通教育科目)及び専門教育科目を履修し所定の単位を修得しなければなりません。

卒業に要する最低修得単位数は、教養教育科目が28単位、共通教育科目が30単位、専門教育科目が98～159単位です。

また、教育学部学校教育教員養成課程以外の学科・課程の学生が教育職員免許状を取得しようとする場合は、さらに教職教育科目を履修する必要があります。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

なお、履修は全て単位制をとり、履修すべき授業科目については大幅に選択制がとられています。したがって、履修科目は、同じ学部・学科・課程であっても各人により異なる部分があります。

この複雑な科目履修制度をできるだけ早く理解し、目的が達せられる計画を立ててください。

ただし、本書の中では一般的な説明が主であるため、細部についてはクラス担任教員や教務担当教員などの指導を受けながら学修内容の全体をよく研究し、学修計画を立てるようにしてください。

### 2 学期区分

1年間を前期、後期の2期に分け、前期は4月1日～9月30日、後期は10月1日～3月31日となっています。(学則第32条)

### 3 本学の履修科目及び履修時期

---

本学の履修科目は、大別すると次のとおりです。

- ・ **教養教育科目**（技法知科目、学問知科目、探究知科目、実践知科目）

教養教育科目は1年次に多く開設しており、2年次、3年次と学年が進むにつれて履修する機会が減少しますので、低年次のうちに修得しておくことが推奨されます。

科目等の詳細については「[教養教育について](#)」を参照してください。

- ・ **共通教育科目**

共通教育科目は獣医学部のみ開設しています。

科目等の詳細については「[獣医学部について](#)」を参照してください。

- ・ **専門教育科目**

専門教育科目は各学部で開設しており、1年次には少なく、2年次、3年次と学年が進むにつれて増加します。科目等の詳細については各学部の項を参照してください。

- ・ **教職教育科目**

各学部（獣医学部を除く）で開設しており1～4年次で履修します。

履修方法は「[教育職員免許状・各種資格の取得方法](#)」を参照してください。

- ・ **国際教育科目**

国際教育科目は、外国人留学生を対象に英語で授業を行う科目ですが、日本人学生も履修することができます。詳細は「[国際教育科目について](#)」を参照してください。

## 4 授業科目の単位

大学では、授業と、授業時間外における学習（以下、授業外学修）を所定の時間満たすことで単位が認定されます。

端的には、高等学校では授業時間 = 単位でしたが、大学では授業 + 授業時間外の学習 = 単位となります。この授業時間外の単位認定に関わる学習のことを授業外学修と言います。

各科目の単位と必要な学修時間は、授業の種別によって以下の通り定められています。

	種別	授業 (分)	回数	単位	授業外学修 (時間)
教養教育科目 共通教育科目 (獣医学部)	外国語 健康・スポーツ 実習、演習	100	14	1	15
	実験	150	14	1	0
	講義	100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	実験、実習、実技など	100	14	1	15
		150	14	1	0
		150	28	2	0
		150	42	3	0
		300	7	1	0
	演習	100	7	1	30
		100	14	1	15
		100	14	2	60
専門教育科目 教職教育科目	講義	100	7	1	30
	(グループワークなどが行 われることもあります)	100	14	2	60
専門教育科目 (獣医学部)	実習	135	15	1	0
		135	45	3	0
	講義 (グループワークなどが 行われることもあります)	45	15	1	30
		90	15	2	60

### 解説

例えば、教養教育科目の「外国語」は100分の授業が14回で1単位となり、授業以外に計15時間の授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）が必要になります。また、講義で14回2単位の科目は、授業以外に60時間の授業外学修が必要になります。

### 授業外学修時間の算出

大学設置基準第21条第2項により45時間の学修で1単位と規定されていることから、単位に応じて授業で不足する時間により授業外学修時間が得られます。本学では授業45分を1単位時間として計算し、標準的な90分（2単位時間）×15回＝1350分（30単位時間）を、100分×14回＝1400分で30単位時間と見なします。2単位科目は90時間の学修を必要としますので、授業時間の30単位時間を引いた残り60時間が授業外学修時間となります。

なお、獣医学部は90分（2単位時間）×15回で30単位時間と見なします。

## 5 成績評価

成績の評価方法は、試験、報告書、論文及び平常の成績（授業への参加度等）によって行われます。（学則第40条第2項）

成績の評価は、次のとおりです。

評 価		評 点
合格	秀	100点～90点
	優	89点～80点
	良	79点～70点
	可	69点～60点
不合格	不可	59点～0点

なお、各科目の到達目標、具体的な成績の評価方法及び基準はシラバス（講義要目）に掲載されています。

## 6 授業時間

時限	1	2	3	4	5	6
時間	8:35～10:15	10:30～12:10	13:00～14:40	14:55～16:35	16:50～18:30	18:40～20:20

### 【獣医学部専門教育科目】

校時	1・2	3・4	5・6	7・8	9・10	11・12
時間	8:40～10:10 (8:45～10:15)*	10:30～12:00	13:00～14:30	14:45～16:15	16:30～18:00	18:10～19:40

注（ ）\*の時間は遠隔講義の時のみ

## 7 時間割表の見方

### （1）教養教育科目

教養教育科目の授業時間割表を熟読し、履修してください。

1年次においては、所属学部学科及び課程毎に履修できる授業科目が指定されていますので、必ずその枠内で履修してください。指定された枠組で履修すれば2年間で教養教育科目の履修すべき単位数を修得できるよう設計されています。

履修申告者が多い場合は、履修を制限する場合があります。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

### （2）獣医学部共通教育科目

獣医学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口にお問い合わせください。

### （3）専門教育科目

所属学部毎に異なりますので、各学部の授業時間割表を熟読し、履修してください。

授業時間割表の見方並びに履修について不明な点がある場合は、学生センターA棟番窓口または 番窓口にお問い合わせください。

## 8 総合学修支援システム

本学では、大学での学修を支援するためのさまざまなシステムを利用しています。  
(詳細は「[I<sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I<sup>n</sup> Folio \(アイアシスタント2.0 & ウェブクラス&アイフォリオ\)](#)」( - 16 ページ)を参照)

## 9 履修の申告

学期の初めには、必ず履修申告期間内に履修申告(授業科目の登録)をしなければなりません。申告をしないと授業を受けることができず、単位の修得もできません。忘れずに、必ず履修申告をしてください。

また、集中講義科目の中には、学期の途中に履修申告期間を設定する場合があります。その場合、履修申告の日程等はアイアシスタント等でお知らせします。

なお、前期は5月中旬、後期は10月下旬(学年暦参照)に履修申告をした科目を取り消すことができます(ただし、集中講義科目は原則開講日の2週間前まで)。詳細はアイアシスタント等でお知らせしますが、あくまでも取り消すだけで、他の科目へ変更することはできません。

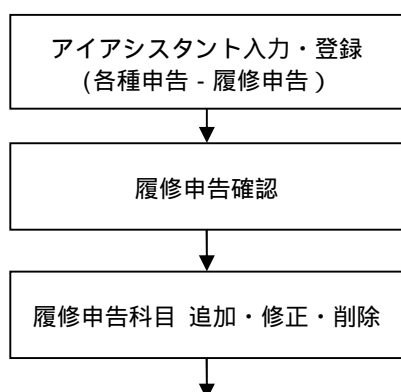
### (1) 履修申告する際の注意事項

- ・「授業時間割」、「シラバス(講義要目)」、「履修の手引き」により、履修したい授業科目が自分の学部・学科(課程)・学年の受講対象となっているかよく確認してください。
- ・履修申告する際は、「授業時間割」に記載されている時間割コード(アルファベットと数字の6桁)を、正しく入力しているかよく確認してください。
- ・同じ授業科目でも、担当する教員によって時間割コードが違います。担当教員名を確認してください。
- ・同一時間に複数の授業科目を重複申告することはできません。
- ・履修登録できる単位数に上限があります。上限は、1学期につき24単位(編入学生及び成績優秀者は28単位)までです。詳細は、「[10 履修科目登録単位の上限\(CAP制\)](#)」を参照してください。

### (2) 履修申告方法

- ・履修申告は、アイアシスタントから行ってください。
- ・集中講義は開講の都度、履修申告を行います。申告方法は掲示でお知らせします。

アイアシスタントから履修申告(集中講義の申告はできません。)

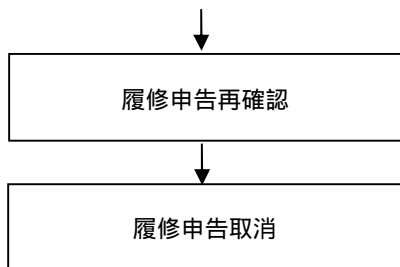


授業時間割表に基づいて、各自で履修計画を立て、**上限単位数を超えないように、履修する全科目をアイアシスタントにある各種申告の履修申告から入力してください。**

履修申告結果は、指定された日にアイアシスタントのMy時間割に表示されます。

各自で「**時限(校時)・科目名・時間割コード**」などが正確に登録されているかを必ず確認してください。

履修申告エラーがあった場合、または科目を追加・修正・削除したい場合には、指定された日までに、再度アイアシスタントにより、履修申告を訂正してください。



指定された日以降は、訂正できません。なお、履修申告の取消しは後述のとおりです。

履修申告結果をアイアシスタントで必ず確認してください。

学修上の理由で履修申告を取消したい場合、指定された履修取消期間に限りアイアシスタントより履修申告を取り消すことができます。

## 10 履修科目登録単位の上限（CAP制）

授業科目は、1単位当たり45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とする（学則第38条）とされています。

そのため、授業のみならず授業外学修（予習や復習、課題への取り組みなど）の時間も加味した、無理のない学修計画を立てる必要があります。

本学では、学生が1学期間に履修登録できる単位数を次のとおり定めています。

（関係法規等「岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則」参照）

- ・履修登録単位数の上限は、1学期につき24単位までとする。
- ・履修登録単位数の上限の対象科目は、「卒業要件科目」とする。  
ただし、卒業要件科目のうち、「集中講義の授業科目」、「教育実習」、「卒業・特別研究」、「いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換科目」、「放送大学における単位互換科目」は対象から除外する。
- ・教育学部学生の履修登録単位数の上限は、1学期につき28単位までになる場合がある。（-21ページを参照）
- ・成績優秀者及び編入学生の履修登録単位数は、1学期につき28単位を上限とする。（成績優秀者については「18 成績優秀者」を参照）
- ・教育職員免許取得希望者（教育学部学生を除く）が履修する教科に関する科目、教職に関する科目及び教科の指導法に関する科目（参照）の登録単位数の上限は、「卒業要件科目」と合わせて1学期につき28単位までとする。ただしこの場合でも、「卒業要件科目」の登録単位数の上限は1学期につき24単位までとする。

## 11 他学部開講科目の履修

本学では、自分の所属する学部の専門教育科目だけでなく、他学部の専門教育科目についても、一定の条件のもと、その講義を受講し単位を修得することができます。修得した単位については、学部、学科・課程ごとに定める範囲で卒業に必要な単位として認定することができます。

他学部の学生が受講可能な授業科目や受講の条件等については、別途お知らせしますので、アイアシスタント等からのお知らせに注意してください。

## 1 2 他大学の授業科目履修における単位認定

本学では、多様な授業を受けられるよう他大学と単位互換に関する協定を結びました。講義を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

区分	いわて高等教育コンソーシアム	
協定校	岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、岩手保健医療大学、一関工業高等専門学校	
身分	特別聴講学生	
授業料等	入学料、授業料、検定料は無料 ただし、追・再試験の検定料は受講大学によっては必要な場合があります。	
開講科目	開講校が許可した科目を受講することができます。詳細は、いわて高等教育コンソーシアムの「単位互換」ページで確認してください。	
出願期間	前期：4月上旬 後期：7月上旬～8月下旬	
卒業単位上限	教養教育科目	教養教育科目の選択の単位として認定します。 （獣医学部の共通教育科目は該当しません。） 人文社会科学部： 4単位まで 教育学部： 2単位まで 理工学部： 4単位まで 農学部： 4単位まで
	専門教育科目	学部によって自由選択科目または選択科目の単位として認められます。詳細は、～の各学部専門教育のページを参照してください。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

### 1 3 放送大学の授業科目履修における単位認定

本学と放送大学は単位互換に関する協定を結び、放送大学の科目を受講し単位を修得すれば、卒業に必要な単位として認定されます。

受講には手続きが必要ですので、その都度、アイアシスタント等でお知らせします。

身分	特別聴講学生	
授業料等	1科目(2単位) 12,000円 授業料は改定される場合があります。	
開講科目	出願期間前に「開講科目一覧表」を掲示または配付します。	
出願期間	第1学期：1月中旬 第2学期：7月中旬	
卒業単 位上限	教養教育科目	単位互換できる科目は出願期間時にお知らせします。 ただし、単位互換科目は、教養教育科目及び専門教育科目両方合わせて30単位までです。
	専門教育科目	

この単位認定制度を利用するには、岩手大学を通して放送大学に特別聴講学生として入学する必要があります。

上記の出願期間は予定の期間となりますので、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

放送大学の特別聴講学生は、テレビ(BS放送)やインターネットで配信される映像・音声の視聴または、本学の附属図書館内にある「放送大学岩手学習センター」において、DVDを視聴しての受講となります。

また、単位互換制度とは別に、放送大学の教材を利用して授業を開講する場合があります。この科目を受講するための授業料は無料ですが、受講する場合には、履修科目登録単位の上限に含まれます。開講については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 1 4 資格試験による単位認定

本学では、資格試験で資格を取得又は一定以上の点数を得点した場合は、申請に基づき単位の認定を行います。単位が認定される資格等の種類、単位数は、下記の表のとおりです。

申請は、学生センター A 棟 番窓口で年 2 回（1 月、7 月）受け付けます。  
詳しくはアイアシスタント等でお知らせします。

資格試験	資格	認定科目・単位数		認定単位数の上限	備考
		授業科目	単位		
英検 S - C B T	準 1 級		4	4	最も上級の資格により認定する。
実用英語技能検定試験	準 1 級	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
	1 級		8	8	
T O E F L (マークシート式677点満点)	500～539点		2	2	
	540点以上	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	4	4	
T O E F L i B T (インターネット式120点満点)	61～75点		2	2	
	76点以上		4	4	
T O E I C	600～699点	英語総合 ・ 、英語コミュニケーション ・	2	2	
	700点以上		4	4	
ドイツ語技能検定試験	4 級	初級ドイツ語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ドイツ語(入門・発展)	4	6	
		中級ドイツ語	2		
実用フランス語技能検定試験	5 級	初級フランス語(入門・発展)	2	2	
	4 級	初級フランス語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級フランス語(入門・発展)	4	6	
		中級フランス語	2		
ロシア語能力検定試験	4 級	初級ロシア語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級ロシア語(入門・発展)	4	6	
		中級ロシア語	2		
H S K (漢語水平考試) H S K I B T (H S K ネット試験)	2 級	初級中国語(入門・発展)	4	4	
	3 級以上	初級中国語(入門・発展)	4	6	
韓国語能力試験	TOPIK (1級～2級140点以上)	初級韓国語(入門・発展)	4		4
		初級韓国語(入門・発展)	4	6	
	TOPIK (3級～6級120点以上)	中級韓国語	2		
「ハングル」能力検定試験	5 級	初級韓国語(入門・発展)	4	4	
	IBT 5 級				
	4 級以上	初級韓国語(入門・発展)	4	6	
	中級韓国語	2			

### 備考

- 1 認定した単位の評価は、「合」とする。
- 2 申請できる資格試験は、入学後に取得したもので、取得した日から1年以内のものに限る。
- 3 英語科目又はその他の外国語の資格試験において、先に下級の資格で認定を受けた者が、後に上級の資格を取得し願ひ出た場合は、先に認定を受けた単位数を差し引いて単位を認定する。なお、同一言語で複数の資格試験がある場合は、認定単位数の上限が高いほうを上級とみなす。
- 4 「再履修学生」とは、一度でも初級(入門)あるいは初級(発展)を履修した学生をいう。
- 5 T O E F L と T O E I C に関しては、T O E F L - I T P と T O E I C - I P も資格試験の対象とする。

資格試験による単位認定は、履修申告し受講している(した)授業の代わりになるものではありません。よって資格試験による単位認定により、履修申告した科目が自動的に取り消されたり、既に受講した授業の評価が更新されることはありません。

## 1.5 ボランティア活動による単位認定

本学の学内ボランティア活動で、一定時間数以上の研修、活動参加後、レポートを提出し、その活動が認定された場合は、「コミュニティーサポート実習」1単位が認定されます(各年度1単位までとし、最大2単位まで認定されます)。ただし、卒業要件単位には含まれません。

## 1.6 試験

### 試験時における不正行為

試験において不正行為をすることは、真摯な態度で勉学に励むべき学生として許されない行為といえます。したがって、不正行為を行った者は、訓告処分を受けるだけでなく、不正行為が教養教育科目において行われたか専門教育科目において行われたかを問わず、当該学期の教養教育科目と専門教育科目の**全ての単位が認められません。**

また、通年科目については、不正行為が行われた学期・科目を問わず、当該年度の全ての単位が認められません。

不正行為を行った場合は、留年につながる厳しい処分が科せられます。

### 1. 教養教育

試験期間は特に設けませんので、試験については担当教員の指示に従ってください。なお、試験当日の授業回は試験のみではなく、試験と併せて授業(振り返り等)が行われます。

#### (1) 試験についての注意事項

受験に際しては学生証を必ず持参し、机の上に置くこと。

万一学生証を忘れたときには、仮受験証での受験が認められるが、その場合には試験終了後3日以内に学生センターA棟 番窓口以学生証を持参して確認を受けること。これを怠った場合には、その答案は、無効となる。

原則として、遅刻は認められない。ただし、特別の事情があった場合には、10分程度の遅刻は考慮されることがある。

試験開始後20分間、退室は認められない。

答案用紙の姓名は、インク又はボールペン書きとする。

試験中、机の中には一切持ち物を置かないこと。なお、不正行為の材料となり得る物を持っていたり、机の中に入れていた場合には、それを使用したか否かにかかわらず、不正行為と見なされる。

試験中、不正行為を行った者は、厳しい処分を受ける。

試験中、監督者の指示に従わない者は、退室を命じられる。

申告しない又は正しい申告をしていない科目を受験しても、その答案は無効である。

## (2) 追試験について

下記事項に該当する者で追試験を希望する者は、試験終了後、1週間以内に必要書類を添えて学生センターA棟 番窓口に願い出ることができます。

負傷又は疾病 (必要添付書類...医師の診断書等)

天災その他突発事故 (必要書類...その事由を証明する物)

忌引き (必要書類...死亡診断書の写し等)

列車等の遅延 (必要書類...遅延証明書)

その他特別に事情があると認められる場合(必要書類...その事由を証明する物)

願い出のあった者に対しては追試験受験願の理由が正当であり、かつ平素の出席状況が良好であって受験の資格があると認められた者に限り受験を許可します。

## 2. 専門教育

専門教育科目の試験についても、教養教育科目と同様に試験が実施されます。詳細は、担当教員の指示に従ってください。

## 1.7 成績評価に異議がある場合の問い合わせ

---

学期末(成績発表時)にアイフォリオで確認した成績評価が、シラバス(講義要目)の成績評価基準と照らし合わせた結果、成績評価に不明な点がある場合は、学務課経由で授業担当教員に問い合わせを行うことができます。問い合わせは、成績発表後一定の期間を設けますが、詳細はアイアシスタント等でお知らせします。

## 1.8 成績優秀者

---

成績優秀者とは、その学期において卒業要件科目を18単位以上修得し、かつ、卒業要件科目の総修得単位数のうち、「秀」および「優」の評語を単位数の点で10分の9以上得て、成績優秀者と認定された者をいいます。

成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、履修科目の登録の上限(1学期24単位)の例外として、28単位まで登録することができます。

なお、編入生の履修科目の登録の上限は、28単位ですので優秀者判定は行いません。

また、2年次後期までの全学期に成績優秀者として認定されると、早期卒業の申請をすることができます。(「2013年以上4年未満での卒業(早期卒業)」を参照)

## 1 9 卒業時に授与される学位

本学に4年以上(獣医学部は6年以上)在学し、かつ所定の科目の単位を修得した者に対し教授会の議を経て卒業を認定します。

卒業を認定された者には、次の学士の学位が授与されます。

人文社会科学部卒業生		学士(総合科学)	
教育学部卒業生		学士(教育)	
理工学部卒業生	理工学科	化学コース 数理・物理コース 材料科学コース	学士(理工学)
		知能情報コース クリエイティブ情報コース	学士(情報学)
		電気電子・情報通信コース 機械知能航空コース 社会基盤・環境工学コース	学士(工学)
農学部卒業生	食料農学科 生命科学科 地域環境科学科 動物科学・水産科学科	学士(農学)	
獣医学部卒業生	共同獣医学科	学士(獣医学)	

## 2 0 3年以上4年未満での卒業(早期卒業)

2年次後期までの全学期に成績優秀者(「1 8 成績優秀者」を参照)として認定された者で、4年未満の在学で卒業を希望する者は早期卒業を申請することができます。

申請が認められ、早期卒業候補者となった後も成績優秀であり、卒業要件の全単位を満たし、卒業研究(最終試験を含む。)の成績が秀または優であるときは、3年次終了時又は4年次前期終了時に卒業することができます。(関係法規等「岩手大学における在学期間の特例に関する規則」を参照)

この制度で卒業が認められると、学士の学位が授与され、大学卒業の資格が得られます。

## 2 1 長期履修学生制度 獣医学部の学生は対象になりません

職業を有している等の事情により修業年限の4年間での卒業が困難な場合は、この制度に基づき申請し、許可された者に限り、一定の期間(最長6年まで)にわたり履修して卒業することができます。授業料は、修業年限の4年間分を許可された長期履修の期間に合わせて支払うことになります。

希望する場合は学生センターA棟 番窓口に申し出てください。

(申請時期: 2月末日又は8月末日まで 対象: 1~3年次まで)

## 2 2 転学部制度

入学後に他学部に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学部が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 2 3 転学科・転課程制度

---

入学後に他学科又は他課程に移る積極的理由を見いだした際に、新たな勉学意識を引き出すため、各学部の選考により転学科又は転課程が認められる(許可される)場合があります。

申請の時期、方法については、アイアシスタント等でお知らせします。

## 2 4 学部3年次修了者の本学大学院への入学

---

大学に3年以上在学し所定の単位を優れた成績をもって修得する見込みのある者で、本学の大学院の研究科で受験資格を有すると認められた者は、出願し受験することができます。

これは、研究者として優れた資質を有する者に対して、早期から大学院教育を実施することを目的としているための制度です。

出願に当たっては、指導教員あるいは関係教員と十分相談のうえ決定するのが望ましいです。

(注意事項)

本出願資格により入学する場合は、学部学生の身分を有することはできず、退学して大学院に入学することとなります。したがって、大学学部卒業を要件としている各種の国家試験等の資格試験は、受験できなくなります。

## 2 5 その他

---

### (1) 大学からの連絡・案内

大学から学生に対する連絡(例えば公示・通知・呼び出し・授業時間割・休講・試験日程あるいは奨学金・授業料免除の申請期日など)は、アイアシスタントや大学構内に設置している掲示板でお知らせします。

そのため、毎日一度はアイアシスタントと掲示板を見るように心がけ、見なかったり、見落としたために、不利益を受けないよう注意してください。掲示板の場所は、『学生生活の手引き』で確認してください。

### (2) 気象警報等の発令時における授業等の取扱い

気象警報(暴風警報及び暴風雪警報に限ります。)又は特別警報が発令された場合、本学学生の安全確保のために、授業の休講及び課外活動等が休止となることがあります。詳細については、関係法規等「気象警報等の発令時における授業等の取扱いに関する申合せ」を確認してください。

< 参考 >

\* 学生の修得すべき単位数 (詳細は、教養教育 (共通教育)、各専門教育のページを参照) (単位)

学 部	学科・課程	コ ー ス	教養教育 科目	共通教育 科目	専門教育 科目	合 計
人文社会科学部	人間文化課程		28		98	126
	地域政策課程					
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教育コース	28		109~ 118	137~ 146
		中学校教育コース			106~ 115	134~ 143
		理数教育コース			109~ 111	137~ 139
		特別支援教育コース			107	135
理工学部	理工学科		28		99	127
農学部	食料農学科		28		98	126
	生命科学科					
	地域環境科学科					
	動物科学・水産科学科					
獣医学部	共同獣医学科			30	159	189

\* 学籍番号

学籍番号は在学中のすべての提出書類に記載する8桁の番号であり、次表によって定められています。学籍番号を記入する際には、必ず学生証で確認してください。

* 学部学科等 (3桁)	* 入学年度 (2桁)	* 通番 (3桁)
人文社会科学部 H01 人間文化課程 H02 地域政策課程 教育学部 E01 学校教育教員養成課程小学校教育コース E02 学校教育教員養成課程中学校教育コース E03 学校教育教員養成課程理数教育コース E04 学校教育教員養成課程特別支援教育コース 理工学部 SB1 理工学科 農学部 AB1 食料農学科農学コース AB2 食料農学科食品健康科学コース AB3 生命科学科分子生物機能学コース AB4 生命科学科分子生命医科学コース AB5 地域環境科学科革新農業コース AB6 地域環境科学科森林科学コース AB7 動物科学・水産科学科動物科学コース AB8 動物科学・水産科学科水産システム学コース 獣医学部 VB1 共同獣医学科	入学年度の西暦下2桁となります。 例：2026年入学 = 26  編入学生は、編入した学年の入学年度の西暦下2桁となります。 例：3年次編入生 = 24	個人を特定する番号で3桁となります。  例： 1番 = 001 10番 = 010

(例)

「2026年度入学 食料農学科農学コース99番」の学生の場合は、「AB126099」であり、分解すると、「AB1 = 学部学科等・26 = 入学年度・099 = 通番」となります。

## 科目を履修する際によく出てくる用語です。覚えておきましょう。

### アイアシスタント

インターネットを利用した岩手大学の学修支援システムのひとつです。シラバスの検索・閲覧、履修申告の登録、休講・補講・教室変更の確認などができます。

このほか地震等の災害時に緊急連絡による安否確認が行われます。

### インターンシップ

職場の監督下での一定期間の職業経験のことです。学生の専攻分野に関連した業務に関わるものか否か、フルタイムかパートタイムか、有給か無給か、短時間が長期間かなど形態は様々ですが、キャリア意識の涵養、職業的スキル・態度・知識の獲得を目的に実施されています。

### CAP制(キャップ制)

履修登録科目数上限制度のことです。授業外学修時間の確保のため、各学生が一学期に履修を申告できる総単位数に上限を設定しています。成績優秀者及び編入学生に対しては、より多くの科目の履修が認められます。(詳しくは -6 ページを参照)

### いわて高等教育コンソーシアム

いわて高等教育コンソーシアムは、岩手県内の大学等高等教育機関が連携して、県内の高等教育・学術研究の振興と地域社会の発展に寄与することを目的とした組織体であり、岩手大学、岩手県立大学、岩手医科大学、富士大学、盛岡大学、放送大学岩手学習センター、一関工業高等専門学校、及び岩手保健医療大学で構成し、学生は他校の授業を受講し単位を修得したり、図書館を利用することができます。

### 集中講義

通常の授業とは別に、特定の期間に集中して行う授業です。休日や夏季・冬季休業中に行うこともあります。履修申告の方法は、その都度アイアシスタント等でお知らせします。

### シラバス

各授業科目の概要のことです。授業の目的や各回の授業内容、成績評価の基準や方法、教科書・参考書、教員への相談方法等が記載されています。シラバスはアイアシスタントから見るすることができます。

### GPA(ジー・ピー・エー: Grade Point Average)

個々の学生の学業成績を数値化したものです。岩手大学では、各授業科目の履修単位数に成績評価によるポイント(秀 = 4、優 = 3、良 = 2、可 = 1、不可 = 0)を掛けた数字の合計を、履修した単位数で割って算出した値をGPAとしています。

#### 【本学のGPA算出方法】

$$GPA = \frac{\text{「秀」単位数} \times 4 + \text{「優」単位数} \times 3 + \text{「良」単位数} \times 2 + \text{「可」単位数} \times 1 + \text{「不可」単位数} \times 0}{\text{「秀」単位数} + \text{「優」単位数} + \text{「良」単位数} + \text{「可」単位数} + \text{「不可」単位数}} \quad (1)$$

(1)は履修単位数×成績評価によるポイントの合計、(2)は履修単位数

上記の計算式の対象となる授業科目は卒業要件単位に算入される授業科目です。ただし、成績評価がないもの(「合」など)、「保留」となっているものは含まれません。

なお、不可だった授業科目を再度履修して単位修得した場合、再履修による結果でGPAを算出します(再履修による単位修得後は、不可だった初回の履修単位数は分母から除かれます)。

### JABEE(ジャビー: Japan Accreditation Board for Engineering Education)

大学など高等教育機関で実施されている技術者教育プログラムが、社会の要求水準を満たしているかどうかを、日本技術者教育認定機構が公平に評価し、要求水準を満たしている教育プログラムを認定する専門認定制度のことです。

### ポートフォリオ

学生の学修成果を集め、ファイル等にまとめたもののことです。テストやレポートのみならず、学生の書いた図画や、活動中の写真なども含まれます。本学ではアイフォリオと呼ばれるWEB上でのポートフォリオを使用しています。

### 履修取消制度

履修登録期間を過ぎた後に、学修上の理由で履修登録を取消したい場合、指定された履修取消期間にアイアシスタントより取り消す制度のことです。取消ができない科目もありますので、アイアシスタント等でよく確認してください。

履修取消の手続きをせずに、履修登録した科目を受講しなかった場合は、その科目の評価が「不可」となり、「GPA算定」や「成績優秀者」判定に影響します。

# I<sup>n</sup> Assistant2.0 & WebClass & I<sup>n</sup> Folio (アイアシスタント 2.0&ウェブクラス&アイフォリオ)

## 1. I<sup>n</sup> Assistant2.0 (アイアシスタント 2.0)

I<sup>n</sup> Assistant2.0 (以下「アイアシスタント」という。)は、皆さんの学修を支援するためのシステムです。授業に関するお知らせや大学からの重要なお知らせ、シラバスの確認、履修申告等の様々な機能を有しています。また、WebClass や I<sup>n</sup> Folio を利用するための入り口となります。

大学生活に必要なシステムですので、毎日(逐次)利用するようにしてください。

### <システムのインストール>

スマートフォン等に「アイアシスタント」アプリをインストールしてください。

[iphone 等版 \(App Store\)](#)



[Android 版 \(Google Play\)](#)



アプリを利用できない場合は、Web ブラウザ版 (<https://ia2.iwate-u.ac.jp>) を利用してください。ただし、Web ブラウザ版にはプッシュ通知で各種お知らせを受け取る機能はありません。

### <ログイン>

ログイン画面で「ログイン名」、「パスワード」を入力し、ログインボタンをタップ(初回のみ)してください。

ログイン名は、大学のメールアドレスになります。入学時に、メールアドレスとパスワードが配付されます。

これは、大学の端末室(パソコン教室)のパソコンを使う時のユーザ名、パスワードと同じになります。

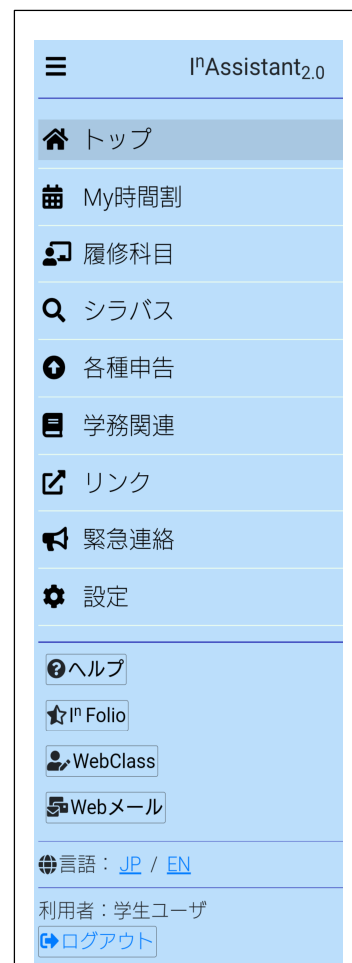
万が一パスワードを忘れてしまった場合は、情報基盤センターに相談してください。

### <トップ>

ログインすると、個人専用のトップページが表示されます。

学務関連新着情報には、履修関係(休講、補講、教室変更、その他)、学務部からの各種お知らせ、呼び出しの情報が届きます。また、重要なお知らせや緊急時のお知らせ等もここに届くことになります。

その他の新着情報には、学生生活、学生支援(授業料免除や奨学金等含む)、地域協創教育、キャリア支援、留学に関することや図書館からのお知らせが届きます。



### < My 時間割 >

My 時間割には、履修している科目の時間割、開講される講義室等が表示されます。また、授業時間表や1年間の大学のスケジュール等が、学年暦や行事予定表として表示されています。

My 時間割の科目名をタップすると、該当科目の WebClass が表示されます。

### < 履修科目 >

履修科目の一覧が表示されます。履修科目のシラバスや LMS ボタンから該当科目の WebClass が表示されます。

### < シラバス >

シラバスを検索、閲覧することができます。科目履修に必要な情報が掲載されていますので、履修申告する際は必ず確認するようにしてください。また、当該科目の担当教員に連絡を取りたい場合に必要な連絡先等もシラバスで確認することができます。

### < 各種申告 >

各種申告では、履修に必須となる履修申告や、学生本人、保護者の連絡先を登録する住所変更・登録が行えます。また、取得を希望する資格(等)の種類を登録することができます。

### < 学務関連 >

履修の手引きや学生生活の手引きをダウンロードすることができます。

### < リンク >

関連の機関等のホームページへのリンクになります。

### < 緊急連絡 >

災害時等の安否確認等を行うための機能になります。

### < 設定 >

各種お知らせのプッシュ通知を受け取る設定や、My 時間割の表示場所を設定することができます。

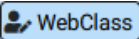
## 2. WebClass (ウェブクラス)

WebClass(以下「ウェブクラス」という。)は、教材の配付やテスト等、出席確認に利用されます。

その他、各種アンケート等にも利用されます。

### < 利用 >

ウェブクラスは、アイアシスタントの My 時間割にある科目名をタップして、利用します。

なお、My 時間割の下の「Webclass のトップページへ」または  をタップするとウェブクラスのトップページにアクセスできます。

時限(校時)	月	火
1	<a href="#">初級フランス語(入門)</a>	
2		<a href="#">経済のしくみ</a>

ウェブクラスでは、授業を「コース」と呼びます。授業でウェブクラスを利用するかは、授業担当の教員によります。

#### < 教材 >

教材には、教材の一覧が表示され、タイムラインに教材が時系列で通知されます。

#### < マイレポート >

マイレポートには、提出したレポートのコメントや成績、提出日が表示されます。

#### < 成績 >

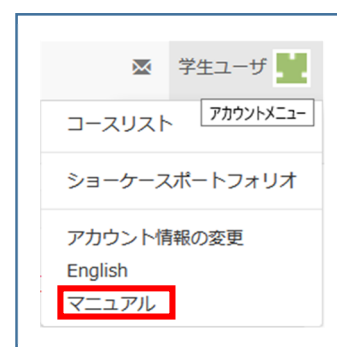
成績では、実施されたテストやレポートの採点結果を確認することができます。

#### < 出席 >

出席では授業の始めに出席データを送信したり、今までの出席状況を確認することができます。

#### < マニュアル >

マニュアルは、アカウントメニューからダウンロードすることができます。



### 3. I<sup>n</sup> Folio (アイフォリオ)

I<sup>n</sup> Folio (以下「アイフォリオ」という。)は、学位授与の方針(ディプロマポリシー、以下「DP」という。)の達成状況に関する自己評価や取得単位から算出される達成量、さらに学士力(学士課程共通のDP)、学修時間、学修体験に関する自己評価を見える化したシステムです。

#### < 利用 >

アイフォリオは、アイアシスタントの  をタップして利用します。

#### < 学生情報 >

学生情報には、所属している学部、学科等のプログラム概要や学位授与方針が表示されます。

#### < ポリシー >

自己評価：各年度・学期ごとに「学位授与の方針」の達成状況についての自己評価を入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。

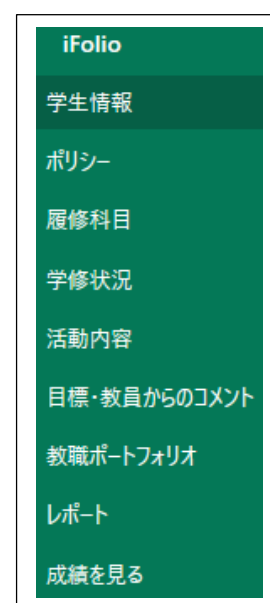
DPグラフ：累積の達成量のグラフが表示されます。

累積達成量：各学期までの取得単位数×DPに対する重みづけから算出された達成量です。

#### < 履修科目 >

履修した科目について、学修状況を評価入力します。

入力しなければ、成績を見ることはできません。



#### < レポート >

ウェブクラスの学習記録ビューアが表示されます。

#### < 学修状況 >

学士力自己評価、学修時間自己評価、学修体験自己評価別の学期ごとの自己評価とそれらのレーダーチャートです。

#### < 活動内容 >

委員会活動やサークル・部活、インターンシップ、資格・検定等に関して、自身の活動を記録（入力）しておくことができます。

#### < 目標・教員からのコメント >

学部によっては、学修ポートフォリオの一環として、年度ごとに学生が将来の希望や年間の目標、その成果等を記入し、それに対して教員がコメントを記入する取り組みが行われています。

#### < 教職ポートフォリオ >

教員免許状を取得するのに必要な資質能力の向上のために利用します。

#### < 成績を見る >

自身の修得単位、成績の状況を確認することができます。

また、修得した単位の集計表、GPAの値、履修中を含めた科目の一覧が表示されるほか、卒業に向けての単位の充足率（卒業要件をどのくらい満たしているのかを判定した結果）を見ることができます。なお、この充足率は参考の情報となりますので、履修の手引きを参照のうえ、各自で必ず確認してください（修得した単位すべてが卒業要件の単位となるわけではないので、注意すること）。

なお、学期ごとに新たな成績を見るには、前述の各種自己評価を入力する必要があります。

#### < マイレージ >

国際教育センターで実施している「IHATOVO グローバルコース」、地域協創教育センターで実施している「イーハトーヴ協創コース」のマイレージポイントの状況を確認することができます。

## 大学メール

入学時に、大学で利用する学生専用のメールアドレス（～@iwate-u.ac.jp）が付与されます。

これは個人へのお知らせ等に利用されるもので、緊急時等にもこのメールのお知らせが届きます。アイアシスタントだけではなく、大学メールも毎日（随時）確認するようにしてください。

# 教養教育について

( 獣医学部を除く )

# 教養教育について (獣医学部を除く)

## 1 教養教育の理念

岩手大学は、各学部が行う専門教育とならんで、所属する学部にかかわらず全学生が共通に受けるべき教育として教養教育を設け、「基礎的な知識の修得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を涵養する」ことを理念としています。

この理念を実現するために、教養教育は、岩手大学のすべての教職員の関心・責任・協力のもとに実施されています。

## 2 教養教育の教育目的と修得すべき能力

教養教育における人材養成像を以下のとおり明示します。

### 教養教育の教育目的及び修得すべき能力

#### <教育目的>

岩手大学は、基礎的な知識を身につけ、多様な領域に対する学問的関心を高め、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、地域社会と国際社会の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とし、すべての学生が共通に学ぶべき教養教育を提供する。

#### <修得すべき能力>

教養教育では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの意欲や関心に基づき主体的に学び続ける能力
- (2) 自ら問題を発見・探究・解決する思考力と判断力
- (3) 複雑化する社会に適応するために必要な情報を収集し処理する基本的能力
- (4) 幅広い学問領域の知識を身につけ、専門分野に対する複合的視点を獲得するための総合的能力
- (5) 多様な人びとと協働するために必要なさまざまな言語による基本的コミュニケーション能力
- (6) 心と体の健康を保つ手段や方法を獲得するために必要な基礎的人間力
- (7) 自らの役割を認識し、身につけた教養を責任ある行動に結びつける能力

### 教養教育科目の構成(科目区分等)

教養教育科目は、前述の教育目的を達成するために、「技法知科目」、「学問知科目」、「探究知科目」及び「実践知科目」によって構成されています。

区分			
教養教育科目	技法知科目	外国語科目	英語
			英語以外
			日本語
		健康・スポーツ科目	
		情報科目	
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目	
		理学・工学領域科目	
		農学領域科目	
	探究知科目	環境科目	
	実践知科目	地域関連科目	地域科目
地域課題演習科目			

### 各科目区分等の教育目的及び修得すべき能力

#### A 技法知科目

## <教育目的>

「技法科目」は、外国語科目と情報科目の学習を通じて、学問知・探究知・実践科目ならびに専門教育科目の学業を進めるうえで、さらに卒業後に社会生活を営むうえで必要となる基本的技能やその基礎となる知識を身につけるとともに、健康・スポーツ科目の学習を通じて、社会生活を営む基盤となる健康・体力の増進を図ることを目的とする。

## <修得すべき能力>

「技法科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 外国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる能力
- (2) 情報の収集・加工を適切に行うことができる能力
- (3) 自ら健康・体力の保持増進を図ることができる能力

## 1. 外国語科目

### ・英語

#### <教育目的>

「英語」は、学生が英語を通して他国及び自国の文化や社会に関する理解を深め、英語を用いて積極的にコミュニケーションをとる姿勢を養成することを目的とする。

また、英語を自律的に学習する習慣を身につけさせ、修得した英語力を利用して、情報を効率的に収集・発信する能力を向上させることを目的とする。

さらに、英語による異文化コミュニケーションのあり方について認識を深めさせることも目的とする。

#### <修得すべき能力>

「英語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 十分な英語力を身につけていない習熟度が初級の学生にとっては、英文法や基礎的語彙・表現などの学習を通して、英語の基礎的な読み書き能力を修得し、それらを応用して簡単な日常会話ができるコミュニケーション能力
- (2) ある程度の英語力を既に身につけている習熟度が中級の学生にとっては、様々なテーマについて書かれた入門レベルの英文を読みこなせる読解力、平易な英語を使って英文が書ける作文力、身近な話題について説明したり、簡単な意見を述べたりすることができるコミュニケーション能力
- (3) 高度な英語力を有する習熟度が上級の学生にとっては、各自の専門領域に関する複雑なテキストを正確に理解できる読解力、多様なトピックについて適切な英語表現を用いて英文が書ける作文力、相手に自分の意思を的確に伝えたり、論理的に意見を述べたりできるコミュニケーション能力
- (4) 上記、いずれの習熟度の授業においても、異文化に対する理解を深め、促進する

### ・英語以外の外国語

#### <教育目的>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」は、外国語の文法を習得した上で、日常生活に必要な基本的な会話ができるようにすること、外国語で書かれた文章を読むことができるようにすること、日常生活で使う文章を外国語で書けるようにすること、外国語学習を通して、異文化理解の基礎的知識を獲得すること、の4点を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「英語以外の外国語（ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・韓国語）」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

初級外国語（入門・発展）では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力
  - ・ドイツ語技能検定試験 4級
  - ・実用フランス語技能検定試験 4級
  - ・ロシア語能力検定試験 4級
  - ・中国語検定試験 4級
  - ・漢語水平考試（HSK） 3級
  - ・韓国語能力試験 TOPIK（1～2級 140点以上）
  - ・ハングル能力検定試験 5級

- (2) 外国語を用いて、基本的なコミュニケーションを行うことができる能力

- (3) 易しい文章を読んだり書いたりできる能力

- (4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための基礎的知識

中級外国語では、

- (1) 下記語学検定試験の級をマスターしたと認められる程度の文法知識と会話能力

- ・ドイツ語技能検定試験 3級
- ・実用フランス語技能検定試験 3級
- ・ロシア語能力検定試験 3級
- ・中国語検定試験 3級
- ・漢語水平考試 (HSK) 4級
- ・韓国語能力試験 TOPIK (3~6級 120点以上)
- ・ハングル能力検定試験 4級

(2) 外国語を用いて、より高度なコミュニケーションを行うことができる能力

(3) やや難解な文章を読んだり書いたりできる能力

(4) 国際化社会に対応できる、異文化を理解するための知識

## ・日本語

### <教育目的>

「日本語」は、外国人留学生を対象とし、上級レベルの四技能（読む・書く・聞く・話す）の指導を通じ、日本語による情報収集、口頭発表、論文作成、討論など、大学の授業や研究活動に日本語を使用して参加する力の養成を目的とする。

### <修得すべき能力>

「日本語」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

(1) 文法力、読解力、聴解力については日本語能力試験N1レベル以上の能力

(2) レポート、小論文等の文章作成力、および、討論、口頭発表等の口頭表現力等、日本語教育の参照枠のC1レベル以上の日本語能力

## 2. 健康・スポーツ科目

### <教育目的>

「健康・スポーツ科目」は、スポーツを行うことによって健康と体力の保持増進を図り、コミュニケーション能力を高めるとともに、スポーツ科学やスポーツ文化についても理解を深めながら、生涯にわたりスポーツを実践する力を養うことを目的とする。

### <修得すべき能力>

「健康・スポーツ科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

(1) スポーツ活動を通じて健康と体力の保持増進を図る能力

(2) スポーツ活動を通して他者とコミュニケーションを図る能力

(3) スポーツを科学的・文化的に理解するとともに生涯にわたってスポーツを実践する能力

## 3. 情報科目

### <教育目的>

「情報科目」は、高度情報化社会において社会生活を営む上で必要となるコンピュータと情報処理に関する基礎的な知識と技能を習得することを目的とする。

### <修得すべき能力>

「情報科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

(1) コンピュータの基本的な仕組みを理解し、目的に応じて使うことができる基礎的な能力

(2) 多種多様な情報から必要な情報を獲得し、目的に向けた適切な処理を行う基礎的な能力

(3) 情報を適切に受発信するための基礎的な能力

(4) 情報化社会におけるモラルや社会的な問題を理解し、適切な行動をとることができる能力

## B 学問科目

### <教育目的>

「学問科目」は、学生が諸学問分野の「ものの見方・考え方」を幅広く学ぶことによって、多様な学問領域への関心を高め、自分自身の専門分野が全体の中でどのような位置にあり、どのような意味・役割を持っているかを理解するとともに、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

### <修得すべき能力>

「学問科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

(1) 知識の修得を通じて、物事を多面的な角度から考察できる能力

(2) 知識の修得を通じて、多様な価値観を受け入れることができる能力

(3) 自然・人間・社会との関係において、各種の常識・通念を根底的に捉え直せるような「ものの見方・考え方」ができる能力

### 1. 人文社会科学・教育学領域科目

#### <教育目的>

「人文社会科学・教育学領域科目」は、人文社会科学及び教育学における各学問分野の視点から、多様な文化の形成や意義、社会の成り立ち、教育や心理に関する諸問題を理解し、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「人文社会科学・教育学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 各種の文化や社会、教育、心理に関する基礎的な知識とそれらを多面的な角度から思考し考察できる能力
- (2) 各種の文化や社会、教育、心理に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

### 2. 理学・工学領域科目

#### <教育目的>

「理学・工学領域科目」は、理学及び工学における各学問分野の視点から、自然を理解し役立てる上での基礎的な概念や考え方を学び、人間と自然とのかかわりをめぐるさまざまな問題を取り上げることによって、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「理学・工学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 人間と自然とのかかわりを多面的な角度から考察できる能力
- (2) 自然科学や科学技術に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

### 3. 農学領域科目

#### <教育目的>

「農学領域科目」は、農学における各学問分野の視点から、生命や動植物、食料生産や環境に関することを学び、教養や専門を深める上での幅広い知識を身につけることを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「農学領域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 生命や動植物、食料生産や環境に関する基礎的な知識とそれらに関して考察できる能力
- (2) 自然科学や農林水産業に関する初歩的な専門知識に基づく思考能力

## C 探究知科目

### <教育目的>

「探究知科目」は、多元的・複合的な主題を掘り下げ、課題を見だし、探究することで、幅広く深い教養と総合的な判断力を培うことを目的とする。

### <修得すべき能力>

「探究知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 主体的に問いを立て、何が課題であるかを探究できる思考力
- (2) 事象間の繋がりや影響関係を複眼的に見いだすことができる能力
- (3) 激動する現代社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できる、総合的判断を行える能力

### 1. 環境科目

#### <教育目的>

「環境科目」は、本学における環境教育の出発点として位置づけられていることから、環境に対する幅広い関心と深い認識を促し、環境についての多角的な「考え方」を養うことを目的とする。

#### <修得すべき能力>

「環境科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 環境を、自らの主観によるのではなくデータなどにに基づき客観的に理解する能力
- (2) 環境を、文系、理系などの自らの学ぶ専門領域を超えて、広い視野から理解する能力
- (3) 環境に関する問題を、人間や生物の生存と深くかかわるものと理解し、自らの問題として思考する能力

### 2. 地域関連科目

#### <教育目的>

「地域関連科目」は、異分野の専門家と協働し、自らの専門性を地域の課題解決へ実践することができる能力を養うことを目的とする。

**< 修得すべき能力 >**

「地域関連科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 異なる専門分野の者と協働して課題の発見・解決に取り組むことができる能力
- (2) 地域社会の現実に即して地域の課題解決に取り組む実践能力

**・地域科目**

**< 教育目的 >**

「地域科目」は、岩手の地域に関することを様々な分野・視点から学び、岩手の歴史・文化・特色を理解し、地域社会の複雑な諸問題に柔軟に対応できるような総合的判断力を培うことを目的とする。

**< 修得すべき能力 >**

「地域科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 多角的・複眼的な視点によって、岩手の地域社会を全体的に把握できる能力
- (2) 総合的な判断に基づいて、岩手の地域社会の諸問題に対して柔軟に対応できる能力

**D 実践知科目**

**< 教育目的 >**

「実践知科目」は、技法知・学問知・探究知で培った知識や情報、技能を活用する能力を基礎に、さまざまな客体に対する理解と働きかけについて実践的に学修し、身につけた知識を主体的に実践することで、地域の発展に貢献できる豊かな人間性を養うことを目的とする。

**< 修得すべき能力 >**

「実践知科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 技法知・学問知・探究知科目で得た知識や情報を活用して課題を発見し解決する能力
- (2) 社会における自らの役割を認識し、責任感をもって主体的に行動する能力
- (3) 他者と協働して多様な意見を調整し、解決策を見出す能力

**・地域課題演習科目**

**< 教育目的 >**

「地域課題演習科目」は、学生が地域社会にある具体的課題の解決に向けて、身につけた知識を実践活動と結びつけるための考え方や方法を学部を越えて学び、課題解決に必要な思考力・判断力を養うことを目的とする。

**< 修得すべき能力 >**

「地域課題演習科目」では、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) 自らの専門分野と異なる知識を修得し、他者の異なる意見も理解したうえで考察する能力
- (2) 異なる分野の人びとと協働して地域にある現実問題を積極的に解決しようとする意欲
- (3) 多様な人びとと共に課題解決に向けた協力体制を組織できるコミュニケーション能力
- (4) 学習で得た知識を社会での実践活動に活かす意欲と行動力
- (5) 学習で得た知識を課題の発見と解決に活かす能力

### 3 履修方法及び開設授業科目

履修については、本冊子及び授業時間割を参考にし、間違いのないよう注意してください。

**同一名称の授業科目は重複して履修できません。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できます。**

なお、授業科目には、必修科目と選択科目の2種類があり、各学部、学科、課程ごとにそれぞれ範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみ、または後期のみ開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意してください。

#### A 技法知科目

(1) 「外国語科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 a - 1

授 業 科 目	単位数	週時限数	授 業 科 目	単位数	週時限数
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(入門)	1	1
英語総合 (上級)	1	1	初級ロシア語(発展)	1	1
英語総合 (中級)	1	1	中級ロシア語	1	1
英語総合 (中級)	1	1	初級中国語(入門)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	初級中国語(発展)	1	1
英語総合 (初級)	1	1	中級中国語	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(入門)	1	1
英語コミュニケーション (上級)	1	1	初級韓国語(発展)	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	中級韓国語	1	1
英語コミュニケーション (中級)	1	1	上級日本語A	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語B	1	1
英語コミュニケーション (初級)	1	1	上級日本語C	1	1
初級ドイツ語(入門)	1	1	上級日本語D	1	1
初級ドイツ語(発展)	1	1	上級日本語E	1	1
中級ドイツ語	1	1	上級日本語F	1	1
初級フランス語(入門)	1	1	上級日本語G	1	1
初級フランス語(発展)	1	1	上級日本語H	1	1
中級フランス語	1	1			

- 履修年次 -

1年次に履修すること。履修方式は学部ごとに異なるので、注意すること。

また、クラス分けを行っているので、注意すること(掲示により確認すること)。

(注) 1. 外国語は週1時限で1単位。

2. 「英語」と「英語以外の外国語」を合わせて、計8単位履修すること。

3. 英語総合 ・ は「読むことと書くこと」を中心とする授業であり、英語コミュニケーション ・ は「聞くことと話すこと」を中心とする授業である。

4. 英語以外の外国語は、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語、韓国語から1つの言語を履修する。中級外国語は、初級外国語と同一言語を履修する。

5. 英語以外の外国語は、初級(入門)、初級(発展)の順に履修すること。

ただし、集中型(入門と発展を併せて週4回行う。)の授業の場合は、同時に履修すること。

6. 外国人留学生は、外国語科目として日本語を履修することができる。

7. 外国人留学生は、母語(native language)、およびCEFR C1レベル以上の既習得言語を、「外国語科目」として履修できない。

8. 英語以外の外国語で1科目当たり60時間以上を高校等で履修してきた学生は、別に指示するので申し出ること。

9. 「英語」については、上記のほか表 a - 2のとおり開設授業科目がある。

表 a - 2

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
英語発展A (TOEIC 初級)	1	1	2年次以上対象
英語発展B (TOEIC 中級)	1	1	2年次以上対象
英語発展C (実践英語)	1	1	2年次以上対象
英語発展D (科学英語)	1	1	2年次以上対象

- 履修年次 -

「英語発展」は2年次以上に履修すること。

なお、「英語発展」で修得した単位は選択となる。

- (注) 1. 外国語は週1時限で1単位。  
 2. 英語発展A～Dに履修の順番はない。ただし、英語発展B (TOEIC 中級)の単位を修得した場合、英語発展A (TOEIC 初級)を履修することはできない。  
 3. 英語発展A (TOEIC 初級)は、TOEICスコア500点を到達目標とした授業である。  
 英語発展B (TOEIC 中級)は、TOEICスコア600点を到達目標とした授業である。  
 英語発展C (実践英語)は、日常生活で使用する実践的な英語力を養うことを目的とした授業である。  
 英語発展D (科学英語)は、「科学」をテーマにした文献の読解力の養成と英語によるプレゼンテーション能力を高めることを目的とした授業である。

(2) 「健康・スポーツ科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 b

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
健康・スポーツA	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツB	1	1	通常実技(理論含む)
健康・スポーツC (シーズン)	1	集中	集中実技(理論含む)

- 履修年次 -

全学部とも健康・スポーツAは1年次前期に、健康・スポーツBは1年次後期に履修すること。

- (注) 1. 全学部とも健康・スポーツA (1単位)は必ず履修すること。  
 2. 健康・スポーツC (シーズン)は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ履修できる。  
 3. 健康・スポーツBと健康・スポーツC (シーズン)は人数制限があるので注意すること。

(3) 「情報科目」の開講授業科目及び履修方法等

表 c (1年次対象)

授 業 科 目	単位数	週時限数	備 考
情報基礎A	2	1	機器の操作含む
情報基礎B	2	1	機器の操作含む

- 履修年次 -

全学部とも情報基礎Aは1年次前期に、情報基礎Bは1年次後期に履修すること。

また、端末台数の関係上、学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号によるクラス編成を行っているので、注意すること(時間割及び掲示により確認すること)。

- (注) 1. 全学部とも情報基礎A (2単位)は必ず修得すること。情報基礎B (2単位)は1年次後期に履修することができる。  
 2. 高校で情報科目を履修し、所定のレベルを有するものは早期に単位を修得できる場合がある。

B 学問知科目

(1) 「人文社会科学・教育学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 d

授 業 科 目	単位数	週時限数
思想	2	1
芸術学	2	1
文学	2	1
言語学	2	1
歴史学	2	1
法学	2	1
憲法	2	1
政治学	2	1
経済学・経営学	2	1
社会学	2	1
教育学	2	1
心理学	2	1

(2) 「理学・工学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 e

授 業 科 目	単位数	週時限数
物質科学	2	1
自然科学	2	1
材料科学	2	1
電気電子工学	2	1
エネルギー科学	2	1
数理情報科学	2	1
機械科学	2	1
環境・防災学	2	1
メディア情報学	2	1

(3) 「農学領域科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 f

授 業 科 目	単位数	週時限数
農学基礎	2	1
食品健康科学	2	1
分子生物機能科学	2	1
分子生命医科学	2	1
農業環境工学	2	1
森林科学	2	1
動物科学	2	1
水産学基礎	2	1
獣医学A	2	1
獣医学B	2	1
獣医学C	2	1

C 探究知科目

(1) 「環境科目」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 g

授 業 科 目	単位数	週時間数
環境A	2	1
環境B	2	1
環境C	2	1
環境D	2	1
環境E	2	1
環境F	2	1

(2) 「地域科目(地域関連科目)」の開講授業科目・単位数・週時間数  
表 h

授 業 科 目	単位数	週時間数	授 業 科 目	単位数	週時間数
現代社会をみる視角	2	1	地域協創E	1	1
宮沢賢治の世界	2	1	地域協創F	1	1
危機管理と復興	2	集中	地域協創G	1	1
地場産業・企業論	2	集中	地域協創H	1	1
ボランティアとリーダーシップ	2	集中	地域協創I	1	1
地域協創入門	2	1	キャリアを考えるA	2	1
社会連携学A	2	1	キャリアを考えるB	2	1
社会連携学B	2	1	日本事情A	2	1
地域協創A	1	1	日本事情B	2	1
地域協創B	1	1	多文化コミュニケーションA	2	1
地域協創C	1	1	多文化コミュニケーションB	2	1
地域協創D	1	1			

D 実践知科目

(1) 「地域課題演習科目(地域関連科目)」の開講授業科目及び履修方法等  
表 i

授 業 科 目	単位数	週時間数
地域防災課題演習	2	1
地域グローバル課題演習	2	1
地域クリエイト課題演習	2	1
地域課題演習A	2	1
地域課題演習B	2	1
地域課題演習C	2	1
地域課題演習D	2	1
インターカレッジ・フィールド実践演習	2	1
キャリアデザイン実践演習	2	1
海外研修-世界から地域を考える-	2	集中

(注) 地域課題演習科目(2単位)は、人数制限があるので注意すること。

#### 4 「選択」について

外国語科目（「英語発展」のみ）ならびに必修単位数を超えた健康・スポーツ科目、情報科目、人文社会科学・教育学領域科目、理学・工学領域科目、農学領域科目、地域関連科目（地域科目、地域課題演習科目）を「選択」に充てることができます。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換協定に基づき、他大学で修得した科目については、所定単位数までは「選択」のなかに取り入れることができます。

なお、「選択」の範囲及び修得すべき単位数等については、学部、学科、課程により異なるので各学部の説明の項を参照してください。

参考: 履修授業科目要件区分 / 標準履修学年・時期早見表

履修区分		科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考			
技法知 科目	英語	英語総合 (初級)	1	選択	1	履修希望調査及び大学入学共通テストとオックスフォード・プレースメント・テストによりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)			
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語総合 (初級)	1	選択	1				
		英語総合 (中級)	1	選択	1				
		英語総合 (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (初級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (中級)	1	選択	1				
		英語コミュニケーション (上級)	1	選択	1				
		英語発展A (TOEIC 初級)	1	選択	2 前				
		英語発展B (TOEIC 中級)	1	選択	2 後				
		英語発展C (実践英語)	1	選択	2 前				
		英語発展D (科学英語)	1	選択	2 後				
		外国語 科目	英語以外	初級ドイツ語(入門)	1		選択	1	履修希望調査によりクラス分けを行う。 (掲示により確認すること)
				初級ドイツ語(発展)	1		選択	1	
				中級ドイツ語	1		選択	1 後	
	初級フランス語(入門)			1	選択	1			
	初級フランス語(発展)			1	選択	1			
	中級フランス語			1	選択	1 後			
	初級ロシア語(入門)			1	選択	1			
	初級ロシア語(発展)			1	選択	1			
	中級ロシア語			1	選択	1 後			
	初級中国語(入門)		1	選択	1				
	初級中国語(発展)		1	選択	1				
	中級中国語		1	選択	1 後				
	初級韓国語(入門)		1	選択	1				
	初級韓国語(発展)		1	選択	1				
	中級韓国語		1	選択	1 後				
	上級日本語A		1	選択	1 前				
	上級日本語B		1	選択	1 前				
	上級日本語C		1	選択	1 前				
	上級日本語D		1	選択	1 前				
	上級日本語E	1	選択	1 後					
	上級日本語F	1	選択	1 後					
	上級日本語G	1	選択	1 後					
	上級日本語H	1	選択	1 後					
	健康・スポーツ 科目	健康・スポーツA	1	必修	1 前				
		健康・スポーツB	1	必修 / 選択	1 後				
		健康・スポーツC (シーズン)	1	選択	1 後				
情報科目	情報基礎A	2	必修	1 前	学部毎に学科等の単位でのクラス編成または学籍番号でのクラス編成を行う。 (時間割及び掲示により確認すること)				
	情報基礎B	2	選択	1 後					
学問知 科目	人文社会科学・ 教育学領域科目	思想	2	選択	1・2	教育学部生は、時間割を確認の上、「憲法」を1年前期に履修すること。			
		芸術学	2	選択	1・2				
		文学	2	選択	1・2				
		言語学	2	選択	1・2				
		歴史学	2	選択	1・2				
		法学	2	選択	1・2				
		憲法	2	必修 / 選択	1・2				
		政治学	2	選択	1・2				
		経済学・経営学	2	選択	1・2				
		社会学	2	選択	1・2				
		教育学	2	選択	1・2				
心理学	2	選択	1・2						

履修区分	科目名 (印は集中講義形式で開講)	単位数	要件区分	標準履修 学年・時期	備考		
学問知 科目	理学・工学領域科目	物質化学	2	選択	1・2		
		自然科学	2	選択	1・2		
		材料科学	2	選択	1・2		
		電気電子工学	2	選択	1・2		
		エネルギー科学	2	選択	1・2		
		数理情報科学	2	選択	1・2		
		機械科学	2	選択	1・2		
		環境・防災学	2	選択	1・2		
		メディア情報学	2	選択	1・2		
		農学領域科目	農学基礎	2	選択	1・2	
	食品健康科学		2	選択	1・2		
	分子生物機能科学		2	選択	1・2		
	分子生命医科学		2	選択	1・2		
	農業環境工学		2	選択	1・2		
	森林科学		2	選択	1・2		
	動物科学		2	選択	1・2		
	水産学基礎		2	選択	1・2		
	獣医学A		2	選択	1・2		
	獣医学B		2	選択	1・2		
	獣医学C	2	選択	1・2			
探究知 科目	環境科目	環境A	2	選択	1・2前		
		環境B	2	選択	1・2前		
		環境C	2	選択	1・2前		
		環境D	2	選択	1・2後		
		環境E	2	選択	1・2後		
		環境F	2	選択	1・2後		
	地域 科目	地域 科目	現代社会をみる視角	2	選択	1・2	
			巨沢賢治の世界	2	選択	1・2	
			危機管理と復興	2	選択	1・2	
			地域産業・企業論	2	選択	1・2	
			ボランティアとリーダーシップ	2	選択	1・2	
			地域協創入門	2	選択	1・2	
			社会連携学A	2	選択	1・2	
			社会連携学B	2	選択	1・2	
			地域協創A	1	選択	1・2	
			地域協創B	1	選択	1・2	
			地域協創C	1	選択	1・2	
			地域協創D	1	選択	1・2	
			地域協創E	1	選択	1・2	
			地域協創F	1	選択	1・2	
			地域協創G	1	選択	1・2	
			地域協創H	1	選択	1・2	
			地域協創I	1	選択	1・2	
			キャリアを考えるA	2	選択	1・2	
			キャリアを考えるB	2	選択	1・2	
			日本事情A	2	選択	1・2	
			日本事情B	2	選択	1・2	
			多文化コミュニケーションA	2	選択	1・2	
多文化コミュニケーションB	2	選択	1・2				
実践知 科目	地域課題 演習科目	地域防災課題演習	2	選択	2		
		地域グローバル課題演習	2	選択	2		
		地域クリエイティブ課題演習	2	選択	2		
		地域課題演習A	2	選択	2		
		地域課題演習B	2	選択	2		
		地域課題演習C	2	選択	2		
		地域課題演習D	2	選択	2		
		インターカレッジ・フィールド実践演習	2	選択	2		
		キャリアデザイン実践演習	2	選択	2		
		海外研修-世界から地域を考える-	2	選択	2		

注1:各学部の履修単位数及び履修方法を確認すること。

注2:履修にあたっては前期のみまたは後期のみまたは後期のみの開設授業科目や年度により開設しない科目があるので、時間割を確認すること。

なお、時間割には、学年・学部・学科等の単位で履修できる枠(時間割枠)があるので、注意すること。

注3:科目名の印は集中講義形式での開講を示しているが、これ以外でも集中講義形式で開講する場合がある。

## 5 修得すべき単位数と履修の注意点～人文社会科学部～

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 a 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				人文社会科学部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「 選 択 」 参 照	
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目	1	(2)			
	情報科目	2	(2)				
	技法知科目修得単位数計				11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計				6		
	探究知科目	環境科目		4	(2)		
		実践知科目	地域関連科目				地域科目
			地域課題演習科目				
探究知・実践知科目取得単位数合計				4			
教養教育科目修得単位数計					28		

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

技法知科目 (11 単位)

必修単位 (11 単位)

外国語科目 (英語・英語以外の外国語) (8 単位)

英語、英語以外の外国語を次の a～c のいずれか 1 つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語 8 単位

英語総合 ・ を各 2 単位、英語コミュニケーション ・ を各 2 単位、合計 8 単位

b. 英語 4 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 8 単位

英語総合 ・ を各 1 単位、英語コミュニケーション ・ を各 1 単位、計 4 単位及び英語以外の外国語から 1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、計 4 単位、合計 8 単位

c. 英語以外の外国語 8 単位

1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、中級を 4 単位、計 8 単位

健康・スポーツ科目 (1 単位)

健康・スポーツ A (1 単位) を修得すること。

情報科目 (2 単位)

情報基礎 A (2 単位) を修得すること。

学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

必修単位（10単位）

「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。

「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。

「農学領域科目」から2単位を修得すること。

「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）

「健康・スポーツ科目」（2単位まで）

健康・スポーツB、健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。

「情報科目」（2単位まで）

「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）

「理学・工学領域科目」（2単位まで）

「農学領域科目」（2単位まで）

「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

- 履修上の注意事項 -

1 「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。

2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で憲法2単位、健康・スポーツ科目2単位修得する必要があるので注意すること。

3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。

なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。

また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。

なお、人文社会科学部の学生は、前期末に行う外国語科目の変更希望調査により、後期に履修する決定語学の変更を許可される場合がある。ただし、決定語学の変更は、1年次だけに認められ、2年次以降の変更はできないので、変更の手続きについては掲示を確認すること。

## 5 修得すべき単位数と履修の注意点～教育学部～

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 b 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				教 育 学 部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	4	(2)	4 「 選 択 」 参 照	
			英語以外	4			
			日本語				
		健康・スポーツ科目	2	(1)			
		情報科目	2	(2)			
	技法知科目修得単位数計				12		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目(憲法)		2			
		人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計				8		
	探究知科目	環境科目		4	(2)		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目				
			地域課題演習科目				
探究知・実践知科目取得単位合計数				4			
教養教育科目修得単位数計				28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

技法知科目(12単位)

必修単位(12単位)

外国語科目(英語)(4単位)

英語総合 ・ を各1単位、英語コミュニケーション ・ を各1単位、合計4単位を修得すること。

外国語科目(英語以外の外国語)(4単位)

1外国語を選択し、初級(入門)を2単位、初級(発展)を2単位、合計4単位を修得すること。

健康・スポーツ科目(2単位)

健康・スポーツA(1単位)は必ず修得すること。

健康・スポーツB及び健康・スポーツCから1単位を修得すること。健康・スポーツBを修得することが望ましい。

健康・スポーツC(シーズン)は、「雪上のスポーツ」、「氷上のスポーツ」から1つ修得できるが、人数制限があること、開講しない年度があることについて注意すること。

情報科目(2単位)

情報基礎A(2単位)を修得すること。

学問知科目、探究知科目及び実践知科目（12単位）

必修単位（12単位）

- 「人文社会科学・教育学領域科目」から憲法（2単位）を修得すること。
- 「人文社会科学・教育学領域科目」から憲法を除き2単位を修得すること。
- 「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。
- 「農学領域科目」から2単位を修得すること。
- 「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

選択（4単位）

次の区分から4単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

- 「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）
- 「健康・スポーツ科目」（1単位まで）
- 健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。
- 「情報科目」（2単位まで）
- 「人文社会科学・教育学領域科目」（憲法を除く）（2単位まで）
- 「理学・工学領域科目」（2単位まで）
- 「農学領域科目」（2単位まで）
- 「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

- 履修上の注意事項 -

- 1 「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみ開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 3 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。  
決定語学は変更できない。

## 5 修得すべき単位数と履修の注意点～理工学部～

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 c 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				理 工 学 部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「 選 択 」 参 照	
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目	1	(1)			
	情報科目	2	(2)				
	技法知科目修得単位数計				11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計				6		
	探究知科目	環境科目		4	(2)		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目				
			地域課題演習科目				
探究知・実践知科目取得単位数合計				4			
教養教育科目修得単位数計				28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

技法知科目 (11 単位)

必修単位 (11 単位)

外国語科目 (英語・英語以外の外国語) (8 単位)

英語、英語以外の外国語を次の a～b のどちらか 1 つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語 8 単位

英語総合 ・ を各 2 単位、英語コミュニケーション ・ を各 2 単位、合計 8 単位

b. 英語 4 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 8 単位

英語総合 ・ を各 1 単位、英語コミュニケーション ・ を各 1 単位、計 4 単位及び英語以外の外国語から 1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、計 4 単位、合計 8 単位

健康・スポーツ科目 (1 単位)

健康・スポーツ A (1 単位) を修得すること。

情報科目 (2 単位)

情報基礎 A (2 単位) を修得すること。

学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

必修単位（10単位）

「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。

「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。

「農学領域科目」から2単位を修得すること。

「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）

「健康・スポーツ科目」（1単位まで）

健康・スポーツB、健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。

「情報科目」（2単位まで）

「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）

「理学・工学領域科目」（2単位まで）

「農学領域科目」（2単位まで）

「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

- 履修上の注意事項 -

- 1 「外国語科目」、「健康・スポーツ科目」、「情報科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で憲法2単位、健康・スポーツ科目2単位修得する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり履修すること（掲示により確認すること）。  
決定語学は変更できない。

## 5 修得すべき単位数と履修の注意点～農学部～

教養教育科目の授業科目区分及び単位数等は前述のとおりですが、修得すべき単位数及び履修方法については、以下のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 d 教養教育科目の修得すべき単位数

区 分				農 学 部			
				必修 単位	選択		
					(選択可能)	単位	
教 養 教 育 科 目	技法知科目	外国語科目	英語	8	(2)	7 「 選 択 」 参 照	
			英語以外				
			日本語				
		健康・スポーツ科目	1	(2)			
	情報科目	2	(2)				
	技法知科目修得単位数計				11		
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目		2	(2)		
		理学・工学領域科目		2	(2)		
		農学領域科目		2	(2)		
	学問知科目修得単位数計				6		
	探究知科目	環境科目		4	(2)		
	実践知科目	地域関連科目	地域科目				
			地域課題演習科目				
探究知・実践知科目取得単位数合計				4			
教養教育科目修得単位数計				28			

- (注) 1. 各区分から修得すべき単位数以上を履修すること。  
 2. 「選択可能」欄の数字は、教養教育科目の修得すべき単位数のうち、各科目から「選択」として修得できる上限単位数を表す。  
 3. 上記の表だけで判断せず、下の説明も確認すること。

技法知科目 (11 単位)

必修単位 (11 単位)

外国語科目 (英語・英語以外の外国語) (8 単位)

英語、英語以外の外国語を次の a～b のどちらか 1 つの履修形態を選択し修得すること。

a. 英語 8 単位

英語総合 ・ を各 2 単位、英語コミュニケーション ・ を各 2 単位、合計 8 単位

b. 英語 4 単位、英語以外の外国語 4 単位、計 8 単位

英語総合 ・ を各 1 単位、英語コミュニケーション ・ を各 1 単位、計 4 単位及び英語以外の外国語から 1 外国語を選択し、初級 (入門) を 2 単位、初級 (発展) を 2 単位、計 4 単位、合計 8 単位

健康・スポーツ科目 (1 単位)

健康・スポーツ A (1 単位) を修得すること。

情報科目 (2 単位)

情報基礎 A (2 単位) を修得すること。

学問知科目、探究知科目及び実践知科目（10単位）

必修単位（10単位）

「人文社会科学・教育学領域科目」から2単位を修得すること。

「理学・工学領域科目」から2単位を修得すること。

「農学領域科目」から2単位を修得すること。

「環境科目」、「地域科目」、「地域課題演習科目」から4単位を修得すること。

選択（7単位）

次の区分から7単位を修得すること。なお、区分ごとに修得できる上限があるので注意すること。

また、いわて高等教育コンソーシアムにおける単位互換制度に基づき、他大学で修得した科目を含むことができる。

「外国語科目」（「英語発展」のみ。2単位まで）

「健康・スポーツ科目」（2単位まで）

健康・スポーツB、健康・スポーツC（シーズン）は、人数制限があるので注意すること。

「情報科目」（2単位まで）

「人文社会科学・教育学領域科目」（2単位まで）

「理学・工学領域科目」（2単位まで）

「農学領域科目」（2単位まで）

「地域科目」、「地域課題演習科目」（2単位まで）

- 履修上の注意事項 -

- 1 「外国語科目」、「情報科目」、「健康・スポーツ科目」は1年次に、それぞれ決められた時間帯で履修すること。また、「外国語科目（英語発展）」は2年次以降に履修すること。
- 2 教育職員免許状取得希望者は、日本国憲法として「人文社会科学・教育学領域科目」で憲法2単位、健康・スポーツ科目2単位修得する必要があるので注意すること。
- 3 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。ただし、日本語以外の外国語科目は重複して履修できる。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみ~~の~~開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。
- 4 外国語科目は、入学時に決定する決定語学のとおり~~に~~履修すること（掲示により確認すること）。決定語学は変更できない。

専門教育について

人文社会科学部

人文社会科学部学生の皆さんへ

皆さんの科目履修については、この「履修の手引き」に全て記載してありますので、関係する部分をよく読んでください。

本手引きの記載内容に変更等ある場合は、その都度、アイアシスタント・掲示板でお知らせします。

#### 【教養教育科目の履修】

13～ 14 に書いてある単位を修得してください。

#### 【専門教育科目の履修】

下記の順に掲載しています。

- 1．人文社会科学部の理念・目的
- 2．卒業認定・学位授与の方針，教育課程編成・実施の方針
- 3．人文社会科学部教育課程規則
- 4．人文社会科学部教育課程履修細則
- 5．卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について
- 6．人間文化課程 科目等一覧
- 7．地域政策課程 科目等一覧
- 8．課程横断型プログラムおよび課外科目一覧
- 9．取得可能な資格等について

#### 【教育職員免許状等の取得について】

中学校教諭（一種）、高等学校教諭（一種）の免許等の取得が可能です。

履修すべき単位数や免許等取得の条件等については、本手引きで確認してください。

ガイダンス等は全てアイアシスタント及び掲示板でお知らせしますので、日頃から注意してください。

#### 【学生センター相談窓口】

教養教育科目に関すること = 学生センター 窓口

専門教育科目・教員免許や学芸員等資格取得に関すること = 学生センター 窓口

人文社会科学部HPにプログラムごとの履修のながれを示しています。

<https://jinsha.iwate-u.ac.jp/>

# 1. 人文社会科学部の理念・目的

## 理念と目標

### \* 理念

岩手大学人文社会科学部は、教育研究における「総合化」と「専門深化」をとともに追究する。その実現のため、人文社会諸科学と芸術文化に関する総合的教育研究を、自然科学との連携のもとに行い、地域社会および国際社会の持続的発展に貢献する。

### \* 教育目標

人文社会科学部は、幅広く深い教養と豊かな人間性、複雑化・高度化が進む現代社会に対応することができる総合的な知見・思考力・判断力、および広い国際的視野を育むための教育を行う。

カリキュラムにおいて、教養教育と専門教育との有機的な連携、および専門教育における人文社会諸科学・芸術文化と自然科学との密接な連携を図り、教育における「総合化と専門深化」の実現をめざす。

### \* 研究目標

人文社会科学部は、グローバル化が進む現代社会の諸問題を解明・解決し、地域社会に暮らす人々の生活に貢献することを目的として、以下の視点から独創的で多面的・総合的な研究を行う。

- (1) 固有の文化を育み、それを歴史的に継承してきた地域社会と、そこに暮らす人々の行動の特徴
- (2) グローバル化が地域社会に及ぼす影響
- (3) 地域における社会システム・環境システムの特徴

### \* 社会貢献目標

人文社会科学部は、地域社会が抱える諸課題を自らの課題として、これらに積極的に対応し、研究成果の地域還元や地域に対する社会教育・芸術活動を通じて地域社会に貢献する。さらに、教育研究活動の場を広げることによって、国際社会に貢献する。

## 教育目的

人文社会科学部は、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と、人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材を養成することを目的とする。

## 修得すべき能力

人文社会科学部は、その教育プログラムを通して、学生が次のような能力を獲得することを目指している。

- (1) 分野にとらわれず、幅広く深く学ぶ能力
- (2) 人間・文化・社会・環境を、現象だけにとらわれず、それぞれの本質的視点から分析し、それらを総合し、判断する能力
- (3) 地域社会および国際社会のなかで、学び、考え、行動するために必要なコミュニケーション能力

## 課程の教育目的

人間文化課程では、固有文化を育み歴史的に継承されてきた地域社会と、そこに暮らす人間の行動を多角的に学修し、グローバル化を踏まえた地域づくりと住民の健やかな生活に貢献できる人材、および地域文化を世界に向けて発信できる人材の養成を目的とする。

地域政策課程では、震災復興から、未来のモデルとなる持続可能な社会づくりへの道筋を見据え、地域創生・地域マネジメントの課題に、法学・経済学・環境学それぞれの分野の学修を軸としながら、総合的視点から取り組むことのできる人材の養成を目的とする。

## 2. 卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とは、学生が修得すべき学修の成果を示したもので、端的に言えば、学生が本学部卒業（＝学位授与）までに身に着けるべき知識や能力等です。教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、卒業認定・学位授与の方針実現のために、教育課程（カリキュラム）をどのように編成し、実施するかを示したものです。

本学部では、本学の学位授与の方針に基づき、学部および専修プログラムの卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針を定めています。学修を進めるうえで、本学部卒業までに身に着けることができる知識・能力等を知り、その知識・能力等獲得のために、どのように学修内容が定められているのかを理解することは、皆さんの夢の実現への近道となることでしょう。

自立的な学修の第一歩として、卒業認定・学位授与の方針と教育課程編成・実施の方針をよく読んで、学修に取り組んでください。

### 学 部

#### 卒業認定・学位授与の方針

人文社会科学部では、教養教育を重視しつつ「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的としており、所定の教育課程を学修し、以下に示す能力を修得した者に「学士（総合科学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1. 教養教育により幅広い分野の知識を修得している。
2. 人間・文化・社会・環境について、教養教育で得た基礎的知識・技能等を土台にし、専門的な知識と理解を有するとともに、総合的・学際的な広い視野を有している。

（思考・判断）

3. 総合的な学修を活かし、変化が著しく複雑化する現代社会に対応できる柔軟な思考力と的確な判断力を有している。

（技能・表現）

4. グロ・バル化が進む社会において、多様な考え方、異質なものを理解するとともに、自らの見解・成果を的確に表現し、発信できる高いコミュニケーション能力を有している。

（関心・意欲・態度）

5. 地域社会・国際社会の諸課題に実践を通して取り組み、貢献しようとする積極的姿勢と高い倫理性を有している。

#### 教育課程編成・実施の方針

人文社会科学部では、「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会および国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を教育目的としている。

この目的を達成するために、教養教育で得た多様な学問領域の基礎的知識および基本的思考力、幅広く深い教養と総合的な判断力等を踏まえ、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、専門教育科目を「学部共通科目」、「課程科目」、「専修プログラム科目」の3つのカテゴリに分け、体系的な教育課程を編成する。

教育課程の特色として、学部共通科目の1～2年次必修科目に「総合科学基礎」、3年次必修科目に「総合科学論」を配置し、諸学問のあり方を規定する方法論および諸研究が学際的に取り組む現代の重要課題を学修し、自らの学修の学問的特性や位置づけに対する理解を深める。また、多様な学修成果、能力の養成を可能とする主・副専修プログラムを設けることで、専門性の強化および総合的・複眼的視野の充実に図るだけでなく、地域の諸課題に柔軟に対応できる思考力・判断力と、その解決に必要なコミュニケーション能力を育成する。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い分野の知識等修得のために、教養教育を必修とする。
2. 総合的・学際的視野を養うために、「総合科学基礎」、「総合科学論」、他課程科目および主・副専修プログラムの修得を必修とする。

(思考・判断)

3. 柔軟な思考力と的確な判断力を養うために、1つ以上の副専修プログラムの修得を必修とする。

(技能・表現)

4. 基礎的語学力および多様な考え方を理解し、自分の考えを表現する力を養うために、教養教育の外国語科目および1つ以上の副専修プログラムの修得を必修とし、学部共通科目に「課題解決型国際研修」を置く。

(関心・意欲・態度)

5. 諸課題に積極的に取り組み、貢献しようとする態度および高い倫理観を養うために、教養教育の探求知科目・実践知科目を必修とし、学部共通科目に「課題解決型国際研修」を置く。

## 人間文化課程 専修プログラム

### 国際文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

国際文化専修プログラムでは、アジア・ヨーロッパ・英米諸地域をはじめとする世界の歴史・言語・文学などの研究を通して、国際的・多角的な視野から、多文化共生の道のりの探究を行うことを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解することができる。
3. 世界の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。

(思考・判断)

4. 国際社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
5. 探求する課題について論理的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

6. グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を有している。
7. 従来研究成果を批判的に検討し、自らの見解を論理的に組み立て、資料に基づいて適切に発表する

ことができる。

8．探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができる。

（関心・意欲・態度）

9．世界の多様な文化への関心と、自ら進んで学ぶ意欲を持ち、多文化共生のあり方について主体的に探求する態度を有している。

### 国際文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

国際文化専修プログラムでは、アジア・ヨーロッパ・英米諸地域をはじめとする世界の歴史・言語・文学などの研究を通して、国際的・多角的な視野から、多文化共生の道のりの探究を行うことを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようなカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために、課程共通科目を配置する。

2．国際的な視野に立って異文化を理解することができるために、課程共通科目として、「国際交流研修」、「国際文化論」を選択必修科目に配置する。

3．世界の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解するために、プログラム基礎科目として、英米言語文化系、異文化コミュニケーション系、アジア言語文化系、歴史系、ヨーロッパ言語文化系の講義科目を配置する。

（思考・判断）

4．国際社会における諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を獲得するために、プログラム展開科目として、英米言語文化系、異文化コミュニケーション系、アジア言語文化系、歴史系、ヨーロッパ言語文化系の演習・特講・講読科目を配置する。

5．探求する課題について論理的に思考・判断することができるために、「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。

（技能・表現）

6．グローバル化社会に対応できるコミュニケーション手段として個別言語を用いて発信できる能力を身につけるために、外国語コミュニケーション系の科目を段階的に学べるように配置する。

7．能動的な発信力を身につけるために、英米言語文化系、異文化コミュニケーション系、アジア言語文化系、歴史系、ヨーロッパ言語文化系の演習・講読科目を配置し、資料の読解力を向上させるとともに、先行研究を批判的に検討し、そのうえで自らの見解を発表できる能力を修得する。

8．探求する課題について、論理的な文章によって自分の考えを表すことができるために、「特別研究」を4年次に配置する。

（関心・意欲・態度）

9．世界の多様な文化への関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を高め、多文化共生のあり方について主体的に探求する態度を身につけるために、各分野の演習科目を配置する。

### 日本文化専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

日本文化専修プログラムでは、日本という地域における人間の文化的営み（言語・歴史・思想・文学・芸術等）について、広く学び、深く探究することを通して、グローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

（知識・理解）

1．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。

- 2．国際的な視野に立って日本文化を理解することができる。
- 3．日本の言語・文化の諸相を、その歴史的背景や社会的背景も踏まえながら理解できる能力を有している。
- 4．日本という地域における人間の文化的営みのいずれかに関して深い知識を有している。  
(思考・判断)
- 5．日本に関わる諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を有している。
- 6．探求する課題について論理的に思考・判断することができる。  
(技能・表現)
- 7．文献資料あるいは非文献資料を適切に取り扱い、活用する能力を身に付けている。
- 8．探求する課題について、論理的な文章や作品によって自分の考えを表現することができる。  
(関心・意欲)
- 9．日本における多様な文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を有している。  
(態度)
- 10．多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を有している。

#### 日本文化専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

日本文化専修プログラムでは、日本という地域における人間の様々な文化的営みについて深く分析・考察することを通して、グローバル化社会で活躍できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

- (知識・理解)
- 1．人間と文化に関して幅広い知識と教養を有するために、課程共通科目を配置する。
- 2．国際的な視野に立って日本文化を理解することができるために、課程共通科目として、1年次後期に「日本文化研究入門」を配置する
- 3．日本の言語・文化の諸相を理解するために、プログラム基礎科目として、各分野の講義等の科目を配置する。
- 4．日本に関する諸分野のいずれかに関して深い専門的知見を得るために、プログラム展開科目のフィールドワーク、特講等の科目を配置する。  
(思考・判断)
- 5．日本に関する諸問題を探求するための広い視野に基づいた思考力と社会的背景を踏まえた判断力を獲得するために、プログラム展開科目として、各分野の演習を配置する。
- 6．探求する課題について論理的に思考・判断することができるために、「特別研究」を課程科目の必修科目として配置する。  
(技能・表現)
- 7．資料を扱う基礎を身につけるために、プログラム基礎科目に「日本書文化」の関連科目及びプログラム展開科目として各分野の講読、実習等の科目を配置する。
- 8．自ら課題を見出し、適切に調査・分析をすすめ、自らの意図するところを表現する力を養い、最終年次において「特別研究」を達成する。  
(関心・意欲)
- 9．日本における多様な文化に関する関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲を高めるために、3・4年次に各分野の演習科目を配置する。

(態度)

10. 多様な文化を積極的に学修して多文化社会のあり方について主体的に探求する態度を身に付けるために、課題解決型の授業科目である各分野の演習科目を配置する。

### 現代社会共創プログラム 卒業認定・学位授与の方針

現代社会共創プログラムでは、人間や社会についての思想の歴史的・現代的展開を理解し、その土台のうえに社会学的な理論や技法を修得することによって、複雑化する現代社会の諸問題の根幹にある要因や価値の対立を見抜く力を身につけ、高い倫理性をもって共生社会の発展のために寄与できる人材を養成することを目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関して幅広い知識と教養を有している。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解できる。
3. 人文学的分野と社会学的分野の諸理論や研究方法について、広く分野横断的な知識と理解を備えている。

(思考・判断)

4. 現代社会の諸問題について、人間、文化、倫理、ケア、科学技術等をめぐる思想の歴史や原理的考察をふまえて思考・分析することができる。
5. 性別、国籍、民族性、能力、障がいなどに基づく社会的排除の現状や歴史的背景について理解するとともに、それを乗り越えて社会的参加を実現するための実践的思考法を有している。

(技能・表現)

6. 専門的な文献資料を正確に読解する能力や、適切な問題設定をおこない議論を構築する能力、具体的な社会事象についての社会学的分析の能力を備えている。
7. 自分の研究成果や企画・立案した内容を論理的に表現するとともに、広く発信するコミュニケーション能力を有している。

(関心・意欲・態度)

8. 市民社会・地域社会の一員として、学修した専門的知識を生かしながら、持続可能な共生社会の構築に積極的に参加する意欲をもっている。

### 現代社会共創専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

現代社会共創プログラムでは、人間や社会についての思想の歴史的・現代的展開を理解し、その土台のうえに社会学的な理論や技法を修得することによって、複雑化する現代社会の諸問題の根幹にある要因や価値の対立を見抜く力を身につけ、高い倫理性をもって共生社会の発展のために寄与できる人材を養成することを目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 人間と文化に関する幅広い知識と教養を涵養するために、課程共通科目を配置する。また、プログラム基礎科目として、1年次に専門基礎的な導入科目(「人文学入門」、「社会学入門」)を設置する。
2. 国際的な視野に立って異文化を理解する能力を養成するために、課程共通科目の「国際交流研修」や外国語関連の科目を配置する。プログラム科目としては、外国の思想・文化やエスニシティに関連する講義・特講・演習科目を配置する。
3. 人文学的分野と社会学的分野の諸理論や研究方法について、広く分野横断的な知識と理解を身につけるため、プログラム基礎科目および展開科目の選択必修においては、人文学的分野と社会学的分野の双

方から所定の単位の履修を義務づける。

(思考・判断)

4．現代社会の諸問題について、人間、文化、倫理、ケア、科学技術等をめぐる思想の歴史や原理的考察をふまえて思考・分析する能力を養成するために、プログラム基礎科目および展開科目として、人文的分野の講義科目や特講科目を配置する。

5．性別、国籍、民族性、能力、障がいなどに基づく社会的排除の現状や歴史的背景について理解するとともに、それを乗り越えて社会的参加を実現するための実践的思考法を養成するために、プログラム基礎科目および展開科目として社会学的分野の講義科目や特講科目を配置する。

(技能・表現)

6．専門的な文献資料を正確に読解する能力や適切な問題設定をおこない議論を構築する能力、具体的な社会事象についての社会的分析の能力を養成するために、プログラム展開科目として各演習科目を配置する。

7．自分の研究成果や企画・立案した内容を論理的に表現するとともに、広く発信するコミュニケーション能力を養成するために、上記の各演習科目に加えて4年次に「特別研究」を配置する。

(関心・意欲・態度)

8．市民社会・地域社会の一員として、学修した専門的知識を生かしながら、持続可能な共生社会の構築に積極的に参加する意欲を涵養するために、各演習科目と「特別研究」を配置する。

#### 人間行動専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

人間行動専修プログラムでは、人間行動を個人的側面と集団的側面から総合的に理解し、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1．人間行動に関わる専門分野について知識を幅広く身につけており、人間行動を総合的・多元的に理解することができる。

(思考・判断)

2．人間行動に関する専門的な知識等を活用して、人間や社会に潜む問題や課題を見出しその解決に向けた思考を展開することができるとともに、社会に積極的な提案を行うことができる。

(技能・表現)

3．調査や実験に関する技法、そしてそれらから得られたデータの分析に関する技法を身につけている。

4．分析や考察の内容を文章として適切に表現できる能力を有しているとともに、発表や討論の機会を通じて、コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得している。

5．経験(実習・実験)を通して、チームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるグループファシリテーションスキルを修得している。

(関心・意欲)

6．専門分野の学問内容、最新の研究成果、動向等について興味・関心を持っている。

7．専門性を活かして、地域社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

8．人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処しようとする態度を身に着けている。

## 人間行動専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

人間行動専修プログラムでは、人間行動を個人的側面と集团的側面から総合的に理解し、地域住民の心身の問題、家族の問題、生きがいの問題など、人々が抱える多様な問題に適切に対処できる人材の養成を目的としている。この教育目的を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1．人間行動に関わる専門分野についての知識を幅広く身につけ、人間行動について総合的・多角的に理解できるようにするために、プログラム基礎科目として、人間行動に関わる各専門分野の基本的な講義科目、プログラム展開科目として各学問分野のより専門・応用的な講義科目を系統的に配置する。さらに、人間行動の理解に関わる専門分野に通底する学際的な方法論を理解するための科目をプログラム基礎科目に配置する。

(思考・判断)

2．人間行動に関する専門的な知識等を活用して、人間や社会に潜む問題や課題を見出し、その解決に向けた思考と社会への積極的な提案を行うことができるようにするため、プログラム基礎科目に社会調査や心理学実験に関する科目(2年次)「特殊実験調査・」(3年次)、4年次に「特別研究」を配置する。

(技能・表現)

3．調査や実験に関する技法、そしてそれらから得られたデータの分析に関する技法を身につけるために、プログラム基礎科目に社会調査や心理学実験に関する科目(2年次)「特殊実験調査・」(3年次)、4年次に「特別研究」を配置するとともに、基礎的および実践・応用的な統計分析に関する科目をプログラム基礎科目として配置する。

4．分析や考察の内容を文章として適切に表現できる能力を身につけるとともに、発表や討論の機会を通じて、コミュニケーションやプレゼンテーションのスキルを修得できるようにするために、プログラム基礎科目として社会調査や心理学実験に関する科目(2年次)「特殊実験調査・」(3年次)、プログラム展開科目としての各専門分野の演習科目、そして「特別研究」(4年次)を配置する。

5．経験(実習・実験)を通じたチームワークやリーダーシップなどの集団活動場面におけるグループファシリテーションスキルを修得させるために、2年次の基礎科目として社会調査や心理学実験に関する科目を配置する。

(関心・意欲)

6．専門分野の学問内容に興味を抱かせるために、プログラム基礎科目として、各専門分野の基本的な講義科目が配置されている。また、最新の研究成果・動向等について興味・関心を持たせるために、プログラム展開科目では各専門分野のより専門・応用的な講義科目を系統的に配置する。

7．専門性を活かした地域社会への参画の意欲を高めるために、「特殊実験調査・」(3年次)、「特別研究」(4年次)、ならびに各専門分野の講義科目と演習科目を配置する。

(態度)

8．人間に対する深い理解と広い視野に基づく学際的・総合的な課題探求能力を修得し、現代社会の様々な課題を全体的に把握し、それらの課題に適切かつ柔軟に対処しようとする態度を身につけられるようにするため、プログラム基礎科目に社会調査や心理学基礎実験に関する科目(2年次)「特殊実験調査・」(3年次)、4年次に「特別研究」を配置して、こうした態度の形成を促す。

## 地域政策課程 専修プログラム

### 政策法務専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

政策法務専修プログラムは、法学全体、とくに公法、刑事法、政治学などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、公共政策形成の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本プログラムの教育課程は、公共政策形成に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、実際の政策立案・評価を効果的に行うことのできる能力の修得を目標とし、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域社会が抱える現実的な法的・政治的課題の内容や意義、歴史的経緯についての確に認識している。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考様式を身につけている。
4. 法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および公法、刑事法、政治学を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 地域社会が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

### 政策法務専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

政策法務専修プログラムでは、プログラムのディプロマ・ポリシーを実現するために、法・経済・環境に関する基礎および公法、刑事法、政治学などの専門に関する学修を目的に、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目(「民法(総則)」など) 1・2年次に憲法・刑事法・政治学に係る科目群を配置する。
2. 法学全体に関する基礎知識および公法・刑事法を中心とする専門的知識を修得するため、プログラム基礎科目として2・3年次に公法・刑事法・民法に係る科目群を配置する。また、地域社会が抱える具体的・現実的課題の内容や意義、歴史的経緯を学修するうえでの基本的知識を学ぶために、1・2年次にプログラム基礎科目として政治学に係る科目群を配置する。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する法学的思考様式を身につけるために、3年次にプログラム展開科目として訴訟法・民法(相続法)に関係する科目群を配置する。
4. 身に付けた法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を養うために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を配置し、地域の具体的な政策について知り、評価を下す機会を設ける。

(技能・表現)

5. 法学全体に関する基礎的な観点および公法、刑事法、政治学を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように、3年次にプログラム展開科目として各演習科目(いずれかを選択必修)を置き、調査・報告やグループディスカッションを実施する。さらに4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の学修・研究の結果を文章に表現する機会を与える。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけさせるために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を置き、多人数集団の中でのコミュニケーションと自己発信能力を陶冶することができるようにする。

(関心・意欲)

7. 3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を配置し、地域政策に携わる実践的機会を与えることで、地域が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントへの関心を高められるようにする。
8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域の問題解決のために社会に参画する意欲を高めるために、3年次にプログラム展開科目として各演習科目(いずれかを選択必修)を置き、4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の関心ある課題を選択して取り組めるようにする。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、3・4年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)および各演習科目(いずれかを選択必修)を配置する。

### 企業法務専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

企業法務専修プログラムは、法学全体、とくに民法(財産法)、商法、労働法などに関する学修に基づき、学部・課程および他専修プログラムにおける学修で得られた知見と合わせて、企業法務の観点から地域創生・地域マネジメントの課題に取り組むことのできる人材の養成を目的とする。この目的の下、本プログラムの教育課程は、企業法務に必要な専門的知識および法学的思考様式をもって、地域産業が抱える諸問題の解決を実行ないし提言することのできる能力の修得を目標とし、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 法・経済・環境に関する基礎的な知識を修得している。
2. 地域産業が抱える現実的な法的(とくに私法に関する)課題の内容や意義、歴史的経緯についての的確に認識している。

(思考・判断)

3. 法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解するための法学的思考

様式を身につけている。

4．法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を有している。

（技能・表現）

5．法学全体に関する基礎的な観点および民法（財産法）、商法、労働法を中心とする専門的な観点から、地域産業が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。

6．様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

（関心・意欲）

7．地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントに強い関心を持っている。

8．本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を持っている。

（態度）

9．中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

#### 企業法務専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

企業法務専修プログラムでは、プログラムのディプロマ・ポリシーを実現するために、法・経済・環境に関する基礎および民法（財産法）、商法、労働法などの専門に関する学修を目的に、以下のようにカリキュラムを編成する。

（知識・理解）

1．法・経済・環境に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目（「民法（総則）」など）、2年次にプログラム基礎科目として民法（物権・債権総論）などに関係する科目群を配置する。

2．法学全体に関する基礎知識および民法商法、労働法を中心とする専門的知識を修得するため、プログラム基礎科目として2・3年次に民法（債権各論）、民法（家族法）、商法などに関係する科目群を配置する。また、地域産業が抱える具体的・現実的課題の内容や意義、歴史的経緯を学修するうえでの基本的知識を学ぶために、2・3年次にプログラム基礎科目として労働法などに関係する科目群を配置する。

（思考・判断）

3．法と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する法学的思考様式を身につけるために、3年次にプログラム展開科目として民法（相続法）、会社法、民事訴訟法などに関係する科目群を配置する。

4．身に付けた法学的思考様式を用いて現実の社会的課題に関する判断を下す力を養うために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」（いずれかを選択必修）を配置し、地域の具体的な政策について知り、評価を下す機会を設ける。

（技能・表現）

5．法学全体に関する基礎的な観点および民法、商法、労働法を中心とする専門的な観点から、地域社会が抱える課題につき、法学的思考様式を用いて政策立案を行い、それを論理的かつ的確に説明するスキルを身につけられるように、3年次にプログラム展開科目として各演習科目

(いずれかを選択必修)を置き、調査・報告やグループディスカッションを実施する。さらに4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の学修・研究の結果を文章に表現する機会を与える。

6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけさせるために、3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を置き、多人数集団の中でのコミュニケーションと自己発信能力を陶冶することができるようにする。

(関心・意欲)

7. 3年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)を配置し、地域政策に携わる実践的機会を与えることで、地域産業が抱える課題の解決や地域創生・地域マネジメントへの関心を高められるようにする。

8. 本専修プログラムで修得した専門的視点を活かし、地域産業の問題解決のために社会に参画する意欲を高めるために、3年次にプログラム展開科目として各演習科目(いずれかを選択必修)を置き、4年次に課程科目として「特別研究」(必修)を配置し、自身の関心ある課題を選択して取り組めるようにする。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、3・4年次にプログラム展開科目として「地域政策実践演習A・B」(いずれかを選択必修)および各演習科目(いずれかを選択必修)を配置する。

#### 地域社会経済専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

地域社会経済専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、経済学や経営学などの専門的学修を通じて、地域社会や経済、産業、行政などに関わる政策的諸課題を多角的に分析でき、持続可能な地域社会・経済の構築を担うことができる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 地域社会・経済を総合的に理解するための専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 地域社会・経済について、多角的な視点から思考・判断する能力を身につけている。
4. 経済学や経営学などの専門的知識を活用し、地域社会・経済とその課題を総合的に思考・判断することができる

(技能・表現)

5. 地域社会・経済の現状や課題について、関連資料・データに基づき理論的・実証的に分析・評価することができる。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけている。

(関心・意欲)

7. 様々な経済事象や、地域社会・経済が抱える諸問題に強い関心を有している。
8. 経済学や経営学などを中心とした専門的視点を活かし、地域社会・経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 高い倫理性をそなえつつ、専門分野を社会に活かそうとする態度を身につけている。

#### 地域社会経済専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

地域社会経済専修プログラムでは、経済・法・環境分野の総合的学修を基礎に、経済学や経営学などの専門的学修を通じて、地域社会や経済、産業、行政などの政策的諸課題を多角的に分析でき、持続可能な地域社会・経済の構築を担うことができる人材の養成を目的としている。この教育目標を達成するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 経済・法・環境に関する基礎的な知識を幅広く身につけるために、課程共通科目に必修科目として「経済学基礎Ⅰ」「民法(総則)Ⅰ」「環境政策論Ⅰ」を、プログラム基礎科目に選択必修科目として各分野の基礎的な関連科目を、それぞれ配置する。
2. 地域社会・経済を総合的に理解するための専門的知識を修得するために、課程共通科目とプログラム基礎科目を中心に、経済学や経営学などに関わる科目を選択必修科目として配置する。

(思考・判断)

3. 地域社会・経済について、多角的な視点から思考・判断する能力を身につけるために、プログラム基礎科目を中心に経済分野に加え、法・環境分野の関連科目を配置する。
4. 経済学や経営学などの専門的知識を活用し、地域社会・経済とその課題を総合的に思考・判断する能力を身につけるため、課程共通科目やプログラム基礎科目に加え、プログラム展開科目に経済学や経営学などに関わる専門的な科目を配置する。

(技能・表現)

5. 地域社会・経済の現状や課題について、関連資料・データに基づき評価・分析する能力を身につけられるよう、調査・分析、口頭発表・集団討議やレポート・論文作成等の教育活動を取り入れた演習科目等を必修・選択必修科目として配置し、学年に応じ系統的に履修できるようにする。
6. 柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力を身につけるために、プログラム基礎科目やプログラム展開科目の演習科目、課程科目の「特別研究」等の口頭発表・集団討議等を取り入れた科目を、必修・選択必修科目とする。

(関心・意欲)

7. 経済関連科目をはじめとする各分野のプログラム基礎科目に加えて、プログラム展開科目に発展的な科目を配置し、また各分野の演習科目や「特別研究」を通じて、現代における様々な経済事象や、地域社会・経済が抱える諸問題への関心を高められるようにする。
8. プログラム基礎科目やプログラム展開科目に各分野の演習科目を、課程科目に「特別研究」等を必修科目や選択必修科目として配置することで、経済学や経営学などを中心とした専門的視点を活かし、地域社会・経済の課題に主体的・実践的に取り組む意欲を高められるようにする。

(態度)

9. 高い倫理性をそなえつつ専門知識を社会に活かす体験をさせるため、プログラム基礎科目やプログラム展開科目に各分野の演習科目、課程科目の「特別研究」等を系統的に履修できるように配置する。

## 地域環境専修プログラム 卒業認定・学位授与の方針

地域環境専修プログラムでは、環境・法・経済分野の総合的学修を基礎に、環境学の専門的学修を地域における環境政策・環境マネジメントの実践に活かし、持続可能な共生社会の構築に貢献できる人材の養成を目的としており、以下に示す能力を修得した者を主専修プログラム修了者とみなす。

(知識・理解)

1. 環境・法・経済に関する基礎的な知識を幅広く身につけている。
2. 文理融合に基づく環境学諸分野の研究手法と専門的な知識を修得している。

(思考・判断)

3. 環境と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえて理解する能力を身につけている。
4. 環境学を始めとした専門的知識を活用し、環境問題の解決、「持続可能な共生社会」構築に向けた具体的な方策を総合的に思考・判断することができる。

(技能・表現)

5. 地域社会とその環境に関する調査・分析ができ、そこに潜む問題点やその解決法について、自らの見解・提言を論理的かつ的確に説明するスキルを身につけている。
6. 様々な集団の合意形成を図ることができる柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーションのスキルを身につけている。

(関心・意欲)

7. 身近な地域から地球規模まで、多岐にわたる環境や環境問題に強い関心を持っている。
8. 環境学をはじめとする専門的視点を活かし、環境や地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を持っている。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持って、専門分野を社会貢献に活かそうとする態度を身につけている。

## 地域環境専修プログラム 教育課程編成・実施の方針

地域環境専修プログラムでは、プログラムの学位授与の方針を実現するために、以下のようにカリキュラムを編成する。

(知識・理解)

1. 環境・法・経済に関する専門基礎的な知識を幅広く身につけるために、1年次に課程共通科目、1・2年次にプログラム基礎科目(「環境社会学」など)を配置する。
2. 環境学諸分野の研究手法と専門的知識を獲得させるために、プログラム基礎科目として2年次に「環境科学演習」や1～3年次に選択必修科目など、プログラム展開科目として2～4年次に選択必修科目や各分野の演習科目などを配置する。

(思考・判断)

3. 環境と人間・社会のあり方について、相互の複雑な連関を踏まえ、理解する能力を身につけるために、1年次に課程共通科目、1～3年次にプログラム基礎科目を配置する。
4. 獲得した様々な専門的知識を用いて、環境問題の解決、「持続可能な共生社会」構築に取り組む活動を行わせるために、選択必修のプログラム基礎科目に加え、各分野の実習・実験・演習科目(2・3年次履修)・4年次必修の「特別研究」などを配置する。

(技能・表現)

5. 地域社会やその環境に関する調査ができ、そこに潜む問題点や解決法に関する見解・提言を論理的かつ

つ的確に説明するスキルを身につけられるように、プログラム基礎科目に「環境科学演習」、4年次に課程科目の「特別研究」など、調査・分析、フィールド実習、口頭発表、論文執筆などの教育活動を取り入れた科目を必修・選択必修として配置し、2年次から系統的に履修できるようにする。

6. 柔軟なコミュニケーション能力やプレゼンテーション・スキルを身につけるために、プログラム基礎科目の「環境科学演習」、課程科目の「特別研究」、各分野の演習科目などを必修・選択必修とする。

(関心・意欲)

7. 身近な地域環境の現状・取り組みに焦点を当てたプログラム基礎科目の「環境科学演習」等に加え、地球規模の環境問題や開発途上国の開発をテーマとしたプログラム基礎科目、各分野の演習など、幅広く環境の現実を扱う科目をプログラム基礎・展開科目を中心に配置し、多岐にわたる環境や環境問題への関心を高められるようにする。

8. 環境学をはじめとする専門的視点を活かし、環境・地域の問題解決のために主体的・実践的に取り組む意欲を高められるよう、プログラム基礎科目の「環境科学演習」や、プログラム展開科目などを配置する。

(態度)

9. 中立公正な立場から高い倫理性を持ち、専門分野を社会に活かす体験をさせるため、プログラム基礎科目に各分野の演習・実習・実験科目、プログラム展開科目に各分野の演習科目、課程科目などを系統的に履修できるように配置する。

### 3. 人文社会科学部教育課程規則（平成16年4月1日制定）

#### （趣旨）

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則（以下「学則」という。）第36条第5項の規定に基づき、岩手大学人文社会科学部（以下「本学部」という。）における専門教育（以下「専門教育」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

#### （目的）

第2条 本学部は、「総合化と専門深化」の教育理念に基づき、現代社会の諸問題を総合的観点から理解する能力と人間・文化・社会・環境に関する専門的知識・能力を有し、地域社会及び国際社会に実践を通して貢献できる人材の養成を目的とする。

#### （科目及び単位の修得）

第3条 専門教育における授業科目（以下「科目」という。）及び単位数は、別表第1に定めるところによる。

- 2 専門教育においては、別表第2に掲げる単位数以上を修得しなければならない。
- 3 科目の必修と選択の別、履修年次、時間数、履修方法等は、別に定める。

#### （授業時間割等の公示）

第4条 各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員等は、学期の初めまでに公示する。

- 2 学期の途中から開講する科目については、その都度公示する。

#### （履修科目の申告）

第5条 学生は、履修しようとする科目を学期の初めの指定の期間内に学部長に申告しなければならない。

- 2 学期の途中から開講する科目については、その都度前項の申告をすることができる。
- 3 第1項及び第2項の申告をしない者は、単位の認定を受けることができない。
- 4 第1項及び第2項の申告の後には、履修取り消しを認める指定期間を除き、履修を取り消すことはできない。

#### （他学部科目等の履修）

第6条 学生は、所定の手続きを経て他学部の科目及び国際教育科目の授業科目を履修することができる。

- 2 他学部の学生が、本学部の科目の履修を願い出たときは前項に準ずる。

#### （他大学等での履修）

第7条 学生は、他の大学又は短期大学の科目を履修しようとするときは、所定の手続きを経て許可を得なければならない。

- 2 前項及び前条第1項の規定により修得した単位及び海外の交流協定締結大学で修得した単位のうち本学部の専門教育科目に振り替えられない単位は、別に定める単位数の範囲内で別表第2の専修プログラム科目又は自由選択科目の単位として認めることができる。

#### （試験）

第8条 試験を行う場合は、学期末に行う。ただし、科目によっては、その他適当な時期に行うことができる。

#### （細則）

第9条 この規則に定めるもののほか、専門教育に関し必要な事項は、教授会が別に定める。

（以下省略）

## 4. 人文社会科学部教育課程履修細則（平成28年4月1日制定）

### （趣旨）

第1条 この細則は、岩手大学人文社会科学部教育課程規則（以下「規則」という。）第9条の規定に基づき、岩手大学人文社会科学部（以下「本学部」という。）の専門教育の授業科目の履修に関し必要な事項を定めるものとする。

### （学部共通科目）

第2条 本学部の基本的教育目標の一つである「総合性・学際性」を基礎とした幅広い視野を養うとともに、学問研究の根底的基礎となる考え方と方法を深化させ、課題探求能力を育成するため、学部共通科目を置く。

2 本学部の学生（以下「学生」という。）は、規則第3条第2項に定める学部共通科目の単位数のうち、「総合科学基礎」6単位（必修4単位、選択必修2単位）及び「総合科学論」2単位を修得しなければならない。

3 「総合科学基礎」及び「総合科学論」の履修に関し、必要な事項は別に定める。

### （課程科目）

第3条 学生は、課程全体の教育目標を達成するために、課程ごとに置く課程科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、課程共通科目8単位以上及び「特別研究」6単位を修得しなければならない。

### （専修プログラム科目）

第4条 課程の専門領域の学修を深めるために専修プログラムを置く。

2 本学部の総合的な学修をより系統立てて行わせるために、専修プログラムに主専修プログラム及び副専修プログラムを置く。

3 学生は、主専修プログラムを2年次の前期末に選択し、学部長に届け出なければならない。

4 主専修プログラムは、所属する課程の専修プログラムから選択しなければならない。

5 学生は、第3項に基づき届け出た専修プログラムの科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、主専修プログラム科目44単位以上（うち、プログラム基礎科目を16単位以上、プログラム展開科目を10単位以上含まなければならない）修得しなければならない。

6 学生は、副専修プログラムを2年次の前期末に選択し、学部長に届け出なければならない。

7 副専修プログラムは、第3項に基づき届け出た主専修プログラム以外の専修プログラム（所属する課程以外の専修プログラム及び課程横断型プログラムを含む）から選択しなければならない。

8 学生は、第6項に基づき届け出た専修プログラムの科目から規則第3条第2項に定める単位数のうち、副専修プログラム科目16単位以上を修得しなければならない。

9 前項に定める単位数は、選択した専修プログラムの副専修プログラム科目又は課程横断型プログラムで定める授業科目から修得しなければならない。

10 専修プログラムに関し必要な事項は別に定める。

### （他課程科目）

第5条 学生は、他課程科目として、他の課程の「特別研究」を除く課程科目から規則第3条第2項に定める単位数以上を修得しなければならない。

2 他課程科目の単位数には、学部共通科目のうち、「総合科学基礎」（選択必修）の修得すべき最低必要単位数を超えて修得した2単位を加えることができる。

### （自由選択科目）

第6条 学生は、自由選択科目として、第2条から前条までに定める科目から規則第3条第2項に定める単位数以上を修得しなければならない。ただし、第2条から前条までに定める科目の修得すべき最低単位数に算入した授業科目の単位は、自由選択科目の単位数に含めることができない。

- 2 前項及び第4条第8項の修得すべき単位数には、規則第7条第2項の規定により修得した単位を合計10単位まで加えることができる。
- 3 グローバル・地域人材育成プログラムを副専修プログラムに選択した学生は、規則第7条第2項に定める単位のうち、海外の協定交流協定締結大学で修得した単位のうち本学部の専門教育科目に振り替えられない単位を副専修プログラム科目の修得単位数に加えることができ、それ以外の単位は自由選択科目の修得単位数に加えることができる。
- 4 グローバル・地域人材育成プログラム以外を副専修プログラムに選択した学生は、規則第7条第2項に定める単位を自由選択科目の修得単位数に加えることができるが、それが自由選択の修得すべき最低単位数を超えた場合でも本条第2項の規定に関わらず副専修プログラム科目の修得単位数に加えることはできない。

#### (特別研究)

第7条 課程科目に置く特別研究は、最終年次に履修するものとする。

- 2 特別研究(通年、6単位)を履修するには、当該科目を履修する前の学期の、卒業要件として履修する授業科目(教養教育科目を含み、課外科目を除く。以下「卒業要件科目」という。)の修得単位数が96単位以上でなければならない。
- 3 卒業論文等(特別研究の成果をまとめた論文又は作品をいう。)は、卒業予定年度の1月14日(9月卒業予定者の場合は、7月21日。その日が休日の場合は、その翌日)午後5時までに学務課に提出しなければならない。
- 4 特別研究の審査は、課程において行う。
- 5 特別研究の指導体制、題目届け等の手続き、その他必要な事項は別に定める。

#### (早期卒業)

第8条 学生は、岩手大学における在学期間の特例に関する規則に基づき、2年次の学年末において、卒業要件科目を90単位以上修得し、かつ、すべての学期において成績優秀者(岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則第4条に規定する者をいう。)である場合は、学部長に早期卒業の認定を願い出ることができる。

- 2 教務委員会の審査に基づき、教授会が早期卒業の可能性があると認める場合は、その者を早期卒業の候補者(以下「候補者」という。)とする。
- 3 候補者は、3年次に「特別研究」を履修しなければならない。
- 4 候補者は、候補者として認定を受けた後の各学期において、秀及び優の標語の単位数を10分の9以上得なければならない。
- 5 前項の秀及び優の標語の単位数を10分の9以上得ない場合は、候補者の資格を失う。
- 6 候補者は、3年次の学年末又は4年次の前期末に、特別研究の内容を中心とした最終試験を受けなければならない。
- 7 候補者が卒業の認定を受けるためには、特別研究の成績は秀又は優でなければならない。

#### (雑則)

第9条 本学部における転課程及び転学部に関し、必要な事項は別に定める。

- 2 本学部における編入学に関し、必要な事項は別に定める。
- 3 本学部における再入学に関し、必要な事項は別に定める。
- 4 本学部における科目等履修生に関し、必要な事項は別に定める。

(以下省略)

## 5. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について

修得しなければならない最低単位数（教育課程規則第3条第1項および履修細則第2～6条より）

科目区分		単位数	
教養教育		28	
専門教育	学部共通科目	10	
	課程科目	課程共通科目	8
		特別研究	6
	専修プログラム科目	主専修プログラム科目	44
		プログラム基礎科目	(16単位以上)
		プログラム展開科目	(10単位以上)
		副専修プログラム科目	16
	他課程科目	4	
	自由選択科目	10	
	計	98	
合計	126		

専門教育の科目区分ごとの必修・選択必修科目等

学部共通科目

必修：基礎ゼミナール（2単位）

総合科学基礎（4単位）

人間文化課程は「総合科学基礎（人間文化）A・B」，地域政策課程は「総合科学基礎（地域政策）A・B」を履修します。

総合科学論（2単位）

選択必修：総合科学基礎（2単位）

人間文化課程は「総合科学基礎（地域政策）A・B」，地域政策課程は「総合科学基礎（人間文化）A・B」から選択してください。

課程科目

・課程共通科目

選択必修：所属する課程の課程共通科目から8単位以上

なお、各課程で必修・選択必修の授業科目が下記のとおり決められています。

人間文化課程

選択必修：下記授業科目から4単位以上修得

国際交流研修，日本語表現基礎，日本語読解基礎，ドイツ語基礎，フランス語基礎，ロシア語基礎，中国語基礎，韓国語基礎，文学・思想研究方法論

選択必修：下記授業科目から4単位以上修得

国際文化論，日本文化研究入門，現代社会共創論，人間行動論

地域政策課程

必修：民法（総則），経済学基礎，環境政策論

選択必修：下記授業科目から2単位以上修得

法律学基礎，民法（総則），経済学基礎，環境経済論A

・特別研究

必修（6単位） 特別研究の期間は、最低1年間（2学期分の期間）です。履修申告は不要です。

## 専修プログラム科目

### ・主専修プログラム科目

必修・選択必修：各専修プログラムで定める必修・選択必修科目を修得（「主・副専修プログラムについて」で確認してください。）

### ・副専修プログラム科目

必修・選択必修：各専修プログラムの副専修プログラム科目から、各専修プログラムで定める必修・選択必修科目を修得（「主・副専修プログラムについて」で確認してください。）

## 他課程科目

所属していない課程の課程共通科目から4単位以上

## 自由選択科目

本学部専門教育の授業科目から10単位以上（課外科目を除く）<sup>1, 2</sup>

- 1 学部共通科目，課程科目，専修プログラム科目，他課程科目の修得しなければならない最低単位数を超えて修得した単位は，自由選択科目の単位に算入されます。
- 2 他学部・他大学の専門教育の授業科目の修得単位，国際教育科目の修得単位および海外協定大学で修得した単位で本学部専門教育の単位に振り替えられなかった単位は，10単位を上限に自由選択科目の修得単位に算入することができます。
- 3 課程横断型の「グローバル・地域人材育成」プログラムを副専修に選択した学生に限り，海外協定大学で修得した単位で本学部専門教育の単位に振り替えられなかった単位は，10単位を上限にグローバル・地域人材育成副専修プログラム科目または自由選択科目の修得単位に算入することができます。

## 授業科目履修に係る注意事項

授業科目名に「<sup>1</sup>」，「<sup>2</sup>」とある場合は，数字順に履修・単位修得することを推奨します。一部授業科目ではそれ以前に指定する授業科目の単位を修得しなければその授業科目を履修することができません（例：民法（総則）<sup>1</sup>の単位を修得しないと民法（総則）<sup>2</sup>を履修できない）。上記履修制限がある授業科目は「科目等一覧」にその旨を記載していますので，注意して履修申告してください。

同じ授業科目を，重複して単位修得することはできません。

各授業科目の対象学年より下の学年の学生はその授業科目を履修することはできませんが，それ以上の学年は履修することができます。

主専修に選択した専修プログラム以外の演習科目を履修しようとする場合は，事前にその授業科目を担当する教員の了承を得て履修してください。了承を得ずに履修すると，後日，履修申告が取り消され，単位修得できない場合があります。

集中講義の履修申告は，通常の履修申告（各学期の初め）とは別に行います。履修申告の開始時期や方法は，アイアシスタント・掲示板でお知らせします。

一部授業科目はクォーター制で開講されます。クォーター制の授業科目は週2回開講となりますので，履修する授業科目の選択や履修申告の際はご注意ください。クォーター制で開講する授業科目は，科目等一覧の「備考」欄にその旨を記載しています。

上記のほか，一般的な注意事項等は，本手引きP1の「科目履修に当たって知っておくべきこと」で確認してください。

## 主・副専修プログラムについて

主・副専修プログラムの選択は2年次前期末までに行い，2年次後期から本格的な学修を開始します（1年次から履修可能な授業科目もあるので，詳細は科目等一覧で確認してください）。

主専修プログラムは、自分の所属する課程の専修プログラムから1つを選び、そのプログラムの授業科目（主専修プログラム科目）を履修し、学修を進めていきます。主専修プログラム科目は、選択した専修プログラムのプログラム基礎科目16単位以上、プログラム展開科目10単位以上を修得したうえで、44単位以上修得しなければなりません。各専修プログラムでは、必修・選択必修の授業科目等を【別表A】のとおり設定しているので、科目等一覧とあわせて確認し、履修・単位修得してください。

副専修プログラムは、全ての専修プログラム（課程問わず）および副専修専門プログラム・課程横断型プログラムから1つ以上を選んで学修を進めていきます。ただし、主専修プログラムに選択した専修プログラムを、副専修プログラムに選択することはできません。各専修プログラムでは、副専修プログラム用の授業科目（副専修プログラム科目）を定めていて（科目等一覧で、授業科目名の左に「副」とある授業科目）、その副専修プログラム科目から16単位以上修得しなければなりません。

副専修プログラムでも必修・選択必修の授業科目等が【別表B】のとおり決められており、それを満たさないと、副専修プログラム科目を16単位以上修得しても卒業できません。副専修専門プログラム・課程横断型プログラムの授業科目は、副専修専門プログラム・課程横断型プログラムの科目等一覧で確認してください。

なお、課程横断型の「グローバル・地域人材育成」プログラムを副専修に選択した場合は、前述の海外の交流協定締結大学への留学により修得した単位のうち、本学部の専門教育の授業科目に振り替えられなかった単位を自由選択科目の修得単位数に算入せず、10単位を上限に副専修プログラム科目の修得単位数に算入することができます。

副専修プログラム科目に定められている授業科目を履修する場合は、自分が選択している主・副専修プログラムに関わらず、履修申告時に、主専修プログラム科目として履修するのか、副専修プログラム科目として履修するのかを選択してください。時間割表には「主」用、「副」用の申告コードが記載されているので、注意して履修申告してください。

## 学修ポートフォリオについて

学修ポートフォリオは、学生が自分の学修状況の記録や関係する資料等を1つにまとめたものです。学期初めに履修申告した授業科目を記録したあと、履修している授業科目での配布物や課題、参考資料をまとめ、学期の終わりには履修した授業科目の成績を記録します。また、ポートフォリオを使って、次学期の学修目標や履修する授業科目の検討を行います。

## 用語解説

### 学修

学問をまなび身につけること。「学習」も同様の意味で使われるが、大学設置基準（大学を設置するのに必要な最低の基準を定めた文部科学省令）では「学修」を使っている。2012年8月の中央教育審議会答申の注釈に「大学設置基準上、大学での学びは『学修』としている。これは、大学での学びの本質は、講義、演習、実験、実習、実技等の授業時間とともに、授業のための事前の準備、事後の展開などの主体的な学びに要する時間を内在した『単位制』により形成されていることによる。」とあり、高校までの教育（学習内容は学習指導要領で規定）と大学教育は異なることを意味している。

### 修得

学問・技芸などを学んで会得すること。主体的な学びの場である大学での学修は、「修得」であり、習い覚える「習得」とは異なる。

### 必修

卒業するために、必ず修得しなければならない授業科目・単位を指す。

### 選択必修

指定された複数の授業科目から、指定された単位数分の授業科目を修得する場合を指す。本手引きでは科目一覧表等で「選必」と略す場合がある。

### クォーター制

本学の授業科目は、通常、1年間で2つの学期に分けて開講しているが(セメスター制)、一部授業科目は、学期を4つに分けて開講している。1年間で4つの学期に分けることをクォーター制と言う。クォーター制で開講する授業科目は、週2回授業が行われ、期間はセメスター制の半分になる専修プログラム

専門性の明確化と総合化の充実を図ることを目的に作られたカリキュラム(教育計画)のこと。各専修プログラムはそれぞれの教育目的に基づき、授業科目の履修年次や必修・選択必修の授業科目を決めており、学生は体系的に学修を進めることができる(基礎的内容学修後に発展的内容を学修等)。また、主専修(高度な専門性養成)と副専修(一定程度の専門知識修得や技能養成)の組み合わせで、多様な学修目的・進路目標に応えることができる。

### ポートフォリオ

英語で、紙挟み、書類かばんという意味。「学修ポートフォリオ」は、学修状況を記録した書類や関係する資料等を、紙挟みや書類かばんに収めたように、取りまとめたものを指す。

【別表A】各専修プログラム 主専修プログラム要件一覧表

全プログラム共通要件：プログラム基礎科目から16単位以上，プログラム展開科目から10単位以上修得したうえで，計44単位以上修得

専修プログラム名	科目区分等		単位数	授業科目名等	
人間文化課程	国際文化	基礎	選必	10	2分野以上から修得 分野a<英米言語文化系> 英米文化論講義A～F，英米文学講義A～D，言語習得論AまたはB，英語学講義A～D 分野b<異文化コミュニケーション系> 異文化コミュニケーション論A～D 分野c<アジア言語文化系> 中国語学講義A～C，韓国文化論講義A～C 分野d<歴史系> アジア史講義AまたはB，西洋史講義A～C 分野e<ヨーロッパ言語文化系> ドイツ語学・文化論講義A～C，ドイツ文学講義A～C，フランス文学講義A～C，フランス文化論講義A～C，ヴィジュアル文化論講義，ヴィジュアル表現A～C 分野f<外国語コミュニケーション系> 英語コミュニケーション基礎 または ，総合中国語AまたはB，中国語コミュニケーション発展A～C，韓国語コミュニケーション発展A～C，総合ドイツ語AまたはB，ドイツ語コミュニケーション発展A～C，総合フランス語AまたはB，フランス語コミュニケーション発展A～C
		展開	選必	4	1分野から修得 分野g<英米言語文化系> 英語コミュニケーション論演習 または ，英米文化論・文学演習A～D，英語習得論演習A～D，英語学演習A～D 分野h<異文化コミュニケーション系> 異文化コミュニケーション論特講A～D，異文化コミュニケーション論演習A～D 分野i<アジア言語文化系> 中国語学演習A～C，韓国文化論演習A～C 分野j<歴史系> アジア史演習A～D，西洋史演習A～D 分野k<ヨーロッパ言語文化系> ドイツ語学・文化論演習A～C，ドイツ文学演習A～C，フランス文学演習A～C，フランス文化論演習，ヴィジュアル文化論演習A～C
	日本文化	基礎	選必	2	日本史講義A～D
			選必	2	日本思想史講義A～D
			選必	2	考古学講義A・B，考古学実習A～D
			選必	2	日本文学講義A～D
			選必	2	日本語学概説，日本語学講義A～D
			選必	2	書法基礎，日本書文化講義，日本書文化基礎A～D

人間文化課程	日本文化	展開	選必	6	2分野以上から修得 分野a: 日本史特講A～C, 日本史講読A・B 分野b: 日本思想史特講A～C, 日本思想史講読 分野c: 考古学特講A・B, 考古学各論 分野d: 日本文学特講A～C, 日本文学講読A・B 分野e: 日本語学特講A・B, 日本語学講読A・B 分野f: 日本書文化展開A～D, 日本書文化講読
			選必	4	1分野から修得 分野g: 日本史演習～ 分野h: 日本思想史演習～ 分野i: 考古学演習～ 分野j: 日本文学演習A～D 分野k: 日本語学演習A～D 分野l: 日本書文化演習A～D
	現代社会共創	基礎	選必	4	各分野から2単位以上修得 分野a: 人文学入門A～C 分野b: 社会学入門A～D
			選必	4	各分野から2単位以上修得 分野c: 人間学講義, 倫理学講義, 社会文化思想論講義 分野d: ジェンダー論講義, エスニシティ論講義, 社会問題論講義
		展開	選必	4	人間学特講AまたはB, 倫理学特講AまたはB, 社会文化思想論特講AまたはB, ジェンダー論特講AまたはB, エスニシティ論特講AまたはB, 社会問題論特講
			選必	6	各分野から2単位以上修得 分野e: 人間学演習A～D, 倫理学演習A～D, 社会文化思想論演習AまたはB 分野f: ジェンダー論演習A～D, エスニシティ論演習A～D, 社会問題論演習A～D
	人間行動	基礎	必修	12	社会調査基礎, 心理学基礎実験(心理学実験), 特殊実験調査, 特殊実験調査, 行動科学方法論(心理学研究法)
			選必	4	社会調査実習, 基礎統計学, 統計学(検定・推定), 行動科学統計法(心理学統計法)
			選必	4	心理学概論, 実験心理学(神経・生理心理学), 認知心理学(知覚・認知心理学), 人格心理学(感情・人格心理学), スポーツ心理学, 臨床心理学(臨床心理学概論)
			選必	4	社会心理学(社会・集団・家族心理学), 地域社会学, ソーシャルデザイン論, スポーツ社会学
展開	選必	8	分野aから4単位以上, 分野bから4単位以上で合計8単位以上修得 分野a<個人系> 実験心理学演習AまたはB, 認知心理学演習AまたはB, 人格心理学演習AまたはB, スポーツ心理学演習AまたはB, 臨床心理学演習AまたはB 分野b<集団系> 社会心理学演習AまたはB, 犯罪心理学演習, 地域社会学演習AまたはB, ソーシャルデザイン論演習AまたはB, 行動計量学演習AまたはB, スポーツ社会学演習AまたはB		

地域政策課程	政策法務	基礎	選必	6	憲法（人権） ， 憲法（統治機構）A ， 刑法総論A ， 政治学（政治過程） ， 刑事政策
			選必	2	環境生態学A ， 自然環境学A ， 環境統計学
		展開	選必	2	地域政策実践演習AまたはB
			選必	4	同名演習科目の および を修得 政治学演習 ・ ， 憲法演習 ・ ， 民法（財産法）演習 ・ ， 民法（家族法）演習 ・ ， 商法演習 ・ ， 刑法演習 ・ ， 刑事訴訟法演習 ・ ， 労働法演習 ・ ， 理論経済学演習 ・ ， 政治経済学演習 ・ ， 財政学演習 ・ ， 経営学演習 ・ ， 環境政策論演習 ・ ， 環境経済論演習 ・ ， 環境社会学演習 ・ ， 自然環境学演習 ・ ， 環境生態学演習 ・
	企業法務	基礎	選必	6	民法（物権） ， 民法（債権総論）A ， 民法（債権各論）A ， 会社法A ， 労働法（個別法）
			選必	2	環境生態学A ， 自然環境学A ， 環境統計学
		展開	選必	2	地域政策実践演習AまたはB
			選必	4	同名演習科目の および を修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必」と同じ
	地域社会経済	基礎	選必	6	理論経済学 または ， 政治経済学 または ， 財政学 または ， 農業経済論 または ， 経営学総論 または ， 国際経済論AまたはB ， ミクロ経済学 ， 金融論
			選必	2	環境生態学A ， 自然環境学A ， 環境統計学
			選必	2	地域経済調査演習 ， 地域経済実践演習
		展開	選必	4	同名演習科目の および を修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必」と同じ
	地域環境	基礎	選必	4	環境政策論 ， 環境社会学 または
			選必	2	環境生態学A ， 自然環境学A ， 環境統計学
			選必	4	環境科学演習 ， 環境社会調査演習 ， 環境科学実験
		展開	選必	4	同名演習科目の および を修得 対象授業科目は政策法務プログラムの「選必」と同じ

【別表B】各専修プログラム 副専修プログラム要件一覧表

全プログラム共通要件：各専修プログラムの副専修プログラム科目（科目等一覧で授業科目名に「副」とある授業科目（課程横断型を除く））から16単位以上修得

課程	プログラム名	要件	
人間文化課程	国際文化	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	日本文化	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	現代社会共創	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
	人間行動	プログラム基礎科目から6単位以上，プログラム展開科目から6単位以上修得	
地域政策課程	政策法務	憲法（人権），憲法（統治機構）A，刑法総論A，政治学（政治過程），刑事政策から6単位以上修得	
	企業法務	民法（物権），民法（債権総論）A，民法（債権各論）A，会社法A，労働法（個別法）から6単位以上修得	
	地域社会経済	指定なし 人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎」を履修することが望ましい	
	地域環境	選必	環境政策論，環境社会学 または から4単位以上修得
		選必	環境生態学A，自然環境学A，環境統計学 または から2単位以上修得
	地域社会連携（副専修専門プログラム）	選必	経営学総論 または ，会計学 または ，政治経済学 または ，農業経済論 または ，財政学 または ，社会保障論，国際経済論AまたはB，地方財政論，協同組合論，マーケティング論，企業論，労働経済論，日本経済論，経済学特講から6単位以上修得
		選必	行政学，会社法AまたはB，労働法（個別法），労働法（集団法），社会保障法，地方自治法，国際法AまたはB，刑事政策，政治学（政治過程），政治学（政治理論），国際政治学から2単位以上修得
		選必	環境経済論B，環境政策論，環境社会学 または ，環境生態学A，自然環境学A，環境統計学 から2単位以上修得
			人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎」を履修することが望ましい

グローバル・地域人材育成プログラムについては， - 47ページで確認してください。

## 6. 人間文化課程 科目等一覧

注1 単位数の「必」は必修科目、「選」は選択必修科目、「自」は自由選択科目の略です。必修、選択必修科目については、「5. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について」で確認してください。

注2 下位数字の授業科目の単位修得が履修の条件となっている授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

注3 「総合科学基礎（地域政策）A・B」を4単位修得した場合、2単位分は他課程科目の単位に算入することができます。

### 課程科目単位修得要件

選必 から4単位以上、選自 から4単位以上修得

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数			対象学年	開講間隔	備考
			必	選	自			
学部共通科目	2	基礎ゼミナール	2			1前	1回/1年	集中 集中 集中 集中 集中
	2	総合科学論	2			3前	1回/1年	
	4	総合科学基礎（人間文化）A	2			1前	1回/1年	
		総合科学基礎（人間文化）B	2			1後	1回/1年	
	2	総合科学基礎（地域政策）A		2		2前	1回/1年	
		総合科学基礎（地域政策）B		2		2後	1回/1年	
	-	課題解決型国際研修（英語）			2	1後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（ドイツ語）			2	1後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（フランス語）			2	1後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（中国語）			2	1後	1回/1年	
		課題解決型国際研修（韓国語）			2	1前	1回/1年	
		統計的機械学習実践			2	3前	1回/1年	
		プログラミング基礎			1	1後	1回/1年	
	プログラミング入門			2	2前	1回/1年		
課程科目	4	国際交流研修		2		1前	1回/1年	選必
		日本語表現基礎（アカデミック・ライティング）		2		1後	1回/1年	
		日本語読解基礎（クリティカル・リーディング）		2		1後	1回/1年	
		ドイツ語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		フランス語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		ロシア語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		中国語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		韓国語基礎		2		2・3後	1回/2年	
		文学・思想研究方法論		2		1後	1回/1年	
	4	国際文化論		2		1後	1回/1年	選必
		日本文化研究入門		2		1後	1回/1年	
		現代社会共創論		2		1後	1回/1年	
		人間行動論		2		1後	1回/1年	
		特別研究	6			4通	1回/1年	
他課程科目	4	法律学基礎		2		2前	1回/1年	要「 」
		民法（総則）		2		2前	1回/1年	
		民法（総則）		2		2後	1回/1年	
		経済学基礎		2		2前	1回/1年	
		経済学基礎		2		2後	1回/1年	
		環境政策論		2		2前	1回/1年	
		環境経済論A		2		2後	1回/1年	

\* 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

# 国際文化専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プ ロ グ ラ ム 基 礎 科 目	副 ドイツ語コミュニケーション基礎		2		1後	1回/1年	
	副 英米文化論講義 A		2		2・3前	1回/2年	選必 a
	副 英米文化論講義 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 英米文化論講義 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 英米文化論講義 D		2		2・3後	1回/2年	
	副 英米文化論講義 E		2		2・3前	1回/2年	
	副 英米文化論講義 F		2		2・3後	1回/2年	
	副 英米文学講義 A		2		2・3前	1回/2年	
	副 英米文学講義 B		2		1・2後	1回/2年	
	副 英米文学講義 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 英米文学講義 D		2		1・2後	1回/2年	
	副 言語習得論 A		2		2前	1回/1年	
	副 言語習得論 B		2		2後	1回/1年	
	副 英語学講義 A		2		2前	1回/1年	
	副 英語学講義 B		2		2後	1回/1年	
	副 英語学講義 C		2		2前	1回/1年	
	副 英語学講義 D		2		2後	1回/1年	
	副 スキルアップ・イングリッシュ A		2		2・3前	1回/2年	
	副 スキルアップ・イングリッシュ B		2		1・2後	1回/2年	
	副 英語コミュニケーション基礎		2		2前	1回/1年	選必 f
	副 英語コミュニケーション基礎		2		2後	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション発展		2		3前	1回/1年	
	副 英語コミュニケーション発展		2		3後	1回/1年	
	副 アカデミック・イングリッシュ		2		2・3前	1回/2年	
	副 アカデミック・イングリッシュ		2		2・3前	1回/2年	
	副 パワーアップ・イングリッシュ A		2		2・3後	1回/2年	
	副 パワーアップ・イングリッシュ B		2		2・3後	1回/2年	
	副 異文化コミュニケーション論 A		2		2・3前	1回/2年	選必 b
	副 異文化コミュニケーション論 B		2		1・2後	1回/2年	
	副 異文化コミュニケーション論 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 異文化コミュニケーション論 D		2		1・2後	1回/2年	
	副 中国文学講義 A		2		2・3前	1回/2年	
	副 中国文学講義 B		2		1・2後	1回/2年	
	副 中国語学講義 A		2		2・3・4前	1回/3年	選必 c
	副 中国語学講義 B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 中国語学講義 C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 韓国文化論講義 A		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 韓国文化論講義 B		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 韓国文化論講義 C		2		2・3・4前	1回/3年	
	副 総合中国語 A		2		2・3前	1回/2年	選必 f
	副 総合中国語 B		2		2・3前	1回/2年	
	副 中国語コミュニケーション発展 A		2		2・3・4前	1回/3年	
副 中国語コミュニケーション発展 B		2		2・3・4前	1回/3年		
副 中国語コミュニケーション発展 C		2		2・3・4前	1回/3年		
副 韓国語コミュニケーション発展 A		2		2・3・4前	1回/3年		
副 韓国語コミュニケーション発展 B		2		2・3・4前	1回/3年		
副 韓国語コミュニケーション発展 C		2		2・3・4前	1回/3年		
副 アジア史講義 A		2		2・3前	1回/2年	選必 d	
副 アジア史講義 B		2		2・3前	1回/2年		
副 中国思想史講義 A		2		2・3前	1回/2年		
副 中国思想史講義 B		2		1・2後	1回/2年		
副 西洋史講義 A		2		2・3・4前	1回/3年	選必 d	
副 西洋史講義 B		2		2・3・4前	1回/3年		
副 西洋史講義 C		2		2・3・4前	1回/3年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目		単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
	必	選	自						
プログラム 基礎科目	副	ドイツ語学・文化論講義 A		2		2・3・4前	1回/3年	選必 e	
	副	ドイツ語学・文化論講義 B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	ドイツ語学・文化論講義 C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	ドイツ文学講義 A		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	ドイツ文学講義 B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	ドイツ文学講義 C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	フランス文学講義 A		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	フランス文学講義 B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	フランス文学講義 C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	フランス文化論講義 A		2		1・2・3後	1回/3年		
	副	フランス文化論講義 B		2		1・2・3後	1回/3年		
	副	フランス文化論講義 C		2		1・2・3後	1回/3年		
	副	ヴィジュアル文化論講義		2		2前	1回/1年		
	副	ヴィジュアル表現 A		1		2・3・4前	1回/3年		
	副	ヴィジュアル表現 B		1		2・3・4前	1回/3年		
	副	ヴィジュアル表現 C		1		2・3・4前	1回/3年		
	副	総合ドイツ語 A		2		2・3前	1回/2年		
	副	総合ドイツ語 B		2		2・3前	1回/2年		
	副	ドイツ語コミュニケーション発展 A		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	ドイツ語コミュニケーション発展 B		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	ドイツ語コミュニケーション発展 C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副	総合フランス語 A		2		2・3前	1回/2年		
	副	総合フランス語 B		2		2・3前	1回/2年		
	副	フランス語コミュニケーション発展 A		2		2・3・4前	1回/3年		
副	フランス語コミュニケーション発展 B		2		2・3・4前	1回/3年			
副	フランス語コミュニケーション発展 C		2		2・3・4前	1回/3年			
		基礎法 A		2		2・3前	1回/2年		
		基礎法 B		2		2・3後	1回/2年		
プログラム 展開科目	副	英米文化論・文学演習 A		2		3・4前	1回/2年	選必 g	
	副	英米文化論・文学演習 B		2		3・4後	1回/2年		
	副	英米文化論・文学演習 C		2		3・4前	1回/2年		
	副	英米文化論・文学演習 D		2		3・4後	1回/2年		
	副	英語習得論演習 A		2		3・4前	1回/2年		
	副	英語習得論演習 B		2		3・4後	1回/2年		
	副	英語習得論演習 C		2		3・4前	1回/2年		
	副	英語習得論演習 D		2		3・4後	1回/2年		
	副	英語学演習 A		2		3・4前	1回/2年		
	副	英語学演習 B		2		3・4後	1回/2年		
	副	英語学演習 C		2		3・4前	1回/2年		
	副	英語学演習 D		2		3・4後	1回/2年		
	副	英語コミュニケーション論演習		2		3後	1回/1年		
	副	英語コミュニケーション論演習		2		4前	1回/1年		
	副	英語コミュニケーション実践		2		3前	1回/1年		
	副	英語コミュニケーション実践		2		3後	1回/1年		
	副	異文化コミュニケーション論特講 A		2		3・4前	1回/2年		選必 h
	副	異文化コミュニケーション論特講 B		2		2・3後	1回/2年		
	副	異文化コミュニケーション論特講 C		2		3・4前	1回/2年		
	副	異文化コミュニケーション論特講 D		2		2・3後	1回/2年		
	副	異文化コミュニケーション論演習 A		2		3・4前	1回/2年		
	副	異文化コミュニケーション論演習 B		2		3・4後	1回/2年		
	副	異文化コミュニケーション論演習 C		2		3・4前	1回/2年		
	副	異文化コミュニケーション論演習 D		2		3・4後	1回/2年		
副	中国文学特講 A		2		3・4前	1回/2年	選必 i		
副	中国文学特講 B		2		2・3後	1回/2年			
副	中国語学演習 A		2		2・3・4後	1回/3年			
副	中国語学演習 B		2		2・3・4後	1回/3年			
副	中国語学演習 C		2		2・3・4後	1回/3年			
副	韓国文化論演習 A		2		2・3・4後	1回/3年			
副	韓国文化論演習 B		2		2・3・4後	1回/3年			
副	韓国文化論演習 C		2		2・3・4後	1回/3年			

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	副 アジア史特講 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アジア史特講 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アジア史特講 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 アジア史特講 D		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 アジア史講読 A		2		3・4前	1回/2年	
	副 アジア史講読 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 アジア史講読 C		2		3・4前	1回/2年	
	副 アジア史講読 D		2		2・3後	1回/2年	
	副 アジア史演習 A		2		3・4前	1回/2年	選必 j
	副 アジア史演習 B		2		3・4後	1回/2年	
	副 アジア史演習 C		2		3・4前	1回/2年	
	副 アジア史演習 D		2		3・4後	1回/2年	
	副 中国思想史特講 A		2		3・4前	1回/2年	
	副 中国思想史特講 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 西洋史特講 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 西洋史特講 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 西洋史特講 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 西洋史特講 D		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 西洋史講読 A		2		2・3後	1回/2年	
	副 西洋史講読 B		2		3・4前	1回/2年	
	副 西洋史講読 C		2		2・3後	1回/2年	
	副 西洋史講読 D		2		3・4前	1回/2年	
	副 西洋史演習 A		2		3・4前	1回/2年	選必 j
	副 西洋史演習 B		2		3・4後	1回/2年	
	副 西洋史演習 C		2		3・4前	1回/2年	
	副 西洋史演習 D		2		3・4後	1回/2年	
	副 ドイツ語学・文化論演習 A		2		2・3・4後	1回/3年	選必 k
	副 ドイツ語学・文化論演習 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語学・文化論演習 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ文学演習 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ文学演習 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ文学演習 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス文学演習 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス文学演習 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス文学演習 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 フランス文化論演習		2		2・3後	1回/2年	
	副 ヴィジュアル文化論演習 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ヴィジュアル文化論演習 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ヴィジュアル文化論演習 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語コミュニケーション実践 A		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語コミュニケーション実践 B		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 ドイツ語コミュニケーション実践 C		2		2・3・4後	1回/3年	
副 フランス語コミュニケーション実践 A		2		2・3・4後	1回/3年		
副 フランス語コミュニケーション実践 B		2		2・3・4後	1回/3年		
副 フランス語コミュニケーション実践 C		2		2・3・4後	1回/3年		
副 ギリシア語		2		2・3後	1回/2年		
副 ラテン語		2		2・3前	1回/2年		
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得(必修含む) 注) 修得要件を満たすこと		
副専修プログラム最低必要単位数		-	20	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注) 修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

# 日本文化専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム基礎科目	副 日本史講義 A		2		2・3前	1回/2年	選必
	副 日本史講義 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本史講義 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本史講義 D		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本思想史講義 A		2		1・2後	1回/2年	選必
	副 日本思想史講義 B		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本思想史講義 C		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本思想史講義 D		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本文学講義 A		2		1・2後	1回/2年	選必
	副 日本文学講義 B		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本文学講義 C		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本文学講義 D		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学概説		2		2前	1回/1年	選必
	副 日本語学講義 A		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学講義 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本語学講義 C		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本語学講義 D		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本語教育概論 I		2		2前	1回/1年	
	副 日本語教育概論		2		2後	1回/1年	
	副 日本語教授法講義		2		2前	1回/1年	
	副 日本語教授法講義		2		2後	1回/1年	
	副 学校教育を受けるための日本語		2		2後	1回/1年	
	副 書法基礎		2		1後	1回/1年	選必
	副 日本書文化講義		2		2・3前	1回/2年	
	副 日本書文化基礎 A		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本書文化基礎 B		2		1・2後	1回/2年	
	副 日本書文化基礎 C		2		1・2後	1回/2年	
副 日本書文化基礎 D		2		1・2後	1回/2年		
副 考古学講義 A		2		1後	1回/1年	選必	
副 考古学講義 B		2		2前	1回/1年		
副 考古学実習 A		2		2前	1回/1年		
副 考古学実習 B		2		2後	1回/1年		
副 考古学実習 C		2		3前	1回/1年		
副 考古学実習 D		2		3後	1回/1年		
副 漢文学概論		2		2前	1回/1年		
副 漢文学講義		2		2後	1回/1年		
プログラム展開科目	副 日本史特講 A		2		3・4前	1回/2年	選必 a
	副 日本史特講 B		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本史特講 C		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 日本史講読 A		2		3・4前	1回/2年	選必 g
	副 日本史講読 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本史演習		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本史演習		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本史演習		2		3・4前	1回/2年	選必 b
	副 日本史演習		2		3・4後	1回/2年	
	副 日本思想史特講 A		2		3・4前	1回/2年	
	副 日本思想史特講 B		2		3・4後	1回/2年	
副 日本思想史特講 C		2		2・3・4前	1回/3年	選必 b	
副 日本思想史講読		2		3・4前	1回/2年		
副 日本思想史講読		2		3・4後	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 展開科目	日本思想史演習		2		3・4前	1回/2年	選必	h
	日本思想史演習		2		3・4後	1回/2年		
	日本思想史演習		2		3・4前	1回/2年		
	日本思想史演習		2		3・4後	1回/2年		
	副 日本文学特講A		2		2・3後	1回/2年	選必	d
	副 日本文学特講B		2		2・3後	1回/2年		
	副 日本文学特講C		2		2・3・4前	1回/3年		
	副 日本文学講読A		2		3・4前	1回/2年		
	副 日本文学講読B		2		3・4前	1回/2年		
	日本文学演習A		2		3・4前	1回/2年	選必	j
	日本文学演習B		2		3・4後	1回/2年		
	日本文学演習C		2		3・4前	1回/2年		
	日本文学演習D		2		3・4後	1回/2年		
	副 日本語学講読A		2		2・3後	1回/2年	選必	e
	副 日本語学講読B		2		2・3後	1回/2年		
	副 日本語学特講A		2		2・3後	1回/2年		
	副 日本語学特講B		2		2・3後	1回/2年	選必	k
	日本語学演習A		2		3・4前	1回/2年		
	日本語学演習B		2		3・4後	1回/2年		
	日本語学演習C		2		3・4前	1回/2年		
	日本語学演習D		2		3・4後	1回/2年	選必	f
	副 日本書文化講読		2		3・4前	1回/2年		
	副 日本書文化展開A		2		2・3前	1回/2年		
	副 日本書文化展開B		2		2・3前	1回/2年		
	副 日本書文化展開C		2		2・3前	1回/2年		
	副 日本書文化展開D		2		2・3前	1回/2年	選必	l
	日本書文化演習A		2		3後	1回/1年		
	日本書文化演習B		2		3前	1回/1年		
	日本書文化演習C		2		4前	1回/1年		
	日本書文化演習D		2		4後	1回/1年	選必	c
	副 考古学特講A		2		2・3後	1回/2年		
	副 考古学特講B		2		2・3後	1回/2年		
	副 考古学各論		2		2・3・4前	1回/3年		
考古学フィールドワークA		2		2前	1回/1年		集中	
考古学フィールドワークB		2		2前	1回/1年		集中	
考古学フィールドワークC		2		3前	1回/1年		集中	
考古学フィールドワークD		2		3前	1回/1年		集中	
考古学演習		2		3・4前	1回/2年	選必	i	
考古学演習		2		3・4後	1回/2年			
考古学演習		2		3・4前	1回/2年			
考古学演習		2		3・4後	1回/2年			
副 日本文化史特講		2		2後	1回/1年			
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎16単位以上・展開10単位以上修得(必修含む) 注) 修得要件を満たすこと			
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注) 修得要件を満たすこと			

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

# 現代社会共創専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考		
		必	選	自					
プログラム 基礎科目	副 人文学入門 A		2		1・2後	1回/2年	選必	a	
	副 人文学入門 B		2		1・2後	1回/2年			
	副 人文学入門 C		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会学入門 A		2		1後	1回/1年	選必	b	
	副 社会学入門 B		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会学入門 C		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会学入門 D		2		1・2後	1回/2年			
	副 人間学講義		2		1・2後	1回/2年	選必	c	
	副 倫理学講義		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会文化思想論講義		2		1・2後	1回/2年	選必	d	
	副 ジェンダー論講義		2		1・2後	1回/2年			
	副 エスニシティ論講義		2		1・2後	1回/2年			
	副 社会問題論講義		2		1・2後	1回/2年			
	副 論理学		2		2・3前	1回/2年			
プログラム 展開科目	副 人間学特講 A		2		2・3前	1回/2年	選必		
	副 人間学特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 倫理学特講 A		2		2・3前	1回/2年			
	副 倫理学特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 社会文化思想論特講 A		2		2・3前	1回/2年			
	副 社会文化思想論特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 ジェンダー論特講 A		2		2・3前	1回/2年			
	副 ジェンダー論特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 エスニシティ論特講 A		2		2・3前	1回/2年			
	副 エスニシティ論特講 B		2		2・3前	1回/2年			
	副 社会問題論特講		2		2・3前	1回/2年			
	人間学演習 A		2		2・3後	1回/2年			選必
	人間学演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	人間学演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	人間学演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	倫理学演習 A		2		2・3後	1回/2年			
	倫理学演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	倫理学演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	倫理学演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	社会文化思想論演習 A		2		2・3後	1回/2年	選必	f	
	社会文化思想論演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	ジェンダー論演習 A		2		2・3後	1回/2年			
	ジェンダー論演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	ジェンダー論演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	ジェンダー論演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	エスニシティ論演習 A		2		2・3後	1回/2年			
	エスニシティ論演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	エスニシティ論演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	エスニシティ論演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	社会問題論演習 A		2		2・3後	1回/2年			
	社会問題論演習 B		2		3・4前	1回/2年			
	社会問題論演習 C		2		2・3後	1回/2年			
	社会問題論演習 D		2		3・4前	1回/2年			
	副 ギリシア語		2		2・3後	1回/2年			
	副 ラテン語		2		2・3前	1回/2年			
	主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎16単位以上・展開10単位以上修得(必修含む) 注)修得要件を満たすこと			
	副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注)修得要件を満たすこと			

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。  
 \*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

# 人間行動専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講間隔	備考
		必	選	自			
プログラム基礎科目	社会調査基礎	4			2前	1回/1年	
	心理学基礎実験（心理学実験）	2			2後	1回/1年	
	特殊実験調査	2			3前	1回/1年	
	特殊実験調査	2			3後	1回/1年	
	行動科学方法論（心理学研究法）	2			3後	1回/1年	
	社会調査実習		2		2後	1回/1年	要「社会調査基礎」
	基礎統計学		2		1後	1回/1年	
	統計学（検定・推定）		2		2前	1回/1年	選必
	行動科学統計法（心理学統計法）		2		2前	1回/1年	
	心理学概論		2		1後	1回/1年	
	実験心理学（神経・生理心理学）		2		2・3後	1回/2年	選必
	認知心理学（知覚・認知心理学）		2		2前	1回/1年	
	人格心理学（感情・人格心理学）		2		2・3後	1回/2年	
	スポーツ心理学		2		1後	1回/1年	
	臨床心理学（臨床心理学概論）		2		2・3前	1回/2年	
	社会心理学（社会・集団・家族心理学）		2		2前	1回/1年	選必
地域社会学		2		1後	1回/1年		
ソーシャルデザイン論		2		1後	1回/1年		
スポーツ社会学		2		2前	1回/1年		
プログラム展開科目	副 実験心理学特講（学習・言語心理学）		2		2・3前	1回/2年	
	実験心理学演習 A		2		2・3後	1回/2年	選必 a
	実験心理学演習 B		2		3・4前	1回/2年	
	副 認知心理学特講（知覚・認知心理学）		2		2・3後	1回/2年	
	認知心理学演習 A		2		2後	1回/1年	選必 a
	認知心理学演習 B		2		3前	1回/1年	
	副 人格心理学特講		2		2・3後	1回/2年	
	人格心理学演習 A		2		2・3後	1回/2年	選必 a
	人格心理学演習 B		2		3・4前	1回/2年	
	心理演習		2		3後	1回/1年	
	副 スポーツ心理学特講		2		2前	1回/1年	
	スポーツ心理学演習 A		2		3・4前	1回/2年	選必 a
	スポーツ心理学演習 B		2		3・4前	1回/2年	
	副 臨床心理学特講（心理学的支援法）		2		2・3前	1回/2年	
	臨床心理学演習 A		2		2・3後	1回/2年	選必 a
	臨床心理学演習 B		2		2・3後	1回/2年	
	心理検査法実習（心理的アセスメント）		2		3・4前	1回/2年	
	副 社会心理学特講（産業・組織心理学）		2		2・3後	1回/2年	
	副 犯罪社会心理学（司法・犯罪心理学）		2		2・3後	1回/2年	
	社会心理学演習 A		2		2後	1回/1年	選必 b
	社会心理学演習 B		2		3・4前	1回/2年	
	犯罪心理学演習		2		3・4前	1回/2年	
	副 社会調査特講		2		2前	1回/1年	
	副 地域社会学特講		2		2前	1回/1年	
	地域社会学演習 A		2		2後	1回/1年	選必 b
	地域社会学演習 B		2		3前	1回/1年	
	副 ソーシャルデザイン論特講		2		2前	1回/1年	集中
	ソーシャルデザイン論演習 A		2		2後	1回/1年	選必 b
ソーシャルデザイン論演習 B		2		3前	1回/1年		
副 行動計量学		2		2前	1回/1年		
行動計量学演習 A		2		2後	1回/1年	選必 b	
行動計量学演習 B		2		3前	1回/1年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目		単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
	必	選	自						
プ ロ グ ラ ム 展 開 科 目	副	スポーツ社会学特講		2		2後	1回/1年	選必 b	
		スポーツ社会学演習A		2		2後	1回/1年		
		スポーツ社会学演習B		2		3前	1回/1年		
	副	基礎心理学		2		2・3前	1回/2年		集中
	副	応用心理学		2		2・3前	1回/2年		集中
	副	文化心理学		2		2・3前	1回/2年		集中
	副	心理療法論（心理学的支援法）		2		3・4前	1回/2年		集中
	副	心理学通論		2		2後	1回/1年		
	副	生理学特講		2		2・3前	1回/2年		
副	現代社会論		2		2前	1回/1年		集中	
主専修プログラム最低必要単位数			12	32	-	基礎16単位以上・展開10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと			
副専修プログラム最低必要単位数			-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと			

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 7. 地域政策課程 科目等一覧

- 注1 単位数の「必」は必修科目、「選」は選択必修科目、「自」は自由選択科目の略です。必修、選択必修科目については、「5. 卒業に必要な単位数および主・副専修プログラム等について」で確認してください。
- 注2 下位数字の授業科目の単位修得が履修の条件となっている授業科目は、備考欄に「要『（単位修得が必要な授業科目名の数字）』」を記載しています。
- 注3 「総合科学基礎（人間文化）A・B」を4単位修得した場合、2単位分は他課程科目の単位に算入することができます。

科目区分	必要単位数	授業科目名	単位数			対象学年	開講間隔	備考	
			必	選	自				
学部共通科目	2	基礎ゼミナール	2			1前	1回/1年	集中 集中 集中 集中 集中	
	2	総合科学論	2			3前	1回/1年		
	4	総合科学基礎（地域政策）A	2			1前	1回/1年		
		総合科学基礎（地域政策）B	2			1後	1回/1年		
	2	総合科学基礎（人間文化）A		2		2前	1回/1年		
		総合科学基礎（人間文化）B		2		2後	1回/1年		
	-	課題解決型国際研修（英語）			2	1後	1回/1年		
		課題解決型国際研修（ドイツ語）			2	1後	1回/1年		
		課題解決型国際研修（フランス語）			2	1後	1回/1年		
		課題解決型国際研修（中国語）			2	1後	1回/1年		
		課題解決型国際研修（韓国語）			2	1前	1回/1年		
		統計的機械学習実践			2	3前	1回/1年		
		プログラミング基礎			1	1後	1回/1年		
		プログラミング入門			2	2前	1回/1年		
課程科目	8	法律学基礎		2		1前	1回/1年	要「 」 要「 」	
		民法（総則）	2			1前	1回/1年		
		民法（総則）		2			1後		1回/1年
		経済学基礎	2			1前	1回/1年		
		経済学基礎		2			1後		1回/1年
		環境政策論	2			1前	1回/1年		
		環境経済論 A		2			1後		1回/1年
6	特別研究	6			4通	1回/1年			
他課程科目	4	国際交流研修		2		1前	1回/1年		
		日本語表現基礎（アカデミック・ライティング）		2		2前後	1回/1年		
		日本語読解基礎（クリティカル・リーディング）		2		2前後	1回/1年		
		ドイツ語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		フランス語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		ロシア語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		中国語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		韓国語基礎		2		2・3後	1回/2年		
		文学・思想研究方法論		2		2後	1回/1年		
		国際文化論		2		2後	1回/1年		
		日本文化研究入門		2		2後	1回/1年		
		現代社会共創論		2		2後	1回/1年		
		人間行動論		2		2後	1回/1年		

\* 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

# 政策法務専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 基礎科目	副 憲法（人権）		2		1後	1回/1年	選必	副選
	副 憲法（人権）		2		2前	1回/1年	要「 」	
	副 憲法（統治機構）A		2		2・3前	1回/2年	選必	副選
	副 憲法（統治機構）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 刑法総論A		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 刑法総論B		2		2後	1回/1年		
	副 政治学（政治過程）		2		1後	1回/1年	選必	副選
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必	
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年		
	副 環境統計学		2		1後	1回/1年		
	副 民法（物権）		2		2前	1回/1年		
	副 民法（物権）		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 民法（債権総論）A		2		2・3前	1回/2年		
	副 民法（債権総論）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 民法（債権各論）A		2		2・3前	1回/2年		
	副 民法（債権各論）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 民法（家族法）A		2		2前	1回/1年		
	副 民法（家族法）B		2		2後	1回/1年		
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年		
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年		
	副 雇用管理法		2		2・3前	1回/2年		
	副 社会保障法		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 刑法各論A		2		2・3前	1回/2年		
	副 刑法各論B		2		2・3後	1回/2年		
	副 刑事訴訟法（証拠法・公判法）		2		2・3後	1回/2年		
	副 行政法（作用法総論）		2		2・3前	1回/2年		
	副 行政法（作用法総論）		2		2・3後	1回/2年	要「 」	
	副 行政法（救済法）		2		2・3前	1回/2年		
	副 行政法（救済法）		2		2・3後	1回/2年	要「 」	
	副 政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年		
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年		
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 刑事政策		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 基礎法A		2		2・3前	1回/2年		
	副 基礎法B		2		2・3後	1回/2年		
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 財政学		2		2前	1回/1年		
	副 財政学		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 社会保障論		2		2後	1回/1年	集中	
	副 環境政策論		2		1後	1回/1年	要「 」	
	副 法律学特講A		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
副 法律学特講D		2		2・3・4後	1回/3年	集中		
プログラム 展開科目	副 地域政策実践演習A		2		3後	1回/1年	選必	
	副 地域政策実践演習B		2		3後	1回/1年		
	副 民法（相続法）		2		2後	1回/1年		
	副 民事訴訟法A		2		3・4前	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	副 民事訴訟法 B		2		2・3後	1回/2年	
	副 刑事訴訟法 (捜査法・公訴法)		2		3・4前	1回/2年	
	国際政治学		2		3・4前	1回/2年	
	少年法		2		3・4前	1回/2年	集中
	法律学特講 B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 C		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 E		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	法律学特講 F		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	副 地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学」
	政治学演習		2		3前	1回/1年	
	政治学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	憲法演習		2		3前	1回/1年	
	憲法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法(財産法)演習		2		3前	1回/1年	
	民法(財産法)演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法(家族法)演習		2		3前	1回/1年	
	民法(家族法)演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	商法演習		2		3前	1回/1年	
	商法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑法演習		2		3前	1回/1年	
	刑法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑事訴訟法演習		2		3前	1回/1年	
	刑事訴訟法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	労働法演習		2		3前	1回/1年	
	労働法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	理論経済学演習		2		3前	1回/1年	
	理論経済学演習		2		3後	1回/1年	選必 要「 」
	政治経済学演習		2		3前	1回/1年	
	政治経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	財政学演習		2		3前	1回/1年	
	財政学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	経営学演習		2		3前	1回/1年	
	経営学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境政策論演習		2		3前	1回/1年	
	環境政策論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境経済論演習		2		3前	1回/1年	
	環境経済論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境社会学演習		2		3前	1回/1年	
	環境社会学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	自然環境学演習		2		3前	1回/1年	
	自然環境学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境生態学演習		2		3前	1回/1年	
環境生態学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得(必修含む)		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注)修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 企業法務専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム基礎科目	副 民法（物権）		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 民法（物権）		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 民法（債権総論）A		2		2・3前	1回/2年	選必	副選
	副 民法（債権総論）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 民法（債権各論）A		2		2・3前	1回/2年	選必	副選
	副 民法（債権各論）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 会社法A		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 会社法B		2		2後	1回/1年		
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	選必	副選
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年		
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必	
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年		
	副 環境統計学		2		1後	1回/1年		
	副 憲法（人権）		2		1後	1回/1年		
	副 憲法（人権）		2		2前	1回/1年	要「 」	
	副 民法（家族法）A		2		2前	1回/1年		
	副 民法（家族法）B		2		2後	1回/1年		
	副 刑法総論A		2		2前	1回/1年		
	副 刑法総論B		2		2後	1回/1年		
	副 刑法各論A		2		2・3前	1回/2年		
	副 刑法各論B		2		2・3後	1回/2年		
	副 商法A		2		2前	1回/1年		
	副 商法B		2		2後	1回/1年		
	副 雇用管理法		2		2・3前	1回/2年		
	副 基礎法A		2		2・3前	1回/2年		
	副 基礎法B		2		2・3後	1回/2年		
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 理論経済学		2		2前	1回/1年		
	副 理論経済学		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 政治経済学		2		2前	1回/1年		
	副 政治経済学		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 会計学		2		2前	1回/1年		
	副 会計学		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 経営学総論		2		2前	1回/1年		
	副 経営学総論		2		2後	1回/1年	要「 」	
	副 金融論		2		2・3前	1回/2年	集中	
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年		
	副 法律学特講A		2		2・3・4前	1回/3年	集中	
	副 法律学特講D		2		2・3・4後	1回/3年	集中	
プログラム展開科目	副 地域政策実践演習A		2		3後	1回/1年	選必	
	副 地域政策実践演習B		2		3後	1回/1年		
	副 民法（相続法）		2		2後	1回/1年		
	副 民事訴訟法A		2		3・4前	1回/2年		
	副 民事訴訟法B		2		2・3後	1回/2年		
	副 金融法		2		2・3後	1回/2年		

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	知的財産法		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 C		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	法律学特講 E		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	法律学特講 F		2		2・3・4後	1回/3年	集中
	企業論		2		2・3前	1回/2年	
	労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	政治学演習		2		3前	1回/1年	
	政治学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	憲法演習		2		3前	1回/1年	
	憲法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（財産法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（財産法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（家族法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（家族法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	商法演習		2		3前	1回/1年	
	商法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑法演習		2		3前	1回/1年	
	刑法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑事訴訟法演習		2		3前	1回/1年	
	刑事訴訟法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	労働法演習		2		3前	1回/1年	
	労働法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	理論経済学演習		2		3前	1回/1年	
	理論経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	政治経済学演習		2		3前	1回/1年	
	政治経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	財政学演習		2		3前	1回/1年	
	財政学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	経営学演習		2		3前	1回/1年	
	経営学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境政策論演習		2		3前	1回/1年	
	環境政策論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境経済論演習		2		3前	1回/1年	
	環境経済論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境社会学演習		2		3前	1回/1年	
	環境社会学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	自然環境学演習		2		3前	1回/1年	
	自然環境学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境生態学演習		2		3前	1回/1年	
	環境生態学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）	
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 地域社会経済専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 基礎科目	副 理論経済学		2		2前	1回/1年	
	副 理論経済学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 政治経済学		2		2前	1回/1年	
	副 政治経済学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 財政学		2		2前	1回/1年	
	副 財政学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 農業経済論		2		2前	1回/1年	
	副 農業経済論		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 経営学総論		2		2前	1回/1年	
	副 経営学総論		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 国際経済論 A		2		2前	1回/1年	
	副 国際経済論 B		2		2後	1回/1年	
	副 ミクロ経済学		2		1後	1回/1年	
	副 金融論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 会計学		2		2前	1回/1年	
	副 会計学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 経済外書講読		2		2・3後	1回/2年	
	副 憲法（統治機構）A		2		2・3前	1回/2年	
	副 憲法（統治機構）B		2		2・3後	1回/2年	
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副 行政法（作用法総論）		2		2・3前	1回/2年	
	副 行政法（作用法総論）		2		2・3後	1回/2年	要「 」
	副 環境政策論		2		1後	1回/1年	要「 」
	副 政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年	
	副 環境経済論 B		2		2前	1回/1年	
	副 環境生態学 A		2		2前	1回/1年	
	副 自然環境学 A		2		2前	1回/1年	選必
	副 環境統計学		2		1後	1回/1年	
	副 地域経済調査演習		2		2前	1回/1年	選必
	副 地域経済実践演習		2		2後	1回/1年	
プログラム 展開科目	副 応用マクロ経済学		2		3・4前	1回/2年	
	副 地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学」
	副 マーケティング論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 日本経済史		2		2・3後	1回/2年	
	副 人的資源管理論		2		2・3後	1回/2年	要「経営学総論」
	副 経済思想		2		2・3後	1回/2年	
	副 企業論		2		2・3前	1回/2年	
	副 労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本経済論		2		2・3後	1回/2年	集中
	副 国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年	
	副 経済学特講 A		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 経済学特講 B		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 理論経済学演習		2		3前	1回/1年	
	副 理論経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	副 政治経済学演習		2		3前	1回/1年	
	副 政治経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	副 財政学演習		2		3前	1回/1年	
	副 財政学演習		2		3後	1回/1年	要「 」

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 展開科目	経営学演習		2		3前	1回/1年	
	経営学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	政治学演習		2		3前	1回/1年	
	政治学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	憲法演習		2		3前	1回/1年	
	憲法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（財産法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（財産法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	民法（家族法）演習		2		3前	1回/1年	
	民法（家族法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	商法演習		2		3前	1回/1年	
	商法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑法演習		2		3前	1回/1年	
	刑法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	刑事訴訟法演習		2		3前	1回/1年	選必
	刑事訴訟法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	労働法演習		2		3前	1回/1年	
	労働法演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境政策論演習		2		3前	1回/1年	
	環境政策論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境経済論演習		2		3前	1回/1年	
	環境経済論演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境社会学演習		2		3前	1回/1年	
	環境社会学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	自然環境学演習		2		3前	1回/1年	
	自然環境学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
	環境生態学演習		2		3前	1回/1年	
	環境生態学演習		2		3後	1回/1年	要「 」
主専修プログラム最低必要単位数		0	44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む）		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 地域環境専修プログラム

主専修・副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 24～27ページの【別表A】、【別表B】を確認すること。

注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 基礎科目	副 環境政策論		2		1後	1回/1年	選必	要「 」 副選
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年		
	副 環境社会学		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 環境社会学		2		2後	1回/1年		要「 」 副選
	副 環境生態学A		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 環境生態学B		2		2・3後	1回/2年		
	副 自然環境学A		2		2前	1回/1年	選必	副選
	副 自然環境学B		2		2・3後	1回/2年		
	副 環境統計学		2		1後	1回/1年	選必	副選
	副 環境統計学		2		2前	1回/1年		要「 」 副選
	副 憲法（統治機構）A		2		2・3前	1回/2年		
	副 憲法（統治機構）B		2		2・3後	1回/2年		
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年		
	副 政治学（政治理論）		2		2前	1回/1年		
	副 政治学（政治過程）		2		1後	1回/1年		
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年		
	副 理論経済学		2		2前	1回/1年		
	副 理論経済学		2		2後	1回/1年		要「 」
	副 経営学総論		2		2前	1回/1年		
	副 経営学総論		2		2後	1回/1年		要「 」
	副 農業経済論		2		2前	1回/1年		
	副 農業経済論		2		2後	1回/1年		要「 」
	副 財政学		2		2前	1回/1年		
	副 財政学		2		2後	1回/1年		要「 」
	副 ミクロ経済学		2		1後	1回/1年		
	副 国際開発と環境・貧困		2		2・3後	1回/2年		
	副 環境科学演習		2		2前	1回/1年	選必	
	副 環境科学実験		2		2・3前	1回/2年		集中
	副 環境社会調査実習		2		2・3後	1回/2年		
	副 環境社会調査演習		2		2前	1回/1年	選必	
プログラム 展開科目	副 環境経済論特講		2		2・3前	1回/2年		
	副 環境社会学特講		2		3・4前	1回/2年		
	副 倫理学特講A		2		2・3前	1回/2年		
	副 環境倫理学		2		2・3後	1回/2年		
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年		集中
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年		集中
	副 企業論		2		2・3前	1回/2年		
	副 地方財政論		2		3前	1回/1年		要「財政学」
	副 環境学特講A		2		2・3・4前	1回/3年		集中
	副 環境学特講B		2		2・3・4前	1回/3年		集中
副 環境学特講C		2		2・3・4前	1回/3年		集中	

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考	
		必	選	自				
プログラム 展開科目	環境政策論演習		2		3前	1回/1年		
	環境政策論演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	環境経済論演習		2		3前	1回/1年		
	環境経済論演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	環境社会学演習		2		3前	1回/1年		
	環境社会学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	自然環境学演習		2		3前	1回/1年		
	自然環境学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	環境生態学演習		2		3前	1回/1年		
	環境生態学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	政治学演習		2		3前	1回/1年		
	政治学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	憲法演習		2		3前	1回/1年		
	憲法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	民法（財産法）演習		2		3前	1回/1年		
	民法（財産法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	民法（家族法）演習		2		3前	1回/1年		
	民法（家族法）演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	商法演習		2		3前	1回/1年		
	商法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	刑法演習		2		3前	1回/1年		
	刑法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	刑事訴訟法演習		2		3前	1回/1年		
	刑事訴訟法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	労働法演習		2		3前	1回/1年		
	労働法演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	理論経済学演習		2		3前	1回/1年		
	理論経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
	政治経済学演習		2		3前	1回/1年		
	政治経済学演習		2		3後	1回/1年	要「 」	
財政学演習		2		3前	1回/1年			
財政学演習		2		3後	1回/1年	要「 」		
経営学演習		2		3前	1回/1年			
経営学演習		2		3後	1回/1年	要「 」		
	主専修プログラム最低必要単位数		44	-	基礎から16単位・展開から10単位以上修得（必修含む） 注）修得要件を満たすこと			
	副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注）修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 地域社会連携専修プログラム（副専修専門プログラム）

副専修プログラムの単位修得要件の詳細は - 27ページの【別表B】を確認すること。

人間文化課程所属学生は「他課程科目」で「経済学基礎」を履修することが望ましい。  
 注意 下位数字の単位修得が履修条件の授業科目は、備考欄に「要『単位修得が必要な授業科目名の数字』」を記載しています。

科目 区分	授業科目名 「副」：副専修プログラム科目	単位数			対象 学年	開講 間隔	備考
		必	選	自			
プログラム 科目	副 経営学総論		2		2前	1回/1年	
	副 経営学総論		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 会計学		2		2前	1回/1年	
	副 会計学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 政治経済学		2		2前	1回/1年	
	副 政治経済学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 農業経済論		2		2前	1回/1年	
	副 農業経済論		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 財政学		2		2前	1回/1年	
	副 財政学		2		2後	1回/1年	要「 」
	副 社会保障論		2		2後	1回/1年	集中
	副 国際経済論A		2		2前	1回/1年	
	副 国際経済論B		2		2後	1回/1年	
	副 地方財政論		2		3前	1回/1年	要「財政学」
	副 マーケティング論		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 企業論		2		2・3前	1回/2年	
	副 労働経済論		2		2・3後	1回/2年	
	副 日本経済論		2		2・3後	1回/2年	集中
	副 経済学特講A		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 経済学特講B		2		2・3前	1回/2年	集中
	副 行政学		2		2・3前	1回/2年	
	副 会社法A		2		2前	1回/1年	
	副 会社法B		2		2後	1回/1年	
	副 労働法（個別法）		2		2・3前	1回/2年	
	副 労働法（集団法）		2		2・3後	1回/2年	
	副 社会保障法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 地方自治法		2		2・3・4後	1回/3年	
	副 国際法A		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 国際法B		2		2・3・4前	1回/3年	集中
	副 刑事政策		2		2前	1回/1年	
	副 政治学(政治過程)		2		1後	1回/1年	
	副 政治学(政治理論)		2		2前	1回/1年	
	副 国際政治学		2		3・4前	1回/2年	
	副 環境経済論B		2		2前	1回/1年	
	副 環境政策論		2		1後	1回/1年	要「 」
	副 環境社会学		2		2前	1回/1年	
副 環境社会学		2		2後	1回/1年	要「 」	
副 環境生態学A		2		2前	1回/1年		
副 自然環境学A		2		2前	1回/1年		
副 環境統計学		2		1後	1回/1年		
副専修プログラム最低必要単位数		-	16	-	授業科目名の前に「副」とあるものから修得 注) 修得要件を満たすこと		

\*1 備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

\*2 単位数欄の「必」、「選」、「自」の区分は主専修プログラムの単位修得要件に基づいています。

## 8 . 課程横断型プログラムおよび課外科目一覧

### 課程横断型プログラム

人間文化課程，地域政策課程のどちらにも属さない，課程横断型のプログラムです。どちらの課程の学生も副専修プログラムとして履修できます。（このプログラムを主専修プログラムとして選択することはできません。）

### グローバル・地域人材育成プログラム

#### 目的・養成人材像

海外の協定校への留学で獲得したグローバルな視点や行動力を生かし，個々の学生の所属する課程に応じた専門性に基づく，社会的・文化的あるいは環境問題にかかわる地域の諸問題の解決に貢献する能力と意欲を育成します。

#### 科目の履修について

本プログラムを副専修プログラムに選択し，要件を満たして修得した単位は，主専修プログラムの単位数に算入することはできません。

なお，必修ではないが，留学前に人間文化課程の課程科目「国際交流研修」を履修しておくことが望ましい。

科目区分等	授業科目名	単位数	必要修得単位数	備考
国際教育関連科目	国際経済論 A	2	6~8	各専修プログラムのプログラム科目（基礎・展開）。振替ではなく、岩手大学で履修すること。 なお、本副専修で履修した分は主専修プログラムの単位に入れることはできない。
	国際経済論 B	2		
	国際政治学	2		
	国際開発と環境・貧困	2		
	エスニシティ論講義	2		
	異文化コミュニケーション論 A	2		
	異文化コミュニケーション論 B	2		
	異文化コミュニケーション論 C	2		
	異文化コミュニケーション論 D	2		
	日本語教育概論 I	2		
	日本語教育概論 II	2		
留学	交換留学（海外協定大学への留学）により履修した授業科目	-	8~10	修得単位を主専修プログラム科目の単位に申請・登録した場合は本区分には算入できない。 留学前に担当教員と留学先での履修科目について相談しておくこと。
合計			16	

ただし，協定校で履修した科目として認定できる単位数は，原則として下記の範囲内とする。

実技・実習科目(体育・音楽等) 4単位まで  
外国語としての日本語科目 4単位まで

## 課外科目

注 課外科目は、単位修得しても卒業に必要な単位に算入できません。

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講間隔	備考	
課外科目	模擬裁判実践演習	1	2前	1回/1年	集中	
	教職入門	2	1前	1回/1年	(注)	
	教育概論	2	2前	1回/1年		
	教育・学校心理学	2	1後	1回/1年		
	教育法規	2	2前	1回/1年		
	学校経営・制度論	2	2後	1回/1年		
	特別支援教育	2	2前	1回/1年		
	教育課程・教育方法論	2	2前	1回/1年		
	道德教育の理論と実践	2	2後	1回/1年		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2後	1回/1年		
	特別活動の理論と方法	2	2後	1回/1年		
	教育におけるICT活用法	1	3年	1回/1年		
	生徒指導・進路指導	2	1後	1回/1年		
	教育相談	2	2前	1回/1年		
	教職関係	中学校教育実習	4	4通	1回/1年	集中
		高等学校教育実習	2	4通	1回/1年	集中
		教育実習事前事後指導	1	3~4	1回/1年	集中
		教職実践演習	2	4後	1回/1年	
		国語科教育法	2	2前	1回/1年	
		国語科教育法	2	2後	1回/1年	
		国語科教育法	2	3前	1回/1年	
		国語科教育法	2	4後	1回/1年	
		社会科教材研究法	2	2前	1回/1年	
		社会科学習内容構築論	2	4後	1回/1年	
		中等社会科教育法A(社会・地歴)	2	2後	1回/1年	
		中等社会科教育法B(社会・公民)	2	2前	1回/1年	
		地理歴史科教育法	2	2前	1回/1年	
		公民科教育法	2	2後	1回/1年	
		英語科教育法	2	2前	1回/1年	
		英語科教育法	2	2・3後	1回/2年	
		英語科教育法	2	2・3後	1回/2年	
		英語科教育法	2	4後	1回/1年	
		人文地理学概論A	2	1後	1回/1年	
	自然地理学概論A	2	2前	1回/1年		
	地誌学	2	2前	1回/1年		
	学芸員関係	生涯学習概論	2	1前	1回/1年	集中
博物館概論		2	1後	1回/1年		
博物館経営論		2	3後	1回/1年		
博物館資料論		2	3前	1回/1年		
博物館資料保存論		2	2前	1回/1年		
博物館展示論		2	2前	1回/1年		
博物館教育論		2	2前	1回/1年		
博物館情報・メディア論		2	2後	1回/1年		
博物館実習		3	4前	1回/1年		
日本語	日本語教育実習事前指導	1	2後	1回/1年	集中	
	日本語教育実習	1	2後	1回/1年	集中	
公認心理師	公認心理師の職責	1	1後	1回/1年	集中	
	健康・医療心理学	1	2前	1回/1年		
	福祉心理学	1	2後	1回/1年		
	精神疾患とその治療	2	2後	1回/1年		
	関係行政論	1	3前	1回/1年		
	発達心理学	1	2前	1回/1年		
	心理実習	2	4通	1回/1年		
	教育・学校心理学	2	1後	1回/1年		(注)

\*備考欄に「集中」とある授業科目は集中講義で開講予定です。実際の開講は時間割で確認してください。

(注)科目区分中、公認心理師の欄に掲載の「教育・学校心理学」は、教職関係科目として掲載の「教育・学校心理学」とは別の科目です。免許および資格の取得にあたっては、それぞれに対応した科目の履修が必要となるので、注意してください。

## 9 . 取得可能な資格等について

本学部で取得可能な資格等は以下のとおりです。

一部の資格では、課外科目（卒業に必要な単位に算入できない授業科目）の単位修得が必要なものもあります。また、授業科目の履修する順番が決まっている場合もありますので、本手引きをよく読んで、資格取得を目指してください。

- ・教育職員免許状（教員免許）
- ・学芸員資格
- ・日本語教員
- ・社会調査士
- ・認定心理士
- ・公認心理師（受験資格の一部）
- ・環境再生医 初級
- ・自然再生士補

公認心理師については、大学で所定の単位を修得し、その後、大学院で所定の単位を修得するルート等で、受験資格が得られます。

### 教育職員免許状

本学部で取得できる教員免許は、以下のとおりです。所属課程により、取得できる教員免許の種類が異なるので注意してください。

#### 人間文化課程

中学校：国語，社会，英語

高等学校：国語，地理歴史，公民，英語

#### 地域政策課程

高等学校：公民

教員免許取得のために必要な授業科目や修得単位数，また，履修条件等の詳細は，本手引きの「教育職員免許状・各種資格の取得について」で確認してください。

### 学芸員資格

学芸員の職務や資格取得方法等の概略は，文化庁ホームページで確認してください。

文化庁HP [https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan\\_hakubutsukan/index.html](https://www.bunka.go.jp/seisaku/bijutsukan_hakubutsukan/index.html)

本学部で開講する学芸員資格取得のための科目は以下のとおりです。履修対象学年や開講学期等は課外科目の科目等一覧で確認してください。

- ・生涯学習概論
- ・博物館概論
- ・博物館経営論
- ・博物館資料論
- ・博物館資料保存論
- ・博物館展示論
- ・博物館教育論
- ・博物館情報・メディア論
- ・博物館実習

なお、「博物館実習」を履修するには、「博物館実習」以外の学芸員資格取得のための授業科目全ての単位（16単位）を修得していなければなりません。

### 日本語教員養成

日本語教員の職務等の概略は文部科学省ホームページ及び文化庁ホームページで確認してください。

文部科学省 <https://www.mext.go.jp/> 文化庁HP <https://www.bunka.go.jp/>

本学部では、日本語教員養成に関して文化庁が示した標準的な教育内容に基づき、日本語教員養成のための科目を以下のとおり開講します。下記の所定の科目を履修し単位を修得した者に対しては、「日本語教育科目単位修得証明書」を交付します。

科目区分	科目名	単位数	修得すべき単位数
教養教育科目	外国語科目	1	2
人社専門 学部共通科目	基礎ゼミナール	1	1
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語教育概論Ⅰ	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語教育概論Ⅱ	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語教授法講義Ⅰ	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語教授法講義Ⅱ	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	学校教育を受けるための日本語	2	2
人社専門 日本文化・基礎科目	日本語学概説	2	2
人社専門 国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論A	2	2
人社専門 国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論B	2	
人社専門 国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論C	2	
人社専門 国際文化・基礎科目	異文化コミュニケーション論D	2	
人社専門 人間文化課程・課程科目	国際交流研修	2	2
人社専門 課外科目	日本語教育実習事前指導	1	1
人社専門 課外科目	日本語教育実習	1	1
教養教育科目	言語学	2	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションA	2	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションB	2	
人社専門 課外科目（教職）	教育・学校心理学	2	2
人社専門 国際文化・基礎科目	言語習得論A	2	
人社専門 国際文化・基礎科目	言語習得論B	2	
合計			27

外国語科目は2単位まで充当できる。

「言語学」は指定クラスを受講すること。（掲示でお知らせします。）

### 社会調査士

社会調査士資格の概要は、一般社団法人社会調査協会HPで確認してください。

一般社団法人社会調査協会HP <https://jasr.or.jp/>

本資格の取得は、人間行動専修プログラムおよび地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

### 認定心理士

認定心理士資格の概要は、公益社団法人日本心理学会HPで確認してください。

公益社団法人日本心理学会HP <https://www.psych.or.jp/>

本資格の取得は、人間行動専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

### 公認心理師

公認心理師資格の概要は、厚生労働省HPで確認してください。

厚生労働省HP <https://www.mhlw.go.jp/index.html>

本資格の取得は、人間行動専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

### 環境再生医 初級

環境再生医資格の概要は、認定NPO法人自然環境復元協会HPで確認してください。

認定NPO法人自然環境復元協会HP <https://www.narec.or.jp/>

本資格の取得は、地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

### 自然再生士補

自然再生士補資格の概要は、一般財団法人日本緑化センターHPで確認してください。

一般財団法人日本緑化センターHP <http://www.jpgreen.or.jp/>

本資格の取得は、地域環境専修プログラムの担当教員の指導を受けて、行ってください。

専門教育について

教育学部

教育学部の皆さんへ

次ページ以降の教育学部における履修についての説明は、以下の構成になっています。

1. 1 教育学部の理念と目的
1. 2 教育学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）
1. 3 岩手大学教育学部教育課程規則
1. 4 課程等の紹介
  
2. 教育学部の専門教育科目卒業要件：概要（初めにこの項を必ずご覧ください。）
  2. 1 卒業要件単位数
    2. 1. 1 小学校教育コース
      - (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース
      - (2) 教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース
    2. 1. 2 中学校教育コース
    2. 1. 3 理数教育コース
    2. 1. 4 特別支援教育コース
  2. 2 卒業要件科目（教育学部専門教育科目）：詳細版（具体的な科目一覧表が掲載されています。）
    2. 2. 1 小学校教育コース
      - (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース
      - (2) 教育学・心理学・情報教育学の各サブコース＜「小学校一種＋中学校二種」免許を取得する場合＞
      - (3) 教育学・心理学・情報教育学・特別支援教育の各サブコース＜「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得する場合＞
    2. 2. 2 中学校教育コース
      - (1) 「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合
      - (2) 「中学校一種＋中学校他教科二種」免許を取得する場合
    2. 2. 3 理数教育コース
      - (1) 小学校教育専修 ＜「小学校一種＋中学校一種」免許を取得する場合＞
      - (2) 中学校教育専修 ＜「中学校一種＋小学校二種」免許を取得する場合＞
    2. 2. 4 特別支援教育コース
      - (1) 基礎免として小学校免許を取得する場合
      - (2) 基礎免として中学校免許を取得する場合
  2. 3 教育実習の受講資格及び卒業研究の着手条件、履修科目登録単位の上限について  
教育実習の受講資格                      卒業研究の着手条件  
履修科目登録単位の上限（CAP制）の特例
  
3. 授業科目及び履修年次
  3. 1 教職専門科目＜一覧表＞＜個表＞
  3. 2 教科専門科目（小学校科目）
  3. 3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目
    - (1) 国語 (2) 社会 (3) 英語 (4) 音楽 (5) 美術 (6) 保健体育 (7) 教育学
    - (8) 心理学 (9) 情報教育学 (10) 特別支援教育
  3. 4 理数教育コースの開講科目
    - (1) 理科 (2) 数学
  3. 5 特別支援教育コースの開講科目
  
4. 副免及びその他の教員免許の取り方について
  4. 1 コース毎の教員免許の取得について
    4. 1. 1 小学校教育コース
    4. 1. 2 中学校教育コース
    4. 1. 3 理数教育コース
    4. 1. 4 特別支援教育コース
  4. 2 教員免許取得のための必要単位
    4. 2. 1 小学校教員免許
    4. 2. 2 中学校教員免許 / 高等学校教員免許
    4. 2. 3 特別支援学校教員免許
  
5. 日本語教育副専攻科目について

# 教 育 学 部

## 1.1 教育学部の理念と目的

(理念)

岩手大学教育学部は、幅広い視野と教養、専門的知識・技能、及び実践的な指導力を兼ね備えた学校教員を養成するとともに、教育分野に関わる理論的・実践的な教育研究を行うことで、学校教育の発展に貢献する。

(目的)

本学部は、教員養成の専門学部として、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的とする。

## 1.2 教育学部の学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

岩手大学教育学部の理念と教育目標に則り、所定の教育課程(複数免許取得を含む)を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(教育)」の学位を授与する。

### 【小学校教育コース】

(知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 小学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 各教科等の内容及び指導法に関する基礎的な知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

(思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探究的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

(技能・表現)

7. 小学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
8. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。  
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

(関心・意欲)

9. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

(態度)

10. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

## 【中学校教育コース】

### (知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 中学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 取得する免許教科の内容及び指導法に関する知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

### (思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探究的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

### (技能・表現)

7. 中学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
8. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。  
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

### (関心・意欲)

9. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

### (態度)

10. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

## 【理数教育コース】

### (知識・理解)

1. 総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
2. 義務教育段階の学校教育及び子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
3. 理科あるいは算数・数学の内容及び指導法に関する知識を身につけている。
4. 専攻する学問分野の専門的知識を身につけている。

### (思考・判断)

5. 学校教育に関する総合的な基礎的知識、理数教育に関する知識、及び実践的な体験を通して、学校教育について実践的に思考・判断する能力を身につけている。
6. 専攻する学問分野の探究的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

### (技能・表現)

7. 理数教育を中心として小学校及び中学校における学習指導の基本的な技能を身につけている。
8. 小学校及び中学校における生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
9. ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。  
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

### (関心・意欲)

10. 学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、理数教育の充実を中心として学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

### (態度)

11. 学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。

## 【特別支援教育コース】

### (知識・理解)

- 1．総合的思考力を養うために幅広い視野と教養を身につけている。
- 2．特別支援学校における教育及び小学校教育または中学校教育並びに子どもに関する基礎的な知識を身につけている。
- 3．特別支援学校及び小学校または中学校の各教科等の内容並びに指導法に関する基礎的な知識を身につけている。
- 4．特別支援教育の専門的知識を身につけている。

### (思考・判断)

- 5．学校教育に関する総合的な基礎的知識と実践的な体験を通して、学校教育について多面的かつ実践的に思考・判断する能力を身につけている。
- 6．特別支援教育への探究的な活動を通して、課題分析力、論理的思考力及びものごとを創造的にアプローチする能力を身につけている。

### (技能・表現)

- 7．小学校または中学校における学習指導及び生活指導のための基礎的な技能を身につけている。
- 8．特別支援学校における指導及び支援、特別支援学校が有するセンター的機能に求められる相談支援のための基礎的な技能を身につけている。
- 9．ものごとを計画的に進め、その結果を整理して口頭や文章で的確に表現することができる。  
また、授業や話し合いを主導的に進めたり、協調的に議論したりすることができる。

### (関心・意欲)

- 10．学校教育の現状や課題に強い関心を持ち、学校教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。
- 11．特別支援教育の現状や課題に強い関心を持ち、最新の動向の把握に努め、特別支援教育の発展に貢献しようとする意欲を持っている。

### (態度)

- 12．学校教育に対する強い使命感と責任を自覚し、常に学び続けようとする態度を身につけている。
- 13．特別支援教育に対する強い使命感と責任を自覚し、児童生徒及び保護者の思いに寄り添う態度を身につけている。

## 1.3 岩手大学教育学部教育課程規則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則(以下「学則」という。)第36条第5項の規定に基づき、岩手大学教育学部(以下「本学部」という。)における専門教育(以下「専門教育」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

2 本学部の教育課程に関する事項は、学則に定めるもののほか、この規則による。

3 学則及びこの規則に特別の定めのある場合を除き、教育課程に関する事項は、教授会が定める。

(目的)

第2条

本学部は、教員養成の専門学部として、教育に関する理論的・実践的な力量、教育内容とその背景をなす諸学問の理解及び豊かな人間性・社会性を備え、地域の要請に応えつつ、教員としての意欲と高い使命感をもって教育に取り組むことができる教員の養成を目的とする。

(課程、コース、サブコース及び専修)

第3条 本学部に学校教育教員養成課程を置く。学校教育教員養成課程に次のとおりコース及びサブコースを置く。

学校教育教員養成課程

小学校教育コース

国語サブコース

社会サブコース

英語サブコース

音楽サブコース

美術サブコース

保健体育サブコース

教育学サブコース

心理学サブコース

情報教育学サブコース

特別支援教育サブコース

中学校教育コース

国語サブコース

社会サブコース

英語サブコース

音楽サブコース

美術サブコース

保健体育サブコース

理数教育コース

理科サブコース

数学サブコース

特別支援教育コース

2 学校教育教員養成課程理数教育コースの理科及び数学の各サブコースに小学校教育専修及び中学校教育専修を置く。

(専門教育の授業科目)

第4条 専門教育における授業科目(以下「科目」という。)は、必修科目、選択必修科目及び選択科目からなる。

2 科目は、講義、演習、実験、実習、教育実習及び卒業研究等による。

3 科目の種類とその単位数は、別表1による。

4 科目の必修と選択の別、年次配当、時間数及び履修方法等並びに教育実習に係る特別措置については別に定める。

(科目等の公示)

第5条 各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員は、学期の初めに公示する。

(履修科目の届出)

第6条 学生は、履修しようとする科目を学期当初の指定の期間内に学部長に届け出なければならない。

2 学期の途中から開講する科目については、その時に前項の届出をすることができる。

3 第1項及び第2項の届出をしない者は、単位の認定を受けることができない。

4 第1項及び第2項の届出の後には科目を変えることはできない。

5 他学部の授業科目、国際教育科目又は他大学の開講する授業科目を履修しようとする学生は、所定の手続きを経て許可を得なければならない。

6 他学部及び他大学に在籍する学生が本学部の科目の履修を願い出たときは、前項に準ずる。

(成績評価)

第7条 科目の成績は、秀、優、良、可及び不可の評語で表わし、秀、優、良及び可を合格、不可を不合格とする。

2 試験を行う場合は、各学期末に行う。ただし、科目によっては、各学期末以外の適当な時期に行うことができる。

(卒業認定)

第8条 学部を卒業するには、別表2に定める所定の単位を修得しなければならない。

2 卒業の要件として学部の定める単位を特に優秀な成績をもって修得したと認められる場合は、岩手大学における在学期間の特例に関する規則の定めるところにより3年以上4年未満の在学で卒業を認める。

3 前項に関して必要な事項は、別に定める。

附 則 (省略)

別 表 (省略)

## 1.4 課程等の紹介

### 学校教育教員養成課程

学校教育教員養成課程は、「小学校教育コース」、「中学校教育コース」、「理数教育コース」及び「特別支援教育コース」の4コースからなり、主として小学校、中学校及び特別支援学校の教員を養成することを目的とする。

この課程では、教育に関する理論的・実践的な知識、教育内容とその背景をなす諸学問の理解、及び豊かな人間性・社会性を備え、意欲と高い使命感を持って地域の教育に取り組むことが出来る教員を養成する。

また、この課程では、幼稚園から小学校、中学校及び特別支援学校のそれぞれにおける発達段階を見通して子どもを理解する能力及び学校教育現場のいじめ・不登校・学級がうまく機能しない状況等の諸課題にも対応できる能力を育成する。

なお、学校教育教員養成課程では、すべてのコースにおいて複数の教員免許状取得を卒業要件として義務付けている。(以下のコースごとの説明を参照のこと)

#### 小学校教育コース

小学校教育コースでは、小学校教員の養成を主たる目的とし、小学校の教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに、学校現場での諸課題に対する実践能力・問題解決能力を身につける。本コースでは、小学校教員としての得意分野の形成をはかるため、それぞれの専門教育領域から構成されるサブコースに、1年次後期から所属する。サブコースには、各教科に対応したサブコース(国語、社会、英語、音楽、美術、保健体育)のほか、教育学、心理学、情報教育学及び特別支援教育のサブコースがある。なお、各サブコースの紹介及び配属決定方法については、入学時に配付される『サブコース所属の手引き』を参照のこと。

本コースでは、以下に示すとおり、卒業要件として主免及び副免の合わせて二つの教員免許状の取得を義務付けている。すなわち、各教科に対応したサブコース(国語、社会、英語、音楽、美術、保健体育)に所属する場合は、主免許として小学校教諭一種免許状及び副免として所属サブコースの教科に対応する中学校教諭免許状(二種免)の資格取得を卒業要件とする。教育学サブコース、心理学サブコース、情報教育学サブコースに所属する場合は、主免として小学校教諭一種免許状及び副免として希望する教科の中学校教諭免許状(二種免)あるいは特別支援学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。特別支援教育サブコースに所属する場合は、小学校教諭一種免許状と特別支援学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。さらに、どのサブコースに所属していても、希望に応じて所定の単位を追加取得することにより、所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許、特別支援学校教諭の免許状を取得できる。

#### 中学校教育コース

中学校教育コースは、国語、社会、英語、音楽、美術、保健体育の6サブコースで構成され、学生の所属するサブコースは入学時に決定している。本コースでは、それぞれの教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに、学校現場での諸課題に対する実践能力・問題解決能力を身につけることを目的としている。本コースでは、所属サブコースの教科の中学校教諭一種免許状取得と、小学校教諭免許状(二種免)あるいは所属サブコースの教科以外の中学校教諭免許状(二種免)の資格取得を卒業要件としている。

なお、卒業要件となる上記の中学校教諭一種免許状の取得により、同教科の高等学校教諭一種免許状も合わせて取得できる。(国語、社会及び美術は、要件が異なるので、「4.2.2 中学校教員免許/高等学校教員免許」以降を必ず参照すること)。さらに希望によっては、所定の単位を取得することにより、所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許状、小学校及び特別支援学校教諭の免許状を取得できる。

## 理数教育コース

理数教育コースは理科及び数学の2つのサブコースから構成されており、学生の所属するサブコースは入学時に決定している。それぞれのサブコースには、理数系に強い小学校教員の養成を主たる目的とした「小学校教育専修」と、理科・数学の中学校教員の養成を主たる目的とした「中学校教育専修」とがある。それぞれの専修の決定は学生の希望に基づいて行い、1年次前期終了時に仮決定とし、2年次4月履修申告期間末日に正式決定とする。（ただし、推薦入学した学生は小学校教育専修に決定している。）

「小学校教育専修」では、主免となる小学校教諭一種免許状と、副免となるサブコースの教科に対応する中学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。「中学校教育専修」では、主免となるサブコースの教科に対応する中学校教諭一種免許状と副免となる小学校教諭免許状（二種免）の資格取得を卒業要件とする。両専修とも、義務教育段階を一貫した理科/算数・数学の指導を先導できる専門的知識、技術を習得することを目指す。

なお、卒業要件となる上記の中学校教諭一種免許状の取得により、同教科の高等学校教諭一種免許状も合わせて取得できる。さらに希望によっては、所定の単位を履修することにより、所属サブコース以外の教科の中学校・高等学校教諭の免許状、特別支援学校教諭の免許状も取得できる。

## 特別支援教育コース

特別支援教育コースは、特別支援学校、特別支援学級、小学校・中学校等の通常の学級に在籍する特別な支援を必要とする子どもに対して、自立や社会参加に向けた主体的取り組みを支援する観点から幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握して、適確に指導・支援できる教員の養成を目的としている。

学生は、特別支援学校等の特別支援教育に関する教科の内容と教育方法について専門的知識・能力を深めるとともに、特別支援学校等における特別支援教育に関する専門的・実践的力量を身につけ、学校現場での諸課題に対応する実践能力・問題解決能力を修得する。

本コースでは、主免となる特別支援学校教諭一種免許状と、基礎免となる小学校教諭一種免許状あるいは中学校教諭一種免許状の資格取得を卒業要件とする。また、希望によっては、所定の単位を履修することにより、その他の免許（小、中、高）を取得できる。

## 2. 教育学部の専門教育科目卒業要件

教育学部の卒業要件単位 134～146単位  
(教養教育科目28単位、専門教育科目106～118単位)

### <はじめに>

教育学部学校教育教員養成課程では、卒業要件として複数の教員免許を取得することが義務づけられています。卒業要件とは、卒業するために必要な条件のことを言います。教育学部では、卒業要件となる教員免許のうち、コースごとに指定される一つめの主たる免許のことを「主免」、二つめの免許のことを「副免」という名称で位置づけます。(ただし、特別支援教育コースでは特別支援学校教諭一種免許状の基礎として取得する免許のことを「基礎免」と呼びます。)また、主免・副免(基礎免)以外の教員免許で、卒業要件とはならない免許のことを「その他の免許」として、それぞれを区別しています。複数免許(主免・副免(基礎免))の組み合わせパターンはコースごとに異なりますので注意してください。

以下は、コースごとに、「主免・副免(基礎免)」の組み合わせパターンとその注意事項、そして卒業要件単位の一覧表を提示します。まずはこの項の表でその輪廓をつかんでください。

なお、各コースの区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。

### 2.1 卒業要件単位数

#### 2.1.1 小学校教育コース

小学校教育コースでは、主免として「小学校一種」免許を取得することはもちろんですが、副免としてもう一つの免許を取得しなくてはなりません。免許取得の組み合わせパターンはサブコースによって異なります。

教科サブコース(国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育)については、卒業要件として「小学校一種+中学校二種(所属サブコース)」免許の取得が義務づけられています。

教科以外のサブコースのうち、(教育学・心理学・情報教育学)については、「小学校一種+中学校二種」又は「小学校一種+特別支援一種」のどちらかのパターンの免許取得が義務づけられています。教科以外のサブコースのうち、(特別支援教育)については、「小学校一種+特別支援一種」の免許取得が義務づけられています。

#### (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

区分	コース	小学校教育コース
		「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目		1
教職専門科目		42
教科専門科目		32
所属専門科目(中学校教科専門科目)		16(～21)
選択科目		12
卒業研究		6
専門教育科目 計		109(～114)
教養教育科目		28
合計		137(～142)

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。  
注) 区分「所属専門科目16単位」では、それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が16単位を超える教科があります。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計109単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目12単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## (2) 教育学・心理学・情報教育学の各サブコース

区分	小学校教育コース（教育学・心理学・情報教育学サブコース）	
	「小学校一種＋中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	1	1
教職専門科目	42	39
教科専門科目	32	32
所属専門科目	10	6
選択必修科目	(中学校教科専門科目) 12(～21)	(特別支援教育に関する科目) 26
選択科目	6	2
卒業研究	6	6
専門教育科目 計	109(～118)	112
教養教育科目	28	28
合 計	137(～146)	140

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。  
 注) 区分「選択必修科目12単位」(中学校教科専門科目)では、それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要なとなる中学校の教科専門科目の単位数が12単位を超える教科があります。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計109単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目6単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## (3) 特別支援教育サブコース

区分	小学校教育コース
	「小学校一種＋特別支援一種」免許を取得するための卒業要件単位数
転換教育科目	1
教職専門科目	39
教科専門科目	32
所属専門科目(選択必修)	6
所属専門科目(特別支援教育に関する科目)	26
選択科目	2
卒業研究	6
専門教育科目 計	112
教養教育科目	28
合 計	140

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。

## 2.1.2 中学校教育コース

中学校教育コースでは、主免として「中学校一種」免許を取得することはもちろんですが、副免としてもう一つの免許を取得しなくてはなりません。免許取得の組み合わせは、次の二つのパターンがあります。すなわち、所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許と「小学校二種」免許の組み合わせ、あるいは、所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許と他教科の「中学校二種」免許の組み合わせ、のいずれかのパターンでの免許取得が義務づけられています。

区分	中学校教育コース	
	「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	「中学校一種+中学校他教科二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	1	1
教職専門科目	4 2	4 1
教科専門科目	(小学校教科専門科目) 1 6	(他教科専門科目【副免】) 1 2 ( ~ 2 1 )
所属専門科目(各科指定科目)	3 8	3 8
選択科目	4	8
卒業研究	6	6
専門教育科目 計	1 0 7	1 0 6 ( ~ 1 1 5 )
教養教育科目	2 8	2 8
合 計	1 3 5	1 3 4 ( ~ 1 4 3 )

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。  
注) 「中学校一種+中学校他教科二種」免許を取得する場合、区分「他教科専門科目【副免】12単位」で、副免とする教科の教科専門科目を履修してください。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が12単位を超える教科があります。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計106単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目8単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.1.3 理数教育コース

理数教育コースでは、専修ごとに複数免許の取得パターンが異なります。小学校教育専修では、主免として「小学校一種」免許を取得することはもちろんですが、副免として、所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許を取得しなくてはなりません。中学校教育専修では、主免として、所属するサブコースの教科に対応する「中学校一種」免許を、副免として「小学校二種」免許を取得することが卒業要件として義務づけられています。

区分	小学校教育専修	中学校教育専修
	「小学校一種+中学校一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数	「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目	1	1
教職専門科目	4 4	4 4
教科専門科目	(小学校教科専門科目) 3 0	(小学校教科専門科目) 1 6
所属専門科目	2 8	3 6
選択科目	2	6
卒業研究	6	6
専門教育科目 計	1 1 1	1 0 9
教養教育科目	2 8	2 8
合 計	1 3 9	1 3 7

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。

## 2.1.4 特別支援教育コース

特別支援教育コースでは、主免として「特別支援学校一種」免許の取得が義務づけられています。また、基礎免として「小学校一種免許」あるいは「中学校一種免許」のいずれかを取得することが卒業要件として義務づけられています。

区分	基礎免	小学校免許を取得する場合の卒業要件単位数	中学校免許を取得する場合の卒業要件単位数
転換教育科目		1	1
教職専門科目		39	39
教科専門科目		32	(各科指定教科専門科目) 32
所属専門科目(特別支援教育に関する科目)		26	26
選択科目		3	3
卒業研究		6	6
専門教育科目 計		107	107
教養教育科目		28	28
合 計		135	135

区分ごとの具体的な科目一覧と単位数は、次項「3. 授業科目及び履修年次」に掲載されています。

## 2.2 卒業要件科目（教育学部専門教育科目）

卒業要件となる専門科目の一覧表をコースごとに示します。それぞれのコースの表に記載されている科目の単位をすべて修得し、かつコースごとに定められた複数の教員免許状を取得し資格を得た場合に卒業要件を満たすこととなります。なお、副免として中学校教員免許を取得する場合には、教科によって免許取得に必要な単位数が異なります。以下の表に記載された合計単位数を超える場合がありますので注意してください。

### 2.2.1 小学校教育コース

#### (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

コース 区分	小学校教育コース		別欄 科目	
	「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数			
	科目名	単位数		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2
	小 計 1単位		教育の歴史	2
			教育学特殊講義A	2
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2
	教育・学校心理学	2		
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(小)	1		
	学校体験実習(小)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	教育実習研究(中・高)	1		
	小学校教育実習	4		
中学校教育実習	2			
教職実践演習	2			
プログラミング基礎	1			
	小 計 42単位			
教科専門科目	小学校算数	2	選択科目 について 他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として10単位まで卒業要件として認定することができます。	
	小学校理科	2		
	小学校体育A	1		
	小学校英語	2		
	小学校音楽A	1		
	小学校国語	2		
	小学校社会	2		
	小学校図画工作	2		
	小学校家庭科	2		
	小学校生活科	2		
教科の指導法(小学校10教科)	20			
	小 計 32単位			
所属専門科目	配属サブコースの科目(中学校教科専門科目)から	14(～19)		
	教科の指導法(中学校)	2		
	小 計 16(～21)単位			
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	12単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計	109(～114)単位			

注) 区分「所属専門科目16単位」では、それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が16単位を超える教科があります(保健体育21単位)。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計109単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目12単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(2)教育学・心理学・情報教育学の各サブコース<「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合>

区分	小学校教育コース		別欄科目	
	「小学校一種+中学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数		教育の思想	2
	科目名	単位数		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育学特殊講義A	2
	小計 1単位		別欄科目	
教職専門科目	教職入門	2	別欄科目 教育法規 2 学校経営・制度論 2	教育法規 2 学校経営・制度論 2
	教育概論	2		
	学校安全学と防災教育	2		
	教育・学校心理学	2		
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(小)	1		
	学校体験実習(小)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	教育実習研究(中・高)	1		
	小学校教育実習	4		
	中学校教育実習	2		
	教職実践演習	2		
	プログラミング基礎	1		
	小計 42単位			
教科専門科目	小学校算数	2	選択科目 について 他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。	
	小学校理科	2		
	小学校体育A	1		
	小学校英語	2		
	小学校音楽A	1		
	小学校国語	2		
	小学校社会	2		
	小学校図画工作	2		
	小学校家庭科	2		
	小学校生活科	2		
	教科の指導法(小学校10教科)	20		
	小計 32単位			
所属専門科目	配属サブコースの科目から		10単位	
選択必修科目	中学校教科専門科目から		10(～19)	
	教科の指導法(中学校)		2	
	小計 12(～21)単位			
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択		6単位	
卒業研究	卒業研究		6単位	
合計	109(～118)単位			

注)区分「選択必修科目12単位」では、それぞれ副免とする中学校免許の教科専門科目を履修してください。  
 「4.2.2(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が12単位を超える教科があります(技術15単位、理科14単位、音楽15単位、社会16単位、保健体育21単位)。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計109単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目6単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は、「4.副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(3)教育学・心理学・情報教育学の各サブコース<「小学校一種+特別支援一種」免許を取得する場合>  
及び特別支援教育サブコース

コース 区分	小 学 校 教 育 コ ー ス		別 欄 科 目		
	「小学校一種+特別支援一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数				
	科 目 名	単 位 数			
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2	
	小 計 1単位		教育の歴史	2	
			教育学特殊講義A	2	
教職専門科目	教職入門	2	別 欄 科 目		
	教育概論	2	教育法規	2	
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2	
	教育・学校心理学	2			
	発達心理学	2			
	特別支援教育	2			
	右記別欄 から1科目選択必修	2			
	右記別欄 から1科目選択必修	2			
	道徳教育の理論と実践	2			
	総合的な学習の時間の理論と実践	2			
	特別活動の理論と方法	2			
	教育課程・教育方法論	2			
	教育におけるICT活用法	1			
	生徒指導・進路指導	2			
	教育相談	2			
	観察実習(小)	1			
	学校体験実習(小)	1			
	教育実習研究(小)	1			
	小学校教育実習	4			
	教職実践演習	2			
プログラミング基礎	1				
	小 計 39単位				
教科専門科目	小学校算数	2			
	小学校理科	2			
	小学校体育A	1			
	小学校英語	2			
	小学校音楽A	1 } 2 } 2 } 2 } 2 }	5		
	小学校国語				
	小学校社会				
	小学校図画工作				
	小学校家庭科				
	小学校生活科	2			
	教科の指導法(小学校10教科)	20			
	小 計 32単位				
所属専門科目	配属サブコースの科目から	6単位			
選択必修科目	特別支援教育に関する科目	26単位			
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	2単位			
卒業研究	卒業研究	6単位			
合 計	112単位				

選択科目 について  
他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.2.2 中学校教育コース

### (1)「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合

コース 区分	中学校教育コース		別欄科目	
	「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数			
	科目名	単位数		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2
		小計	教育の歴史	2
		1単位	教育学特殊講義A	2
教職専門科目	教職入門	2	別欄科目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2
	教育・学校心理学	2		
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(中・高)	1		
	学校体験実習(中・高)	1		
	教育実習研究(中・高)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	中学校教育実習	4		
小学校教育実習	2			
教職実践演習	2			
プログラミング基礎	1			
	小計	42単位		
教科専門科目	小学校算数	2	選択必修 4単位	選択科目 について 他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。
	小学校理科	2		
	小学校音楽A	1		
	小学校体育A	1		
	小学校英語	2		
	小学校国語	2		
	小学校社会	2		
	小学校図画工作	2		
	小学校家庭科	2		
	小学校生活科	2		
教科の指導法(小学校)	12			
	小計	16単位		
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	30		
	教科の指導法(中学校)	8		
	小計	38単位		
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	4単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計		107単位		

副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(2)「中学校一種 + 中学校他教科二種」免許を取得する場合

コース 区分	中学校教育コース		別欄 科目	
	「中学校一種+中学校他教科二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数			
	科目名	単位数		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2
			教育の歴史	2
	小 計	1単位	教育学特殊講義A	2
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2
	教育・学校心理学	2	選択科目 について 他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。	
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(中・高)	1		
	学校体験実習(中・高)	1		
	教育実習研究(中・高)	1		
	中学校教育実習(主免)	4		
	中学校教育実習(副免・他教科)	2		
教職実践演習	2			
プログラミング基礎	1			
	小 計	41単位		
教科専門科目【副免】	中学校教科専門科目(副免・他教科)	10(～19)		
	教科の指導法(中学校(副免・他教科))	2		
	小 計	12(～21)単位		
所属専門科目(教科専門科目(主免))	各科で指定する中学校教科専門科目(主免)	30		
	教科の指導法(中学校(主免))	8		
	小 計	38単位		
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	8単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計	106(～115)単位			

注) 区分「教科専門科目【副免】」の12単位は、副免とする他教科の教科専門科目を履修してください。

「4.2.2(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照。ただし、選択した教科によっては、二種免許でも免許取得に必要な教科専門科目の単位数が12単位を超える教科があります(理科14単位、音楽15単位、社会16単位、技術15単位、保健体育21単位)。このことから、副免として選択した教科によっては、卒業最低単位数が上表の合計単位数(専門教育科目計106単位)を超える場合があります。その場合には上表の「選択科目 8単位」を活用して、免許取得に必要な単位を満たすことができます。なお、副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.2.3 理数教育コース

(1) 小学校教育専修 <「小学校一種+中学校一種」免許を取得する場合>

コース・サブコース 専修	理数教育コース・理科及び数学サブコース		別欄 科目		
	小学校教育専修		教育の思想	2	
	「小学校一種+中学校一種」免許を取得する場合の卒業要件単位数				
区分	科目名	単位数	教育の歴史	2	
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育学特殊講義A	2	
	小計		1単位		
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目		
	教育概論	2	教育法規	2	
	学校安全学と防災教育	2			学校経営・制度論
	教育・学校心理学	2			
	発達心理学	2			
	特別支援教育	2			
	右記別欄 から1科目選択必修	2			
	右記別欄 から1科目選択必修	2			
	道徳教育の理論と実践	2			
	総合的な学習の時間の理論と実践	2			
	特別活動の理論と方法	2			
	教育課程・教育方法論	2			
	教育におけるICT活用法	1			
	生徒指導・進路指導	2			
	教育相談	2			
	観察実習(小)	1			
	学校体験実習(小)	1			
	教育実習研究(小)	1			
	教育実習研究(中・高)	1			
	小学校教育実習	4			
	中学校教育実習	2			
	教職実践演習	2			
	プログラミング基礎	1			
	ICTを活用した理数教育	2			
		小計		44単位	
	教科専門科目	小学校音楽A	1	} 10	選択科目 について
		小学校体育A	1		
小学校英語		2			
小学校国語		2			
小学校社会		2			
小学校図画工作		2			
小学校家庭科		2			
小学校生活科		2			
教科の指導法(小学校10教科)		20			
		小計			
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	20	他学部の科目, 国際教育科目, いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち, 本学部の科目として認定できなかった科目を, 選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。		
	教科の指導法(中学校)	8			
	小計			28単位	
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	2単位			
卒業研究	卒業研究	6単位			
合計	111単位				

副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(2) 中学校教育専修 <「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合>

コース・サブコース 専修 区分	理数教育コース・理科及び数学サブコース		別欄 科目	
	中学校教育専修		教育の思想	2
	「中学校一種+小学校二種」免許を取得する場合の卒業要件単位数			
転換教育科目	科目名	単位数	教育の歴史	2
	基礎ゼミナール	1	教育学特殊講義A	2
	小 計		1単位	
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2		
	教育・学校心理学	2	選択科目 について 他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。	
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(中・高)	1		
	学校体験実習(中・高)	1		
	教育実習研究(中・高)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	中学校教育実習	4		
小学校教育実習	2			
教職実践演習	2			
プログラミング基礎	1			
ICTを活用した理数教育	2			
	小 計		44単位	
教科専門科目	小学校音楽A	} 選択必修 4単位	1	} 4
	小学校体育A		1	
	小学校英語		2	
	小学校国語		2	
	小学校社会		2	
	小学校図画工作		2	
	小学校家庭科		2	
	小学校生活科		2	
教科の指導法(小学校)		12		
	小 計		16単位	
所属専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	28		
	教科の指導法(中学校)	8		
	小 計		36単位	
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	6単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計	109単位			

副免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.2.4 特別支援教育コース

(1)基礎免として小学校免許を取得する場合

コース 区分	特別支援教育コース		別欄 科目	
	基礎免として小学校免許を取得する場合の卒業要件単位数			
	科目名	単位数		
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2
			教育の歴史	2
		小計 1単位	教育学特殊講義A	2
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目	
	教育概論	2	教育法規	2
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2
	教育・学校心理学	2		
	発達心理学	2		
	特別支援教育	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	右記別欄 から1科目選択必修	2		
	道徳教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2		
	特別活動の理論と方法	2		
	教育課程・教育方法論	2		
	教育におけるICT活用法	1		
	生徒指導・進路指導	2		
	教育相談	2		
	観察実習(小)	1		
	学校体験実習(小)	1		
	教育実習研究(小)	1		
	小学校教育実習	4		
教職実践演習	2			
プログラミング基礎	1			
	小計	39単位		
教科専門科目	小学校算数	2		
	小学校理科	2		
	小学校体育A	1		
	小学校英語	2		
	小学校音楽A	1	} 5	
	小学校国語	2		
	小学校社会	2		
	小学校図画工作	2		
	小学校家庭科	2		
	小学校生活科	2		
教科の指導法(小学校10教科)	20			
	小計	32単位		
所属専門科目	特別支援教育に関する科目	26単位		
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	3単位		
卒業研究	卒業研究	6単位		
合計		107単位		

選択科目 について  
他学部の科目、国際教育科目、いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち、本学部の科目として認定できなかった科目を、選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。

基礎免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

(2)基礎免として中学校免許を取得する場合

コース 区分	特別支援教育コース		別欄 科目			
	基礎免として中学校免許を取得する場合の卒業要件単位数					
	科目名	単位数				
転換教育科目	基礎ゼミナール	1	教育の思想	2		
			教育の歴史	2		
		小計	教育学特殊講義A	2		
教職専門科目	教職入門	2	別欄 科目			
	教育概論	2	教育法規	2		
	学校安全学と防災教育	2	学校経営・制度論	2		
	教育・学校心理学	2				
	発達心理学	2				
	特別支援教育	2				
	右記別欄 から1科目選択必修	2				
	右記別欄 から1科目選択必修	2				
	道徳教育の理論と実践	2				
	総合的な学習の時間の理論と実践	2				
	特別活動の理論と方法	2				
	教育課程・教育方法論	2				
	教育におけるICT活用法	1				
	生徒指導・進路指導	2				
	教育相談	2				
	観察実習(中・高)	1				
	学校体験実習(中・高)	1				
	教育実習研究(中・高)	1				
	中学校教育実習	4				
教職実践演習	2					
プログラミング基礎	1					
	小計	39単位	選択科目 について			
教科専門科目	各科で指定する中学校教科専門科目	24	他学部の科目,国際教育科目,いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目及び海外協定大学の科目のうち,本学部の科目として認定できなかった科目を,選択科目として上限単位数まで卒業要件として認定することができます。			
	教科の指導法(中学校)	8				
	小計	32単位				
所属専門科目	特別支援教育に関する科目	26単位				
選択科目	教育学部の専門教育科目から選択	3単位				
卒業研究	卒業研究	6単位				
合計		107単位				

基礎免の取得についての詳細は「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降を必ず参照してください。

## 2.3 教育実習の受講資格及び卒業研究の着手条件、履修科目登録単位の上限について

### 教育実習の受講資格

#### (1) 主免教育実習、基礎免教育実習、教育実習研究の受講資格

小学校教育コース、中学校教育コース、理数教育コースの学生が、主免教育実習及び教育実習研究を受講するためには、3年次開始時（又は受講しようとする年度の初め）までに、次の1.~3.の条件を満たしていることが必要である。

特別支援教育コースの学生が、卒業要件となる基礎免教育実習及び教育実習研究を受講するためには、3年次開始時（又は受講しようとする年度の初め）までに、次の1.~3.の条件を満たしていることが必要である。

1. 「基礎ゼミナール」、「教職入門」、「教育概論」、「生徒指導・進路指導」、「教育相談」、「観察実習」、「学校体験実習」を履修（単位取得）済みであること。
2. 実習する校種ごとに、以下の単位を履修（単位取得）済みであること。
  - ・小学校で実習をする場合は、小学校の教科の指導法から最低6単位を履修済みであること。
  - ・中学校で実習をする場合は、中学校の該当教科の教科指導法から最低2単位を履修済みであること。
3. 次に掲げる単位数以上の単位を取得済みであること。

教養教育科目	18単位
専門教育科目	30単位

#### (2) 副免教育実習の受講資格

小学校教育コース、中学校教育コース、理数教育コースの学生が、副免教育実習を受講するためには、副免教育実習を受講しようとする年度の初めまでに、次の1.と2.の条件を満たしていることが必要である。

1. 主免教育実習を履修済みであること。  
(ただし、4年次で主免教育実習と副免教育実習を同時に履修する場合に限り、主免教育実習と副免教育実習の同時履修を認めるものとする。)
2. 実習する校種ごとに、以下の単位を履修（単位取得）済みであること。
  - ・小学校で実習をする場合は、小学校の教科の指導法から最低6単位を履修済みであること。
  - ・中学校で実習をする場合は、中学校の該当教科の教科指導法から最低2単位を履修済みであること。
  - ・特別支援学校で実習をする場合は、「特別支援教育概説」を履修済みであること、及び「知的障害者の心理・生理・病理」、「知的障害教育課程論」、「知的障害教育指導法」の3科目から最低4単位を履修済みであること。

#### (3) 特別支援教育コースの特別支援学校での教育実習の受講資格

特別支援教育コースの学生が、特別支援学校で教育実習を受講するためには、特別支援教育実習を受講しようとする年度の初めまでに、次の1.と2.の条件を満たしていることが必要である。

1. 卒業要件となる基礎免教育実習を履修済みであること。  
(ただし、4年次で基礎免教育実習と特別支援教育実習を同時に履修する場合に限り、基礎免教育実習と特別支援教育実習の同時履修を認めるものとする。)
2. 「特別支援教育概説」を履修（単位取得）済みであること、及び「知的障害者の心理・生理・病理」、「知的障害教育課程論」、「知的障害教育指導法」の3科目から最低4単位を履修済みであること。

## (4) 卒業要件となっていない教員免許(その他の免許)取得のための教育実習の受講資格

卒業要件となっていない教員免許(その他の免許)を取得するための教育実習の受講には、教育実習を受講しようとする年度の初めまでに、次の1.と2.の条件を満たしていることが必要である。

1. 主免教育実習(小学校教育コース、中学校教育コース、理数教育コース)あるいは基礎免教育実習(特別支援教育コース)を履修済みであること。  
ただし、4年次で主免教育実習(基礎免教育実習)とその他の免許取得のための教育実習を同時に履修する場合に限り、主免教育実習(基礎免教育実習)との同時履修を認めるものとする。
2. 実習する校種ごとに、以下の単位を履修(単位取得)済みであること。
  - ・小学校で実習をする場合は、小学校の教科の指導法から最低6単位を履修済みであること。
  - ・中学校で実習をする場合は、中学校の該当教科の教科指導法から最低2単位を履修済みであること。
  - ・特別支援学校で実習をする場合は、「特別支援教育概説」を履修済みであること、及び「知的障害者の心理・生理・病理」、「知的障害教育課程論」、「知的障害教育指導法」の3科目から最低4単位を履修済みであること。

## 卒業研究の着手条件

### (1) 卒業研究の着手条件

学校教育教員養成課程のすべてのコースで、3年次終了時まで、次に掲げる単位数以上の単位を取得済みの場合、4年次4月から卒業研究に着手できる。

教養教育科目	22単位
専門教育科目	75単位

なお、3年次終了時まで上記単位数を取得できなかった場合には、単位数条件を満たした次の学期から卒業研究に着手できる。

### (2) 卒業研究期間

卒業研究の研究期間は、指導教員の指導のもとに少なくとも1年間を要するものとする。

### (3) 卒業研究論文の提出

卒業研究をまとめた論文(卒業研究論文)を、指定された日時までに学部長宛てに提出すること。なお、卒業研究論文は卒業制作、卒業演奏等に替えることができる。

## 履修科目登録単位の上限(CAP制)の特例

教育学部学生の履修登録単位数は、28単位を上限とするが、28単位の内、所属するコース又はサブコースにより取得を義務づけられた一つめの教育職員免許状の取得にかかる授業科目の登録は24単位を上限とする。なお、成績優秀者に認定されると、次の学期の履修は、一つめの教育職員免許状の取得に関する科目に関わらず28単位まで例外として履修登録することができる。

### 3 . 授業科目及び履修年次

<注意事項> 標準履修年次について

以降の各ページに記載されている「標準履修年次」とは、あくまで履修が望ましい年次を示しているものであり、その年次以降であれば履修可能である。

例) 標準履修年次で2年前期の欄に が記されている科目の場合は、2年次だけでなく3年次、4年次でも履修できる。

#### 3 . 1 教職専門科目

<一覧表>

教員免許法上の区分		科 目 名	単位数	
教育の基礎的理解に関する科目	・教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)	教職入門	2	
	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的、制度的又は経営的 事項	教育概論	2	
	・教育の理念並びに教育に関する 歴史及び思想	別欄	教育の思想 教育の歴史 教育学特殊講義 A	2 2 2
		選択	教育学演習 A 教育学演習 B	1 1
	・教育に関する社会的、制度的 又は経営的事項(学校と地域 との連携及び学校安全への 対応を含む。)	別欄	学校安全学と防災教育 教育法規 学校経営・制度論	2 2 2
		選択	いわての復興教育 教育学演習 D 教育学演習 E 教育学演習 F 小規模学校教育論	2 1 1 1 2
			教育・学校心理学 発達心理学 心理学概論 教育心理学演習 発達心理学演習 障害者・障害児心理学	2 2 2 1 1 2
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び 学習の過程	特別支援教育	2	
	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び 生徒に対する理解			
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び 生徒指導、教育相談等に関する科目	・道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	2
・総合的な探究の時間の指導法		総合的な学習の時間の理論と実践	2	
・特別活動の指導法		特別活動の理論と方法	2	
・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュ ラム・マネジメントを含む。)		教育課程・教育方法論 教育学特殊講義 B	2 2	
・教育の方法及び技術		教育学演習 C 教育学演習 G 授業実践研究 小学校実践研究	1 1 2 1	
・情報通信技術を活用した教育の理論及び 方法		教育における ICT 活用法	1	
・生徒指導の理論及び方法 ・進路指導(キャリア教育に関する基礎的 な事項を含む。)の理論及び方法		生徒指導・進路指導	2	
・教育相談(カウンセリングに関する基礎 的な知識を含む。)の理論及び方法		教育相談 臨床心理学概論 心理演習 心理的アセスメント 心理学的支援法	2 2 1 1 1	
に教育実 践 に 関 する 科 目		・教育実習	観察実習 学校体験実習 教育実習 教育実習研究	1 1 4 1
		・教職実践演習	教職実践演習	2
大学が独自に設定する科目		プログラミング基礎	1	
	理数 選択	I C T を活用した理数教育 STEAM教育実践演習	2 2	

<教職専門科目・個表>

科目名	コース・単位数												標準履修年次【備考1】				取得上限単位	免許法上の科目		
	小学校教育コース				中学校教育コース				理数教育コース				特別支援教育コース							
	小一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	小一・中一 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	中一・中二 教育・心理・情報教育・ 特設ワーカー	2年			3年	4年
教職入門	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教職の意義及び教職の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） ・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 ・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項
教育概論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育の思想	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育の歴史	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育学特殊講義A	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育学演習A	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
教育学演習B	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想
学校安全学と防災教育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育法規	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
学校経営・制度論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
いわたの復興教育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育学演習D	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育学演習E	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育学演習F	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
小規模学校教育論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育に関する社会的・制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）
教育・学校心理学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
発達心理学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
心理学概論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
教育心理学演習1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
発達心理学演習1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				2	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程
障害者・障害児心理学	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
特別支援教育	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解
道徳教育の理論と実践【備考2】	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・道徳の理論及び指導法
総合的な学習の時間の理論と実践	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・総合的な学習の時間の指導法
特別活動の理論と方法【備考2】	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・特別活動の指導法
教育課程・教育方法論	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・テキストを中心。） ・教育の方法及び技術
教育学特殊講義B	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育におけるICT活用	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				1	・情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
教育学演習C	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3	・教育の方法及び技術
教育学演習G	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				3	・教育の方法及び技術
授業実践研究	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2				2	・教育の方法及び技術
小学校実践研究	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1				1	・教育の方法及び技術



### 3. 2 教科専門科目（小学校科目）

#### 3. 2. (1) 小学校・教科に関する科目

科目名	コース・単位数				標準履修年次								免許法上の科目														
	小学校教育コース		中学校教育コース		理数教育コース		特別支援教育コース		1年					2年				3年				4年				取得 上限 単位	
	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
小学校算数	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（算数）
小学校理科	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（理科）
小学校体育A	1				1				1																	1	小の教科に関する専門的事項（体育）
小学校英語	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（英語）
小学校音楽A	1				1				1																	1	小の教科に関する専門的事項（音楽）
小学校国語	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（国語 書写を含む。）
小学校社会	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（社会）
小学校図画工作	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（図画工作）
小学校家庭科	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（家庭）
小学校生活科	2				2				2																	2	小の教科に関する専門的事項（生活）
小学校音楽B	1				1				1																	1	小の教科に関する専門的事項（音楽）
小学校体育B	1				1				1																	1	小の教科に関する専門的事項（体育）
卒業要件	12	4	4	4	10	4	4	4	12	12																	

下記科目は選択科目であるが、教員として必要な内容が含まれている。それぞれ内容を確認し、各自必要に応じて履修することが望ましい。

- ・小学校音楽B = 小学校音楽科の教材のピアノ弾き歌いや読譜等の実技実習を行う。鍵盤楽器の未経験者を対象とする。
- ・小学校体育B = 体育の授業において有効と思われる教材や教具の開発を行い、その有効性を検証する実技を中心としたアクティブラーニングによって、改善・修正の過程を通じた実践的指導力の向上を図る授業をする。

### 3.2.(2) 小学校・教科の指導法

科目名	コース・単位数										標準履修年次												取得上限単位	免許上の科目
	小学校教育コース		中学校教育コース		理数教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年									
	小一 必修	小二 選択	小一 必修	小二 選択	小一 必修	小二 選択	小一 必修	小二 選択	小一 必修	小二 選択	前	後	前	後	前	後	前	後						
国語科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(国語)				
社会科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(社会)				
算数科教育法	2		2		2		2		2										2	小(算数)				
理科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(理科)				
生活科教育法	2		2		2		2		2										2	小(生活)				
音楽科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(音楽)				
図画工作科教育法	2		2		2		2		2										2	小(図画工作)				
家庭科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(家庭)				
体育科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(体育)				
英語科教育法(小)	2		2		2		2		2										2	小(英語)				
卒業要件	20	12	20	12	20	12	20	12	20	12	20	12	20	12	20	12	20	12	20	小学校・教科の指導法				





区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教 科 専 門 科 目	経済学概論	2	***2		2		2											***どちらか1科目選択必修 小学校教育コースは2年前期で履修すること
	国際経済論	2		2		2		2										
	経済学特殊講義	2		2		2		2										
	哲学概論	2	****2		2		2											倫理学概論と隔年開講 ****どちらか1科目選択必修
	哲学史	2		2		2		2										倫理思想史と隔年開講
	倫理学概論	2	****2		2		2											哲学概論と隔年開講 ****どちらか1科目選択必修
	倫理思想史	2		2		2		2										哲学史と隔年開講
	哲学特殊講義 A	2		2		2		2										
	哲学特殊講義 B	2		2		2		2										
	倫理学特殊講義 A	2		2		2		2										
	倫理学特殊講義 B	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 A	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 B	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 C	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 D	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別演習 E	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別研究	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別研究	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別研究	2		2		2		2										
	哲学・倫理学特別研究	2		2		2		2										
	社会科教育学概論 A (地理歴史)	2		2	2		****2											****どちらか1科目選択必修
	社会科教育学特殊講義 A (地理歴史)	2		2		2		2										
	社会科教育学特殊講義 A (地理歴史)	2		2		2		2										
	社会科教育学特別演習 A (地理歴史)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学特別演習 A (地理歴史)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学特別演習 A (地理歴史)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学特別演習 A (地理歴史)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学概論 B (公民)	2		2	2		****2											****どちらか1科目選択必修
	社会科教育学特殊講義 B (公民)	2		2		2		2										
	社会科教育学特殊講義 B (公民)	2		2		2		2										
	社会科教育学特別演習 B (公民)	2		2		2		2										2年に一度開講
	社会科教育学特別演習 B (公民)	2		2		2		2										2年に一度開講
社会科教育学特別演習 B (公民)	2		2		2		2										2年に一度開講	
社会科教育学特別演習 B (公民)	2		2		2		2										2年に一度開講	
卒業要件		14		24	6	22	2											
		14		30	6	24												

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教 科 専 門 科 目	小学校社会	2		2		2		2										
	社会科教育法 (小)	2	2			2		2										教科の指導法 (小学校)
	社会科教材研究法	2		2		2		2										
	社会科学習内容構築論	2		2		2		2										
	中等社会科教育法 A (社会・地歴)	2	2			2		2										教科の指導法 (中学校)
	中等社会科教育法 B (社会・公民)	2				2		2										
	地理歴史科教育法	2		2		2		2										教科の指導法 (高校:地歴)
公民科教育法	2		2		2		2										教科の指導法 (高校:公民)	
卒業要件		4		8		8												

備考 標準履修年次の中の「 」は、その期間のいずれかに開講するもので、毎年、前・後期に必ず開講されるものではないことを示している。

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。



(4) 音楽サブコース

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考			
		単位数	小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年				
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後		
教 科 専 門 科 目	ソルフェージュ A	1	1*	1*	1*	1*												*原則としてAは中学校、Bは小学校・特支コースを対象とする。	
	ソルフェージュ B	1																	
	ソルフェージュ A	1	1*	1*	1*	1*												*原則としてAは中学校、Bは小学校・特支コースを対象とする。	
	ソルフェージュ B	1																	
	声楽	1	1		1		1												小学校コースは2年前期、中学校コースは1年前期で履修。
	声楽	1		1		1													
	声楽	1		1		1													
	合唱	1	1		1		1												
	器楽 A	1	1		1		1												小学校コースは2年前期、中学校コースは1年前期で履修
	器楽 A	1		1		1													
	器楽 A	1		1		1													
	器楽 B	1		1		1													小学校コースは2年前期、中学校コースは1年前期から履修可
	器楽 B	1		1		1													
	器楽 B	1		1		1													
	器楽 B	1		1		1													
	伴奏法	1	1		1		1												原則として器楽Aを履修済みの学生を対象とする
	合奏 A	1	1		1		1												
	合奏 B	1		1		1													
	器楽 C	1	1		1		1												
	器楽 D	1		1		1													
	指揮法	1	1		1		1												
	音楽理論	2	2		2		2		中	小									小学校コースは1年後期、中学校コースは1年前期で履修
	音楽理論	2		2		2			中	小									小学校コースは2年後期、中学校コースは1年後期で履修
	作曲法	2	2		2		2												
	作曲法	2		2		2													
	音楽史	2	2		2		2												
	声乐演習	1		1		1													
	声乐演習	1		1		1													
	声乐演習	1		1		1													
	声乐演習	1		1		1													
器楽演習 A	1		1		1														
器楽演習 A	1		1		1														
器楽演習 A	1		1		1														
器楽演習 A	1		1		1														
器楽演習 B	1		1		1														
器楽演習 B	1		1		1														
器楽演習 B	1		1		1														
器楽演習 B	1		1		1														
作曲演習	1		1		1														
作曲演習	1		1		1														
作曲演習	1		1		1														
作曲演習	1		1		1														
音楽科教育学演習	1		1		1														
音楽科教育学演習	1		1		1														
音楽科教育学演習	1		1		1														
音楽科教育学演習	1		1		1														
卒業要件		14		19	11	13	11												
		14		30		24													

備考 個人指導の科目は、所属学生及び免許取得希望学生以外の選択を認めない。

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考		
		単位数	小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後	
教 科 専 門 科 目	小学校音楽 A	1		1		1												
	小学校音楽 B	1		1		1												
	音楽科教育法(小)	2	2			2		2										教科の指導法(小学校)
	音楽科教育法	2	2			2		2										教科の指導法(中学校)
	音楽科教育法	2		2		2		2										
	音楽科教育法演習 A	1		1		1		1										
	音楽科教育法演習 B	1		1		1		1										
卒業要件		4		8		8												

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

(5) 美術サブコース

区分	科目名	単位数	コース・単位数						標準履修年次								備考	
			小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後		
教 科 専 門 科 目	絵画基礎	2	2		2		2											小学校教育コースの学生は、1年前期には受講不可
	彫刻基礎	2	2		2		2											小学校教育コースの学生は、1年前期には受講不可
	デザイン基礎	A 2	2		2		2											小学校教育コースの学生は、1年前期には受講不可
	工芸基礎	2	2		2		2											
	美術史入門	2	2		2		2											
	造形特別演習(絵画)A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(絵画)B	2		2		2		2						*				*は隔年開講
	造形特別演習(絵画)C	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(絵画)D	2		2		2		2						*				*は隔年開講
	造形実習(絵画)A	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)B	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)C	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)D	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)E	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(絵画)F	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形特別演習(彫刻)A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(彫刻)B	2		2		2		2						*				*は隔年開講
	造形特別演習(彫刻)C	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(彫刻)D	2		2		2		2						*				*は隔年開講
	造形実習(彫刻)A	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)B	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)C	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)D	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)E	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(彫刻)F	1		1		1		1										3年に一度開講
	デザイン基礎	B 2	2		2		2		2									
	造形特別演習(デザイン)	2		2		2		2										
	造形特別演習(視覚文化)A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形特別演習(視覚文化)B	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講
	造形実習(視覚文化)A	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(視覚文化)B	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形実習(視覚文化)C	1		1		1		1										3年に一度開講
	造形特別演習(工芸)A	2		2		2		2										備考1)参照
	造形特別演習(工芸)B	2		2		2		2										備考1)参照
	造形特別演習(工芸)C	2		2		2		2										備考1)参照
	造形特別演習(工芸)D	2		2		2		2										備考1)参照
	造形実習(工芸)A	1		1		1		1										備考2)参照
	造形実習(工芸)B	1		1		1		1										備考2)参照
	造形実習(工芸)C	1		1		1		1										備考2)参照
	造形実習(工芸)D	1		1		1		1										備考2)参照
	美術史	2		2		2		2										
	美術史	2		2		2		2										
美術史特別演習A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講	
美術史特別演習B	2		2		2		2						*				*は隔年開講	
美術史特別演習C	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講	
美術史特別演習D	2		2		2		2						*				*は隔年開講	
色彩論特別演習	2		2		2		2											
美術科教育特別演習A	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講	
美術科教育特別演習B	2		2		2		2						*				*は隔年開講	
美術科教育特別演習C	2		2		2		2					*	*				*は隔年開講	
美術科教育特別演習D	2		2		2		2						*				*は隔年開講	
卒業要件		10	4	10	20	10	14											
				14		30		24										

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考			
		単位数	小学校教育コース		中学校教育コース		特別支援教育コース		1年		2年		3年		4年				
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後		
教科専門科目	小学校図画工作	2		2		2		2											
	図画工作科教育法	2	2			2		2											教科の指導法（小学校）
	美術科教育法	2	2			2		2											教科の指導法（中学校）
	美術科教育法	2		2		2		2											
	美術科教育法	2		2		2		2											
	美術科教育法	2		2		2		2											
卒業要件			4		8		8												

免許については、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

備考1) 造形特別演習(工芸) A・Cは窯芸の内容を、B・Dは染織の内容をそれぞれ扱う。

備考2) 造形実習(工芸) A・Cは窯芸の内容を、B・Dは染織の内容をそれぞれ扱う。

上記の科目は、道具及び作業スペースの都合上、受講者多数の場合、人数制限を行う。その場合、(人) 芸文プログラム(主専攻) 希望学生、(教) 美術免許取得学生、単位履修者を優先する。

造形特別演習(工芸)は、造形実習(工芸)を履修済みであることが望ましい。また、造形特別演習(工芸) C・Dは、造形特別演習(工芸) A・Bを履修済みであることが望ましい。



(7) 教育学サブコース

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目				
		単位数	学校教育教員養成課程全学生		小一種+中二種		小一種+特支一種		1年		2年		3年		4年						
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前			後			
教職専門科目	教職入門	2	2																	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	
	教育概論	2	2																	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	
	教育の思想	2		2		2		2											*	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	
	教育の歴史	2	2			2		2											*		
	教育学特殊講義A	2		2		2		2											**		
	教育学演習A	1		3		3		3											***		
	教育学演習B	1		3		3		3											***		
	教育法規	2	2			2		2											*		
	学校経営・制度論	2		2		2		2											*	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項	
	教育学演習D	1		3		3		3											***		
	教育学演習E	1		3		3		3											***		
	教育学演習F	1		3		3		3											***		
	教育課程・教育方法論	2	2																		教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)教育の方法及び技術
	教育学特殊講義B	2		2		2		2												**	
	道徳教育の理論と実践	2	2																		道徳の理論及び指導法
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2																		総合的な探究の時間の指導法
	特別活動の理論と方法	2	2																		特別活動の指導法
	教育学演習C	1		3		3		3												***	教育の方法及び技術
	教育学演習G	1		3		3		3												***	
	授業実践研究	2		2		2		2													
卒業要件					10		6														

備考 \* 学校教育教員養成課程全体の卒業要件科目(別欄の選択必修2科目)とは別に2単位以上選択必修。

\*\* 学校教育教員養成課程全体の卒業要件科目(別欄の選択必修1科目)とは別に2単位以上選択必修。

\*\*\* 教育学演習A~Gから2種類以上、計2単位以上選択必修とする(「3」は上限単位数)。

標準履修年次中の「」は、その期間のいずれかに開講するもので、毎年、前・後期に必ず開講されるものではないことを示している。

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目				
		単位数	学校教育教員養成課程全学生		小一種+中二種		小一種+特支一種		1年		2年		3年		4年						
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前			後			
教科専門科目	生活科教育法	2	小 2	中 2																	教科の指導法(小学校)
	家庭科教育法(小)	2	2	2																	教科の指導法(小学校)
	小学校生活科	2		2																	教科に関する専門的事項(小学校・生活)
	小学校家庭科	2		2																	教科に関する専門的事項(小学校・家庭)
卒業要件					10		6														

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。



(9) 情報教育学サブコース

区分	科目名	コース・単位数						標準履修年次								備考	免許法上の科目	
		単位数	学校教育教員養成課程全学生		小一種+中二種		小一種+特支一種		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前			後
教職専門科目	教育におけるICT活用法	1	1															情報通信技術を活用した教育の理論及び方法
	プログラミング基礎	1	1															大学が独自に設定する科目
	STEAM教育実践演習	2		2	2		2										備考1)	
教科専門	教育情報システム演習	2		2	2		2										備考2)	教科に関する専門的事項(技術)
	基礎統計解析の理論と実践	2		2	2		2											
	多変量解析の理論と実践	2		2		2		2									備考3)	
	情報社会と倫理	2		2	2		2										備考4)	
	統計的機械学習実践	2		2	2		2										備考5)	
卒業要件					10		6											
					10		6											

備考1 通年に2単位の科目であるが、後期については一部集中的に講義を開講する。実施日については4月のオリエンテーションで確認して日程調整すること。

備考2 ICT活用教育を含む。

備考3 原則「基礎統計解析の理論と実践」の単位取得してから履修すること。全員履修することが望ましい。

備考4 情報モラル教育を含む。

備考5 プログラミングを含む。

注1 中学校教諭二種免許状を取得する学生は、表中選択扱いになっている「多変量解析の理論と実践」も卒業要件の「選択科目」として履修することが望ましい。

注2 特別支援学校教諭の免許状を取得する学生は、表中選択扱いになっている3科目も卒業要件の「選択科目」等として履修することが望ましい。

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

(10) 特別支援教育サブコース(小学校教育コース)

区分	科目名	単位数				標準履修年次								備考	免許法上の科目					
		小一種+中二種		小一種+特支一種		1年		2年		3年		4年			特別支援学校教諭					
		必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前	後							
所属専門科目	特別支援教育概説	2		2													特別支援教育の基礎理論に関する科目			
	知的障害者の心理・生理・病理	2		2													心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	(中心となる領域)	知的障害者	
	特別支援心理検査法	2			2													知的障害者	知的障害者	
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2		2															肢体不自由者	病弱者
	病弱者の心理・生理・病理	2		2															知的障害者	知的障害者
	知的障害教育課程論	2		2															知的障害者	知的障害者
	知的障害教育指導法	2		2															知的障害者	知的障害者
	特別支援教育指導法	2		2															知的障害者	知的障害者
	知的障害教育授業論	2			2														知的障害者	知的障害者
	肢体不自由教育課程・指導法	2		2															肢体不自由者	病弱者
	病弱教育課程・指導法	2		2															病弱者	
	特別支援教育実践論	2			2										原則、集中講義				・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目 ・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	知的障害者
	視覚障害教育総論	1		1															免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	視覚障害者
	聴覚障害教育総論	1		1															・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	聴覚障害者
	言語障害教育総論	1		1															・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	発達障害者(言語)
	重複障害教育総論	1		1															・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	重複
	発達障害総論	1		1															・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	発達障害者(自閉・情緒・LD・ADHD)
	発達障害教育指導法	2			2														・心身に障害のある幼児、児童又は生徒の教育課程及び指導法に関する科目	発達障害者(情緒・LD・ADHD)
特別支援教育実習	2			2															心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習	
特別支援教育実習研究	1			1																
卒業要件		10		26	6															
		10		32																
		小一種+中二種		小一種+特支一種																

区分	科目名	単位数	学校教育教員養成課程全学生		標準履修年次								備考	免許法上の科目						
			必修	選択	1年		2年		3年		4年									
					前	後	前	後	前	後	前	後								
教職	特別支援教育	2	2																	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。



(2) 数学サブコース

区分	科目名	コース・専修・単位数						標準履修年次								備考						
		単位数	理数教育コース 小学校教育専修		理数教育コース 中学校教育専修		特別支援 教育コース		1年		2年		3年		4年							
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後					
教科 専門 科目	代 数 学	2	2		2		2															
	代 数 学	2	2		2		2															
	代 数 学	2		2		2		2														
	代 数 学	2		2		2		2														
	幾 何 学	2	2		2		2															
	幾 何 学	2	2		2		2															
	幾 何 学	2		2		2		2														
	幾 何 学	2		2		2		2														
	解 析 学	2	2		2		2															
	解 析 学	2	2		2		2															
	解 析 学	2		2		2		2														
	確 率 論 入 門	2	2		2		2															
	ブ ロ グ ラ ミ ン グ 入 門	2	2		2		2															
	代 数 学 各 論	2		2	} 2	} 8		2													中学校教育専修所属者は、この中から最低2単位選択すること。	
	幾 何 学 各 論	2		2				2														
	解 析 学 各 論	2		2				2														
	応 用 数 学	2		2				2														
	数 学 教 育	2		2				2														
	代 数 学 特 別 講 義	4		4	} 4	} 4	/															
	幾 何 学 特 別 講 義	4		4																		
解 析 学 特 別 講 義	4		4																			
数 学 教 育 特 別 講 義	4		4																			
卒 業 要 件		16	4	22	6	16	8															
		20		28		24																

区分	科目名	コース・専修・単位数						標準履修年次								備考					
		単位数	理数教育コース 小学校教育専修		理数教育コース 中学校教育専修		特別支援 教育コース		1年		2年		3年		4年						
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後				
教職	I C T を 活 用 し た 理 数 教 育	2	2		2		/														大学が独自に設定する科目：小学校、中学校（理科・数学）、高等学校（理科・数学）に使用できる免許科目
教科 専門 科目	小 学 校 算 数	2		2	2		2														
	算 数 科 教 育 法	2	2		2		2														教科の指導法（小学校）
	数 学 科 教 育 法	2	2		2		2														教科の指導法（中学校）
	数 学 科 教 育 法	2	2		2		2														
	数 学 科 教 育 法	2	2		2		2														
卒 業 要 件		12		10		8															

- 備考 1 ここに示された順序に従って履修すること。標準履修年次中の「 / 」はその期間のいずれかに開講することを示している。
- 2 所属学生は、卒業研究のため代数学、幾何学、解析学、数学教育の各特別講義の一つを選択すること。
- 3 数学教育及び数学教育特別講義は、免許取得に必要とされる「教科専門科目（教科に関する専門的事項）」の科目（20単位）には属さないため履修には留意されたい。（-63ページ参照）
- 免許については、「4. 副免及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

### 3.5 特別支援教育コースの開講科目

区分	科目名	単位数		標準履修年次								備考	免許法上の科目			
		単位数	小学校基礎免許 中学校基礎免許		1年		2年		3年		4年		特別支援学校教諭			
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後			
所属専門科目	特別支援教育概説	2	2											特別支援教育の基礎理論に関する科目		
	知的障害者の心理・生理・病理	2	2											特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	(中心となる領域)
	特別支援心理検査法	2	2													知的障害者
	肢体不自由者の心理・生理・病理	2	2													知的障害者
	病弱者の心理・生理・病理	2	2													知的障害者
	知的障害教育課程論	2	2													知的障害者
	知的障害教育指導法	2	2													知的障害者
	特別支援教育指導法	2	2													知的障害者
	知的障害教育授業論	2	2													知的障害者
	肢体不自由教育課程・指導法	2	2													知的障害者
	病弱教育課程・指導法	2	2											知的障害者		
	特別支援教育実践論	2	2										原則、集中講義	特別支援教育領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	知的障害者
	視覚障害教育総論	1	1											免許状に定められることとなる特別支援教育領域以外の領域に関する科目	心身に障害のある幼児、児童又は生徒の心理、生理及び病理に関する科目	視覚障害者
	聴覚障害教育総論	1	1													聴覚障害者
	言語障害教育総論	1	1													発達障害者(言語)
	重複障害教育総論	1	1													重複
	発達障害総論	1	1													発達障害者(自閉・情緒・LD・ADHD)
	発達障害教育指導法	2	2													発達障害者(情緒・LD・ADHD)
特別支援教育実習	2	2											心身に障害のある幼児、児童又は生徒についての教育実習			
特別支援教育実習研究	1	1														
卒業要件		26														

区分	科目名	単位数	学校教育教員養成課程全学生	標準履修年次								備考	免許法上の科目
				1年		2年		3年		4年			
				前	後	前	後	前	後	前	後		
教職	特別支援教育	2	2										特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解

備考 基礎免許として中学校を選択する場合、履修状況や卒業要件単位数などを確認する際は、「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」又は「3.4 理数教育コースの開講科目」にある各教科の「特別支援教育コース」欄を見ること。

免許については、「4. 副免許及びその他の教員免許の取り方について」以降のページから必ず確認すること。

## 4 . 副免及びその他の教員免許の取り方について

小学校教育コース、中学校教育コース、理数教育コースの学生は、それぞれの所属コースの定めにより、主免となる教員免許に加えて副免となる教員免許の取得が卒業の要件となっています。特別支援教育コースの学生は、特別支援学校の教員免許に加えて、基礎免として小学校教員免許あるいは中学校教員免許のいずれかを取得することが卒業要件となっています。

また、卒業の要件としては二種免許の取得を課されている場合、さらに必要な単位を修得することにより一種免許を取得することができます。この他、卒業要件以外の教員免許についても所定の単位を修得することにより免許の取得が可能です。

以下、コース毎に教員免許の取得について記載します。

### < 副免及びその他の教員免許の取り方についての基本的な考え方 >

主免と副免の組み合わせパターンは、すでに『履修の手引き』「1.4 課程等の紹介」「2.1 卒業要件単位数」の項で説明したように、コース(サブコース)ごとに異なります。また、同じ一つの組み合わせパターンであっても、副免として取得しようとする免許の種類によって具体的に履修すべき科目内容が異なってきます。けれども副免に関する科目を履修する際の基本的な考え方は共通していますので、この項ではその概要を説明します。

以下の 4.2 では教員免許取得のために必要な単位の一覧表が掲載されています(4.2.1 は小学校教員免許、4.2.2 は中学校教員免許 / 高等学校教員免許)。ここで留意していただきたいのは、副免用にすべての科目を新たに最初から履修するというのでは決してなく、すでに主免用に履修した科目で副免用の科目としてもカウントできるものもあります。教職専門科目などは多くの場合これに該当します。

副免について考えるときにまず皆さんに行っていただきたいのは、「4.2 教員免許取得のための必要単位」をよく確認し、取得しようとする免許に必要な科目を調べ、その中からすでに主免として履修済みの科目(教職専門科目など)を差し引いた上で、副免用に新たに履修しなくてはならない科目を特定してください。

なお、ここまでの説明は、「副免」を例にして進めてきましたが、「その他の免許」の場合にもそのままあてはまりますので、必要に応じて「副免」を「その他の免許」に読み替えてください。

### 4 . 1 コース毎の教員免許の取得について

#### 4 . 1 . 1 小学校教育コース

##### (1) 国語・社会・英語・音楽・美術・保健体育の各サブコース

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許(一種)及び副免となる中学校教員免許(二種)を取得することができます。

ここで保健体育については、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(1)の区分：所属専門科目16単位と、「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の保健体育サブコース欄に記載されている卒業要件単位数21単位が異なってい

ますが、必ず「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従ってください。これは中学校教員免許（二種）を取得するための教科専門科目の最低修得単位数が、保健体育（21単位）であるため、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(1) 中の区分：所属専門科目16単位では免許取得に必要な最低修得単位数を満たさないためです。

中学校教員免許を一種免許にする場合を含め、卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

## （2）教育学・心理学・情報教育学の各サブコース

### < 中学校教員免許（二種）を副免とする場合 >

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許（一種）を取得することができます。

副免を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」以降に記載された科目の単位を修得する必要があります。「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(2) 中の区分：選択必修科目12単位を利用して、副免とする中学校教員免許の教科専門科目を取ります。ただし教科によっては教科専門科目の最低修得単位数が12単位を超える教科があるので、その場合には「4.2教員免許取得のための必要単位」以降の各教科の記載に従い、教科専門科目の最低修得単位数以上の科目の単位を修得してください。（教科専門科目の最低修得単位数：国語（12）、社会（16）、技術（15）、英語（12）、音楽（15）、美術（12）、保健体育（21）、理科（14）、数学（12））

中学校教員免許を一種免許にする場合を含め、卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

### < 特別支援学校教員免許（一種）を副免とする場合 >

教育学サブコース、心理学サブコース及び情報教育学コースの学生は、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許（一種）を取得することができます。また「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.1(3) 中の区分：選択必修科目26単位を利用して、「4.2教員免許取得のための必要単位」以降に記載された特別支援学校欄の科目の単位を修得することにより、副免となる特別支援学校教員免許（一種）が取得できます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

## （3）特別支援教育サブコース

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許（一種）及び副免となる特別支援学校教員免許（一種）を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」

に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

#### 4.1.2 中学校教育コース

##### (1) 小学校教員免許(二種)を副免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる中学校教員免許(一種)及び副免となる小学校教員免許(二種)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

##### (2) 主免と異なる教科の中学校教員免許(二種)を副免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる教科の中学校教員免許(一種)を取得することができます。副免を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」以降に記載された該当教科の科目の単位を修得する必要があるため、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.2(2)中の区分：教科専門科目【副免】12単位を利用して、副免とする中学校教員免許の教科専門科目を取ります。ただし教科によっては教科専門科目の最低修得単位数が12単位を超える教科があるので、その場合には「4.2教員免許取得のための必要単位」以降の各教科の記載に従い、教科専門科目の最低修得単位数以上の科目の単位を修得してください。(教科専門科目の最低修得単位数：国語(12)、社会(16)、技術(15)、英語(12)、音楽(15)、美術(12)、保健体育(21)、理科(14)、数学(12))

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

#### 4.1.3 理数教育コース

##### (1) 小学校教育専修

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.4 理数教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる小学校教員免許(一種)及び副免となる中学校教員免許(一種)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

##### (2) 中学校教育専修

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.4 理数教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、主免となる中学校教員免許(一種)及び副免となる小学校教員免許(二種免)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」

に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

#### 4.1.4 特別支援教育コース

##### (1) 小学校教員免許(一種)を基礎免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.5 特別支援教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、基礎免となる小学校教員免許(一種)及び特別支援学校教員免許(一種)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

##### (2) 中学校教員免許(一種)を基礎免とする場合

「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」及び「3.5 特別支援教育コースの開講科目」の記載に従い単位を修得することにより、特別支援学校教員免許(一種)を取得することができます。基礎免は、「2. 教育学部の専門教育科目卒業要件」の表2.2.4(2)中の区分：教科専門科目32単位を利用して、「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」または「3.4 理数教育コースの開講科目」から、基礎免として選択する教科の「特別支援教育コース」欄に従い単位を修得することにより、中学校教員免許(一種)を取得することができます。

卒業要件以外の教員免許を取得する場合には、「4.2教員免許取得のための必要単位」に記載された科目の単位を修得する必要がある、卒業要件で修得する単位以外の科目の単位を加えることによって免許の取得ができます。

## 4.2 教員免許取得のための必要単位

教員免許の取得に必要な科目・単位を以下にまとめて示します。

### 4.2.1 小学校教員免許

#### (1) 一覧表

	二種免許	単位数	一種免許	単位数
教職 専門 科目	教職入門	2	教職入門	2
	教育概論	2	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2	発達心理学	2
	特別支援教育	2	特別支援教育	2
	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊 講義Aから1科目	2	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊 講義Aから1科目	2
	教育法規 又は 学校経営・制度論	2	教育法規 又は 学校経営・制度論	2
	道德教育の理論と実践	2	道德教育の理論と実践	2
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1
	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2	教育相談	2
	教育実習研究(小)	1	教育実習研究(小)	1
小学校教育実習	2	小学校教育実習	2	
教職実践演習	2	教職実践演習	2	
教科 専門 科目	教科専門科目(小学校)注1)	4	教科専門科目(小学校)注1)	10
	教科の指導法(小学校)注2)	12	教科の指導法(小学校)注2)	20
大学 が独 自に 設定 する 科目	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1
合計		51		65

注1) 「教科専門科目(小学校)」(選択必修)の具体的な科目は、次ページ別表(2)教科専門科目(小学校)を参照すること。

注2) 「教科の指導法(小学校)」の具体的な科目は、次ページ別表(3)教科の指導法(小学校)を参照すること。二種免許の12単位の選択必修においては、音楽、図画工作、体育のうちから必ず2科目以上を履修すること。

別表（２）教科専門科目（小学校）

教科専門科目	単位数
小学校算数	2
小学校理科	2
小学校音楽 A	1
小学校体育 A	1
小学校英語	2
小学校国語	2
小学校社会	2
小学校図画工作	2
小学校家庭科	2
小学校生活科	2
小学校音楽 B	1
小学校体育 B	1

別表（３）教科の指導法（小学校）

教科専門科目	単位数
・国語科教育法（小）	2
・社会科教育法（小）	2
・算数科教育法	2
・理科教育法（小）	2
・生活科教育法	2
・音楽科教育法（小）	2
・図画工作科教育法	2
・家庭科教育法（小）	2
・体育科教育法（小）	2
・英語科教育法（小）	2

二種免許の12単位の選択必修においては、音楽、図画工作、体育のうちから必ず2科目以上を履修すること。

4.2.2 中学校教員免許 / 高等学校教員免許

(1) 一覧表

	中学校二種免許	単位数	中学校一種免許	単位数	高等学校一種免許	単位数
教職 専門 科目	教職入門	2	教職入門	2	教職入門	2
	教育概論	2	教育概論	2	教育概論	2
	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2	学校安全学と防災教育	2
	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2	教育・学校心理学	2
	発達心理学	2	発達心理学	2	発達心理学	2
	特別支援教育	2	特別支援教育	2	特別支援教育	2
	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊講義Aから1科目	2	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊講義Aから1科目	2	教育の思想、教育の歴史、教育学特殊講義Aから1科目	2
	教育法規 又は 学校経営・制度論	2	教育法規 又は 学校経営・制度論	2	教育法規 又は 学校経営・制度論	2
	道德教育の理論と実践	2	道德教育の理論と実践	2		
	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2	総合的な学習の時間の理論と実践	2
	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2	特別活動の理論と方法	2
	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2	教育課程・教育方法論	2
	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1	教育におけるICT活用法	1
	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2	生徒指導・進路指導	2
	教育相談	2	教育相談	2	教育相談	2
	教育実習研究(中・高)	1	教育実習研究(中・高)	1	教育実習研究(中・高)	1
中学校教育実習	2	中学校教育実習	2	中学校教育実習	2	
教職実践演習	2	教職実践演習	2	教職実践演習	2	
教科 専門 科目	教科に関する専門的事項	10~19	教科に関する専門的事項	20	教科に関する専門的事項	20
	教科の指導法(中学校)		教科の指導法(中学校)		教科の指導法(中学校)	
大学 が独 自に 設定 する 科目	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1	プログラミング基礎	1
					下記注2)を参照して修得すること。	
合計		47~56		63		59

注1) 教科専門科目(教科に関する専門的事項及び教科の指導法)の具体的な科目は、「(2)教科毎の科目・中・高」以降を参照して、単位を修得すること。

注2) (2)教科毎の科目・中・高の各教科の「高校一種」欄で選択科目となっている科目又は、別表(2)各免許校種の「大学が独自に設定する科目」に使用できる科目(65ページ)で、高校に使用できる科目から2単位を選択。

(2)教科毎の科目・中・高  
 中学校(国語)、高等学校(国語)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (国語)		中学校二種 (国語)		高校一種 (国語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む)	日本語学概論A	} 2	2	} 2	2	} 2	2
	日本語学概論B						
国語学	日本語学講義A		2		2		2
	日本語学講義B		2		2		2
	日本語学講義C		2		2		2
	日本語学講義D		2		2		2
	日本語学特別演習A		2		2		2
	日本語学特殊講義		2		2		2
国文学 (国文学史含む)	国文学史A	} 2	4	} 2	4	} 2	4
	国文学史B						
	国文学史C						
国文学	国文学講義A		2		2		2
	国文学講義B		2		2		2
	国文学特別演習A		2		2		2
	国文学特別演習B		2		2		2
	国文学実地研究		2		2		2
	国文学特殊講義		2		2		2
漢文学	漢文学概論	} 2	2	} 2	2	} 2	2
	漢文学講義						
	論語講読		2		2		2
	漢字の文化誌		2		2		2
	漢文学実地研究		2		2		2
	漢文学特別演習		2		2		2
	漢文学特殊講義		2		2		2
書道 (書写を中心とする)	書法基礎	2		2			
	合計	8	12	8	2	6	14

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (国語)		中学校二種 (国語)		高校一種 (国語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法 (国語)	国語科教育法	2		2		2	
	国語科教育法	2			2	2	
	国語科教育法	2			2		2
	国語科教育法	2			2		2
	合計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (国語)		中学校二種 (国語)		高校一種 (国語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (国語)	国語科教育実践特別演習		2		2		2

中学校(社会)、高等学校(地理歴史)(公民)

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種(社会)		中学校二種(社会)		高校一種(地理歴史)		高校一種(公民)		備考
教科に関する専門的事項			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
中学校	高校										
日本史	日本史	日本史概論 A	2		2		2				
		日本史概論 B		2		2		2			
		日本近現代史		2		2		2			
		考古学概論		2		2		2			
		考古学特殊講義		2		2		2			
外国史	外国史	西洋史概論	(2)		(2)		2				注1：選択必修
		西洋史外書講読 A		2		2		2			
		西洋史外書講読 B		2		2		2			
		西洋史外書講読 C		2		2		2			
		西洋史外書講読 D		2		2		2			
		西洋史特別演習 A		2		2		2			
		西洋史特別演習 B		2		2		2			
		西洋史特別演習 C		2		2		2			
		西洋史特別演習 D		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		西洋史特別研究		2		2		2			
		東洋史概論	(2)		(2)		2				
地理学	人文地理学	人文地理学概論 A	(2)		(2)		2				注1：選択必修
		人文地理学概論 B		2		2		2			
	自然地理学	自然地理学概論 A	(2)		(2)		2				注1：選択必修
		自然地理学概論 B		2		2		2			
	人文地理学及び自然地理学	地理学特別演習 A		2		2		2			
		地理学特別演習 A		2		2		2			
		地理学特別演習 A		2		2		2			
		地理学特別演習 B		2		2		2			
		地理学特別演習 B		2		2		2			
		地理学特別演習 B		2		2		2			
		地理学実習 A		1		1		1			
		地理学実習 A		1		1		1			
		地理学実習 A		1		1		1			
		地理学実習 B		1		1		1			
		地理学実習 B		1		1		1			
地誌学	地誌学	2		2		2					

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (社会)		中学校二種 (社会)		高校一種 (地理歴史)		高校一種 (公民)		備考	
教科に関する専門的事項			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択		
中学校	高校											
法学	法律学(国際法を含む)	法学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		人権と教育		2		2				2		
	法律学	法と人権実習		1		1					1	
		法学特別演習 A		2		2					2	
		法学特別演習 B		2		2					2	
		法学特別演習 C		2		2					2	
		法学特別演習 D		2		2					2	
		法学特別演習 E		2		2					2	
		法学特殊講義 A		2		2					2	
法学特殊講義 B		2		2					2			
政治学	政治学	現代政治と公民教育	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
	国際政治学	国際政治学		2		2			(2)		注2: 選択必修	
社会学	社会学	社会学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		社会学特殊講義 A		2		2				2		
		社会学特殊講義 B		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 A		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
		社会学特別演習 B		2		2					2	
経済学	経済学	経済学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		経済学特殊講義		2		2				2		
	国際経済	国際経済論		2		2			(2)		注2: 選択必修	
哲学、倫理学	哲学、倫理学	哲学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		哲学史		2		2				2		
		哲学特殊講義 A		2		2				2		
		哲学特殊講義 B		2		2				2		
		倫理学概論	(2)		(2)				(2)		注1: 選択必修 注2: 選択必修	
		倫理学特殊講義 A		2		2				2		
		倫理学特殊講義 B		2		2				2		
		倫理思想史		2		2				2		
		哲学・倫理学特別演習 A		2		2				2		
		哲学・倫理学特別演習 B		2		2				2		
		哲学・倫理学特別演習 C		2		2				2		
		哲学・倫理学特別演習 D		2		2				2		
哲学・倫理学特別演習 E		2		2				2				

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (社会)		中学校二種 (社会)		高校一種 (地理歴史)		高校一種 (公民)		備考
中学校	高校		必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択	
哲学、倫理学	哲学、倫理学	哲学・倫理学特別研究		2		2	/	/		2	
		哲学・倫理学特別研究		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究		2		2				2	
		哲学・倫理学特別研究		2		2				2	
合計			14	6	14		12	8	6~10*	14~10*	

注1：中学校社会一種または二種免許取得の場合、選択必修 の科目から1科目、選択必修 から1科目、選択必修 から1科目、  
選択必修 から1科目、選択必修 から1科目選択すること。

注2：高校一種（公民）免許取得の場合、選択必修 は「法学概論」または「現代政治と公民教育」+「国際政治学」（2科目両方選択）」のいずれか  
を選択、選択必修 は「社会学概論」または「経済学概論」+「国際経済論」（2科目両方選択）」のいずれかを選択、選択必修 は2科目から  
いずれか1科目を選択すること。

\* 高校一種（公民）は、注2の選択の組合せによって「必修6単位/選択14単位」、「必修8単位/選択12単位」、「必修10単位/選択10単位」となります。

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (社会)		中学校二種 (社会)		高校一種 (地理歴史)		高校一種 (公民)							
教科の指導法			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択						
中学校の教科指導法（社会）	社会科教材研究法	2		} 2	6	/	/	/	/	/						
	社会科学習内容構築論	2														
中・高の教科指導法（社会・地歴）	中等社会科教育法A（社会・地歴）	2									2					
中・高の教科指導法（社会・公民）	中等社会科教育法B（社会・公民）	2													2	
高校の教科指導法（地歴）	地理歴史科教育法					2										
高校の教科指導法（公民）	公民科教育法								2							
合計		8			2		4		4							

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (社会)		中学校二種 (社会)		高校一種 (地理歴史)		高校一種 (公民)	
			必修	選択	必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (社会)	社会科教育学概論A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学概論B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特殊講義A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特殊講義A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特殊講義B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特殊講義B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特別演習A（地理歴史）		2		2			2		
	社会科教育学特別演習B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特別演習B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特別演習B（公民）		2		2					2
	社会科教育学特別演習B（公民）		2		2					2

中学校(技術)、高等学校(情報)

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (技術)		中学校二種 (技術)		高校一種 (情報)		標準履修年次
教科に関する専門的事項			必修	選択	必修	選択	必修	選択	
中学校	高校								
材料加工(実習を含む)	/	木材加工(製図を含む)	2		2		/	/	2年次前期
		機械材料学	2		2		/	/	2年次前期
		金属加工(製図を含む)	1		1		/	/	2年次後期
機械・電気(実習を含む)	/	機械工学	1		1		/	/	2年次前期
		電気電子工学	1		1		/	/	2年次前期
生物育成	/	栽培理論	2		2		/	/	2年次前期
		栽培理論		2		2	/	/	2年次後期
		作物生産論		2		2	/	/	2年次前期(隔年)
		栽培学実験		1		1	/	/	2年次前期(隔年)
情報とコンピュータ	コンピュータ・情報処理	統計的機械学習実践	2		2			2	3年次前期
		教育情報システム演習	2			2		2	2年次前期
		情報工学	2		2		2		2年次前期
		情報工学		2		2		2	3年次後期
		プログラミング演習		2		2		2	2年次後期
		多変量解析の理論と実践		2		2		2	3年次後期
		基礎統計解析の理論と実践		2		2		2	2年次後期
	情報社会と倫理	2			2	2		2年次後期	
情報社会(職業に関する内容を含む。) ・情報倫理	セキュリティとプライバシー	/	/	/	/		2	理工学部開設科目、 4年次前期	
	情報職業論	/	/	/	/		1	理工学部開設科目、 4年次前期	
情報システム	/	情報システム概論	/	/	/	/	2		3年次前期
		データベース	/	/	/	/	2		理工学部開設科目、 4年次前期
情報通信ネットワーク	/	情報通信ネットワーク演習	/	/	/	/	2		3年次後期
		コンピュータネットワーク	/	/	/	/	2		理工学部開設科目、 4年次後期
マルチメディア表現・マルチメディア技術	/	メディアシステム	/	/	/	/	2		理工学部開設科目、 4年次前期
		コンピュータグラフィックス	/	/	/	/	2		理工学部開設科目、 4年次前期
合計			17	3	13		10	10	

免許法上の区分等		左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (技術)		中学校二種 (技術)		高校一種 (情報)		標準履修年次
教科の指導法			必修	選択	必修	選択	必修	選択	
中学校	高校								
中学校の教科指導法(技術)	/	技術科教育法	2		2		/	/	2年次前期
		技術科教育法	2			2	/	/	2年次後期
		技術科教育法	2			2	/	/	3年次前期
		技術科教育法	2			2	/	/	3年次後期
高校の教科指導法(情報)	/	情報教育法	/	/	/	/	2		2年次後期
		情報教育法	/	/	/	/	2		3年次前期
合計			8		2		4		

中学校(英語)、高等学校(英語)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (英語)		中学校二種 (英語)		高校一種 (英語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
英語学	英語学の世界		2		2		2
	英語の文法	2		2		2	
	英語学特別演習		2		2		2
	英語学特別講義 A		2		2		2
	英語学特別講義 B		2		2		2
英語文学	英語文学概論	2		2		2	
	英語文学特別演習		2		2		2
	英語文学特別演習		2		2		2
	英語文学特別講義 A		2		2		2
	英語文学特別講義 B		2		2		2
英語コミュニケーション	英語音声学講義		2		2		2
	英語音声学特別演習		2		2		2
	英語表現特別演習(S)		2		2		2
	英語表現特別演習(S)		2		2		2
	英語表現特別演習(W)	2		2		2	
	英語表現特別演習(W)		2		2		2
	英語表現特別研究 A		2		2		2
	英語表現特別研究 B		2		2		2
英語表現特別研究 C		2		2		2	
異文化理解	異文化理解	2		2		2	
	英語インターンシッププログラム A		2		2		2
	英語インターンシッププログラム B		2		2		2
	合 計	8	12	8	2	8	12

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (英語)		中学校二種 (英語)		高校一種 (英語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法(英語)	英語科教育法	2		2		2	
	英語科教育法	2			2	2	
	英語科教育法	2			2		2
	英語科教育法	2			2		2
	合 計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (英語)		中学校二種 (英語)		高校一種 (英語)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (英語)	英語科教育法特別演習		2		2		2
	英語科教育法特別演習		2		2		2
	英語科教育法特別講義 A		2		2		2
	英語科教育法特別講義 B		2		2		2

- 備考 1 英語表現特別演習(W)は、必ず ・ の順序で履修すること。  
 2 英語表現特別演習(S) ・ の履修順序の指定はありません。  
 3 英語科教育法は、 ・ ・ の順序で履修すること。

中学校(音楽)、高等学校(音楽)

免許法上の区分等 教科に関する専門的事項	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (音楽)		中学校二種 (音楽)		高校一種 (音楽)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
ソルフェージュ	ソルフェージュA	} 1		} 1		} 1	
	ソルフェージュB						
	ソルフェージュA		} 1		} 1		} 1
	ソルフェージュB						
声乐(日本の伝統的な歌唱法を含む)	声乐	1		1		1	
声乐	声乐		1		1		1
	声乐		1		1		1
	声乐		1		1		1
合唱	合唱	1		1		1	
声乐	声乐演習		1		1		1
	声乐演習		1		1		1
	声乐演習		1		1		1
	声乐演習		1		1		1
器楽	器楽A	1		1		1	
	器楽A		1		1		1
	器楽A		1		1		1
	器楽A		1		1		1
	器楽B		1		1		1
	器楽B		1		1		1
	器楽B		1		1		1
	器楽B		1		1		1
伴奏	伴奏法	1		1		1	
合奏(和楽器を含む)	合奏A	1		1		1	
合奏	合奏B		1		1		1
器楽	器楽C		1		1		1
	器楽D		1		1		1
	器楽演習A		1		1		1
	器楽演習A		1		1		1
	器楽演習A		1		1		1
	器楽演習A		1		1		1
	器楽演習B		1		1		1
	器楽演習B		1		1		1
	器楽演習B		1		1		1
	器楽演習B		1		1		1
指揮法	指揮法	1		1		1	
音楽理論	音楽理論	2		2		2	
	音楽理論		2		2		2
作曲法(編曲法を含む)	作曲法	2		2		2	
	作曲法		2		2		2
作曲法	作曲演習		1		1		1
	作曲演習		1		1		1
	作曲演習		1		1		1
	作曲演習		1		1		1
音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む)	音楽史	2		2		2	
	合計	13	7	13		13	7

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (音楽)		中学校二種 (音楽)		高校一種 (音楽)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法(音楽)	音楽科教育法	2			2	2	
	音楽科教育法	2		2		2	
	音楽科教育法	2			2		2
	音楽科教育法演習A	1			1		1
	音楽科教育法演習B	1			1		1
	合計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (音楽)		中学校二種 (音楽)		高校一種 (音楽)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (音楽)	音楽科教育学演習		1		1		1
	音楽科教育学演習		1		1		1
	音楽科教育学演習		1		1		1
	音楽科教育学演習		1		1		1

備考1 中学校音楽の二種免許取得希望者は音楽科教育法 を必ず履修すること。

2 高等学校音楽の免許取得希望者は音楽科教育法 ・ を必ず履修すること。

中学校(美術)、高等学校(美術)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (美術)		中学校二種 (美術)		高校一種 (美術)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
<small>絵画</small> (映像メディア表現を含む)	絵画基礎	2		2		2	
絵画	造形特別演習(絵画)A		2		2		2
	造形特別演習(絵画)B		2		2		2
	造形特別演習(絵画)C		2		2		2
	造形特別演習(絵画)D		2		2		2
	造形実習(絵画)A		1		1		1
	造形実習(絵画)B		1		1		1
	造形実習(絵画)C		1		1		1
	造形実習(絵画)D		1		1		1
	造形実習(絵画)E		1		1		1
	造形実習(絵画)F		1		1		1
彫刻	彫刻基礎	2		2		2	
	造形特別演習(彫刻)A		2		2		2
	造形特別演習(彫刻)B		2		2		2
	造形特別演習(彫刻)C		2		2		2
	造形特別演習(彫刻)D		2		2		2
	造形実習(彫刻)A		1		1		1
	造形実習(彫刻)B		1		1		1
	造形実習(彫刻)C		1		1		1
	造形実習(彫刻)D		1		1		1
	造形実習(彫刻)E		1		1		1
	造形実習(彫刻)F		1		1		1
	<small>デザイン</small> (映像メディア表現を含む)	デザイン基礎A	2		2		2
デザイン	デザイン基礎B		2		2		2
	造形特別演習(デザイン)		2		2		2
	造形特別演習(視覚文化)A		2		2		2
	造形特別演習(視覚文化)B		2		2		2
	造形実習(視覚文化)A		1		1		1
	造形実習(視覚文化)B		1		1		1
	造形実習(視覚文化)C		1		1		1
	色彩論特別演習		2		2		2

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (美術)		中学校二種 (美術)		高校一種 (美術)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
工芸	工芸基礎	2		2			
	造形特別演習(工芸)A		2		2		
	造形特別演習(工芸)B		2		2		
	造形特別演習(工芸)C		2		2		
	造形特別演習(工芸)D		2		2		
	造形実習(工芸)A		1		1		
	造形実習(工芸)B		1		1		
	造形実習(工芸)C		1		1		
	造形実習(工芸)D		1		1		
美術理論・美術史(鑑賞並びに日本の伝統美術及びアジアの美術を含む)	美術史入門	2		2		2	
美術理論・美術史	美術史		2		2		2
	美術史		2		2		2
	美術史特別演習A		2		2		2
	美術史特別演習B		2		2		2
	美術史特別演習C		2		2		2
	美術史特別演習D		2		2		2
	合 計	10	10	10		8	12

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (美術)		中学校二種 (美術)		高校一種 (美術)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法(美術)	美術科教育法	2		2	6	2	
	美術科教育法	2				2	
	美術科教育法	2					2
	美術科教育法	2					2
	合 計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (美術)		中学校二種 (美術)		高校一種 (美術)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (美術)	美術科教育特別演習A		2		2		2
	美術科教育特別演習B		2		2		2
	美術科教育特別演習C		2		2		2
	美術科教育特別演習D		2		2		2

中学校(保健体育)、高等学校(保健体育)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (保健体育)		中学校二種 (保健体育)		高校一種 (保健体育)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
教科に関する専門的事項	基礎体育実技(体づくり運動含む)	1		1		1	
	体育実技A(水泳含む)	1		1		1	
	体育実技B(冬季スポーツ含む)		1		1		1
	体育実技C(陸上競技含む)	1		1		1	
	体育実技D(器械運動含む)	1		1		1	
	体育実技E(武道含む)	1		1		1	
	体育実技F(ダンス含む)	1		1		1	
	体育実技G(球技含む)	1		1		1	
	体育実技H(球技含む)		1		1		1
	体育実技I(球技含む)		1		1		1
	体育実技J(球技含む)		1		1		1
体育原理	体育学A(体育原理含む)	2	6	2	6	2	6
体育心理学	体育学B(体育心理学含む)						
体育経営管理学	体育学C(体育経営管理学含む)						
体育社会学	体育学D(体育社会学含む)						
運動学 (運動方法学を含む)	運動学(運動方法学含む)	2		2		2	
生理学 (運動生理学を含む)	生理学(運動生理学含む)	2		2		2	
衛生学・公衆衛生学	衛生・公衆衛生学	2		2		2	
学校保健(小児保健、精神保健、学校安全を含む)	学校保健A(小児保健・精神保健・学校安全含む)	2		2		2	
学校保健 (救急処置を含む)	学校保健B(救急処置含む)	2		2		2	
	合計	19	1	19		19	1

いずれか1科目選択必修。

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (保健体育)		中学校二種 (保健体育)		高校一種 (保健体育)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
教科の指導法	保健体育科教育法	2		2		2	
	保健体育科教育法	2			2	2	
	保健体育科教育法	2			2		2
	保健体育科教育法	2			2		2
	合計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (保健体育)		中学校二種 (保健体育)		高校一種 (保健体育)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (保健体育)	体育学実験		1		1		1
	体育学特別演習		2		2		2

中学校(理科)、高等学校(理科)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (理科)		中学校二種 (理科)		高校一種 (理科)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
物理学	物理学 A	2		2		2	
	物理学 B		2		2		2
	古典力学		2		2		2
	電磁気学		2		2		2
	量子力学		2		2		2
	相対性理論		2		2		2
化学	化学 A	2		2		2	
	化学 B		2		2		2
	化学特講 A		2		2		2
	化学特講 B		2		2		2
	化学特講 C		2		2		2
	化学演習 A		1		1		1
	化学演習 B		1		1		1
	化学演習 C		1		1		1
	化学演習 D		1		1		1
生物学	生物学 A	2		2		2	
	生物学 B		2		2		2
	分子生物学		2		2		2
	生物学演習 A		1		1		1
	生物学演習 B		1		1		1
	生命科学演習 A		1		1		1
	生命科学演習 B		1		1		1
地学	地学 A	2		2		2	
	地学 B		2		2		2
	岩石学		2		2		2
	造岩鉱物の識別法		2		2		2
	地学野外巡検		1		1		1
物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験	物理学実験	1		1		(1)	
	物理学実験		1		1	(1)	
	化学実験	1		1		(1)	
	化学実験		1		1	(1)	
	化学専門実験		1		1		1
	生物学実験	1		1		(1)	
	生物学実験		1		1	(1)	
	分子生物学実験		1		1		1
	地学実験	1		1		(1)	
	地学実験		1		1	(1)	
	合 計	12	8	12		10	10

注:高校免許の( )は物理学実験・、化学実験・、生物学実験・、地学実験・のいずれかの科目について、・セットで2単位履修すること。2単位を超えて修得した単位は選択の10単位に使用できる。

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (理科)		中学校二種 (理科)		高校一種 (理科)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法 (理科)	理科教育法	2		2		2	
	理科教育法	2			2	} 2	2
	理科教育法	2			2		
	理科教育法	2			2		
合 計		8		2		4	

いずれか1科目選択必修

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (理科)		中学校二種 (理科)		高校一種 (理科)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (理科)	理科教育特講		2		2		2
	理科教育特講		2		2		2
	理科教育特講		2		2		2
	理科教育学特別演習		2		2		2
	理科教育学特別演習		2		2		2
	理科教育学特別演習		2		2		2

中学校(数学)、高等学校(数学)

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (数学)		中学校二種 (数学)		高校一種 (数学)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
代数学	代数学	2		2		2	
	代数学		2		2		2
	代数学		2		2		2
	代数学		2		2		2
	代数学各論		2		2		2
	* 代数学特別講義		4		4		4
幾何学	幾何学	2		2		2	
	幾何学		2		2		2
	幾何学		2		2		2
	幾何学		2		2		2
	幾何学各論		2		2		2
	* 幾何学特別講義		4		4		4
解析学	解析学	2		2		2	
	解析学		2		2		2
	解析学		2		2		2
	解析学		2		2		2
	応用数学		2		2		2
	解析学各論		2		2		2
	* 解析学特別講義		4		4		4
「確率論、統計学」	確率論入門	2		2		2	
コンピュータ	プログラミング入門	2		2		2	
	合 計	10	10	10		10	10

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (数学)		中学校二種 (数学)		高校一種 (数学)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
中・高の教科指導法 (数学)	数学科教育法	2		2		2	
	数学科教育法	2			2	2	
	数学科教育法	2			2		2
	数学科教育法	2			2		2
	合 計	8		2		4	

免許法上の区分等	左記に対応する開設授業科目	中学校一種 (数学)		中学校二種 (数学)		高校一種 (数学)	
		必修	選択	必修	選択	必修	選択
大学が独自に設定する科目 (数学)	数学教育		2		2		2
	* 数学教育特別講義		4		4		4

\* 各特別講義は、数学サブコース所属学生以外の学生は履修不可。

備考1 代数学、幾何学、解析学、数学科教育法は、原則としてそれぞれ・・・の順序で履修すること。

2 代数学、幾何学、解析学については、小学校教育コース1年次の学生は履修の対象外とする。その他のコースの学生については、数学の免許取得を希望する場合のみ1年次から履修対象とする。

#### 4.2.3 特別支援学校教員免許

小学校または中学校の教員免許の取得とともに以下の科目の単位を修得することで特別支援学校教員免許（一種）が取得できます。

一種免許	単位数
特別支援教育概説	2
知的障害者の心理・生理・病理	2
肢体不自由者の心理・生理・病理	2
病弱者の心理・生理・病理	2
知的障害教育課程論	2
知的障害教育指導法	2
特別支援教育指導法	2
肢体不自由教育課程・指導法	2
病弱教育課程・指導法	2
視覚障害教育総論	1
聴覚障害教育総論	1
言語障害教育総論	1
重複障害教育総論	1
発達障害総論	1
特別支援教育実習	2
特別支援教育実習研究	1
合 計	26

教育学部で取得できる特別支援学校の教員免許状の種類（教育領域）は、「知的障害者、肢体不自由者、病弱者に関する教育の領域」です。

別表(2) 各免許校種の「大学が独自に設定する科目」に使用できる科目

教員免許法上の区分		科目名	単位数	小学校	中学校	高等学校	
教育の基礎的理解に関する科目	・教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	別欄	教育の思想	2			
			教育の歴史	2			
			教育学特殊講義 A	2			
		選択	教育学演習 A	1			
			教育学演習 B	1			
	・教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	別欄	教育法規	2			
			学校経営・制度論	2			
		選択	いわての復興教育	2			
			教育学演習 D	1			
			教育学演習 E	1			
			教育学演習 F	1			
	・幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程		小規模学校教育論	2			
		心理学概論	2				
		教育心理学演習	1				
		発達心理学演習	1				
		障害者・障害児心理学	2				
生徒指導、総合的な学習の時間等に関する科目	・教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)		教育学特殊講義 B	2			
	・教育の方法及び技術		教育学演習 C	1			
			教育学演習 G	1			
			授業実践研究	2	×		
	小学校実践研究	1		×	×		
・教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法		臨床心理学概論	2				
		心理演習	1				
		心理的アセスメント	1				
		心理学的支援法	1				
大学が独自に設定する科目		STEAM教育実践演習	2				

注) 「×」印は、各免許校種の免許状を取得するための「大学が独自に設定する科目」に使用できない。

## 5 日本語教育副専攻科目について

グローバル化が進む中で、帰国・外国人児童生徒などに対する日本語指導の必要性はますます増大しています。日本語教育の基礎を身につけた人材は、日本語学校にとどまらず小・中・高等学校や地域社会から、広く求められています。

教育学部では、日本語教員養成に関して文部科学省が示した標準的な教育内容（副専攻）に基づき、日本語教育副専攻科目を以下のとおり開講します。所定の副専攻科目の単位を履修し単位を修得した者に対しては、日本語教育副専攻を修了したものと認め、卒業時に「日本語教育副専攻単位修得証明書」を授与します。

科目区分	科目名	単位数	備考欄	必修 / 選択必修	最低取得単位数
転換教育科目	基礎ゼミナール	1		必修	1
教養教育科目	外国語科目（必修8単位から2単位充当）	1		必修	2
日本語教育副専攻科目 下記の表を参照	日本語教育概論I	2		必修	2
	日本語教育概論	2		必修	2
	学校教育を受けるための日本語	2		必修	2
	日本語教育実習事前指導	1		必修	1
	日本語教育実習	1		必修	1
	日本語教授法講義	2		必修	2
	日本語教授法講義	2		必修	2
教科専門科目（国語）	日本語学概論A	2		選択必修	4
	日本語学概論B	2			
	日本語学講義A	2			
	日本語学講義B	2			
	日本語学特殊講義	2			
教科専門科目（英語）	異文化理解	2		選択必修	2
人文社会科学部 人間文化課程開設科目	異文化コミュニケーション論A	2	隔年・前期		
	異文化コミュニケーション論B	2	隔年・後期		
	異文化コミュニケーション論C	2	隔年・前期		
	異文化コミュニケーション論D	2	隔年・後期		
教養教育科目	言語学	2	注)	必修	2
教養教育科目	多文化コミュニケーションA	2		選択必修	2
	多文化コミュニケーションB	2			
教職専門科目	発達心理学	2		選択必修	2
	教育・学校心理学	2			
合 計					27

注)「言語学」は指定のクラスを履修すること。詳細は掲示を参照すること。

### < 日本語教育副専攻科目 >

区分	科目名	コース・単位数		標準履修年次								備考		
		単位数	全コース		1年		2年		3年		4年			
			必修	選択	前	後	前	後	前	後	前		後	
日本語支援科目	日本語教育概論	2		2										教員免許取得の科目としては使用できません。
	日本語教育概論	2		2										
	日本語教授法講義	2		2										
	日本語教授法講義	2		2										
	日本語教育実習事前指導	1		1										
	日本語教育実習	1		1										
	学校教育を受けるための日本語	2		2										

この表にない科目は、「3.3 小学校教育コースあるいは中学校教育コースの開講科目」のページから確認すること。

専門教育について

理工学部

専門教育  
理工学部

理工学部の学生の皆さんへ

皆さんの大学における履修は、この本（「履修の手引き」）にすべて記載されていますので、関係する部分を熟読してください。記載内容に変更がある場合は、掲示（アイアシスタント）等でお知らせします。以下に「履修の手引き」の要点を示します。

1．大学における履修全般については、“ 科目履修に当たって知っておくべきこと ” を熟読してください。

2．教養教育科目については、“ 教養教育について（獣医学部を除く） ” を熟読してください。

- ・情報基礎，外国語，健康・スポーツは，指定された時間帯を履修してください。
- ・選択単位には区分ごとに上限があります。

3．各コースの専門科目については， -19～ -44 ページ ” を熟読してください。

4．教育職員免許状については，“ 教育職員免許状・各種資格の取得方法 ” を熟読してください。

免許状取得希望者には，1年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告してください。

履修に関して分からないことがあったら，学生センターや各クラス/各コースの教務委員または担任へ相談してください。

学生センター相談窓口

- |                  |            |     |
|------------------|------------|-----|
| 教養教育科目に関すること     | …学生センター A棟 | 番窓口 |
| 専門教育科目に関すること     | …学生センター A棟 | 番窓口 |
| 教育職員免許状の取得に関すること | …学生センター A棟 | 番窓口 |

# 理 工 学 部

## < 理念と目標 >

### \* 理念

岩手大学工学部は学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づき、我が国が目指す未来社会で必要とされる情報リテラシーと確かな専門性を併せもち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献できる理工系人材の育成を目指します。また、科学技術分野における基礎研究と応用研究を積極的に推進することによって自然界の摂理の解明と技術革新の推進に貢献します。

### \* 教育目標

工学部は、以下のような人材育成を行うことによって、我が国が目指す未来社会で必要とされる確かな専門性と情報リテラシーを併せもち、地球環境問題をはじめとする国際社会ならびに地域社会が抱える諸課題の解決に貢献することを目指します。

- (1) 幅広い教養と豊かな人間性を基礎として、理工学分野における基礎学力と国際水準を満たす専門的知識・専門技術、および倫理性を有し、新しい発想で現代社会の諸課題に積極的に取り組むことのできる人材の育成
- (2) 情報リテラシーを活用しながら、獲得した知識や技術を様々な科学技術分野に役立てることを通して、地域社会と国際社会の諸課題に主体性と協働性をもって取り組むことのできる人材の育成
- (3) 理工学的課題探求心と理解力に基づき、自然科学の様々な現象を根源的かつ包括的に捉えながら人間社会と自然環境の共生を図り、地域社会と国際社会の持続的発展のために「ソフトパス工学」の理念を実践できる人材の育成

### \* 研究目標

工学部は、理工学の幅広い分野における基礎研究から商品化研究までの広範な研究の推進とともに、環境問題、エネルギー問題、巨大災害発生への備え、震災からの復興や地域振興などへの積極的な対応により、地域社会や国際社会の発展に貢献することを目指します。

- (1) 理工学分野およびその周辺分野の基礎研究による自然のしくみの探求と技術革新の推進およびそれらの研究成果に基づく新しいシーズの創出
- (2) 地域社会や国際社会からのニーズの発掘
- (3) 応用研究や実用化研究の推進

### \* 社会貢献目標

工学部は、教育・研究活動の成果を地域社会および国際社会に展開し、これらの発展に貢献することを目指します。

- (1) 産学官民の連携による産業振興への対応
- (2) 環境および福祉問題における諸課題への対応
- (3) 生涯学習社会における諸問題への対応

## < 教育目的 >

工学部は、理工学及びその周辺の専門知識を有し、持続可能な社会づくりのための理工学の構築と実践を理念として、地域や国際社会で活躍できる人間性豊かな人材ならびに科学技術の調和的発展に貢献できる人材を養成することを目的とする。

## < 修得すべき能力 >

工学部では、その教育プログラムを通して、学生が以下のような能力を習得することを目指す。

- (1) 理工学的課題を解決する専門的能力
- (2) 持続可能な社会づくりを見据えた幅広い教養と理工学的基礎能力
- (3) 地域社会や国際社会と主体性を持って協働できる理解力やコミュニケーション能力

## < 工学部及び各コースの学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針 >

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）とは、学生が修得すべき学修の成果を示したもの

であり、学生が理工学部卒業（＝学位授与）までに身につけるべき知識や能力等です。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）は、学位授与の方針を実現するために、教育課程（カリキュラム）をどのように編成し、実施するかを示したものです。

### \* 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）：理工学部

- ・ 真理を探究する理学の考え方と、社会の課題解決に資することを志向する工学の考え方をともに理解し、広い教養と柔軟な発想をもって社会の未解決課題に挑戦する姿勢と、そのために必要な専門コースが求める能力を身につけた者に「学士（理工学）」の学位を授与する。
- ・ 社会が抱える様々な課題を理解する教養と、科学技術を応用してそれらを解決しようとする姿勢とを併せ持ち、技術者や研究者として持続可能な社会システムの構築に貢献するために必要な専門コースが求める能力を身につけた者に「学士（工学）」の学位を授与する。
- ・ 高度化する情報化社会の動向を適切に把握できる教養と、コンピュータ・サイエンスに関する専門知識を有し、様々な応用分野で情報技術を駆使するために必要な専門コースが求める能力を身に付けた者に「学士（情報学）」の学位を授与する。

## 理工学科

### 【化学コース】

化学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．幅広い教養と理工学分野の基礎学力を身につけている。
- 2．化学に関する基礎知識とそれに基づく物質化学から生命化学までの専門知識を有し、それらを応用できる。

（思考・判断）

- 3．社会における諸問題を分析し、その解決法を論理的に提案できる。
- 4．化学に関する専門知識に基づいて、直面する課題に対する解決法を思考することができる。

（技能・表現）

- 5．化学技術者として必要な基本的実験技能と情報処理能力を有する。
- 6．実験や調査結果を論理的に表現する文章作成能力を有し、国際的に通用するプレゼンテーション能力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

- 7．社会における課題、化学に関する研究動向に関心を持っている。
- 8．化学に関する知識や技能を活かして、持続可能な社会の構築に貢献する意欲と態度を持っている。

### 【数理・物理コース】

数理・物理コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（理工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．教養教育、数学、物理、化学の各分野の幅広い基礎知識、基礎学力を有している。
- 2．数理科学および物理学に関する幅広い専門知識を有している。

（思考・判断）

- 3．数理科学および物理学の観点から諸問題を分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

（技能・表現）

- 4．教育者、研究者あるいは技術者として必要な基本的な実験や演習、計算、情報処理の技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。
- 5．科学英語の読解力と文章力を有するとともに、英語により自らの成果をプレゼンテーション

ンすることができる。

(関心・意欲・態度)

6. 科学技術の創成や人の暮らしや産業の発展を担う新現象の解明、研究手法の開発および、数理科学、物理学に大いなる意欲を有している。
7. 社会における科学技術の役割を理解し、高い倫理性を持って、獲得した知識や技術を地域や国際社会の様々な問題解決に積極的に生かそうとすることができる。

### 【材料科学コース】

材料科学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(理工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 教養教育および理工学分野の幅広い基礎知識、基礎学力を有している。

2. 材料科学および材料工学に関する幅広い専門知識を有している。

(思考・判断)

3. 材料科学および材料工学の観点から諸問題を探索・分析し、問題解決のための論理的な判断や提案ができる。

(技能・表現)

4. 技術者、研究者あるいは教育者として必要な基本的な実験やデータサイエンスの技能を有するとともに、自らの考えを論理的に説明できる。

5. 技術者あるいは研究者として必要な科学技術英語の基礎知識と技能を有している。

(関心・意欲・態度)

6. 科学技術の創成、人の暮らしや産業の発展を担う素材・材料開発や評価技術開発に大いなる意欲を有している。

7. 社会における材料科学および材料工学の役割を理解し、高い倫理性を持って、修得した知識や技術を持続的な社会発展に積極的に生かそうとすることができる。

### 【知能情報コース】

知能情報コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(情報学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 幅広い教養と知能情報学に関する基礎的な専門知識を身につけている。

(思考・判断)

2. 問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけている。

3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。

(技能・表現)

4. 知能情報システムを開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけている。

5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。

6. 知能情報学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。

(関心・意欲・態度)

7. 自然科学、地域課題、及び知能情報学等の動向や進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。

8. 社会における知能情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。

### 【クリエイティブ情報コース】

クリエイティブ情報コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、

以下の各項目を身につけた学生に「学士（情報学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1．幅広い教養と情報の創造分野に関する基礎的な専門知識を身につけている。

（思考・判断）

2．問題の本質を理解し、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけている。

3．専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力を身につけている。

（技能・表現）

4．情報の創造技術を開発するために必要な基礎的能力を幅広く身につけている。

5．自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力と、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力を身につけている。

6．情報の創造及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

7．自然科学、地域課題、及び情報の創造等の動向や進展に関心を持ち、主体的に学ぶための基礎的な能力を身につけている。

8．社会における情報の創造の役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけている。

#### 【電気電子・情報通信コース】

電気電子・情報通信コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1．幅広い教養を備え、電気電子・情報通信工学に関する基本的な原理、法則、理論を理解している。

（思考・判断）

2．専門知識を実際の課題に結びつけて柔軟な思考ができ、創造的に応用することができる。

（技能・表現）

3．電気電子・情報通信に関する機器の動作原理を理解し、活用することができる。

4．他人と議論や協力ができる論理的なコミュニケーション能力・語学力を身につけている。

（関心・意欲・態度）

5．科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学修することができる。

6．社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけている。

#### 【機械知能航空コース】

機械知能航空コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（工学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

1．豊かな教養を身につけ、理工学に関する幅広い基礎知識と、機械工学に関する基礎的な専門知識を身につけている。

（思考・判断）

2．豊かな教養と専門分野等の知識に基づいて論理的に思考し、問題解決のための方策を提案できる。

（技能・表現）

3．機械工学分野の機器及び情報関連機器を活用し、機械の知能化等によって所望の機能を実現するための基礎的な能力を身につけている。

4．日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力の基礎を身につけている。

（関心・意欲・態度）

5．機械工学関連分野の進展に関心を持ち、専門的知識を活用しながら主体的に学習すること

ができる。

6. 機械工学に関する知識や技能を生かして、持続可能な社会に貢献する意欲と態度を持っている。

### 【社会基盤・環境工学コース】

社会基盤・環境工学コースの教育目的と修得すべき能力に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(工学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 数学・自然科学および情報技術に関する知識を修得し、多面的な視点から考えることのできる能力を身につけている。
2. 社会基盤・環境工学の建設、環境、防災の各専門技術に関する知識とその知識を応用する能力を身につけている。

(思考・判断)

3. 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考える能力、および問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を身につけている(デザイン能力)。
4. 自ら課題を発見・解決する能力および主体的・持続的に学修を行う能力を身につけている(課題発見能力、継続学修能力)。

(技能・表現)

5. 十分な語学力、および自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を身につけている。
6. 自分の意見や実験研究の内容・成果を論理的・客観的に表現する文章作成能力とプレゼンテーション能力を身につけている。
7. 他者と協力してチームで仕事をすることができる能力を身につけている(チームワーク力)。

(関心・意欲・態度)

8. 地球環境・地域環境を理解する能力および持続可能な循環型社会構築のための技術を考える能力を身につけている。
9. 科学技術が社会や自然におよぼす影響を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識する能力を身につけている(倫理)。

### \* 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー): 理工学部

理工学部では、学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、理学、工学の各分野で幅広い教養と基礎学力を養うため、化学コース、数理・物理コース、材料科学コース、知能情報コース、クリエイティブ情報コース、電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース、社会基盤・環境工学コースごとに、教養教育科目、コース専門入門科目、専門基礎科目、理工学専門共通科目、コース専門横断科目および各コース科目で構成される系統的な教育課程を編成している。

### 理工学科

#### 【化学コース】

化学コースでは、物質化学から生命化学までの、国際水準を満たす高度な専門知識・専門技術を有し、さらに幅広い一般教養と語学力を基にして、地域社会と国際社会の持続的発展を実現するうえで解決すべき諸問題に積極的に取り組むことができる人材の育成を目的として定めている。本コースでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い教養を身に付けさせるために、教養教育科目の履修を必修とし、理工学全般の基

礎的な学力を修得できるように、教養教育、主として数学、物理、化学の講義からなる専門基礎科目を配置している。

2. 化学の専門性を深化できるように、物理化学、無機化学、有機化学を基盤とし、物質化学から生命化学までの応用化学に関する知識、ならびにそれらの知識を応用する能力を修得するための専門科目を配置し、体系的に履修させることを徹底する。

(思考・判断)

3. データサイエンスを活用して化学に関する諸問題の分析とその解決法を提案できるように、情報科目としてデータサイエンスに関する科目を配置している。

4. 基礎化学と応用化学の課題に対する実践的解決法を提案できるように、基盤科目に対応する演習科目を配置している。

(技能・表現)

5. 化学における基本的な実験技能を習得させるために、「化学理工学実験 ・ 」、「卒業研究」などの実験科目を配置し、化学における情報処理の技能を習得させるために、プログラミングに関する科目を配置している。

6. 英語で発表する能力を養わせるために、「科学技術英語」等を配置している。

(関心・意欲・態度)

7. プロジェクトベースラーニング(PBL)科目を通じて、自ら調べた結果を論理的に発表する能力を養わせる。環境・エネルギー・資源への影響を考慮しながら持続的な社会の発展を提案する能力を開発させるために、「ソフトパス理工学序論」等の科目を配置している。

8. 実社会において化学の専門家として活動する際に必要となる素養を身につけさせるために、「技術者倫理」、「社会体験学習」等の科目を配置している。

## 【数理・物理コース】

数理・物理コースでは、数学及び物理に関する幅広い知識・教養を身につけると同時に自然界の真理探究を通じて自然科学と人類社会との関係を総合的に判断出来る知性、品格さらには国際感覚を身につけた人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、物理科学分野と数理科学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と数理科学の専門性深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 1、2年次に、幅広い教養と理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得させることができるように、教養教育科目および、主として数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。

2. 数理科学、物理科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に修得させることができるように、コース専門横断科目、さらにより高い専門性を学ぶための数理・物理コース科目を2年次以降に配置している。

3. 数理科学分野の専門性を深化できるように、微分方程式、線形代数学、複素解析学を基礎に、応用解析学、応用確率統計学などを体系的に履修させることを徹底している。

4. 物理科学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、量子力学、統計力学を基礎に、固体物理学、磁性物理学、光学などを体系的に履修させることを徹底している。

(思考・判断)

5. 数理科学、物理科学の課題に対する理解力・判断力・実践的解決法を確かな専門性に基づき修得させることができるように「物理・材料理工学実験 ・ 」、「社会体験学習」、「特別研修」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を3年次以降に配置している。

(技能・表現)

6. 専門科目で修得した知識や技能を活かす応用力や創造力、情報処理能力を修得させるために「プログラミング学」、「物理学実験」、「物理数学演習 ・ 」、「物理・材料理工学実験 ・ 」、「卒業研究」などの実験・演習科目や教養教育における情報科目を配置している。

7．科学技術英語の読解力と文章力、及び、英語による表現法を修得させることができるように、科学英語科目を体系的に履修させることを徹底している。

(関心・意欲・態度)

8．分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけさせるため、コース専門入門科目や「ソフトパス理工学序論」、「ソフトパス理工学実践」などのソフトパス理工学指定科目を配置するとともに、他コース開講科目をコース専門横断科目として履修可能としている。

9．主体性・協働性を身につけさせるとともに、社会における数理科学および物理科学の役割ならびに技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるために、「ソフトパス理工学実践」などのPBL科目及び「技術者倫理」「原子力工学」などを配置している。

## 【材料科学コース】

材料科学コースでは、材料工学および物質科学に関する幅広い知識と高い専門性のスキルを身につけ、科学技術の創成、人の暮らしや産業の発展を担うことができる人材の育成を目標としている。そのため、教育研究分野として、金属生産工学分野と機能材料理工学分野を設置し、幅広い基礎知識の修得と材料工学及び物質科学の専門性の深化を目指した教育課程を以下の様に編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1．1、2年次に、一般教養に関する教養教育科目を配置している。

2．理工学全般の基礎的な知識と実験・分析方法を修得させることができるように、1、2年次に、主に数学、物理、化学の講義と基礎実験科目からなる専門基礎科目を配置している。

3．材料工学および物質科学に関する幅広い基礎知識および高度な専門性を体系的に修得させることができるように、コース専門横断科目、さらにより高い専門性を学ぶための材料科学コース科目を2年次以降に配置している。

4．金属生産工学分野の専門性を深化できるように、材料物理化学、材料組織学、金属構造材料学などの金属とセラミックスの物理・化学的性質を基礎に、金属工学、材料精製、加工プロセス工学などを体系的に履修させることを徹底している。

5．機能材料理工学分野の専門性を深化できるように、電磁気学、固体物理学、半導体理工学などを基礎に、新電子材料、生体材料、計測技術、材料設計・解析などを体系的に履修させることを徹底している。

6．課題への理解力と解決法を身につけさせるために、1年次にPBLの手法を取り入れた「ソフトパス理工学実践」を配置している。

7．持続可能な社会を実現するソフトパスの概念を身につけさせるために、1年次に「ソフトパス理工学序論」を配置している。また、材料科学コース科目にソフトパス指定科目を設置している。

(思考・判断)

8．材料工学および物質科学分野の課題に対する実践的解決法を修得させることができるように、3年次以降に「物理・材料理工学実験」、「社会体験学習」、「工場見学」、「卒業研究」などの実験・研修科目を配置している。

(技能・表現)

9．専門科目で学んだ知識を活用する実践能力や実験等で得られたデータを適切に処理・活用する技能を修得させることができるように、「物理学実験」、「物理・材料理工学実験」、「プログラミング学」を配置している。

10．科学技術英語の読解力と文章力、及び、英語による表現法を修得させることができるように、科学英語科目を体系的に履修することを徹底している。

11．情報リテラシーを身に付けるために、1年次に「情報基礎A」、「数理・データサイエンス基礎および演習」、「AI基礎および演習」を配置している。

(関心・意欲・態度)

- 12．専門科目で修得した知識や技能を材料開発や評価技術開発へ生かす応用力と創造力を育成するため、「特別研修」、「特別講義」、「工場見学」を3年次以降に配置している。
- 13．主体性および共同性を身につけさせるために、1年次にPBLの手法を取り入れた「ソフトパス理工学実践(PBL)」を配置している。
- 14．分野横断的な思考力および俯瞰的研究能力を身につけさせるため、コース専門横断科目および他コース開講科目を選択科目として履修可能としている。
- 15．社会における材料工学および物質科学の役割、及び、技術者・研究者が負っている社会的責任について深く理解させるため、「ソフトパス理工学序論」、「技術者倫理」を配置している。また、材料科学コース科目にソフトパス指定科目を設置している。

## 【知能情報コース】

知能情報コースでは、豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論から知能情報工学、メディア情報工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

- 1．幅広い教養と知能情報工学・メディア情報工学・デザイン工学に関する基礎的な専門知識を身につけさせるため、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を1、2年次に多く配置し、2、3年次からは、情報学の基礎である離散数学やデータ構造に関する知識、及び、情報学の各分野に応じた基礎的な専門知識を身につけさせるため、専門科目において基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

(思考・判断)

- 2．問題の本質をとらえる課題理解力、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、及び問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけさせるため、専門科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や「数理計画法」などの講義科目を2、3年次に、「卒業研究」を4年時に配置している。
- 3．専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力と確かな専門性を身につけさせるため、専門科目として「ネットワーク実験」や「AIデータサイエンス実践演習」などの演習・実験科目、「データ解析」や「データベース」などの講義科目を2～4年次で履修できるように配置している。

(技能・表現)

- 4．知能・メディア情報システムを構成するハードウェアやソフトウェアを開発するために必要な情報リテラシーを含む基礎的能力を幅広く身につけさせるため、演習科目を2年次～4年次前期に系統的に履修できるように配置している。また、知能情報工学・メディア情報工学・デザイン工学に関する確かな専門性・技能を学ぶための科目として、「ロボティクス」、「人工知能」、「コンピュータグラフィックス」、「メディアシステム」、「コンパイラ」、「情報デザイン」などの講義科目を3年次で履修できるように配置している。
- 5．自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力と協働性を身につけさせるため、「ソフトパス理工学実践」や「システム創成プロジェクト」などのPBL科目や「卒業研究」を配置している。
- 6．知能情報工学及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけさせるため、教養教育科目の外国語(英語、英語以外)や専門科目の「科学技術英語(入門)」、「科学技術英語(情報)」などを配置している。

(関心・意欲・態度)

- 7．自然科学、地域課題、及び知能情報工学等の動向や進展に関心を持ち、主体性をもって学ぶための基礎的な能力を身につけさせるため、教養教育科目の履修を必修としている。
- 8．社会における知能情報システムの役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけさせるため、理工学専門共通科目のソフトパス理工学序論を必修とし、専門科

目として情報学特別講義などの講義科目を配置している。

### 【クリエイティブ情報コース】

クリエイティブ情報コースでは、豊かな生活環境を支えるための高度で多様な情報システムを構築できる人材の育成を目標としている。このため、コンピュータの基礎理論からメディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に至るまでの広範な教育課程を以下のように編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 幅広い教養とメディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に関する基礎的な専門知識を身につけさせるため、教養教育科目や数学・理科に関する専門基礎科目を1、2年次に多く配置し、2、3年次からは、情報学の基礎である離散数学やデータ構造に関する知識、及び情報学の各分野に応じた基礎的な専門知識を身につけさせるため、専門科目において基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

(思考・判断)

2. 問題の本質をとらえる課題理解力、基礎的な課題に対して解決法を考える能力、及び問題解決のための具体的な計画立案・遂行能力を身につけさせるため、専門科目としてプログラミングに関する基礎的な演習科目や「コンピュータグラフィックス」などの講義科目を2、3年次に、「卒業研究」を4年次に配置している。

3. 専門分野等の知識を活用してデータを分析することができ、論理的な評価や考察を行える能力と確かな専門性を身につけさせるため、専門科目として「ネットワーク実験」や「AI・データサイエンス実践演習」などの演習・実験科目、「データ解析」や「データベース」などの講義科目を2～4年次で履修できるように配置している。

(技能・表現)

4. 情報を創造するためのソフトウェア、使いやすいユーザインタフェース、人にやさしいデジタルコンテンツなどを開発するために必要な情報リテラシーを含む基礎的な能力を幅広く身につけさせるため、演習科目を2、3年次に系統的に履修できるように配置している。また、メディア情報工学・知能情報工学・デザイン工学に関する確かな専門性・技能を学ぶための科目として、「情報デザイン」、「創造デザイン」、「コンピュータグラフィックス」、「ヒューマンインタフェース」、「メディアシステム」、「ロボティクス」、「人工知能」などの講義科目を3年次で履修できるように配置している。

5. 自らの思考・判断のプロセスや結果を論理的に表現する文章能力、協創的課題解決のために他人に説明するコミュニケーション能力と協働性を身につけさせるため、「ソフトパス理工学実践」や「システム創成プロジェクト」などのPBL科目や「卒業研究」を配置している。

6. 情報の創造及びその関連分野に関する基礎的な英語能力を身につけさせるため、教養教育科目の外国語(英語、英語以外)や専門科目の「科学技術英語(入門)」、「科学技術英語(情報)」などを配置している。

(関心・意欲・態度)

7. 自然科学、地域課題、及び情報の創造等の動向や進展に関心を持ち、主体性をもって学ぶための基礎的な能力を身につけさせるために、教養教育科目の履修を必修としている。

8. 社会における情報の創造の役割を理解し、技術者として社会に貢献する基礎的な能力を身につけさせるため、理工学専門共通科目の「ソフトパス理工学序論」を必修とし、専門科目として「情報学特別講義」などの講義科目を配置している。

### 【電気電子・情報通信コース】

電気電子・情報通信コースでは、地球環境や人の暮らしなど持続可能な社会に高い関心を持ちながら、効率化とクリーンエネルギー化が進む電気エネルギー技術、材料や微細化により高度化が進む電子デバイス技術、社会の隅々まで張り巡らされる情報通信技術の基礎を修得し、

これらの技術の発展に貢献できる人材を育成する教育研究を行う。電気電子・情報通信コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通り、カリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 科学技術が人間社会や自然環境に及ぼす影響を多面的に考えることができる素養を育み、豊かな人格形成に資するために教養教育科目の履修を義務付けている。さまざまな専門分野の根底を形成している普遍的な数理や、自然科学の基礎的知識を修得させるために、低年次に数学、物理学、化学に関する専門基礎科目を配置している。

専門的となるコース科目では、電気回路、電磁気学、電子回路、計測・制御に関する科目群を基幹の必修科目としており、電気電子・情報通信の分野を学ぶための基礎を築くことができるようにしている。また、数学と電気工学の橋渡しとして電気数学を設け、学び始めてつまづかないように配慮した構成としている。

3年次からは情報通信分野、電子デバイス分野、電気エネルギー分野の3分野において、より深く専門化した科目を用意し、難易度や前提となる予備知識に応じて、系統的に学ぶことができるように科目を配置している。

(思考・判断)

2. 講義で学んだ専門知識をベースとして、実社会と結びつけて課題を発見することができる、柔軟な思考により問題解決への道を探り創造的に応用することができる人材を育成するために、低年次には「ソフトパス理工学実践」、高年次には「電気電子・情報通信工学専門研修」、「電気電子・情報通信工学先端課題実習」、「卒業研究」を配置している。これらの科目ではPBLの手法が取り入れられている。

(技能・表現)

3. デジタル社会の基礎的な素養としての情報リテラシーの習得や数理・データサイエンス・AIを電気電子・情報通信分野に応用することができるようにするため、「情報基礎A・B」、「数理・データサイエンス基礎および演習」、「AI基礎および演習」を1年次に配置している。

4. 電気電子・情報通信に関する機器の動作原理や操作方法を理解し、活用することができるようにするため、「電気電子・情報通信工学基礎実験」、「電気電子・情報通信工学応用実験」、「プログラム言語及び演習」、「組込ソフトウェア実習」、「組込ハードウェア実習」、「電気設計製図」の実習科目を2 - 4年次に配置している。これらの実験・実習により、ハードウェアからソフトウェア・情報通信技術まで幅広く体験的な学修をすることができるようにしている。

5. 4年次の「卒業研究」では自ら調べさせ、能動的に調査・実験・研究を行わせる。成果や結果を発表することや、レポートや論文にまとめる作業により、第三者に論理的に説明する表現能力を醸成させる。また、グローバル社会で活躍するための英語能力を身につけさせるために、「科学技術英語(入門)」、「科学英語技術(電気電子・情報通信)」、「国際研修」を配置している。

(関心・意欲・態度)

6. 科学技術の進展に高い関心を持ち、継続的・主体的に学修することができるように、コース内の教員の研究を紹介する「電気電子・情報通信工学特別講義」や、会社経営者や外部研究者を招聘する「電気電子・情報通信工学専門研修」を開講している。さらに、インターンシップ等を行う「社会体験学習」も設置している。

7. 社会における役割を理解し、環境や安全に対する倫理観を身につけさせるために、学部内共通科目として、1年次に実施する「ソフトパス理工学序論」で基礎的な教育を行い、高年次には「技術者倫理」を配置している。また、企業や自治体における電気電子・情報通信工学の関わり合いを学ぶために「社会体験学習」や「工業経営管理論」等の科目も配置している。

## 【機械知能航空コース】

機械知能航空コースでは、多様な地域産業を支え、機械の知能化や航空機開発などのより高い専門性が要求される産業分野で活躍できる人材の育成を目標としている。このため、機械工学の基礎からロボット工学や航空宇宙工学などの先端的な領域まで、幅広い教育課程を編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 豊かな教養と理工学に関する幅広い基礎知識を身につけさせるため、文化、社会、自然、環境等に関する教養教育科目、数学や物理などの理工学に関する基盤的な基礎科目を1、2年次に配置している。

機械システム分野、知能ロボティクス分野、航空宇宙分野などの機械工学に関する基礎的な知識を身につけさせるため、各分野に関するコース内専門科目を配置し、基礎から応用までの知識を系統的に修得できるようにしている。

(思考・判断)

2. 豊かな教養と専門分野等の知識に基づいて論理的に思考し、問題解決のための方策を提案できる能力を身につけさせるため、1年次にPBL科目の「ソフトパス理工学実践」を配置し、高年次では「機械リサーチ研修」や「卒業研究」などの科目を配置している。

(技能・表現)

3. 機械工学分野の機器及び情報関連機器を活用し、機械の知能化等によって所望の機能を実現するための基礎的な能力を身につけさせるため、1年次に教養科目における情報科目、2、3年次に製図・CAD、プログラミングに関する科目を配置している。
4. 日本語と英語による論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけさせるため、1年次と4年次に機械工学分野の英語基礎から学術論文の読解まで幅広く取り組ませる科学技術英語を配置している。また、論理的な表現力とコミュニケーション能力を身につけるため、「機械リサーチ研修」と「卒業研究」を配置している。

(関心・意欲・態度)

5. 機械工学分野の進展に関心を持たせるため、1年次に「機械知能航空入門」を配置して機械工学分野の概要を把握させる。専門的知識を活用しながら主体的に学習する能力を身につけさせるため、高年次では機械技術者のキャリアデザインや社会体験に関する科目を配置し、卒業研究では専門知識を活用しながら主体的に取り組む能力を身につけさせる。
6. 機械工学に関する知識や技能を生かして、持続可能な社会に貢献する意欲と態度を身につけさせるため、1、2年次に文化、社会、自然、環境等の教養教育科目を配置し、3年次には「技術者倫理」や「社会体験学習」を配置している。

## 【社会基盤・環境工学コース】

社会基盤・環境コースでは「安全・安心な社会の構築」と「人と環境に優しい持続可能な社会の創出」を教育理念に、社会基盤・環境工学に関する広範な専門基礎学力を有し、建設工学、環境工学、防災工学の基礎と幅広い教養を身につけ、問題発見・解決能力を持ち、次世代の科学技術の創生と発展を担うことができる人材およびそれらの専門性を高めながら、社会基盤・環境工学分野を支え、地域復興のために貢献できる人材、より高い専門性が求められる同分野で活躍できる人材を育成することを目指している。

このような観点から、社会基盤・環境工学コースでは、コースの学位授与の方針を実現するために、以下の通りカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 数学・自然科学および情報技術に関する知識を修得させ、多面的な視点から考えることのできる能力を修得させることができるように「基礎数学」、「微分積分学」などの専門基礎

科目を必修としている。

2. 社会基盤・環境工学の建設工学、環境工学、防災工学の各専門技術に関する知識、ならびにその知識を応用する能力を修得させることができるように専門科目を配置している。

(思考・判断)

3. 問題の本質を理解し、必要な情報を収集・分析して解決法を考え、問題解決のための具体的なデザイン・計画を立て、遂行する能力を修得させることができるように「ソフトパス理工学実践」、「測量学実習」、「卒業研究」等を必修としている。
4. 自ら課題を発見・解決しようとする問題意識をもち、自主的・持続的に学修を行う能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、実習系科目である「測量学実習」、「卒業研究」等を必修としている。

(技能・表現)

5. 十分な語学力を身に付け、自国の文化・社会を学ぶとともに世界の多様な価値観を理解し、国際的に通用するコミュニケーション能力を修得させることができるように豊かな教養を育む教養科目、および語学科目、専門教育科目の演習系科目の「科学技術英語(入門)」、「科学技術英語(社会基盤・環境)」を必修としている。
6. 種々の工学的な課題に対して、論理的・客観的な意見が述べられるような文章作成能力とプレゼンテーション能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、演習系科目である、「卒業研究」等を必修としている。
7. 他者と協力してチームで仕事をする能力を修得させることができるように PBL 科目である「ソフトパス理工学実践」、「測量学実習」を必修としている。

(関心・意欲・態度)

8. 地球環境・地域環境について深く理解し、環境と調和した持続可能な循環型社会の構築のための技術を多面的に考える能力と素養を修得させることができるように教養科目の環境科目、および「環境工学」等の専門教育科目の体系的な履修を徹底させる。
9. 科学技術が社会や自然におよぼす影響や効果を理解して、技術者としての社会的使命・責任を認識できるように「技術者倫理」を必修としている。

## < 特別プログラム >

特別プログラムとは、専門コースの通常の教育プログラムに加えて履修する特別な教育プログラムで、入学試験において当該プログラムの履修を前提に選抜された学生および入学後に選抜された履修生に対して実施し、所定の基準を満たした者に認証を与えるプログラムである。

「データサイエンス応用副プログラム」、「地域協創ものづくりプログラム」、「地域防災・まちづくりプログラム」、「半導体人材育成プログラム」の4つがある。

## データサイエンス応用副プログラム

### \* 教育目的

データサイエンス応用副プログラムは、所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに、データサイエンスの知識を併せ持ち、専門的な技術課題の解決にデータサイエンスの知識を活かすことができる人材の育成を目的とする。

### \* 修得すべき能力

データサイエンス応用副プログラムでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) データサイエンスに関する基礎的な知識と実践技術を身につけ、データサイエンスを活用して基礎的な課題を解決できる能力
- (2) 自らの専門性を理解し、専門分野における課題解決にデータサイエンスを応用できる能力

## 地域協創ものづくりプログラム

### \* 教育目的

地域協創ものづくりプログラムは、所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに、ものづくりを通して地域課題を解決するための幅広い実践技術を身につけ、地域産業の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

### \* 修得すべき能力

地域協創ものづくりプログラムでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- (1) ものづくりを通して地域課題を解決するための幅広い実践技術を身につけ、独自技術を開発して地域産業の発展に貢献できる能力
- (2) 地域課題を理解し、多様な人々との協創によって課題解決のために自律的に判断・行動できる能力

## 地域防災・まちづくりプログラム

### \* 教育目的

建設工学・環境工学・防災工学の幅広い教養と地域防災やまちづくりの専門分野の知識を身につけるとともに、主体性や協働性を発揮して地域防災を考慮したまちづくりに取り組むことのできるリーダーシップを持ち、「安心・安全な社会の構築」「持続可能社会の創出」に関する課題発見および解決に資する科学技術の創生と発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

### \* 修得すべき能力

地域防災・まちづくりプログラムでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- ( 1 ) 社会基盤・環境工学技術に基礎を置くとともに地域防災やまちづくりに対する高い専門性を持ち、今後も想定される災害への備えや地域における防災・まちづくりに取り組むことができるリーダーシップ能力
- ( 2 ) より柔軟な手法の構築により「安心・安全な社会の構築」「持続可能社会の創出」に対する現実的な課題の解決を図る総合的なマネジメント能力

## 半導体人材育成プログラム

### \* 教育目的

岩手大学理工学部は、半導体産業の集積化が進む拠点地域の教育・研究機関として半導体人材育成プログラムを設置している。半導体人材育成プログラムは、所属するコースの教育課程を通じてコースとしての教養及び専門性を修得するとともに、半導体の基礎知識を併せ持つことで、半導体産業と自分の専門性の関連性を理解し、半導体産業の発展に貢献できる人材の育成を目的とする。

### \* 修得すべき能力

半導体人材育成プログラムでは、その教育プログラムを通して、学生が以下の能力を修得することを目指す。

- ( 1 ) 所属コースにおける専門性と半導体産業の関連性を理解できる能力
- ( 2 ) 所属コースにおける専門性を活かし、半導体産業の発展に貢献できる能力

# 1. 岩手大学理工学部教育課程規則

(趣旨)

第1条 岩手大学理工学部(以下「本学部」という。)の教育課程に関する事項は、国立大学法人岩手大学学則(以下「学則」という。)に定めるもののほか、この規則による。

2 学則及びこの規則に特別の定めのある場合を除き、教育課程に関する事項は、理工学部教授会(以下「教授会」という。)が別に定める。

(目的)

第2条 本学部は、確かな専門性に加えて豊かな教養と情報リテラシーを有し、自らの専門分野の課題に対し、主体性と協働性をもって取り組むことができると共に、国際社会や地域社会が直面している課題を正しく理解し、持続可能な社会の構築のために、「ソフトパス理工学」の理念を实践できる人材の養成を目的とする。

(コース、初年次教育クラス)

第3条 本学部理工学科に次のコースを置き、2年次以上の学生は、いずれかのコースに所属するものとする。

- 一 化学コース
- 二 数理・物理コース
- 三 材料科学コース
- 四 知能情報コース
- 五 クリエイティブ情報コース
- 六 電気電子・情報通信コース
- 七 機械知能航空コース
- 八 社会基盤・環境工学コース

2 本学部理工学科に次の初年次教育クラスを置き、1年次の学生はいずれかのクラスに所属するものとする。

- 一 化学クラス
- 二 数理・物理クラス
- 三 材料科学クラス
- 四 情報系クラス
- 五 電気電子・情報通信クラス
- 六 機械知能航空クラス
- 七 社会基盤・環境工学クラス
- 八 データサイエンス応用オープンクラス

第4条 本学部に次のプログラムを置く。

- 一 データサイエンス応用副プログラム
- 二 地域協創ものづくりプログラム
- 三 地域防災・まちづくりプログラム

#### 四 半導体人材育成プログラム

2 前項各号に定める各プログラムの履修に関し必要な事項は、別に定める。

##### ( 専門教育の科目 )

第 5 条 専門教育においては、別表 1 に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

- 2 科目は、必修科目及び選択科目からなり、講義、演習、実験、実習、製図、卒業研究等による。
- 3 科目の種類及び単位数は、別表 2 による。
- 4 科目の必修と選択の別は、別に定める。

##### ( 履修の方法 )

第 6 条 履修の順序及びその他細部については、各コースにおいて定める。

##### ( 他コース、他学部、いわて 5 大学等の科目の履修 )

第 7 条 学生は、他コース、他学部、いわて 5 大学の授業科目、国際教育科目及び海外協定大学の科目を履修することができる。ただし、設備及び収容人員等の関係で制限されることがある。

- 2 前項の規定により取得した単位は、10 単位の範囲内で別表 1 の選択科目の単位として認めることができる。

##### ( 科目等の公示 )

第 8 条 各学期に開講する科目、授業時間及び担当教員は、学期の初めに公示する。

##### ( 履修科目の届出 )

第 9 条 学生は、各学期の所定の期日までに履修しようとする科目を学部長及び担当教員に届け出なければならない。

- 2 前項の届出の後、特別の場合を除き科目を変えることはできない。
- 3 学生は、所定の手続を経て、他コース、他学部又はいわて 5 大学の科目履修を願い出ることができる。
- 4 他コース、他学部又はいわて 5 大学の学生が本学部の科目の履修を願い出たときは、許可することがある。

##### ( いわて 5 大学以外の他の大学又は短期大学の科目の履修等 )

第 10 条 本学部が教育上有益と認めるときは、いわて 5 大学以外の他の大学又は短期大学との協議に基づき、学生に当該大学又は短期大学の科目を履修させることができる。

- 2 学生は、他の大学又は短期大学の科目を履修しようとするときは、学部長の許可を得なければならない。
- 3 第 1 項の規定及びいわて 5 大学で修得した単位は、60 単位を超えない範囲で、本学部において修得したものとみなすことができる。
- 4 前各項に関して必要な事項は、別に定める。

##### ( 留学 )

第11条 本学部が教育上有益と認めるときは、外国の大学又は短期大学に留学することを許可することができる。

2 学生は、外国の大学又は短期大学に留学しようとするときは、学部長を経て、学長の許可を得なければならない。

3 外国の大学又は短期大学における履修等については第9条を準用する。

(試験)

第12条 試験は、各学期末に行う。ただし、科目によっては、その他適当な時期に行うことができる。

(転コース)

第13条 転コースを志願する者があるときは、選考の上許可することがある。

2 前項に関し必要な事項は、別に定める。

(修了認定)

第14条 第4条第1項各号に定めるプログラムに在籍している者が所定の科目を履修し必要単位を修得した場合は、当該プログラムの修了を認める。

2 前項の修了の認定は、理工学部長が行う。

附 則 (省略)

別表1 (第5条第1項関係)

修得すべき単位数 (省略)

別表2 (第5条第3項関係)

科目の種類及び単位数 (省略)

## 2. 理工学部専門教育課程

理工学部専門教育課程の履修は、次ページ以降に示す各コース課程表の順序によらなければならない、下記の表に掲げる基準の単位数以上を4ヶ年で有効適切に修得しなければならない。

なお、各表は、初年次クラス 2年次以降配属コースが同系である場合を基本としている。

2年次進級の際、初年次クラスとは他系のコースに配属になった学生は、配属になったコースが定める要件（履修すべき科目、単位数等）を全て満たすことで卒業となるので、留意すること。

3年次課程では専門の必修科目が大半を占めており、各コース専門教育課程表以外の単位修得は困難であるから、3年次課程に入る時には2年次課程までの科目を修得していることが必要である。

4年次課程又は卒業研究に入るためには、コースごとに別に定める基準による。

コース専門教育課程表によることができない場合は、担任又は教務担当教員に相談の上、その指導を受けなければならない。

### (1) 卒業要件単位数

学 科	理 工 学 科
-----	---------

初 年 次	化学クラス 数理・物理クラス 材料科学クラス 情報系クラス 電気電子・情報通信クラス 機械知能航空クラス 社会基盤・環境工学クラス データサイエンス応用オープンクラス
-------	--

コ ー ス		化 学 コ ー ス	数 理 ・ 物 理 コ ー ス	材 料 科 学 コ ー ス	知 能 情 報 コ ー ス	ク リ エ イ テ ィ ブ 情 報 コ ー ス	電 気 電 子 ・ 情 報 通 信 コ ー ス	機 械 知 能 航 空 コ ー ス	社 会 基 盤 ・ 環 境 工 学 コ ー ス
専 門 科 目	必 修	65	62	68	63	63	70	70	72
	選 択	34	37	31	36	36	29	29	27
	計	99	99	99	99	99	99	99	99
教養教育科目		28	28	28	28	28	28	28	28
卒業要件単位数		127	127	127	127	127	127	127	127

### (2) 各コース課程表 ( -20 ~ -44ページ)

理工学科  
化学クラス 「化学コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
コース専門入門科目	理工学入門	1												[注3]
	化学入門		1											
	数理・物理入門		1											
	材料科学入門	2												
	情報科学入門		1											
	電気電子・情報通信入門		1											
	機械知能航空入門		1											
社会基盤・環境工学入門		1												
専門 基礎科目	数学系	基礎数学	1											代
		微分積分学	2											解
		微分積分学	2											解
		線形代数学 A	2											代
		確率統計学	2	2										確
	物理系	物理学 A	2											物
		物理学 B	2	2										物
	化学系	化学 A	2											化
		化学 B	2	2										化
	生物系	生物学	2	2										生
理工学 専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1												
	ソフトパス理工学実践	1												
	科学技術英語(入門)	1												
	半導体入門	1	1											*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス	1	1											*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2												*DS副プロ
	AI基礎および演習	2												*DS副プロ
	原子力工学	2	2											
	技術者倫理	2							(前期)					
	工業経営管理論	2	2											
	知的財産権概論	2	2							(前期)				
	特許法特講	2	2							(前期)				
	社会体験学習	1~2												
	国際研修	1~2												
	化学 C	2	2											
情報学基礎	2	2												
電気数学	2	2											代	
機械工作実習	1	1												
コース専門横断科目	人工知能	2	2											コ *DS副プロ
	データベース	2	2											情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー	2	2											情社 *DS副プロ
化学コース科目	有機化学	2												化 *半導体人材
	有機化学	2												化 *半導体人材
	有機化学演習	1												化
	有機化学演習	1												化
	有機化学演習	1												化
	無機化学	2												化 *半導体人材
	無機化学	2												化 *半導体人材
	無機化学演習	1												化
	無機化学演習	1												化
	無機化学演習	1												化
	物理化学	2												化 *半導体人材
	物理化学	2												化 *半導体人材
	物理化学演習	1												化
	物理化学演習	1												化
	物理化学演習	1												化
	生物化学	2	2											生
	生物化学	2	2											生
	プログラミング言語入門	2	2											
	高分子化学	2	2											化 *半導体人材
無機分析化学	2	2											化	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
化学コース科目	生物有機化学		2										生	
	医薬品化学		2										化	
	無機材料化学		2										化 *半導体人材	
	化学工学	2											化 *半導体人材	
	化学工学		2										化 *半導体人材	
	次世代電池工学		2										化 *半導体人材	
	触媒化学		2										化	
	ケミカルバイオロジー		2										生	
	有機分析化学		2										化	
	表面化学		2										化 *半導体人材	
	応用電気化学		2										化 *半導体人材	
	結晶工学		2										化 *半導体人材	
	エネルギー環境科学		2										化	
	半導体分子化学		2										化 *半導体人材	
	科学技術英語(化学)	1												
	化学概論		2											化
	化学研修	1												化
	化学理工学情報	1												化
	化学理工学情報	1												化
	化学理工学実験	3												化実
化学理工学実験	3												化実	
化学理工学研修	1												化	
卒業研究	6												[注1]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2											[注2]
	理工学入門数学		*2											[注2]
	理工学入門物理		*2											[注2]
	理工学入門物理		*2											[注2]
	理工学入門化学		*2											[注2]
卒業要件単位数	65	34												
合計必要単位数		99												

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- [注2] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数ならびに卒業研究配属要件単位数には含まれません。
- [注3] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の 印は通常時間割科目、 印は集中講義での実施を示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 工場見学を3年次の適当な時期に実施します。
- [5] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。
- (1)技術士 (一次試験合格後、実務経験4年で受験資格)
- (2)火薬類取扱保安責任者 (「一般教養科目」と「機械工学・電気工学大要」の試験免除)
- (3)危険物取扱者甲種 (甲種受験資格)
- (4)毒物劇物取扱責任者 (卒業証明書を添えて届出)
- (5)作業環境測定士1種・2種 (卒業後労働衛生の実務経験1年以上で受験資格)
- (6)公害防止管理者 (資格認定講習受講により取得する場合は、本学科を卒業後実務経験が必要。国家試験による場合は受験資格不問)
- (7)廃棄物処理施設技術管理者 (実務経験2年以上で有資格者)
- (8)ボイラー・タービン主任技術者 (第1種は10年以上、第2種は5年以上の実務経験を積んだうえで申請・交付)
- (9)冷凍空調技士第一種 (卒業後2年以上の実務経験で受験資格)
- なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- [6] 教員免許の取得については「教育職員免許状・各種資格の取得方法」を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [7] 備考欄の\*印付きは、各特別プログラム関係科目を示しています。

# 化学コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	人文社会科学・教育学領域科目							
	理学・工学領域科目							
	農学領域科目							
	芸術科目							
	地域関連科目(地域科目)							
	理工学入門	化学入門 教理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 情報学入門 機械知能航空入門 社会基盤・環境工学入門						
	基礎数学	線形代数学A 微分積分学 確率統計学						
基礎科目	物理学A 化学A	生物学						
学部内共通科目	ソフトウェア工学序論	ソフトウェア工学実践 科学技術英語(入門)						
	半導体入門	AI基礎及び演習 化学C	半導体デバイスと製造プロセス					
	教理・データサイエンス基礎及び演習							
横断科目	有機化学	有機化学	有機化学	有機化学	有機化学	有機化学	有機化学	
	無機化学	無機化学	無機化学	無機化学	無機化学	無機化学	無機化学	
	物理化学	物理化学	物理化学	物理化学	物理化学	物理化学	物理化学	
	データベース	データベース	データベース	データベース	データベース	データベース	データベース	
	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	有機化学演習	
	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	無機化学演習	
	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	物理化学演習	
	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	生物化学	
	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	プログラミング言語入門	
	エネルギー環境科学	エネルギー環境科学	エネルギー環境科学	エネルギー環境科学	エネルギー環境科学	エネルギー環境科学	エネルギー環境科学	
	化学理工学実験	化学理工学実験	化学理工学実験	化学理工学実験	化学理工学実験	化学理工学実験	化学理工学実験	
	化学研究	化学研究	化学研究	化学研究	化学研究	化学研究	化学研究	
	化学概論	化学概論	化学概論	化学概論	化学概論	化学概論	化学概論	
	化学工学	化学工学	化学工学	化学工学	化学工学	化学工学	化学工学	
	結晶工学	結晶工学	結晶工学	結晶工学	結晶工学	結晶工学	結晶工学	
高分子化学	高分子化学	高分子化学	高分子化学	高分子化学	高分子化学	高分子化学		
半導体分子化学	半導体分子化学	半導体分子化学	半導体分子化学	半導体分子化学	半導体分子化学	半導体分子化学		
化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報		
化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報	化学理工学情報		
卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究		
技術者倫理	技術者倫理	技術者倫理	技術者倫理	技術者倫理	技術者倫理	技術者倫理	技術者倫理	
知的財産権概論	知的財産権概論	知的財産権概論	知的財産権概論	知的財産権概論	知的財産権概論	知的財産権概論	知的財産権概論	
特許法特講	特許法特講	特許法特講	特許法特講	特許法特講	特許法特講	特許法特講	特許法特講	
原子力工学	原子力工学	原子力工学	原子力工学	原子力工学	原子力工学	原子力工学	原子力工学	
工業経営管理論	工業経営管理論	工業経営管理論	工業経営管理論	工業経営管理論	工業経営管理論	工業経営管理論	工業経営管理論	
国際研修	国際研修	国際研修	国際研修	国際研修	国際研修	国際研修	国際研修	
社会体験学習	社会体験学習	社会体験学習	社会体験学習	社会体験学習	社会体験学習	社会体験学習	社会体験学習	
人工知能	人工知能	人工知能	人工知能	人工知能	人工知能	人工知能	人工知能	
医薬品化学	医薬品化学	医薬品化学	医薬品化学	医薬品化学	医薬品化学	医薬品化学	医薬品化学	
表面化学	表面化学	表面化学	表面化学	表面化学	表面化学	表面化学	表面化学	
無機材料化学	無機材料化学	無機材料化学	無機材料化学	無機材料化学	無機材料化学	無機材料化学	無機材料化学	
次世代電池工学	次世代電池工学	次世代電池工学	次世代電池工学	次世代電池工学	次世代電池工学	次世代電池工学	次世代電池工学	
ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー	

差がつぶし(太枠)がある科目は必修科目  
差がつぶしが無い(細枠)科目は選択科目

理工学科  
数理・物理クラス 「数理・物理コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1											[注4]
	化学入門		1										}
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門	2											
	情報学入門		1										
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
社会基盤・環境工学入門		1											
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学	2										解
		線形代数学 A	2										代
		線形代数学 B	2	2									代
		微分方程式	2										解
		ベクトル解析	2										幾
	物理系	複素解析		2									解
		確率統計学		2									確
		フーリエ解析	2										解
	物理系	物理学 A	2										物
		物理学実験	1										物実
	化学系	化学 A	2										化
		化学 B	2										化
		化学実験	1										化実
	生物系	生物学		2									生〔注1〕
	地学系	地学		2									地〔注1〕
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門		1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学		2										
	技術者倫理	2							(前期)				
	工業経営管理論	2							(前期)				
	知的財産権概論	2							(前期)				
	特許法特講	2							(前期)				
	社会体験学習	1~2											
	国際研修	1~2											
	化学 C	2											
	情報学基礎	2											
	電気数学	2											代
機械工作実習	1												
コース専門横断科目	人工知能	2											コ *DS副プロ
	データベース	2											情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー	2											情社 *DS副プロ
	科学技術英語(物理・材料)	1											
	数値計算法	2											コ
	プログラミング学	2											コ
	物理・材料理工学実験	2											化実
	物理・材料理工学実験	2											物実
	専門英語セミナー	1											
	特別研修	1											
	特別講義		2										
	特別講義		2										
	工場見学		1										
	熱力学	2											物
	材料組織学	2											工
電気回路学		2										工	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期
コース専門横断科目	電磁気学	2											物
	電磁気学		2										物
	量子物理学	2											物
	統計物理学	2											物
	光学		2										物 *半導体人材
	固体物理学	2											物
	電子物性学		2										物 *半導体人材
	材料計測学		2										工
	誘電体材料学		2										工
	半導体理工学		2										工 *半導体人材
	磁性理工学		2										物
超伝導理工学		2										物	
ナノ理工学		2										物	
数理・物理コース科目	物理数学演習	1											幾
	物理数学演習	1											解
	量子物理学		2										物
	粒子線計測学		2										物
	現代物理学		2										物
	現代物理学		2										物
	応用確率統計学		2										確
	応用微分方程式		2										解
	応用解析学		2										解
	幾何学		2										幾
	幾何学		2										幾
	振動論		2										物
卒業研究	6											[注2]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2										[注3]
	理工学入門数学		*2										[注3]
	理工学入門物理		*2										[注3]
	理工学入門物理		*2										[注3]
	理工学入門化学		*2										[注3]
卒業要件単位数	62	37											
合計必要単位数	99												

注意事項

[注1] 教員免許(理科)取得希望者は必ず受講してください。

[注2] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。

[注3] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。

[注4] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。

また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

[1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。

[2] 履修年次欄の印は通常時間割科目、印は集中講義での実施を示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

[3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。

[4] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験には、次のようなものがあります。

危険物取扱者(甲種受験資格)

なお、受験資格を得るには、関連科目の単位を一定基準以上取得する必要があります。詳細は担任に確認してください。

[5] 教員免許の取得については“教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。

[6] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

教養・物理コース カリキュラムマップ



赤文字 : 必修科目  
黒文字 : 選択科目

理工学科  
材料科学クラス 「材料科学コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1											[注4]
	化学入門		1										}
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門	2											
	情報学入門		1										
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
社会基盤・環境工学入門		1											
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学	2										解
		線形代数学 A	2										代
		線形代数学 B	2	2									代
		微分方程式	2										解
		ベクトル解析	2										幾
		複素解析	2	2									解
	物理系	確率統計学	2	2									確
		フーリエ解析	2										解
		物理学 A	2										物
		物理学実験	1										物実
	化学系	化学 A	2										化
		化学 B	2										化
		化学実験	1										化実
	生物系	生物学	2	2									生〔注1〕
地学系	地学	2	2									地〔注1〕	
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門	1	1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス	1	1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学	2	2										
	技術者倫理	2							(前期)				
	工業経営管理論	2							(前期)				
	知的財産権概論	2							(前期)				
	特許法特講	2							(前期)				
	社会体験学習	1~2											
	国際研修	1~2											
	化学 C	2											
	情報学基礎	2											
電気数学	2											代	
機械工作実習	1												
コース専門横断科目	人工知能	2											コ *DS副プロ
	データベース	2											情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー	2											情社 *DS副プロ
	科学技術英語(物理・材料)	1											
	数値計算法	2											コ
	プログラミング学	2											コ
	物理・材料理工学実験	2											化実
	物理・材料理工学実験	2											物実
	専門英語セミナー	1											
	特別研修	1											
	特別講義	2	2										
	特別講義	2	2										
	工場見学	1	1										
	熱力学	2											物
	材料組織学	2											工
	電気回路学	2	2										工

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期
コース専門横断科目	電磁気学	2											物
	電磁気学		2										物
	量子物理学	2											物
	統計物理学	2											物
	光学		2										物 *半導体人材
	固体物理学	2											物
	電子物性学		2										物 *半導体人材
	材料計測学		2										工
	誘電体材料学		2										工
	半導体理工学		2										工 *半導体人材
	磁性理工学		2										物
超伝導理工学		2										物	
ナノ理工学		2										物	
材料科学コース科目	材料力学		2										工
	材料物理化学Ⅰ	2											化
	材料物理化学		2										工
	材料組織学		2										工
	金属構造材料学	2											工
	材料強度学	2											工
	材料電気化学	2											化
	半導体デバイス工学		2										工 *半導体人材
	工コ材料学		2										工
	接合工学		2										工
	反応工学		2										工
	製錬工学		2										工
	鑄造材料学		2										工
	複合材料学		2										工
	生体材料学		2										工
非鉄金属材料学		2										工	
卒業研究	6											[注2]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2										[注3]
	理工学入門数学		*2										[注3]
	理工学入門物理		*2										[注3]
	理工学入門物理		*2										[注3]
	理工学入門化学		*2										[注3]
卒業要件単位数	68	31											
合計必要単位数	99												

注意事項

- [注1] 教員免許(理科)取得希望者は必ず受講してください。
- [注2] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- [注3] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注4] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の 印は通常時間割科目、 印は集中講義での実施を示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験には、次のようなものがあります。  
危険物取扱者(甲種受験資格)  
なお、受験資格を得るには、関連科目の単位を一定基準以上取得する必要があります。詳細は担任に確認してください。
- [5] 教員免許の取得については“ 教育職員免許状・各種資格の取得方法 ”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [6] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

材料科学コース カリキュラムマップ



理工学科  
情報系クラス 「知能情報コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期
コース専門入門科目	理工学入門	1											[注3]
	化学入門		1										選択必修2科目(2単位)
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門	2											
	情報学入門		1										
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
社会基盤・環境工学入門		1											
専門 基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学		2									解
		線形代数学 A	2										代
		線形代数学 B	2										代
		微分方程式		2									解
		ベクトル解析	2										幾
		複素解析		2									解
	物理系	確率統計学	2										確
		フーリエ解析		2									解
	物理系	物理学 A		2									物
		物理学 B		2									物
	化学系	化学 A		2									化
		化学 B		2									化
生物系	生物学		2	○								生	
理工学 専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門		1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学		2										
	技術者倫理		2						(前期)				
	工業経営管理論		2						(前期)				
	知的財産権概論		2						(前期)				
	特許法特講		2						(前期)				
	社会体験学習		1~2										
	国際研修		1~2										
	化学 C		2										
情報学基礎		2											
電気数学		2										代	
機械工作実習		1											
コース専門横断科目	人工知能	2					○						コ *DS副プロ
	データベース		2							○			情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー		2				○						情社 *DS副プロ
	データ解析		2				○						確
	離散数学	2					○						代
	論理回路		2				○						コ *半導体人材
	信号処理		2						○				情コ
	画像処理とパターン認識		2							○			情マ
	ロボティクス		2						○				情シ
	コンピュータグラフィックス		2						○				情マ
	メディアシステム		2						○				情マ
	ヒューマンインタフェース		2							○			情マ
	データ構造とアルゴリズム	2						○					情コ
	数値計算		2						○				コ
	デジタル回路設計		2							○			情コ *半導体人材
	コンピュータアーキテクチャ		2							○			コ
	コンピュータネットワーク		2					○					情ネ
オペレーティングシステム		2								○		情コ	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門横断科目	ソフトウェア構成論	2					○						情シ
	デジタル通信		2			○							情ネ
	形式言語とオートマトン		2					○					コ
	情報理論		2					○					
	数理計画法		2						○				情コ
	科学技術英語(情報)	1							○				
	情報学特別講義	2						○					
	プログラミング言語及び演習	2				○							情コ *半導体人材
	プログラミング言語及び演習	2				○							情コ *半導体人材
	AIプログラミング言語	1						○					
	AI・データサイエンス実践演習		1						○				
	AI・データサイエンス実践演習		1							○			
	ソフトウェア設計及び演習	2								○			情シ
	ハードウェア設計及び演習	2									○		情コ
	ネットワーク実験	1					○						情ネ
	情報学専門実験	1									○		
	システム創成プロジェクト	2							○				情シ
	情報デザイン		2				○						情マ
	情報デザイン		2						○				
創造デザイン		2				○							
情報職業論		1							○				情社
知能情報コース科目	コンパイヤ		2							○			情コ
	卒業研究	6									○		[注1]
高大連携科目	理工学入門数学		*2										[注2]
	理工学入門数学		*2										[注2]
	理工学入門物理		*2										[注2]
	理工学入門物理		*2										[注2]
	理工学入門化学		*2										[注2]
卒業要件単位数		63	36										
合計必要単位数		99											

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るためには、コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については、コースの掲示板に掲載しますので、確認してください。
- [注2] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注3] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の印は通常時間割科目、印は集中講義での実施を示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に担任に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 本コースに関連する国家試験・資格試験には、情報処理技術者試験(基本情報技術者、応用情報技術者等)、CG-ARTS検定(CGエンジニア、画像処理エンジニア等)などがあります。
- [5] 教員免許の取得については“教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [6] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

知能情報コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目 健康・スポーツ科目 情報科目 人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目 理学領域科目 環境科目 地域関連科目(地域科目)							
	地域関連科目(地域課題履修科目) ベクトル解析 微分方程式 複素解析							
基礎専門科目	線形代数A 線形代数B 微分積分学 フーリエ解析 微分積分学 複素解析							
	線形代数A 微分積分学 複素統計学 物理学A 物理学B 化学A 化学B 生物学							
理工学共通科目	ソフトバス理工学実践 科学技術英語(入門) 国際研修 社会体験学習							
	数理・データサイエンス領域および演習 AI基礎および演習 半導体入門 半導体デバイスと製造プロセス 情報学基礎							
工学入門科目	情報学入門 化学入門 数理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 機械知能航空入門 社会基礎・環境工学入門							
	理工学入門 情報学入門 化学入門 数理・物理入門 材料科学入門 電気電子・情報通信入門 機械知能航空入門 社会基礎・環境工学入門							
工学専門科目	データ解析 離散数学 人工知能 AIプログラミング言語 AI・データサイエンス実践演習							
	データ解析 離散数学 人工知能 AIプログラミング言語 AI・データサイエンス実践演習							
工学専門科目	プログラミング言語及び演習 プログラミング言語及び演習 システム構成とアルゴリズム システム構成プロジェクト 形式言語とオートマトン 数理計画法 ソフトウェア設計及び演習 データ構造とアルゴリズム 形式言語とオートマトン 数理計画法							
	プログラミング言語及び演習 プログラミング言語及び演習 システム構成とアルゴリズム システム構成プロジェクト 形式言語とオートマトン 数理計画法 ソフトウェア設計及び演習 データ構造とアルゴリズム 形式言語とオートマトン 数理計画法							
工学専門科目	論理回路 ネットワーク実験 コンピュータネットワーク セキュリティとプライバシー デジタル通信 ネットワーク実験 コンピュータネットワーク セキュリティとプライバシー デジタル通信							
	論理回路 ネットワーク実験 コンピュータネットワーク セキュリティとプライバシー デジタル通信 ネットワーク実験 コンピュータネットワーク セキュリティとプライバシー デジタル通信							
工学専門科目	信号処理 コンピュータグラフィックス スタイラスシステム ロボティクス 数値計算 画像処理とパターン認識 コンピュータグラフィックス スタイラスシステム ロボティクス							
	信号処理 コンピュータグラフィックス スタイラスシステム ロボティクス 数値計算 画像処理とパターン認識 コンピュータグラフィックス スタイラスシステム ロボティクス							
工学専門科目	創造デザイン 情報デザイン 情報デザイン ヒューマンインタフェース 情報職業論 情報学特別講義							
	創造デザイン 情報デザイン 情報デザイン ヒューマンインタフェース 情報職業論 情報学特別講義							
工学専門科目	科学技術英語(情報) 情報学専門実験 コンピラ 卒業研究							
工学専門科目	科学技術英語(情報) 情報学専門実験 コンピラ 卒業研究							

赤字: 必修科目  
 青文字: 選択必修科目  
 黒文字: 選択科目

理工学科  
情報系クラス 「クリエイティブ情報コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1											[注3]
	化学入門		1										選択必修2科目(2単位)
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門	2											
	情報学入門		1										
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
社会基盤・環境工学入門		1											
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学		2									解
		線形代数学 A	2										代
		線形代数学 B	2										代
		微分方程式		2									解
		ベクトル解析	2										幾
		複素解析		2									解
	物理系	確率統計学	2										確
		フーリエ解析		2									解
		物理学 A		2									物
	化学系	物理学 B		2									物
		化学 A		2									化
	生物系	化学 B		2									化
生物学			2	○								生	
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門		1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学		2										
	技術者倫理		2						(前期)				
	工業経営管理論		2						(前期)				
	知的財産権概論		2						(前期)				
	特許法特講		2						(前期)				
	社会体験学習		1~2										
	国際研修		1~2										
	化学 C		2										
情報学基礎		2											
電気数学		2										代	
機械工作実習		1											
コース専門横断科目	人工知能	2					○						コ *DS副プロ
	データベース		2						○				情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー		2				○						情社 *DS副プロ
	データ解析		2				○						確
	離散数学	2					○						代
	論理回路		2				○						コ *半導体人材
	信号処理		2						○				情コ
	画像処理とパターン認識		2							○			情マ
	ロボティクス		2						○				情シ
	コンピュータグラフィックス	2							○				情マ
	メディアシステム	2							○				情マ
	ヒューマンインタフェース	2								○			情マ
	データ構造とアルゴリズム	2									○		情コ
	数値計算	2								○			コ
	デジタル回路設計		2								○		情コ *半導体人材
	コンピュータアーキテクチャ		2								○		コ
	コンピュータネットワーク	2						○					情ネ
オペレーティングシステム	2										○	情コ	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
コース専門横断科目	ソフトウェア構成論	2					○						情シ	
	デジタル通信		2			○							情ネ	
	形式言語とオートマトン		2					○					コ	
	情報理論		2					○						
	数理計画法		2						○				情コ	
	科学技術英語(情報)	1							○					
	情報学特別講義	2						○						
	プログラミング言語及び演習	2				○							情コ	*半導体人材
	プログラミング言語及び演習	2				○							情コ	*半導体人材
	AIプログラミング言語	1						○						
	AI・データサイエンス実践演習		1						○					
	AI・データサイエンス実践演習		1							○				
	ソフトウェア設計及び演習	2								○				情シ
	ハードウェア設計及び演習		2								○			情コ
	ネットワーク実験	1					○							情ネ
	情報学専門実験	1									○			
	システム創成プロジェクト	2							○					情シ
	情報デザイン		2				○							情マ
情報デザイン		2						○						
創造デザイン		2				○								
情報職業論		1						○					情社	
クリエイティブ情報 コース科目	創造デザイン		2						○					
	卒業研究	6									○		[注1]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2										[注2]	
	理工学入門数学		*2										[注2]	
	理工学入門物理		*2										[注2]	
	理工学入門物理		*2										[注2]	
	理工学入門化学		*2										[注2]	
卒業要件単位数		63	36											
合計必要単位数		99												

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るためには、コースで定める別の基準を満たさなければなりません。この基準については、コースの掲示板に掲載しますので、確認してください。
- [注2] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注3] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の印は通常時間割科目、印は集中講義での実施を示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に担任に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- [4] 本コースに関連する国家試験・資格試験には、情報処理技術者試験(基本情報技術者、応用情報技術者等)、CG-ARTS検定(CGエンジニア、画像処理エンジニア等)などがあります。
- [5] 教員免許の取得については“教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [6] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。



理工学科  
電気電子・情報通信クラス 「電気電子・情報通信コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1											[注3]
	化学入門		1										選択必修2科目(2単位)
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門	2											
	情報科学入門		1										
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
社会基盤・環境工学入門		1											
専門 基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学	2										解
		線形代数学 A	2										代
		微分方程式	2										解
		ベクトル解析	2										幾
		複素解析	2	2									解
	物理系	確率統計学	2										確
		フーリエ解析	2										解
		物理学 A	2										物
化学系	物理学 B		2									物	
	化学 A		2									化	
理工学 専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門		1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学		2										
	技術者倫理		2						(前期)				
	工業経営管理論		2						(前期)				
	知的財産権概論		2						(前期)				
	特許法特講		2						(前期)				
	社会体験学習		1~2										
	国際研修		1~2										
	化学 C		2										
情報学基礎		2											
電気数学		2										代	
機械工作実習		1											
コース専門横断科目	人工知能		2										コ *DS副プロ
	データベース		2										情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー		2										情社 *DS副プロ
	ものづくり課題演習		1										*ものづくりプロ
	ものづくり課題演習		1										*ものづくりプロ
電気電子・情報通信 コース科目	電気回路論		2										工
	電気回路論		2										工
	電気回路論		2										工
	電磁気学		2										工
	電磁気学		2										工
	電磁波工学		2										工
	電子材料物性学		2										工 *半導体人材
	半導体 LSI 工学		2										工 *半導体人材
	電子デバイス工学		2										工 *半導体人材
	電子デバイス工学		2										工 *半導体人材
	アナログ電子回路		2										工
	デジタル電子回路		2										工
	応用電子回路		2										工
	電気電子計測学		2										工
	情報通信理論		2										
情報通信ネットワーク		2											



電気電子・情報通信コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	人文社会科学・教育領域科目							
	理学							
	理学領域科目							
	工学領域科目							
	環境科目							
	地域関連科目(地域科目)							
	地域関連科目(地域課題演習科目)							
専門基礎科目	基礎数学	線形代数学A	ベクトル解析	フーリエ解析				
	微分積分学	微分積分学	微分方程式					
	物理学A	複素解析						
	化学A	物理学B						
工学専門入門科目	理工学入門(オムニバス)	化学入門						
		数理・物理入門						
		材料科学入門						
		電気電子・情報通信入門						
学部内共通科目	国際研修	情報学入門						
		機械知能航空入門						
		社会基礎・環境工学入門						
		ソフトバスター工学実践 科学技術英語(入門)						
工学専門基礎科目	半導体入門	電気数学	国際研修	社会体験学習				
	特別：デュータサイエンス基礎および演習	半導体デバイスと製造プロセス						
電気電子・情報通信コース科目	電子デバイス	電子回路論	電気回路論	電気回路論	電気回路論	電気回路論	電気回路論	電気回路論
	電磁気学	電磁気学	電磁気学	電磁気学	電磁気学	電磁気学	電磁気学	電磁気学
	電子材料物性学	電子材料物性学	電子材料物性学	電子材料物性学	電子材料物性学	電子材料物性学	電子材料物性学	電子材料物性学
		アナログ電子回路	アナログ電子回路	アナログ電子回路	アナログ電子回路	アナログ電子回路	アナログ電子回路	アナログ電子回路
		情報通信理論	情報通信理論	情報通信理論	情報通信理論	情報通信理論	情報通信理論	情報通信理論
		電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学
		エネルギー変換工学	エネルギー変換工学	エネルギー変換工学	エネルギー変換工学	エネルギー変換工学	エネルギー変換工学	エネルギー変換工学
		電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学	電子デバイス工学
		半導体デバイス工学	半導体デバイス工学	半導体デバイス工学	半導体デバイス工学	半導体デバイス工学	半導体デバイス工学	半導体デバイス工学
		電気電子・情報通信工学専門研修	電気電子・情報通信工学特別講義	電気電子・情報通信工学特別講義	電気電子・情報通信工学特別講義	電気電子・情報通信工学特別講義	電気電子・情報通信工学特別講義	電気電子・情報通信工学特別講義
	電気電子・情報通信工学基礎実験	電気電子・情報通信工学基礎実験	電気電子・情報通信工学基礎実験	電気電子・情報通信工学基礎実験	電気電子・情報通信工学基礎実験	電気電子・情報通信工学基礎実験	電気電子・情報通信工学基礎実験	
	プログラム言語及び演習	プログラム言語及び演習	プログラム言語及び演習	プログラム言語及び演習	プログラム言語及び演習	プログラム言語及び演習	プログラム言語及び演習	
	電気電子・情報通信工学英語研修	電気電子・情報通信工学英語研修	電気電子・情報通信工学英語研修	電気電子・情報通信工学英語研修	電気電子・情報通信工学英語研修	電気電子・情報通信工学英語研修	電気電子・情報通信工学英語研修	
	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	卒業研究	

赤文字：必修科目  
黒文字：選択科目

半導体育成科目

理工学科  
機械知能航空クラス 「機械知能航空コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考	
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次			
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1											〔注3〕 選択必修2科目(2単位)
	化学入門		1										
	数理・物理入門		1										
	材料科学入門		1										
	情報科学入門		1										
	電気電子・情報通信入門		1										
	機械知能航空入門		1										
専門基礎科目	数学系	基礎数学	1										代
		微分積分学	2										解
		微分積分学	2										解
		線形代数学A	2										代
		微分方程式	2										解
		ベクトル解析	2										幾
		複素解析入門		1									解
	物理系	確率統計学	2										確
		フーリエ解析	2										解
		物理学A	2										物
	物理系	物理学B	2										物
		物理学実験	1										物実
	化学系	化学A	2										化
理工学専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1											
	ソフトパス理工学実践	1											
	科学技術英語(入門)	1											
	半導体入門		1										*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1										*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2											*DS副プロ
	AI基礎および演習	2											*DS副プロ
	原子力工学		2										
	技術者倫理	2							(前期)				
	工業経営管理論		2										
	知的財産権概論		2							(前期)			
	特許法特講		2							(前期)			
	社会体験学習		1~2										
	国際研修		1~2										
	化学C		2										
情報学基礎		2											
電気数学		2										代	
機械工作実習		1											
コース専門横断科目	人工知能		2										コ *DS副プロ
	データベース		2										情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー		2										情社 *DS副プロ
	ものづくり課題演習		1										*ものづくりプロ
	ものづくり課題演習		1										*ものづくりプロ
機械知能航空コース科目	機械製図		1										工
	CAD実習		1										工
	プログラミング言語実習		1										
	材料力学		2										工
	材料力学演習		1										
	機械材料学		2										工
	流体力学		2										工
	流体力学演習		1										
	機械製図		1										工
	機械加工学		2										工
	機械力学		2										工
	機械力学演習		1										
	熱力学		2										工
熱力学演習		1											
機械実験		1											

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
機械知能 航空コース科目	プログラミング言語実習	1												
	制御工学	2											工	
	先端機械工学概論	1												
	キャリアデザイン	1												
	機械設計学	2											工	
	機械リサーチ研修	1												
	科学技術英語(機械)	1												
	数値計算アルゴリズム		2											コ
	材料力学		2											工
	粘性流体工学		2											工
	固体力学		2											工
	伝熱工学		2											工
	燃焼工学		2											工
	トライボロジー		2											工 *半導体人材
	生体工学		2											工
	精密工学		2											工 *半導体人材
	センシング工学		2											工 *半導体人材
	コンピュータシミュレーション実習		1											
	計算力学		2											代
	システム制御工学		2											コ
	航空流体工学		2											工
機械材料学		1											工	
ロボティクス工学		2											工	
航空宇宙システム工学		1											工	
卒業研究	6												[注1]	
高大連携科目	理工学入門数学		*2											[注2]
	理工学入門数学		*2											[注2]
	理工学入門物理		*2											[注2]
	理工学入門物理		*2											[注2]
	理工学入門化学		*2											[注2]
卒業要件単位数	70	29												
合計必要単位数	99													

注意事項

- [注1] 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- [注2] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- [注3] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- [1] このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- [2] 履修年次欄の印は通常時間割科目、印は集中講義での実施を示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- [3] この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その科目がコースの科目と講義内容が重複する恐れがある場合、履修申告前に担任に相談してください。
- [4] 工場見学は適宜実施します。
- [5] 卒業生が受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。  
(1)ボイラー・タービン主任技術者(第2種) (卒業後に実務経験3年で申請資格を取得)  
(2)自動車整備士(3級) (卒業後に実務経験6ヶ月で受験資格を取得)  
(3)消防設備士 甲種(甲種特類を除く) (卒業で受験資格を取得)  
(4)冷凍空調技士(第一種) (卒業後に実務経験2年で受験資格を取得)  
(5)建設機械施工技士(2級) (卒業後に実務経験1年で受験資格を取得)  
なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- [6] 教員免許の取得については“教育職員免許状・各種資格の取得方法”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- [7] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

機械知能航空コース カリキュラムマップ

区分	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	外国語科目							
	健康・スポーツ科目							
	情報科目							
	人文社会科学・教育学領域科目							
	理学・工学領域科目							
	農学領域科目							
	環境科目							
	地域関連科目(地域科目)							
	地域関連科目(地域課題演習科目)							
	1年次専門入門科目	理工学入門		化学入門		ベクトル解析		フーリエ解析
数理・物理入門		材料科学入門		微分方程式		複素解析入門		
電機電子・情報通信入門		情報入門		物理学実験				
機械知能航空入門		社会基礎・環境工学入門						
基礎数学		線形代数A						
微積分学		微積分学A						
物理A		物理B						
化学A		確率統計学						
ソフトウェア工学序論		ソフトウェア工学実践		国際研修(集中)				
機械工作実習		半導体デバイスと製造プロセス		社会体験学習(集中)		工業経営管理論(集中)		
2年次専門共通科目	半導体入門		数理・データサイエンス基礎および演習		半導体デバイスと製造プロセス		知的財産権概論(集中)	
	基礎演習および演習		AI基礎演習および演習		データベース		特許法特講(集中)	
					セキュリティとプライバシー		原子力工学(集中)	
					データベース		技術者倫理	
					セキュリティとプライバシー		人工知能	
							社会体験学習(集中)	
							工業経営管理論(集中)	
							知的財産権概論(集中)	
							特許法特講(集中)	
							原子力工学(集中)	
3年次専門横断科目	機械製図		機械製図		機械製図		機械設計学	
	CAD実習		数値計算アルゴリズム		数値計算アルゴリズム		PLCエーカムレジョン実習	
	プログラミング言語実習		材料力学		プログラミング言語実習		計算力学	
	材料力学演習		機械加工学		固体力学			
	機械材料学		機械力学		精密工学		トライボロジー	
			機械力学演習		制御工学		システム制御工学	
			粘性流体工学		生体工学		センシング工学	
			流体力学演習		熱力学		航空宇宙システム工学	
					熱力学		ロボット工学	
					熱力学演習		航空流体工学	
4年次専門横断科目	AI基礎演習および演習		先端機械工学概論(20)		キャリアデザイン(10)		科学技術英語(機械)	
			キャリアデザイン(10)		機械リサーチ研修		卒業研究	

塗りつぶし(太枠)がある科目は必修科目  
塗りつぶしがない(細枠)科目は選択科目

理工学科  
社会基盤・環境工学クラス 「社会基盤・環境工学コース」

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考				
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次						
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期		
コース専門入門科目	理工学入門	1														[注3]
	化学入門	1														
	数理・物理入門	1														
	材料科学入門	1														
	情報学入門	2														選択必修2科目(2単位)
	電気電子・情報通信入門	1														
	機械知能航空入門	1														
社会基盤・環境工学入門	1															
専門 基礎科目	数学系	基礎数学	1													代
		微分積分学	2													解
		微分積分学	2													解
		線形代数学 A	2													代
		微分方程式	2													解
		ベクトル解析	2													幾
	物理系	確率統計学	2													確
		フーリエ解析	2													解
		物理学 A	2													物
	化学系	物理学 B	2													物
		物理学実験	1													物実
	地学系	化学 A	2													化
		化学 B	2													化
化学実験		1													化実	
理工学 専門共通科目	地学	2														地
	ソフトパス理工学序論	1														
	ソフトパス理工学実践	1														
	科学技術英語(入門)	1														
	半導体入門	1														*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス	1														*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2														*DS副プロ
	AI基礎および演習	2														*DS副プロ
	原子力工学	2														
	技術者倫理	2								(前期)						
	工業経営管理論	2														
	知的財産権概論	2									(前期)					
	特許法特講	2									(前期)					
	社会体験学習	1~2														
	国際研修	1~2														
	化学 C	2														
	情報学基礎	2														
電気数学	2														代	
機械工作実習	1															
コース専門横断科目	人工知能	2														コ *DS副プロ
	データベース	2														情シ *DS副プロ
	セキュリティとプライバシー	2														情社 *DS副プロ
社会基盤・環境工学 コース科目	地域創生課題演習	1														
	地域創生課題演習	1														
	社会基盤・環境工学実験	1														地実
	社会基盤・環境プログラミング演習	1														
	数値計算法	2														コ
	科学技術英語(社会基盤・環境)	1														
	測量学	2														工
	測量学実習	1														工
	測量学実習	1														工
	構造力学	2														物
	構造力学	2														物
	構造力学演習	1														物
	鋼構造学	2														工
	コンクリート工学	2														工
	鉄筋コンクリート工学	2														工
道路工学	2														工	
施設維持管理工学	2														工	

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考				
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次						
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期		
社会基盤・環境工学 コース科目	水 理 学	2													物	
	水 理 学	2													物	
	水 理 学 演 習		1												物	
	水 工 学	2													工	
	土 質 力 学	2													物	
	土 質 力 学	2													物	
	土 質 力 学 演 習		1												物	
	地 質 工 学	2													地	
	岩 盤 力 学	2													工	
	耐 震 工 学	2													物	
	地 震・火 山 防 災 工 学	2													地	
	水・土 砂 防 災 工 学	2													地	
	都 市 計 画 学	2													工	
	交 通 計 画 学	2													工	
	公 共 政 策 学		2												工	
	上 下 水 道 工 学	2													工	*半導体人材
	環 境 工 学	2													工	
	水 環 境 工 学		2												化	*半導体人材
	大 気 環 境 工 学		2												化	
	土 壌 環 境 工 学		2												工	
	生 態 環 境 保 全 学		2												工	
	資 源 循 環 工 学		2												工	*半導体人材
	設 計 製 図	1													工	
施 工 法	2															
特 別 演 習		1														
卒 業 研 究	6													○	〔注1〕	
高大連携科目	理 工 学 入 門 数 学		* 2												〔注2〕	
	理 工 学 入 門 数 学		* 2												〔注2〕	
	理 工 学 入 門 物 理		* 2												〔注2〕	
	理 工 学 入 門 物 理		* 2												〔注2〕	
	理 工 学 入 門 化 学		* 2												〔注2〕	
卒 業 要 件 単 位 数	72	27														
合 計 必 要 単 位 数	99															

注意事項

- 〔注1〕 卒業研究に入るために取得していなければならない単位数は別の基準によります。詳細は担任教員に確認してください。
- 〔注2〕 [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位数には含まれません。
- 〔注3〕 [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)を超えて修得しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。

補足事項

- (1) このコース課程は、実施面で多少変更することがあります。
- (2) 履修年次欄の 印は通常時間割科目、 印は集中講義での実施を示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)
- (3) この表に記載されていない科目についても、教職科目以外の他コース、他学部、いわて高等教育コンソーシアムの授業科目、国際教育科目及び海外協定大学で取得した単位は、10単位を上限として卒業に必要な選択単位として認めることができます。ただし、その単位がコース内の専門科目として認められるかどうかの事前審査を別途行います。よって、履修申告前に教務委員に相談し所定の手続をとることを条件とします。
- (4) 卒業生が申請により取得できる資格、又は受けられる国家試験・資格試験等には、次のようなものがあります。
- (1)技術士補 ( 修習技術者と認定、申請取得)
  - (2)技術士 ( 技術士補取得後、実務経験4年で受験資格)
  - (3)1級土木施工管理技士 ( 卒業後実務経験3年で受験資格)
  - (4)2級土木施工管理技士 ( 卒業後実務経験1年で受験資格)
  - (5)測量士補 ( 申請取得)
  - (6)測量士 ( 測量士補登録後、実務経験1年で申請により取得)
  - (7)作業環境測定士(1種、2種) ( 労働衛生・要実務経験)
  - (8)公害防止管理者 ( 資格認定講習受講・要実務経験)
  - (9)廃棄物処理施設技術管理者 ( 要実務経験)
  - (10)冷凍空調技士(第1種) ( 要実務経験)
  - (11)1級建築施工管理技士 ( 卒業後実務経験3年で受験資格)
  - (12)2級建築施工管理技士 ( 卒業後実務経験1年で受験資格)
- なお、詳細は、各資格試験実施機関のHPなどを参照してください。
- (5) 教員免許の取得については“ 教育職員免許状・各種資格の取得方法 ”を参照してください。なお、教科に関する科目の区分は備考欄に示してあります。
- (6) 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。



理工学科  
データサイエンス応用オープンクラス（初年次のみ）

区分等	科目名	単位数		履修年次								備考		
				1年次 (初年次)		2年次		3年次		4年次				
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期
コース専門入門科目	理工学入門	1												[注2]
	化学入門		1											選択必修2科目(2単位)
	数理・物理入門		1											
	材料科学入門		1											
	情報学入門		1											
	電気電子・情報通信入門		1											
	機械知能航空入門		1											
社会基盤・環境工学入門		1												
専門基礎科目	[注3]													[注3]
理工学 専門共通科目	ソフトパス理工学序論	1												
	ソフトパス理工学実践	1												
	科学技術英語(入門)	1												
	半導体入門		1											*半導体人材
	半導体デバイスと製造プロセス		1											*半導体人材
	数理・データサイエンス基礎および演習	2												*DS副プロ
	AI基礎および演習	2												*DS副プロ
	原子力工学		2											
	技術者倫理		2						(前期)					[注6]
	工業経営管理論		2						(前期)					
	知的財産権概論		2						(前期)					
	特許法特講		2						(前期)					
	社会体験学習		1~2											
	国際研修		1~2											
	化学C		2											
情報学基礎		2											代	
電気数学		2												
機械工作実習		1												
コース専門横断科目	[注4]													[注4]
コース科目	[注5]													[注5]
高大連携科目	理工学入門数学		*2											[注1]
	理工学入門数学		*2											[注1]
	理工学入門物理		*2											[注1]
	理工学入門物理		*2											[注1]
	理工学入門化学		*2											[注1]

注意事項

- [注1] [高大連携科目]理工学入門科目の単位(\*)は専門科目(選択)の単位として認定されますが、卒業要件単位には含まれません。
- [注2] [コース専門入門科目]は、理工学入門を必修とします。  
また、化学、数理・物理、材料科学、情報学、電気電子・情報通信、機械知能航空、社会基盤・環境工学の計7科目から、2科目2単位を選択必修とします。この科目数(単位数)以上を履修しても、卒業要件内の選択単位には含まれませんので、注意してください。
- [注3] 2年次以降に所属したいコースの「専門基礎科目」区分を参照のうえ履修してください。
- [注4] 2年次以降に所属したいコースの「コース専門横断科目」区分を参照のうえ履修してください。
- [注5] 2年次からの所属コースの教育課程に従って履修してください。
- [注6] この科目は、所属コースによって必修/選択が異なります。
- [注7] 備考欄の\*印は、各特別プログラム関係科目を示しています。

(3) 教職に関する科目・教科に関する科目表

科目区分及び授業科目 (注1)		単位数	1年次		2年次		3年次		4年次		備考
			前	後	前	後	前	後	前	後	
教職に関する科目	教職入門	2	←→								
	教育概論	2			←→						
	教育・学校心理学	2		←→							
	教育法規	2			←→						
	学校経営・制度論	2			←→						
	特別支援教育	2			←→						
	総合的な学習の時間の理論と実践	2			←→						
	特別活動の理論と方法	2		←→							
	教育課程・教育方法論	2			←→						
	教育におけるICT活用法	1					←→				
	生徒指導・進路指導	2		←→							
	教育相談	2		←→							
	教職実践演習	2								←→	
	教育実習	3							←→		
教育実習事前事後指導						←→					
教科及び教科の指導法に関する科目	数学科教育法	2			←→						
	数学科教育法	2			←→						
	理科教育法	2			←→						
	理科教育法	2			←→						
	情報教育法	2			←→						
	情報教育法	2			←→						
	工業教育法	2			←→						
	工業教育法	2			←→						
	職業指導	2			←→						

(注1) 本表の科目は、卒業要件単位数に含まれません。

専門教育について

農学部

# 農 学 部

## < 農学部の理念と目標 >

### \* 理念

現在の農学分野においては、世界的規模で進む環境の変化や農業生産を取り巻く様々な情勢の変化を反映した教育・研究の必要性が増している。さらに、年々複雑化、多様化する農学分野における諸課題の解決にあたっては、個々の専門分野における教育・研究の深化のみならず、農学分野を広く横断する俯瞰的な視点に立った教育・研究が強く求められており、その実践を農学部の理念とする。

### \* 教育目標

農学分野において基盤を成す「食料」「生命」「環境」の3つの領域を基軸として、各領域に関する教育・研究、さらには3つの領域を俯瞰しそれらを複合するための「農学の総合知」教育を実践する。

### \* 研究目標

農学部は、独創的な国際レベルの学術研究、そして地域社会との連携による新分野の研究を追求する。具体的には以下の視点からの研究の推進と質的向上を目指す。

- 1) 持続可能な地域農林水産業と豊かな社会の形成に対する貢献
- 2) 地球規模の問題を視野に入れた課題の解決
- 3) 生物系産業の創出・発展への積極的な取り組み

### \* 社会貢献目標

農学部は、地域社会に存在する教育、研究ニーズを積極的に掘り起こし、学部の教育・研究課題として受け止める一方、その成果をわかりやすく解説しながら社会に還元していくことを目標とする。この目標実現のためには、日常的に地域社会と農学部の交流を十全にし、その関係構築の土壌形成に努めることとする。

さらに、地域社会から国際社会へ教育研究の場を広げ、知的資産を還元し社会に貢献する。

## < 教育目的 >

農学分野において基盤を成す「食料」「生命」「環境」の3つの領域に関する教育に加えこれら3つの領域を俯瞰しそれらを複合するための「農学の総合知」に関する教育の実践により、自身の専門分野に関して農学全体からの視点を持ち、身につけた知識・技術を他の分野に広く展開できる能力を持った次世代の農学人材の育成を教育目的とする。

## 食料農学科

### < 教育目的 >

食料農学科は、人々の生存の基盤である食料の生産とそれを基にした食品に関わる知識と技術の教育と研究を行い、地域・国際社会での食料生産、食品供給、健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて、健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材の養成を目的とする。

## < 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） >

### 【農学コース】

農学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．農業および食品産業に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学，情報技術，コミュニケーション技術に関する基礎知識を有している。
- 2．食料の持続的な安定生産および安定供給，生命機能の解明と食料生産への応用に関する基礎的知識および科学的方法を理解している。

（思考・判断）

- 3．農学に関する知識と理解を基礎に，関連する諸問題に対して多面的に考察し，自分の考えをまとめ，行動することができる。

（関心・意欲）

- 4．豊かな課題探求能力と課題解決能力をもって農業および食品産業が抱える諸問題を解決しようとする意欲を持っている。

（態度）

- 5．農学に関連した産業の創出・発展のニーズに，協調性と倫理性をもって，自立的・継続的に行動することができる。

（技能・表現）

- 6．自らの倫理的な思考・判断のプロセスや結果を説明するためのプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得している。

### 【食品健康科学コース】

食品健康科学コースの教育目的に則り，所定の教育課程を修了し，以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

（知識・理解）

- 1．食と健康に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学，社会科学，情報技術およびコミュニケーションに関する基礎知識を身につけている。
- 2．農産物や食品素材の物理的・化学的特性やその加工に関する知識，栄養代謝や天然資源の健康機能素材に関する理解が身につけている。

（思考・判断）

- 3．農産物や食品素材に関する知識と理解を基礎に，食糧，健康に関する諸課題・未知事項について，多面的に思考し自らの考えをまとめる能力を身につけている。

（関心・意欲）

- 4．食糧，健康に関する課題や未知事項に関心を持ち，その解決・解明に取り組む意欲を持っている。

（態度）

- 5．農産物，食品素材，天然資源の有効利用やその応用を通じて，食品産業や医薬品産業を始めとする食品・健康関連産業の創出・発展に寄与し，広い視野を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

（技能・表現）

- 6．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断結果を的確に説明する表現力や，それを実践する技能を修得している。

### <教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）>

食料農学科は，人類の生存基盤である食料の生産とそれを基にした食品に関わる知識と技術の教育と研究を行い，地域・国際社会での食料生産，食品供給，健康分野における課題解決や新しい価値の創出を通じて，健康で持続的な食料と食品の生産・供給を担う人材を育成する。

### 【農学コース】

農学コースでは，農学に関する専門知識と技術を身につけ，社会のリーダーとして活躍できる専門職業人，またグローバルな視点をもった研究者・技術者として国内外で活躍できる人材を育成するた

め、以下のカリキュラムを構成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 広範な知識と高い倫理性を身につけるために、教養教育科目群、専門基礎科目群、学部共通科目群に属する科目の履修を必修としている。
2. 農業および食品産業に関する高い専門知識と技術を身につけるために、専門コア科目において作物学、園芸学、植物育種学、植物病理学、土壌学、植物栄養生理学、農業経済学に関する科目群を配置している。

(思考・判断)

3. 農学に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができるように、学科概論、専門コア科目に演習科目および実験科目を配置している。

(関心・意欲)

4. 農業および食品産業に関する具体的な課題への関心と、課題を解決する能力・技術・意欲を身につけるための科目として、専門コア科目に農場実習、学部共通科目に「農学の総合知」修得のための概論と演習、インターンシップおよび卒業研究を配置している。

(態度)

5. 農業および食品産業の創出・発展のニーズに、協調性と倫理性をもって、自律的・継続的に行動できる能力を修得するために、インターンシップ、農学のための倫理学、食料農学科概論および卒業研究を配置している。
6. 論理的な思考の過程と判断の結果をわかりやすく説明するための高いプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を修得するために、演習科目、卒業研究および科学英語を配置している。

### 【食品健康科学コース】

食品健康科学コースでは、国内外の食品産業の発展や超高齢社会において食を通じた人々の健康に寄与できる人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 食と健康に関わる諸問題を理解するために必要な自然科学、社会科学、情報技術およびコミュニケーションに関する基礎知識を身につけるため、教養教育科目と専門基礎科目の履修を必修としている。
2. 農産物や食品素材の物理的・化学的特性やその加工に関する知識、栄養代謝や天然資源の健康機能素材に関する理解を修得するため、専門コア科目に食品化学、栄養化学、食品工学、天然物化学、食品微生物学に関する科目群を配置している。

(思考・判断)

3. 農産物や食品素材に関する知識と理解を基礎に、食糧、健康に関する諸課題・未知事項について、多面的に思考し自らの考えをまとめる能力を育成するため、専門コア科目に演習科目および実験実習科目を配置している。

(関心・意欲)

4. 食糧、健康に関する課題や未知事項に関心を持ち、その解決・解明に意欲的に取り組むために、学部共通科目にインターンシップや卒業研究を配置している。

(態度)

5. 農産物、食品素材、天然資源の有効利用やその応用を通じて、食品産業や医薬品産業を始めとする食品・健康関連産業の創出・発展に寄与し、広い視野を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう、インターンシップ、農学の総合知の修得に関する科目および学科概論を配置している。

(技能・表現)

6. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断結果を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得するため、学部共通科目に科学英語や卒業研究、専門コア科目に演習科目や実験実習を配置している。

## 生命科学科

### < 教育目的 >

生命科学科は、生命の営みの基本であるタンパク質や核酸、糖鎖や脂質などが関与する分子レベルの反応に焦点を当て、生命現象を分子レベルで理解することにより、地球環境問題の解決、種の多様性の保存、健康寿命の延長など、次世代の諸問題の解決を先導できる人材の養成を目的とする。

### < 学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） >

#### 【分子生物機能学コース】

分子生物機能学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

##### （知識・理解）

- 1．生物機能を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる教養的素養を有している。
- 2．生化学、分子生物学、細胞生物学、微生物学、植物生理学、応用昆虫学の専門的な基礎知識を身につけ、様々な生き物の生物機能について十分に理解している。

##### （思考・判断）

- 3．様々な生物における分子機能に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

##### （関心・意欲）

- 4．様々な生物における分子機能の未解決課題に関心を持ち、産業への応用をはじめとして、環境や食料、健康などの分野での問題解決に意欲的に取り組むことができる。

##### （態度）

- 5．様々な生物における分子機能の有効利用やその応用を通じて、分析系や化学系、食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し、高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

##### （技能・表現）

- 6．自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得している。

#### 【分子生命医科学コース】

分子生命医科学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士（農学）」の学位を授与する。

##### （知識・理解）

- 1．生命活動のプログラムを分子レベルで解き明かす分子生命科学やその知見を医療に役立てる生命医科学を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる教養的素養を有している。
- 2．生化学、分子生物学、バイオテクノロジー、細胞生物学、生理学、神経科学、免疫学、組織形態学、再生医療工学、動物行動学などの専門的な基礎知識を身につけ、様々な生命活動のプログラムについて十分に理解している。

##### （思考・判断）

- 3．生命活動のプログラムやその医療への応用に関する分子レベルでの知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができる。

##### （関心・意欲）

- 4．様々な生命活動のプログラムに関する分子メカニズムに関心を持ち、生活の質(Quality of life; QOL)の向上に役立てる試みをはじめとして、健康衛生や疾病の予防などの生命科学に関連する問題解決に意欲的に取り組むことができる。

(態度)

5. 様々な生命活動のプログラムの分子レベルでの解明やその医療への応用を通して、医療系や製薬系、化学系、食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し、高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動がとれる。

(技能・表現)

6. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得している。

### <教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)>

生命科学科は、生物の分子レベルでの知識と理解に立脚し、様々な問題を俯瞰的に捉え、地球環境問題の解決、種の多様性の次世代への保存、健康寿命の延長など、次世代の諸問題の解決するための教育研究を行う。

#### 【分子生物機能学コース】

分子生物機能学コースでは、微生物、植物、昆虫、動物など様々な生き物の生物機能に関わる基礎的および専門的知識を習得し、実験、研究科目を学ぶ中で、自ら発想し行動する力、独創性ならびに柔軟な対応力を身につけ、グローバル化する社会でその力を発揮できる、自律性や判断力を持つ人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 生物機能を理解するための基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる素養を身につけるために、教養教育科目、専門基礎科目、学部共通科目に属する科目の履修を選択必修としている。

2. 様々な生物の機能を分子レベルで解明し、産業への応用をはじめとして、環境や食料、健康などの分野で問題解決へと導く専門的な基礎知識を身につけるために、専門コア科目において生化学、分子生物学、細胞生物学、微生物学、植物生理学、応用昆虫学に関する科目群を配置している。

(思考・判断)

3. 様々な生物における分子機能に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができるように演習科目および卒業研究を配置している。

(関心・意欲)

4. 様々な生物における分子機能の未解決課題へ関心を持ち、また、専門知識を産業へと応用することをはじめ、環境や食料、健康などの分野での課題解決への意欲を身につけるための科目としてインターンシップおよび卒業研究を配置している。

(態度)

5. 様々な生物における分子機能の有効利用やその応用を通じて、分析系や化学系、食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し、高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう学部共通科目のインターンシップや専門重点科目の農学のための倫理を配置している。

(技能・表現)

6. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得するために、演習科目、卒業研究、科学文献読解法を配置している。

#### 【分子生命医科学コース】

分子生命医科学コースでは、様々な生命活動の分子レベルでの解明・理解に基づく医療への応用に関する基礎的および専門的知識を習得し、実験、研究科目を学ぶ中で、自ら発想し行動する力、独創性ならびに柔軟な対応力を身につけ、生命科学分野の諸問題の解決に力を発揮できる、自律性や判断力を持つ人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 様々な生命活動のプログラムを分子レベルで理解し、その知見を医療に応用する基礎となる自然科学や専門知識を広い視野で俯瞰できる素養を身につけるために、教養教育科目、専門基礎科目、学部共通科目に属する科目の履修を選択必修としている。
2. 生命活動のプログラムを分子レベルで理解し、生命科学分野の諸問題の解決へと導く専門的な基礎知識を身につけるために、専門コア科目において生化学、分子生物学、バイオテクノロジー、細胞生物学、生理学、神経科学、免疫学、組織形態学、再生医療工学、動物行動学などに関する科目群を配置している。

(思考・判断)

3. 生命活動のプログラムや医療に関する知識と理解を基礎に、関連する諸課題に対して多面的に考察し、自分の考えをまとめることができるように実験科目、情報科目および卒業研究を配置している。

(関心・意欲)

4. 生命活動のプログラムの分子レベルでの理解やその医療への応用に関する諸問題に関心を持ち、専門知識を生活の質(Quality of life; QOL)の向上へと応用することをはじめ、健康衛生や疾病の予防などの分野での課題解決への意欲を身につけるための科目としてインターンシップおよび卒業研究を配置している。

(態度)

5. 生命活動のプログラムの分子レベルでの理解やその医療への応用を通して、医療系や製薬系、化学系、食品系の関連産業や研究関連分野の創出・発展に寄与し、高い倫理観を持って地域や社会に貢献する考え方や行動をとることが可能になるよう学部共通科目インターンシップや専門重点科目に農学のための倫理を配置している。

(技能・表現)

6. 自らの知識と論理的な思考に基づいた判断を的確に説明する表現力や、それを実践する技能を修得するために、実験科目、情報科目、卒業研究を配置している。

## 地域環境科学科

### <教育目的>

地域環境科学科では、持続可能な食と農の科学、地域生態系の保全、森林資源の管理と持続的な利用、持続的農業生産と環境管理、農業インフラの整備、スマート農業システムの導入、グリーントランスフォーメーションについて、地球環境問題とSDGsへの対応を念頭に置いた教育を行い、未来の農林業を担う地域先導型人材の養成を目的とする。

### <学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

#### 【革新農業コース】

革新農業コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 自然科学や情報技術および地域文化に関する基礎知識を深く理解している。
2. 革新的な農業技術の基礎および応用分野の知識を身につけている。

(思考・判断)

3. 地域の課題について考察し、課題解決のための適切な判断ができる能力を身につけている。
4. 革新的な農業技術について総合的に考察し、適切な判断ができる能力を身につけている。

(関心・意欲)

5. 持続可能な食料・農業・農村システムの実現に関心を持ち、問題解決に貢献しつつ地域農業を先導する意欲と能力を持っている。

(態度)

6. 自らの社会的責任と倫理遵守の重さを自覚し、多様な主体と協働しながら継続的に学ぶ態度を身につけている。

(技能・表現)

7. 調査・研究や各種統計によるデータを分析・利用する技能を身につけている。

8. 聞き手に明快に説明できるプレゼンテーション技能とコミュニケーション能力を身につけ、文章や口頭発表によって表現できる。

### 【森林科学コース】

森林科学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 数学、自然科学、情報処理に関する基礎的知識を持っている。

2. 森林科学の学問内容および方法を説明できる。

(思考・判断)

3. 森林の多面的機能について、総合的に考えることができる。

4. 与えられた制約の下で計画的に仕事を進めることができる。

(関心・意欲)

5. 地球的視点から、各地の文化や異なる価値観に関心を示している。

6. 自主的、継続的に学修できる。

(態度)

7. 技術者が社会に対して負っている責任を感じる。

8. チームワークを意識して行動できる。

(技能・表現)

9. 日本語で論理的に記述・発表・討議できる。

10. 森林科学の知識を利用し、社会の要求を解決するために提案できる。

### <教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)>

地域環境科学科では、持続可能な食と農の科学、地域生態系の保全、森林資源の管理と持続的な利用、持続的農業生産と環境管理、農業インフラの整備、スマート農業システムの導入、グリーントランスフォーメーションについて、地球環境問題とSDGs達成への対応を念頭に置いた教育を行い、未来の農林業を担う地域先導型人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

### 【革新農業コース】

革新農業コースでは、農業と食を切り拓く革新的な農業技術を取り扱うことのできる人材の輩出を目的とした教育を行う。具体的には、スマート農業技術を核とした、農村環境や農業のインフラ整備の技術の開発、地域のネットワークづくり、次世代型食料システムの創出を担うことのできる人材を育成する。さらには、グローバルな視点と高度な専門知識を備えて地域農業を先導するとともに、持続可能な食料・農業・農村システムの実現に向けた取り組みを通じてSDGs達成に貢献できる人材育成のための教育・研究を展開することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

(知識・理解)

1. 自然科学や情報技術および農業と食を切り拓く革新的な農業技術に関する基礎知識を深く理解できるよう、教養教育科目と専門基礎科目の幅広い履修を課している。

2. スマート農業技術を核とした、農村環境整備や農業生産のインフラ整備の技術開発、地域のネットワークづくり、次世代型食料供給システムの構築の知識を身につけられるよう、コース科目に、力学系科目群、地理情報系科目群、水土系科目群、農業・食料生産科学系科目群、生態・社会科学系科目群、演習科目群を配置している。

(思考・判断)

- 3 地域の問題点と課題を把握し、専門知識を総合してさまざまな課題について考察できるとともに、課題解決のための判断力が養われるよう、コース科目に演習科目群、学部共通科目にインターンシップと卒業研究を配置している。
- 4 革新的な農業技術について総合的に考察し、その現場適用における適切な判断ができる能力を養えるよう、コース科目にスマート農業概論、フィールドロボティクス、革新農業実践論などの実用的かつ実践的な授業科目群を配置し、2、3年次での履修を促している。

(関心・意欲)

- 5 持続可能な食料・農業・農村システムの実現に向けた取り組みや革新的な農業技術に関心を持ち、これらを取り巻く課題を解決しつつ地域農業を先導する意欲と能力を身につけられるよう、講義に関連する演習、実験科目を設けている。

(態度)

- 6 将来の技術者あるいは研究者としての社会的責任と倫理遵守の重さを自覚し、多様な主体と協働して学びを継続するよう、コース科目の演習、実習科目を配置するとともに、学部共通科目にインターンシップを配置している。

(技能・表現)

- 7 調査・研究や各種統計によるデータを分析・利用する技能の獲得を目的として、情報処理演習や地理情報処理学を設けている。
- 8 聞き手に明快に説明できるプレゼンテーション技能とコミュニケーション能力および文章や口頭発表による表現力を身につけられるよう、農学の総合知演習と学部共通科目の卒業研究を必修としている。

### 【森林科学コース】

森林科学コースでは、東北地方の恵まれた自然環境を背景として、森林の持つ多様な環境保全機能や樹木資源の生産と利用について総合的に学習し、自然との共生関係を築きながら発展できる地域社会の実現に貢献する人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

- 1 数学、自然科学、情報処理に関する基礎的知識を獲得するため、1、2年次に教養教育科目の技法知科目(情報科目)、学問知科目(理学・工学領域)及び学部専門基礎科目の履修を促している。
- 2 森林科学の学問内容と方法を説明できるようにするため、専門コア科目に森林学・森林工学、自然環境学、林産学に関する基礎的な授業・実習科目群を配置し、2、3年次の履修を促している。

(思考・判断)

- 3 森林の多面的機能について、総合的に考えることができるようにするため、専門コア科目に野生動物管理学、森林政策学、砂防学などの応用的な授業科目群を配置し、2、3年次の履修を促している。
- 4 与えられた制約の下で計画的に仕事を進められるようにするため、専門コア科目に森林造成学実習、森林利用学実習、砂防学実習などの野外実習科目群を配置し、3年次の履修を促している。

(関心・意欲)

- 5 地球的視点から各地の文化や異なる価値観に関心を示すようになるため、1、2年次に教養教育科目の学問知科目と技法知科目(外国語)の履修を促している。
- 6 自主的・継続的に学修できるようにするため、専門コア科目全般で自己学習時間の確保を促すとともに、宿題を特に重視する科目として、専門コア科目の森林計測学、専門基礎科目の生物統計学を配置し、1年次の履修を促している。

(態度)

- 7 技術者倫理を感じられるようにするため、学部共通科目のインターンシップの履修を促すとともに、専門コア科目に技術者倫理入門、森林科学応用演習Ⅰ、専門サブ科目に海外・日本の林業を配置し、2、3年次の履修を促している。
- 8 チームワークを意識して行動できるようにするため、専門コア科目に森林科学基礎演習、森林測量学実習Ⅰを配置し、1年次から2年次の履修を促している。

(技能・表現)

9. 日本語で論理的に記述・発表・討議できるようにするため、1年次に専門コア科目の森林科学の歴史と現在、学科共通科目の地域環境科学概論の履修を促している。
10. 森林科学の知識を利用し、社会の要求を解決するために提案できるようにするため、専門コア科目に森林科学応用演習Ⅰ、森林科学応用演習Ⅱ、学部共通科目に卒業研究を配置し、3年次後期から4年次の履修を促している。

森林科学コースは日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を指向するコースである。地球的視点と技術者としての社会に対する責任感を持ち、森林科学の主要分野である「森林学、森林工学、自然環境・社会学、林産学」について基礎知識と応用能力を兼ね備えた人材を「自立した技術者像」として定め、本コースの学習・教育到達目標を以下のとおりとする。

(A) フォレストエンジニアとして必要な基礎的な素養・能力を修得する。

国際人として自国の文化、他国の文化や異なる価値観などを理解し、基礎的な英会話によるコミュニケーションができる知識・能力を身につける。

技術者として社会性をもち、技術が人間、社会、自然へ及ぼす影響や効果について理解、自覚し、責任ある態度をとる能力を身につける。

インターンシップ、演習林宿泊実習、現地見学などの実体験を通じて、チームで仕事をするための能力と職業人としての自覚と社会性を身につける。

3年次後期から1年半にわたる卒業研究などを通じて、実験・調査計画の立案・遂行能力とデータ解析能力の向上を図るとともに、成果の取りまとめ、発表などにより、デザイン能力、問題解決能力、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。

(B) 数学、自然科学、情報処理などの森林科学の基礎知識を修得する。

(C) 森林科学の専門領域である「森林学、森林工学、自然環境・社会学、林産学」の専門基礎を系統的に学び、地域、地球規模での森林管理に必要な基盤となる知識を修得する。

(D) 冷温帯林における豊富な自然環境での実習、現地見学などにより森林造成、森林計画、森林防災を学び、自然への深い理解に基づいた森林管理技術を修得する。

(E) 実習、実験、現地見学などにより木材生産や木材利用を学び、人工林資源の利活用により冷温帯林における持続的森林経営や地域林産業に貢献できる、森林利用技術を修得する。

(F) 森林科学の知識を応用し、森林管理の諸問題に適切に対応できる、幅広い専門知識とそれらを問題解決に利用できる実践的能力を備えた専門性の高い自立した職業人、フォレストエンジニアとして活躍できるための総合的な知識・能力を修得する。

## 動物科学・水産科学科

<教育目的>

動物科学・水産科学科は、農学領域において畜産物および水産物の生産と供給を担う二つの産業基盤を背景とした教育・研究を行うとともに、野生動物、展示動物、実験動物および海洋生物の生理・生態とそれらの有益な利用方法に関する知識および技術の教育・研究を行うことにより、動物・水産資源の安定的な生産と供給、その高度利用に貢献する人材の養成を目的とする。

<学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)>

【動物科学コース】

動物科学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 農学全体を俯瞰する幅広い知識及びその基礎となる教養を持っている。
2. 動物生産及び動物科学分野に関する知識を持っている。

(思考・判断)

3. 動物関連産業に関する課題の解決を適切に行うため、動物生産及び動物科学分野に関する知識により考察することができる。

(関心・意欲)

4. 動物関連産業に関する課題に関心を持ち、課題の解決に意欲的に取り組むことができる。

(態度)

5. 動物関連産業に関する課題の解決を客観的に行うため、情報収集及び議論を積極的に行うことができる。

(技能・表現)

6. 動物関連産業に関する課題を解決して論文又は口頭で発表を行うか、修得した動物生産及び動物科学分野の技術を実践することができる。

### 【水産システム学コース】

水産システム学コースの教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士(農学)」の学位を授与する。

(知識・理解)

1. 水産システム学を実践するための数学、自然科学、社会科学、コミュニケーション(日本語・英語)に関する基礎的知識を身につけている。
2. 水産業の復興と持続的発展に貢献するために、水産科学分野に加えて、水産業に関わる人文・社会科学分野までの幅広い関連分野を網羅した水産システム学を体系的に身につけ、水産業の現状とその課題を俯瞰的視点から理解できる。

(思考・判断)

3. 水産業が抱える諸課題について多角的に分析、俯瞰的に思考し、最善の解決策を判断できる。その中で個人のそれぞれの志向に応じた専門性追求に向けて関連分野を含めた幅広い知識を修得している。

(関心・意欲)

4. 日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち、地域における実体験を通じた学びを通して問題解決に意欲的に取り組むことができる。

(態度)

5. 水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち、真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携わる態度を持つ。

(技能・表現)

6. 水産システムを構成する漁業、増養殖業、加工・流通産業を理解し、分析するための基礎的技術を身につけ、地域貢献活動などによる実体験を通して社会実践に向けた意欲が養われている。
7. 調査・実験や各種統計によるデータを的確かつ適正に分析・利用する技術、結果に基づく論理的な思考能力、および得られた結果を的確に伝えることができるコミュニケーション力(プレゼンテーション、日本語、英語)を身につけている。

### <教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)>

動物科学・水産科学科は、「食料」「生命」「環境」のいずれの領域にも深く関連する教育・研究分野として、畜産物および水産物の生産と供給を担う二つの産業基盤を背景とした専門分野に関するカリキュラム、さらには、野生動物や海洋生物の生理・生態とそれらの利用に関するカリキュラムを編成している。

### 【動物科学コース】

動物科学コースでは、産業動物(家畜)、実験動物、野生動物、展示動物などの様々な動物種を対

象に、人と動物が共生する心豊かな地域社会の創造を目指し、効率的かつ機能的な動物関連産業の発展と動物科学に関する高度な科学技術の開発に貢献できる人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 学士としての幅広い教養と豊かな人間性を養うために、教養教育科目、専門基礎科目の履修を必修としている。
2. 動物生産及び動物科学分野に関する知識を身につけるために、産業動物(家畜)、実験動物、野生動物、展示動物など、幅広い動物種を対象として、動物の生理、形態、組織、遺伝育種、発生、生殖、飼料、草地、栄養、飼養、管理、行動及び動物資源の利用に関する専門重点科目を配置している。

(思考・判断)

3. 動物関連産業に関する課題を理解し、講義で得た専門知識を駆使して課題解決を適切に行う技能を養成するために、各専門コア科目の実験科目および牧場実習などを配置している。

(関心・意欲)

4. 我が国有数の畜産物生産地域である東北地方という背景を活かし、動物関連産業発展に資する動物科学を学ぶために、牧場実習を含む専門コア科目を配置し、その一部に現場見学を取り入れている。また、実地研修の内容を取り入れた科目として、インターンシップを配置している。

(態度)

5. 情報収集及び客観的な議論を積極的に行うことができる技能を養成するために、各専門コア科目の実験および牧場実習、さらに卒業研究へつなげるよう科目を配置している。

(技能・表現)

6. 修得した動物生産及び動物科学分野の技術を総合的に実践する能力を養成するために卒業研究およびインターンシップを配置している。

## 【水産システム学コース】

水産システム学コースでは、広範な水圏生物の生態解明と水産資源の利活用と保全の方法に関わる分野を学び、グローバルな食料需給とローカルな資源循環の視点から地域産業と地方創生を担う人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

(知識・理解)

1. 水産システム学を実践するための数学、自然科学、社会科学、コミュニケーション(日本語・英語)に関する基礎的知識を獲得するため、1,2年次の教養教育科目に関連科目履修を促している。
2. 水産業の復興と持続的発展に貢献する人材を育成するために、水産科学分野に加えて、水産業に関わる社会科学分野までの幅広い関連分野を網羅した水産システム学を体系的に提供する。
3. その中で学生個人それぞれの志向に応じた専門性追求の意欲を醸成し、関連領域への知識拡大のため、他学科・コース提供科目履修の機会を提供する。

(思考・判断)

4. 水産業が抱える諸課題について多角的に分析、俯瞰的に思考し、地域における実体験を通じた学びを通して最善の解決策を判断できるよう基礎論と実践的な実習・演習を配置している。

(関心・意欲)

5. 日本と世界の水産業の持続的発展の諸課題に関心を持ち、問題解決に意欲的に取り組めるように、水産業の発展に関連した科目を配置している。

(態度)

6. 水産業に関わる専門家としての高い倫理観を持ち、真摯に責任をもって持続的水産業構築の諸課題について積極的に携われるように、水産業復興に資する科目を配置している。

(技能・表現)

7. 水産システムを構成する漁業、増養殖業、加工・流通産業を理解し、分析するための基礎的技術を身につけるために、海洋実習や地域水産業実習などの実習科目を配置している。また、学生個人

による積極的な地域貢献活動を通じた学びを推奨するため、地域貢献演習を配置している。

8. フィールド調査や実験，各種統計によるデータを的確かつ適正に分析・利用する技術，結果に基づく論理的な思考能力，および得られた結果を的確に伝えることができるプレゼンテーション力と語学力を身につける科目を配置している。

# 1. 岩手大学農学部教育課程規則

(平成16年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則第36条第5項及び岩手大学農学部規則第13条の規定に基づき、岩手大学農学部(以下「本学部」という。)における専門教育(以下「専門教育」という。)に関し、必要な事項を定めるものとする。

(科目及び単位の修得)

第2条 専門教育における授業科目(以下「科目」という。)及び単位数は、別表第1に定めるところによる。

2 専門教育においては、別表第2に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

3 科目の必修と選択の別、履修年次、時間数、履修方法等は、別に定める。

(授業時間割等の公示)

第3条 開講する科目の担当教員、授業時間等は、各学期の開始までに公示する。

2 学期の途中から開講する科目については、その都度公示する。

(履修科目の届出)

第4条 学生は、履修しようとする科目を指定の期間内に学部長に届け出なければならない。

2 前項の届け出をしない者は、単位の認定を受けることができない。

3 前項の届け出の後、履修取り消しを認める指定期間内に限り、届け出た科目を取り消すことができる。

(他学科及び他学部科目の履修)

第5条 学生は、所定の手続きを経て他学科又は他学部の科目を履修することができる。

2 他学部の学生が、本学部の科目の履修を願い出たときは、前項に準ずる。

(他大学等での履修)

第6条 学生は、他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとするときは、所定の手続きを経て許可を得なければならない。

2 前項及び前条第1項の規定により修得した単位は、10単位の範囲内で別表第2の選択の単位として認めることができる。

(試験)

第7条 試験を行う場合は、各学期末に行う。ただし、科目によってはその他適当な時期に行うことができる。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、専門教育に関し必要な事項は、教授会において別に定める。

(規則の改正)

第9条 この規則の改正は、教授会の議を経なければならない。

附 則(省略)

別表第 1 (第3条第1項関係)  
農学部専門教育科目表 (省略)

別表第 2 (第3条第2項関係)  
学生が修得すべき単位数 (省略)

## 2. 学生が取得すべき単位数（教養教育及び専門教育）

学科		食料農学科		生命科学科		地域環境科学科		動物科学・水産科学科	
		農学コース	食品健康科学コース	分子生物機能学コース	分子生命医科学コース	革新農業コース	森林科学コース	動物科学コース	水産システム学コース
教養教育科目	技法知科目	11	11	11	11	11	11	11	11
	学問知科目	6	6	6	6	6	6	6	6
	探求知科目・実践知科目	4	4	4	4	4	4	4	4
	選択科目	7	7	7	7	7	7	7	7
	計	28	28	28	28	28	28	28	28
専門教育科目	必修科目	58	66	63	74	67	64	65	50
	選択科目	40	32	35	24	31	34	33	48
	計	98	98	98	98	98	98	98	98
合計		126	126	126	126	126	126	126	126

### 3. 農学部専門教育科目履修表

#### 食料農学科 農学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期				
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必 1(注1)	
	化学		2	○										1(注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2(注1)	
	生物学		2	○										2(注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実(注2)
基礎生物学実験		1		○										生実(注2)	
		2	7											(注3)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2				○									
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2							○						
	卒業研究	8							○	○	○				
学科共通科目	食料農学科概論	2			○									農必	
	生命科学科概論		2				○								
	地域環境科学概論		2				○								
	動物科学・水産科学科概論		2				○								
専門コア科目	農学総論	1		○											
	作物栽培学	2			○									農	
	食用作物学	2					○							農	
	園芸学	2					○							農	
	園芸学	2					○							農	
	植物病理学	2					○							生	
	植物病理学	2						○						生	
	基礎遺伝学	2		○										生	
	植物育種学	2					○							農	
	食料経済学	2					○							農	
	基礎分析化学	2					○							化	
	土壌資源利用論	2					○							農	
	応用昆虫学	2						○						生	
	植物生理生化学	2						○						農	
	植物栄養学・肥料学	2							○					農	
	食料・農業政策演習	1								○					
	農学実験	2						○							化実
	農学実験	1							○						生実
	農学実験	1							○						農
	農学実験	1							○						農
	農学演習	1									○				
	農場実習	1						○							農
	農学の総合知演習	1									○				農
専門サブ科目	食用作物学		2						○					農	
	園芸学		2						○						
	植物育種学		2						○					生	
	農業経営学		2					○						農	
	植物ウイルス学		2						○					生	
	土壌環境微生物学・生化学		2							○				農	
	フィールド管理学		2					○						農	
	農場実習		1						○					農	
農場特別実習		1													

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
	食品化学		2			○								化
	食品機能学		2						○					農
	天然物化学		2				○							化
	ケミカルバイオロジー		2					○						生
	食品機能加工学		2			○								
	栄養化学		2				○							化
	食品微生物学		2					○						
	栽培施設学		2			○								農
	農作業システム学		2					○						農
	スマート農業概論		2						○					農
	ポストハーベスト工学		2				○							農
	農業循環工学		2				○							農
	生鮮食品保存科学		2					○						生
	応用昆虫学		2					○						生
	植物生理学		2			○								
	植物生理学		2				○							生
	共生生物学		2			○								
	生化学		2		○									化
	生化学		2			○								化
	遺伝子工学		2				○							生
	必要修得単位数	58	40											
	合計必要修得単位数	98												

専門基礎科目の履修について

- (注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。  
2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。  
(注2) 基礎化学実験、基礎生物学実験の2科目から必ず1科目以上を修得しなければなりません。  
(注3) 専門基礎科目の選択単位については(注2)の実験を含め7単位以上修得しなければなりません。

その他の注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。 印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。 )

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必・物, 化学:化必・化, 生物学:生必・生, 地学:地必・地, 「化学実験, 生物学実験」:化実・生実)

農業:農必・農

物必・化必・生必・地必:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必:農業の免許を取得するための必修科目です。

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

食料農学科 農学コース カリキュラムマップ

: 教養科目
  : 専門科目 (必修)
  : 専門科目 (選択)

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目							
	学問知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目	外国語科目 (英語発展)					
	探究知科目	人文社会科学・教育学領域科目 理学・工学領域科目/農学領域科目						
	実践知科目	環境科目/地域関連科目 (地域科目)						
専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験						
	化学入門	基礎化学実験						
	物理学入門	地学入門						
	基礎数学入門	線形代数学入門						
	生物学	微分積分学入門						
	化学	生物統計学						
共通学 科目	農学の総合知概論	科学英語						
	農学の総合知実習	データ分析演習 海外特別実習			インターンシップ	統計的機械学習実践		卒業研究
共通学 科目		食料農学科概論						
専門コア科目	農学総論	作物栽培学	食料経済学	食用作物学	植物病理学	植物生理学	食料・農業政策演習	農学演習
	基礎遺伝学		土壌資源利用論	園芸学	植物栄養学・肥料学	植物栄養学・肥料学	農学の総合知演習	
			農場実習	応用昆虫学	農学実験	農学実験		
			基礎分析化学	植物生理生化学	農学実験	農学実験		
				植物病理学	園芸学			
				植物育種学	植物育種学			
専門サブ科目		生化学	栽培施設学	農業経営学	食用作物学	土壌環境微生物学・生化学		
			共生生物学	農場実習	農作業システム学	食品機能学		
			フィールド管理学	天然物化学	園芸学	スマート農業概論		
			食品化学	ポストハーベスト工学	植物育種学			
			植物生理学	農業循環工学	植物ウイルス学			
			生化学	植物生理学	農場特別実習			
			食品機能加工学	遺伝子工学	ケミカルバイオロジー			
				栄養化学	生鮮食品保存科学			
					食品微生物学			
					応用昆虫学			

食料農学科 食品健康科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
		必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○										
	線形代数学入門		2		○									
	微分積分学入門		2		○									
	物理学入門		2	○									物必	
	化学入門		2	○									化必 1 (注1)	
	化学		2	○									1 (注1)	
	生物学入門		2	○									生必 2 (注1)	
	生物学		2	○									2 (注1)	
	地学入門		2		○									地必
	生物統計学		2		○									
	基礎化学実験		1		○									化実 (注2)
基礎生物学実験		1		○									生実 (注2)	
		2	7										(注3)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○										
	農学の総合知実習	1		○										
	インターンシップ		1											
	科学英語	2				○								
	海外特別実習		1											
	データ分析演習	1				○								
	統計的機械学習実践	2								○				
卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	食料農学科概論	2			○								農	
	生命科学科概論		2				○							
	地域環境科学概論		2				○							
	動物科学・水産科学科概論		2				○							
専門コア科目	食品健康科学総論	1		○										
	食品化学	2				○							化, 食必	
	食品機能加工学	2				○							食必	
	基礎分析化学	2				○							化, 食必	
	動物生理学	2				○							食必	
	水産食品化学	2				○							食必	
	天然物化学	2					○						化, 食必	
	栄養化学	2					○						化, 食必	
	食品生化学	2					○						生, 食必	
	熱工学	2					○						食必	
	ケミカルバイオロジー	2							○				生, 食必	
	食品微生物学	2							○				食必	
	計測解析科学	2							○				食必	
	農産食品プロセス工学	2							○				農, 食必	
	生鮮食品保存科学	2							○				生, 食必	
	食肉科学	2							○				農, 食必	
	食品衛生学	2								○			農, 食必	
	食品機能加工学	2								○			食必	
	食品機能学	2								○			農, 食必	
	牛乳科学・鶏卵科学	1								○			食必	
	食品化学実験	1							○				食必	
	食品機能加工学実験	1							○				食必	
	栄養化学実験	1								○			食必	
	化学生物学実験	1								○			食必	
	食品生化学実験	1								○			食必	
	食品微生物学実験	1								○			食必	
農学の総合知演習	1									○		農		
食品健康科学演習	1										○	農		
専門サブ科目	基礎遺伝学		2	○									生	
	食用作物学		2				○						農	
	食用作物学		2					○					農	
	園芸学		2				○						農	
	植物生理生化学		2				○						農, 食	
	植物栄養学・肥料学		2					○					農, 食	
	土壌環境微生物学・生化学		2						○				農, 食	
	生化学		2		○								化	

生化学		2			○							化
分子生物学		2				○						
分子生物学		2						○				
細胞生物学		2		○								
細胞生物学		2			○							
生命情報学		2			○							
遺伝子工学		2					○					生
病態生化学		2					○					
再生医療工学		2						○				
微生物学概論		2					○					
微生物生理学		2						○				
産業微生物学		2						○				
応用昆虫学		2					○					生
ポストハーベスト工学		2					○					農, 食
水産食品加工学		2						○				食
水産微生物学		2					○					食
必要修得単位数	66	32										
合計必要修得単位数		98										

#### 専門基礎科目の履修について

- (注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。  
2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
- (注2) 基礎化学実験、基礎生物学実験の2科目から必ず1科目以上を修得しなければなりません。
- (注3) 専門基礎科目の選択単位については(注2)の実験を含め7単位以上修得しなければなりません。

#### その他の注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

食必・食は、食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得のため必要な科目です。食必は必修、食は選択で必修・選択をあわせて40単位以上修得しなければなりません。

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必一・物,化学:化必一・化,生物学:生必一・生,地学:地必一・地,「物理学実験,化学実験,生物学実験,地学実験」:物実・化実・生実・地実)

農業:農必一・農

物必一・化必一・生必一・地必一:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必一:農業の免許を取得するための必修科目です。

(「必一」が付された科目(物必一・化必一・農必一)は、一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。)

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

食料農学科 食品健康科学コース カリキュラムマップ

	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
教養教育科目	技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目	外国語科目	外国語科目(英語発展)				
	学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目	人文社会科学・教育学領域科目					
	探究知科目	理学・工学領域科目/農学領域科目	理学・工学領域科目/農学領域科目					
	実践知科目	環境科目/地域関連科目(地域科目)	環境科目/地域関連科目(地域科目)	地域関連科目(地域課題演習科目)				
専門教育科目	専門基礎科目	生物学入門	基礎生物学実験					
		化学入門	基礎化学実験					
		物理学入門	地学入門					
		基礎数学入門	線形代数学入門					
		生物学	微分積分学入門					
		化学	生物統計学					
	共通学科学部	農学の総合知概論		科学英語				
		農学の総合知実習		データ分析演習				
	共通学科学部			海外特別実習				
専門コア科目	食品健康科学総論		食料農学科概論					
			食品化学	食品生化学	食品微生物学	食品衛生学		
			食品機能加工学	天然物化学	ケミカルバイオロジー	食品機能加工学		
			基礎分析化学	栄養化学	計測解析科学	食品機能学		
			動物生理学	熱工学	農産食品プロセス工学	牛乳科学・鶏卵科学		
			水産食品化学	食品化学実験	生鮮食品保存科学	農学の総合知演習		
				食品機能加工学実験	食肉科学			
専門サブ科目	基礎遺伝学	生化学	園芸学	食作物学	土壌環境微生物学・生化学			
		細胞生物学	植物生理生化学	植物栄養学・肥料学				
	生命情報学		食作物学	分子生物学				
			分子生物学	再生医療工学				
			遺伝子工学	微生物生理学				
			病態生化学	産業微生物学				
			微生物学概論	水産食品加工学				
			応用昆虫学					
			ポストハーベスト工学					
			水産微生物学					

生命科学科 分子生物機能学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必, 危 1 (注1)	
	化学		2	○										危 1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実, 危 (注3)
	基礎生物学実験		1		○										生実 (注3)
			2	7											(注2)
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2				○									
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2								○					
	卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	生命科学科概論	2			○									生	
	食料農学科概論		2				○								
	地域環境科学概論		2				○								
	動物科学・水産科学科概論		2				○								
専門コア科目	生化学	2			○									化, 危必	
	生化学	2				○								化, 危必	
	分子生物学	2					○							生, 危必	
	分子生物学	2						○						生, 危必	
	細胞生物学	2			○									生	
	細胞生物学	2				○								生	
	生命情報学	2				○									
	微生物学概論	2					○							生, 危必	
	微生物生理学	2						○						生	
	植物生理学	2					○							生	
	植物生理学	2						○						生	
	応用昆虫学	2						○						生	
	応用昆虫学	2							○					生	
	生物機能応答学	2							○						
	共生生物学	2						○						生	
	科学文献読解法	2							○						
	分子生物機能学基礎	1		○											
	分子生物機能学演習	1								○					
	分子生物機能学演習	1									○				
	分子生物機能学演習	1										○			
	分子生物機能学実験	1					○							生実	
	分子生物機能学実験	1						○						生実	
	分子生物機能学実験	1							○						
	分子生物機能学実験	1								○					
	分子生物機能学実験	1									○				
	分子生物機能学実験	1										○			
	農学の総合知演習	1										○			
専門サブ科目	遺伝子工学		2					○						生	
	植物共生微生物学		2					○						生	
	産業微生物学		2						○					生	
	応用昆虫学		2							○				生	
	植物生理学		2							○				生	
	神経科学		2				○							生	
	生理学		2					○						生	
	組織形態学		2					○						生	
	病態生化学		2					○						危	
	神経科学		2					○							





生命科学科 分子生命医科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必, 危 1 (注1)	
	化学		2	○										危 1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実, 危
	基礎生物学実験		1		○										生実
			2	7											(注2)
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2				○									
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2							○						
	卒業研究	8							○	○	○				
学科共通科目	生命科学科概論	2			○									生	
	食料農学科概論		2				○								
	地域環境科学概論		2				○								
	動物科学・水産科学科概論		2				○								
専門コア科目	分子生命医科学概論	1		○											
	細胞生物学	2			○									生	
	生化学	2			○									化, 危必	
	生命情報学	2				○									
	生化学	2				○								化, 危必	
	神経科学	2				○								生	
	微生物学概論	2					○							生, 危必	
	植物生理学	2				○								生	
	細胞生物学	2				○								生	
	分子生物学	2					○							生, 危必	
	生理学	2					○							生	
	組織形態学	2					○							生	
	病態生化学	2					○							危必	
	神経科学	2					○								
	免疫学	2					○								
	分子生物学	2							○					生, 危必	
	バイオテクノロジー	2							○					危必	
	分子動物行動学	2							○						
	再生医療工学	2							○						
	応用昆虫学	2						○						生	
	生物機能応答学	2							○						
	分子生命医科学情報	2								○					
	分子生命医科学情報	2									○				
	分子生命医科学情報	2										○			
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
	分子生命医科学実験	1							○						
農学の総合知演習	1								○						
専門サブ科目	遺伝子工学		2				○							生	
	植物生理学		2				○							生	
	微生物生理学		2					○						生	
	共生生物学		2			○								生	
	植物共生微生物学		2				○							生	
	応用昆虫学		2						○					生	

応用昆虫学		2					○			生
植物生理学		2					○			生
産業微生物学		2					○			生
食用作物学		2				○				
基礎遺伝学		2	○							生
園芸学		2				○				
植物病理学		2				○				生
植物育種学		2				○				
植物生理生化学		2				○				危
基礎分析化学		2			○					危
天然物化学		2				○				危
食品化学		2			○					危
栄養化学		2				○				危
ケミカルバイオロジー		2					○			
食品微生物学		2					○			
動物生理学		2			○					
発生生物学		2			○					生
動物遺伝育種学		2			○					
動物生殖学		2				○				
水族生理学		2			○					
水産生物学		2			○					
水産資源生態学		2				○				
水族遺伝学		2			○					
水圏生物多様性論		2				○				
水産食品化学		2			○					危
必要修得単位数	74	24								
合計必要修得単位数		98								

専門基礎科目の履修について

- (注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。  
2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
- (注2) 専門基礎科目の選択単位数は7単位数以上修得しなければなりません。

注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位数は10単位数を上限として卒業に必要な単位数として認めます。

印は集中講義での実施を示します。印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

危必・危は、危険物取扱者(甲種)の受験資格を得るために必要な科目です。危必は必修、危は選択で必修・選択を併せて15単位数以上修得しなければなりません。

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必・物,化学:化必・化,生物学:生必・生,地学:地必・地,「化学実験,生物学実験」:化実・生実)

物必・化必・生必・地必:理科の免許を取得するための必修科目です。

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

生命科学科 分子生命医科学コース カリキュラムマップ

教育科目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目	外国語科目/情報科目	外国語科目(英語発展)					
学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目	理学・工学領域科目/農学領域科目						
探究知科目	環境科目/地域関連科目(地域科目)	環境科目/地域関連科目(地域科目)						
実践知科目		地域関連科目(地域課題演習科目)						
専門教育科目	生物学入門	基礎生物学実験						
	化学入門	基礎化学実験						
	物理学入門	地学入門						
	基礎数学入門	線形代数学入門						
	生物学	微分積分学入門						
	化学	生物統計学						
	農学の総合知概論	科学英語						
	農学の総合知実習	データ分析演習						
		海外特別実習						
		生命科学科概論						
専門教育科目	分子生命医科学概論	細胞生物学	生命情報学	微生物学概論	微生物学	分子生物学	分子生命医科学情報	分子生命医科学情報
		生化学	生化学	分子生物学	生理学	ハイオテクノロジー	分子生命医科学実験	分子生命医科学実験
			神経科学	動物学概論	動物学	分子動物行動学	分子生命医科学実験	分子生命医科学実験
			植物生理学	動物学・水産科学概論	動物学	再生医療工学	分子生命医科学実験	分子生命医科学実験
			細胞生物学	動物学・水産科学概論	動物学	生物機能応答学	分子生命医科学実験	分子生命医科学実験
				動物学・水産科学概論	動物学	神経科学	農学の総合知演習	農学の総合知演習
				動物学・水産科学概論	動物学	免疫学		
				動物学・水産科学概論	動物学	応用昆虫学		
				動物学・水産科学概論	動物学	水産資源生態学		
				動物学・水産科学概論	動物学	水圏生物多様性論		
専門教育科目	基礎遺伝学	基礎遺伝学	食品化学	水産資源生態学	水産資源生態学	応用昆虫学	応用昆虫学	応用昆虫学
			発生生物学	水圏生物多様性論	水圏生物多様性論	微生物生理学	微生物生理学	微生物生理学
			水族生物学	遺伝子工学	遺伝子工学	産業微生物学	産業微生物学	産業微生物学
			水産食品化学	植物生理学	植物生理学	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー	ケミカルバイオロジー
			共生生物学	植物共生微生物学	植物共生微生物学	食品微生物学	食品微生物学	食品微生物学
			基礎分析化学	食用作物学	食用作物学	植物生理学	植物生理学	植物生理学
			動物生理学	園芸学	園芸学			
			動物遺伝育種学	植物病理学	植物病理学			
			水産生物学	植物育種学	植物育種学			
			水族遺伝学	植物生理生化学	植物生理生化学			
			天然物化学	天然物化学				
			栄養化学	栄養化学				
			動物生殖学	動物生殖学				

地域環境科学科 革新農業コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○										測必	
	線形代数学入門		2		○									測	
	微分積分学入門		2		○									測	
	物理学入門		2	○										物必, 測	
	化学入門		2	○										化必 1 (注1)	
	化学		2	○										1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必, 測
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実
	基礎生物学実験		1		○										生実
		2	5											(注2)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語		2			○									
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○								測必	
	統計的機械学習実践	2								○				測必	
	卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	地域環境科学概論	2			○									測必	
	食料農学科概論		2				○								
	生命科学概論		2				○								
	動物科学・水産科学概論		2				○								
専門コア科目	革新農業入門	2		○											
	応用数学	2			○									測必	
	応用力学	2			○									農, 測必	
	情報処理演習	1			○									測必	
	構造力学	2				○								農, 測必	
	土質力学	2					○							農, 測必	
	水文・水資源学	2					○							農, 測必	
	測量学	2					○							農必, 測必	
	測量学基礎実習	1					○							農必, 測必	
	栽培施設学	2					○							農必	
	農作業システム学	2							○					農	
	フィールドロボティクス	2					○							農	
	農業循環工学	2						○						農	
	熱工学	2						○						物, 測必	
	農産食品プロセス工学	2							○					農	
	生鮮食品保存科学	2							○					生	
	地理情報処理学	2							○					農, 測必	
	スマート農業概論	2								○				農必	
	水理学	2					○							農, 測必	
	農業水理学	2						○						農, 測必	
	土壌物理学	2						○						物, 測必	
	設計施工保全学	2						○						農	
	農地工学	2							○					農必, 測必	
	地域デザイン論	2					○							農, 測必	
	農村計画学	2						○						農, 測必	
	農学の総合知演習	1								○					
	専門サブ科目	構造力学演習		1					○						測
土質力学演習			1						○					測	
農業気象・環境学			2					○						農, 測	
ものづくり実習			1						○					物	
ポストハーベスト工学			2					○						農必	
地理情報処理演習			1							○				農, 測	
革新農業実験			1							○				農	
革新農業実験			1							○				物実, 測	
革新農業実験			1							○				農	
緑地環境学			2						○						
地域景観保全論			2							○					

コミュニティデザイン論	2					○				
農業農村工学演習	1				○					
革新農業実践論	2					○				
作物栽培学	2		○							
基礎遺伝学	2	○								
食用作物学	2					○				
園芸学	2					○				
園芸学	2					○				
園芸学	2						○			
植物育種学	2					○				
植物病理学	2					○				生
植物栄養学・肥料学	2						○			
植物生理生化学	2					○				
食料経済学	2				○					
農業経営学	2					○				
土壌資源利用論	2				○					
土壌環境微生物学・生化学	2							○		
基礎分析化学	2				○					化
食品化学	2				○					
食品衛生学	2						○			
食品生化学	2							○		
地域生態系保全論	2					○				生
木材と住宅	2					○				
野生動物管理学	2					○				生
砂防学	2						○			農,測
NPO・環境ガバナンス論	2						○			
必要修得単位数	67	31								
合計必要修得単位数		98								

専門基礎科目の履修について

(注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

(注2) 専門基礎科目の選択単位は5単位以上修得しなければなりません。

その他の注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。 印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。 )

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必・物,化学:化必・化,生物学:生必・生,地学:地必・地,「化学実験,生物学実験」:化実・生実)

農業:農必・農

物必・化必・生必・地必:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必:農業の免許を取得するための必修科目です。

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。

測量士補資格申請に関係する科目については備考欄へ下記のとおり記載しています。

測必・・・測量士補資格申請のための必修科目です

測・・・測量士補資格申請のための選択科目です

測量士補資格申請のためには、「測必」の科目と「測」の科目を合わせて30単位以上修得する必要があります。

地域環境科学科 革新農業コース カリキュラムマップ

教育科目	1年		2年		3年		4年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
技法知科目	外国語科目/健康・スポーツ科目/情報科目		外国語科目(英語発展)					
学問知科目	人文社会科学・教育学領域科目							
教育科目	理学・工学領域科目/農学領域科目							
探究知科目	環境科目/地域関連科目(地域科目)							
実践知科目								
専門教育科目	生物学入門	基礎生物学実験						
	化学入門	基礎化学実験						
	物理学入門	地学入門						
	基礎数学入門	線形代数学入門						
	生物学	微分積分学入門						
	化学	生物統計学						
	農学の総合と概論							
	農学の総合と実習							
	共通学	科学英語						
	共通学	海外特別実習						
専門教育科目	地域環境科学概論	データ分析演習						
	革新農業入門	応用数学	構造力学	土質力学	農作業システム学	スマート農業概論		
		応用力学	水文・水資源学	農業循環工学	農産食品プロセス工学	農学の総合と演習		
		情報処理演習	測量学	熱工学	生鮮食品保存科学			
			測量学基礎実習	農業水利学	地理情報処理学			
			栽培施設学	土壌物理学	農地工学			
			フィールドロボティクス	設計施工保全学				
			水理学	農村計画学				
			地域デザイン論					
		作物栽培学	農業農村工学演習	農業気象・環境学	土質力学演習	地理情報処理演習		
専門サブ科目	基礎遺伝学		食料経済学	ポストハート工学	革新農業実験	土環境微生物学・生化学		
			土壌資源利用論	構造力学演習	革新農業実験	食品生化学		
			基礎分析化学	緑地環境学	地域景観保全論			
			食品化学	食用作物学	コミュニケーションデザイン論			
				園芸学	革新農業実践論			
				園芸学	園芸学			
				植物育種学	食品衛生学			
				植物病理学	砂防学			
				植物生理生化学	NPO・環境ガバナンス論			
				農業経営学	ものづくり実習			
			地域生態系保全論	革新農業実験				
			木材と住宅	植物栄養学・肥料学				
			野生動物管理学					

地域環境科学科 森林科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○										測必	
	線形代数学入門		2		○									測	
	微分積分学入門		2		○									測	
	物理学入門		2	○										物必, 測	
	化学入門		2	○										化必 1 (注1)	
	化学		2	○										1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必, 測
	生物統計学	2			○										測必
	基礎化学実験		1		○										化実 (注2)
	基礎生物学実験		1		○										生実 (注2)
		4	3											(注3)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ	1													
	科学英語		2						○						
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○								測必	
	統計的機械学習実践	2								○				測必	
	卒業研究	8								○	○	○			
学科共通科目	地域環境科学概論	2			○									測必	
	食料農学科概論		2					○							
	生命科学概論		2					○							
	動物科学・水産科学概論		2					○							
専門コア科目	森林科学の歴史と現在	1		○											
	森林計測学	2		○										造, 測必	
	森林科学基礎演習	1					○							農	
	木材と住宅	2					○								
	林業・木材産業論	2					○							農	
	森林測量学	2					○							農, 測必	
	森林測量学実習	2					○							農, 測必	
	樹木学	2					○							生, 樹, 造	
	樹木学実習	1					○							生実, 樹, 造	
	森林科学実習	1			○										
	技術者倫理入門	2						○							
	林産化学	2						○							
	森林測量学	2						○						農, 測必	
	森林測量学実習	2						○						農, 測必	
	森林利用学	2						○						農, 造, 測必	
	野生動物管理学	2						○						生, 樹, 造	
	森林利用学実習	2							○					農, 造, 測必	
	森林計測学実習	1								○				測必	
	砂防学	2								○				農, 造, 測必	
	森林政策学	2								○				農, 造	
	森林造成学	2								○				農, 造	
	森林造成学実習	2								○				農, 樹, 造	
	砂防学実習	1									○			造, 測必	
	農学の総合知演習	1									○				
	森林科学応用演習	1									○				
	森林科学応用演習	1										○			
	専門サブ科目	暖帯林概論		1					○						鹿児島大学で開講
		森林・雪水水文学		2					○						地, 造, 測
山村社会経済論			2					○							
地域生態系保全論			2					○						生, 樹	
森林保全生態学			2					○						生, 樹	
森林バイオマスの成分利用			2							○				農	
森林化学演習			1							○				化実	
海外・日本の林業			2							○					
自然環境保全論			2							○				樹	
NPO・環境ガバナンス論			2							○					
野生動物管理学実習			1							○				生実, 樹, 造	

木質マテリアル		2						○				
木質マテリアル演習		1						○				
環境と樹木の生理		2							○			生, 樹, 造
森林保護学		2							○			樹, 造
森林計画学		2							○			農, 測
森林情報学		2							○			測
公開森林実習		1				○	○	○	○	○	○	
植物病理学		2						○				生, 樹
植物病理学		2						○				樹
天然物化学		2						○				
基礎分析化学		2							○			化
生化学		2		○				○				化
分子生物学		2						○				
微生物学概論		2								○		生
植物生理学		2							○			樹
植物生理学		2								○		
応用昆虫学		2								○		生, 樹, 造
応用数学		2		○								測
応用力学		2		○								農, 測
構造力学		2				○						農, 測
水理学		2				○						農, 測
設計施工保全学		2						○				農
緑地環境学		2						○				
地域景観保全論		2							○			農, 造, 測
必要修得単位数	64	34										
合計必要修得単位数		98										

#### 専門基礎科目の履修について

- (注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。  
2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。
- (注2) 基礎化学実験、基礎生物学実験の2科目から必ず1科目以上を修得しなければなりません。
- (注3) 専門基礎科目の選択単位については(注2)の実験を含め3単位以上修得しなければなりません。

#### その他の注意事項

当コースは日本技術者認定機構(JABEE)で認定された技術者教育プログラムです。JABEEの学習・教育到達目標については、学科紹介の「森林科学コース」のページ(-5~6)を参照してください。

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。(印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。)

備考欄の、樹は樹木医補申請に必要な科目です。

備考欄の、造は1級・2級造園施工管理技士の受験資格申請に関係する科目です。

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必一・物,化学:化必一・化,生物学:生必一・生,地学:地必一・地,「物理学実験,化学実験,生物学実験,地学実験」:物実・化実・生実・地実)

農業:農必一・農

物必一・化必一・生必一・地必一:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必一:農業の免許を取得するための必修科目です。

(「必一」が付された科目(物必一・化必一・農必一等)は、一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。)

編入学生は当学科を選択できません。

測量士補資格申請に関係する科目については備考欄に下記のとおり記載しています。

測必・・・測量士補資格申請のための必修科目です

測・・・測量士補資格申請のための選択科目です

測量士補資格申請のためには、「測必」の科目と「測」の科目を合わせて30単位以上修得することが望ましいです。



動物科学・水産科学科 動物科学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必 1 (注1)	
	化学		2	○										1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実 (注2)
	基礎生物学実験		1		○										生実 (注2)
			2	5											(注3)
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2							○						
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2					○								
	卒業研究	8							○	○	○				
学科共通科目	動物科学・水産科学科概論	2			○									農	
	食料農学科概論		2				○								
	生命科学科概論		2						○						
	地域環境科学概論		2							○					
専門コア科目	動物科学総論	1		○											
	実験動物学概論	1			○									生	
	動物生産学	2		○										農, 人	
	基礎遺伝学	2		○										生	
	動物生理学	2				○								生, 食	
	動物生理学	2					○							生, 食	
	遺伝子機能学	2			○									生	
	発生生物学	2			○									生	
	動物解剖学	2			○									食	
	動物組織学	1					○							食	
	動物遺伝育種学	2				○								生, 人, 食	
	動物生殖学	2					○							生, 人, 食	
	家畜繁殖技術学	2							○					農, 人	
	動物栄養学	2				○								農, 人, 食	
	飼料学	2							○					農, 人, 食	
	家畜飼養学	1							○					農	
	草地学	2							○					農, 食	
	動物管理学	2						○						農, 人, 食	
	食肉科学	2							○					農, 人, 食	
	人と動物の関係学	2						○						生	
	家畜衛生学	1								○				食	
	動物科学実験	3						○						農, 人	
	動物科学実験	3							○					農, 人	
	牧場実習	1												農, 人	
	農学の総合知演習	1								○					
	専門サブ科目	動物園学		1											
		野生動物学		1											
家畜飼養学			1						○					農	
動物行動学			2						○					農	
牛乳科学・鶏卵科学			1							○					
臨海実習			1			○									
野生動物管理学			2							○					
森林保全生態学			2									○			
食品生化学			2							○					
計測解析科学			2						○						
水産生物学			2			○									
農業経営学			2					○						農, 食	

食品化学		2			○						化
食品微生物学		2					○				
バイオテクノロジー		2							○		
分子動物行動学		2							○		
天然物化学		2						○			
食品衛生学		2						○			農
食品機能学		2						○			農
生化学		2		○							
生化学		2			○						
水産食品化学		2			○						
必要修得単位数	65	33									
合計必要修得単位数		98									

#### 専門基礎科目の履修について

(注1) 1の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

2の科目については、どちらか一つの科目しか修得できません。

(注2) 基礎化学実験、基礎生物学実験の2科目から必ず1科目以上を修得しなければなりません。

(注3) 専門基礎科目の選択単位については(注2)の実験を含め5単位以上修得しなければなりません。

#### その他の注意事項

この表に記載されていない教職科目を除く「農学部専門教育科目」「他学部専門教育科目(卒業要件外として開講している科目は除く)」「国際教育科目」「いわて高等教育コンソーシアム単位互換科目」「他大学及び海外協定大学で修得した科目のうち本学部で認めた科目」について修得した単位は10単位を上限として卒業に必要な単位として認めます。

印は集中講義での実施を示します。 印は、通常時間割の実習と集中的に行う実習を組み合わせることを示します。( 印の通常時間割科目でも集中講義で開講する場合があります。 )

教職免許法上の科目は次のように表示します。

理科(物理学:物必一・物,化学:化必一・化,生物学:生必一・生,地学:地必一・地,「物理学実験,化学実験,生物学実験,地学実験」:物実・化実・生実・地実)

農業:農必一・農

物必一・化必一・生必一・地必一:理科の免許を取得するための必修科目です。

農必一:農業の免許を取得するための必修科目です。

(「必一」が付された科目(物必一・化必一・農必一等)は、一般的包括的な内容を含む科目です。詳しくは教育職員免許状・各種資格の取得方法のページを参照してください。)

人:家畜人工授精師養成講習会(各都道府県が開催:卒業後に受講可能)における一部講義の免除指定科目。

食:食品衛生管理者及び食品衛生監視員の資格取得のため必要な科目。

編入学生は専門基礎科目以外の科目を修得してください。



動物科学・水産科学科 水産システム学コース

区分	授業科目	単位数		履修年次								備考			
				1年次		2年次		3年次		4年次					
				必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期		前期	後期	
専門基礎科目	基礎数学入門	2		○											
	線形代数学入門		2		○										
	微分積分学入門		2		○										
	物理学入門		2	○										物必	
	化学入門		2	○										化必 1 (注1)	
	化学		2	○										1 (注1)	
	生物学入門		2	○										生必 2 (注1)	
	生物学		2	○										2 (注1)	
	地学入門		2		○										地必
	生物統計学		2		○										
	基礎化学実験		1		○										化実
	基礎生物学実験		1		○										生実
		2	5											(注2)	
学部共通科目	農学の総合知概論	2		○											
	農学の総合知実習	1		○											
	インターンシップ		1												
	科学英語	2							○						
	海外特別実習		1												
	データ分析演習	1				○									
	統計的機械学習実践	2					○								
	卒業研究	8							○	○	○				
学科共通科目	動物科学・水産科学科概論	2			○									農必	
	食料農学科概論		2				○								
	生命科学科概論		2						○						
	地域環境科学概論		2							○					
専門コア科目	水産科学入門	2		○											
	海洋実習	1			○										
	水産科学実験	1					○							生	
	水産生物学	2					○							生	
	水族遺伝学	2					○							生	
	水族生理学	2					○							生	
	底生生物学	2					○								
	水産食品化学	2					○								
	ミクロ経済学入門	2					○								
	水産科学実験	1						○						生	
	水産資源生態学	2						○							
	水圏生物多様性論	2						○							
	水産増殖学	2						○							
	水産物流・マーケティング論	2						○							
	数理漁業資源学	2						○							
	水産システム学演習	1								○					
	水産システム学演習	1									○				
	農学の総合知演習	1								○					
専門サブ科目	水産植物学		2				○							(注3)	
	水圏環境学		2				○							(注3)	
	水産微生物学		2					○						(注3)	
	水産増殖学		2						○					(注3)	
	水産資源管理学		2						○					(注3)	
	水産食品加工学		2						○					(注3)	
	水域自然環境論		2						○					(注3)	
	水産政策学		2						○					(注3)	
	海洋実習		1							○				(注3)	
	地域水産業実習		1							○				(注3)	
	魚類学		2							○				(注3)	
	魚類発生学		2							○				(注3)	
	酵素機能化学		2							○				(注3)	
	環境経済学・資源経済学入門		2							○				(注3)	
	水族遺伝学		2							○				(注3)	
	水産生命科学特別講義		2							○				(注3)	
	地域貢献演習		1								○			(注3)	
	基礎遺伝学		2		○									生	
	生化学		2			○									





共通教育・専門教育について

# 獣医学部

# 獣医学部

## < 獣医学部の理念と目標 >

### \* 理念

獣医学部では、人類と動物の健康と福祉に貢献することを基本理念とする。具体的には、地域の要請に応えることが可能な国際通用性のある獣医学教育を実現し、産業動物及び伴侶動物獣医学、家畜衛生などの獣医に関する諸課題に対応可能な人材を育成する。

### \* 教育目標

上記の理念に基づき、国際獣疫事務局 (WOAH) の提唱する「高品質な獣医療サービスを提供するために必要な獣医学生が卒業時に身につけるべき最低限の資質 (Day One Competency)」をバランスよく修得した獣医師を養成する。

### \* 研究目標

獣医学部における研究は、国際水準を目指す獣医学研究、特に地域社会と連動した独創的研究を目指す。

### \* 社会貢献目標

獣医学部は、産業動物臨床、家畜衛生、および伴侶動物臨床の分野での社会との連携を通して持続可能な地域社会の形成に貢献する。また、地球規模と地域の両者に関係する教育・研究課題を解決し、その成果をわかりやすく解説しながら社会に還元していくことを目標とする。

## < 教育目的 >

人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念を踏まえ、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、並びに生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材の養成を目的とする。

## < 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー) >

共同獣医学科の教育目的に則り、所定の教育課程を修了し、以下の各項目を身につけた学生に「学士 (獣医学)」の学位を授与する。

### (知識・理解)

1. 獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得している。

### (思考・判断)

2. 獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できる。

### (関心・意欲)

3. 獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有している。

4. 地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献できる知識を修得しており、意欲も有している。

### (態度)

5. 幅広い専門知識や技能に基づいた説明ができる。

6. 倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができる。

### (技能・表現)

7. 高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できる。

8. 論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけている。

### <教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）>

共同獣医学科では、獣医学教育モデル・コア・カリキュラムに基づいた教育課程を実施することに加え、人類と動物の健康と福祉に貢献するという理念に基づき、高度獣医療の提供、人類の健康と食の安全、並びに生命科学研究の発展に活躍できる国際的な視野を持つ人材を育成することを目的として、以下のカリキュラムを編成している。

なお、教育課程を編成している各科目の評価に関しては、別途定めている「成績評価のガイドライン」に基づくものとする。

#### （知識・理解）

1．獣医師としての責務を遂行するために、動物の健康・福祉、公衆衛生などに関する高度な専門知識を修得するため、専門科目の履修を必修としている。

#### （思考・判断）

2．獣医学領域に関わる課題について、生命科学を基礎とした知識と技能を用いて論理的に判断できるように、共通科目の履修を必修としている。

#### （関心・意欲）

3．獣医師として国内での責務を果たすのみならず、国際的視野を有することができるよう、海外研修などを配置している。

4．地球規模での感染症対策や畜産物の安全確保等に対して貢献できる知識を修得するために、人獣共通感染症や食品衛生関連の科目を配置している。

#### （態度）

5．幅広い専門知識や技能を身につけるため、各種実習、演習を配置している。

6．倫理性も備えた行動規範を身につけており、適切なコミュニケーションができるようになるため、共用試験の受験を必修としている。

#### （技能・表現）

7．高度な専門知識に基づいて修得した獣医学領域で必要な技能を実践できるように、総合臨床実習や行政体験実習などの現場での実習を配置している。

8．論理性と倫理性を兼ね備えた行動規範を身につけられるように、獣医倫理や獣医学概論の様な導入科目を配置している。

# 1. 岩手大学獣医学部教育課程規則

(令和7年4月1日制定)

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人岩手大学学則第36条第5項及び岩手大学獣医学部規則第11条の規定に基づき、岩手大学獣医学部（以下「本学部」という。）における専門教育（以下「専門教育」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(科目及び単位の修得)

第2条 専門教育における授業科目（以下「科目」という。）及び単位数は、別表第1に定めるところによる。

2 専門教育においては、別表第2に掲げる単位数以上を修得しなければならない。

3 科目の必修と選択の別、履修年次、時間数、履修方法等は、別に定める。

(授業時間割等の公示)

第3条 開講する科目の担当教員、授業時間等は、各学期の開始までに公示する。

2 学期の途中から開講する科目については、その都度公示する。

(履修科目の届出)

第4条 学生は、履修しようとする科目を指定の期間内に学部長に届け出なければならない。

2 前項の届け出をしない者は、単位の認定を受けることができない。

3 第1項の届け出の後には、履修取り消しを認める指定期間内に限り、届け出た科目を取り消すことができる。

(他学部科目等の履修及び他学部学生の履修)

第5条 本学部学生の他学部が開設する科目及び教育職員免許状取得にかかる科目の履修は認めない。

2 他学部の学生による本学部の科目の履修は認めない。

(他大学等での履修)

第6条 学生は、他の大学又は短期大学の授業科目を履修しようとするときは、所定の手続きを経て許可を得なければならない。

2 前項により修得した単位は、別表第2の単位数に含めることはできない。

(試験)

第7条 試験を行う場合は、各学期末に行う。ただし、科目によってはその他適当な時期に行うことができる。

(雑則)

第8条 この規則に定めるもののほか、専門教育に関し必要な事項は、教授会において別に定める。

(規則の改正)

第9条 この規則の改正は、教授会の議を経なければならない。

附 則 (省略)

別表第 1 (第2条第1項関係)

獣医学部専門教育科目表 (省略)

別表第 2 (第2条第2項関係)

学生が修得すべき単位数 (省略)

## 2. 学生が修得すべき単位数（共通教育及び専門教育）

区 分		修得すべき単位数	
共通教育科目	大学教育導入科目群	2	
	スポーツ健康科目群	2	
	外国語科目群	6	
	人文社会科学科目群	8	
	配置大学特色科目群	理数系基礎	12
		理数系アドバンス	
計		30	
専門教育科目	基礎獣医学科目	基礎獣医学科目群	40
		病態獣医学科目群	25
		応用獣医学科目群	21
	実証獣医学科目	小動物臨床獣医学科目群	34
		大動物臨床獣医学科目群	16
	選択科目	5	
	専修科目	18	
	計		159
合計		189	

### 3 . 共通教育について

#### a 獣医学部における共通教育の理念と教育目標

##### 理 念

獣医師には、地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負う自然科学としての獣医学を背景とし、論理性および倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる。共通教育科目は、その基盤となる基礎的知識の習得を求め、多様な領域に対する学問的関心を喚起することで幅広く深い総合的な判断力を培い、獣医師として豊かな人間性を涵養することが目的である。獣医学部における共通教育科目は、「大学教育導入科目群」、「スポーツ健康科目群」、「外国語科目群」、「人文社会科学科目群」、および「配置大学特色科目群」によって構成され、獣医学を学ぶに必要な基礎的知識を習得させるものである。

##### 教育目標

獣医学部では、獣医師として動物と人類の健康と福祉に貢献し、高度獣医療の提供、人の健康と食の安全、生命科学の発展に国際的な視野を持って活躍できる人材を養成することを目指している。したがって、共通教育では、獣医学の基盤となる高等動物の生命科学に対する知識とともに、外国語による情報収集や思考の素養を身に付け、現代の人間と社会の基本的問題や人文社会科学の諸分野の課題について学ぶことで、獣医師として豊かな人間性を養うことが目的である。

#### b 各科目群の教育目標

##### ( 1 ) 大学教育導入科目群の教育目標

大学教育導入科目群における科目では、大学教育における学業活動の全般のイントロダクションとして協調性や社会性、創造性や自ら問題解決することの重要性について学ぶ。

##### ( 2 ) スポーツ健康科目群の教育目標

スポーツ健康科学群における科目では、社会生活を送る上で身に付けておくべき基本知識や技能の一環として、人間の身体や健康、スポーツに関する正しい知識を学び、自らの体力とその維持増進方法を実践的に理解するとともに、各個人の目的に応じた身体運動やスポーツ活動を実践する能力を習得する。

##### ( 3 ) 外国語科目群の教育目標

外国語科目群では、国際的に広く用いられている英語に関する基礎知識を身に付け、獣医学の関わる自発的な思考や情報の収集・発信を行うための素養を身に付ける。

#### (4) 人文社会科学科目群の教育目標

##### ・「人文社会科学」の科目目標

人文社会科学科目では、現代の人間と社会の基本的問題および人文社会科学の諸分野の中でも、動物と人類の健康と福祉に貢献する獣医師において極めて重要な内容として、社会ならびに文化が人間にとってどのような意味や機能を持つのかについて考え、現代社会に生きる人間としての「ものの見方・考え方」を養う。

##### ・「持続可能な環境・社会」の科目目標

人間と社会の基本的問題や人文社会科学の諸課題について広く学ぶことは、獣医師として豊かな人間性を養うために極めて有用である。「持続可能な環境・社会」では、「人文社会科学科目」に挙げた基本的な重要科目の他に、多様性に富んだ各種関連科目を学生諸君が自主的に精選し履修することで、現代社会に生きる人間としての「ものの見方・考え方」をいっそう深く洞察する力を身に付けることを目的とする。

#### (5) 配置大学特色科目群

##### 科目群全体の教育目標

地球上全ての動物生命の健康と繁栄に責任を負い、論理性および倫理性を兼ね備えた高い行動規範が求められる獣医師には、獣医学の基盤となる基礎知識ならびに幅広く深い総合的な創造力、判断力、自己解決能力が求められる。配置大学特色科目群では、上記の共通教育の科目群とは別に学生諸君が主体的に履修科目を精選し、履修することで、多様な領域に対する学問的関心を促し豊かな人間性を養う。

##### 各科目の科目目標

##### ・「理数系基礎」の科目目標

動物と人類の健康と福祉、高度獣医療の提供、人の健康と食の安全ならびに生命科学研究の発展に貢献する獣医学では、高等動物の生命科学に関する基礎学問の修得が不可欠である。理数系基礎科目では、獣医学教育の基盤となる理数系基礎学問を履修し、生命現象の基本原則に関する知識を習得する。

##### ・「理数系アドバンス」の科目目標

「理数系アドバンス」では、「理数系基礎科目」で学んだ高等動物の生命科学に関する基礎科目の他に、多彩な理数系関連科目を学生諸君が自主的に精選し履修することで、動物と人類の健康と福祉、高度獣医療の提供、人の健康と食の安全ならびに生命科学研究の発展に貢献するための深く幅広い教養知識と洞察力を育む。

#### c 履修単位数・科目・履修方法等

共通教育科目の授業科目区分及び単位数等は次表のとおりで、修得すべき単位数及び履修方法については、次表のようになりますので、熟読のうえ履修してください。

表 共通教育科目の修得すべき単位数

区分	科目名	単位数	要件	開講学期				卒業要件	
				1 年次		2 年次			
				前	後	前	後		
大学教育導入科目群	基礎ゼミナール	獣医学基礎ゼミナール	2	必	*				必修科目
スポーツ健康科目群	スポーツ健康・基盤	健康・スポーツA	1	必	*				必修科目
		健康・スポーツB	1	選択必修		*			選択 1 単位修得
	スポーツ健康・発展	健康・スポーツC (シーズン)	1			*			
外国語科目群	基礎英語	英語総合	1	必	*				必修科目
		英語総合	1	必		*			
		英語総合	1	必			*		
		英語コミュニケーション	1	必	*				
		英語コミュニケーション	1	必		*			
		英語コミュニケーション	1	必				*	
人文社会科学科目群	人文社会科学	思想	2	選	*	*	*	*	選択 6 単位修得
		芸術学	2	選	*	*	*	*	
		文学	2	選	*	*	*	*	
		言語学	2	選	*	*	*	*	
		歴史学	2	選	*	*	*	*	
		法学	2	選	*	*	*	*	
		憲法	2	選	*	*	*	*	
		政治学	2	選	*	*	*	*	
		経済学・経営学	2	選	*	*	*	*	
		社会学	2	選	*	*	*	*	
		教育学	2	選	*	*	*	*	
		心理学	2	選	*	*	*	*	
	持続可能な環境・社会	環境A	2	選	*		*		選択 2 単位修得
		環境B	2	選	*		*		
		環境C	2	選	*		*		
		環境D	2	選		*		*	
		環境E	2	選		*		*	
		環境F	2	選		*		*	
		現代社会をみる視角	2	選	*	*	*	*	
		宮沢賢治の世界	2	選	*	*	*	*	
		危機管理と復興	2	選	*	*	*	*	
		地場産業・企業論	2	選	*	*	*	*	
		ボランティアとリーダーシップ	2	選	*	*	*	*	
		地域協創入門	2	選	*	*	*	*	
		社会連携学A	2	選	*	*	*	*	
		社会連携学B	2	選	*	*	*	*	
		地域協創A	1	選	*	*	*	*	
		地域協創B	1	選	*	*	*	*	
		地域協創C	1	選	*	*	*	*	
		地域協創D	1	選	*	*	*	*	
		地域協創E	1	選	*	*	*	*	
		地域協創F	1	選	*	*	*	*	
		地域協創G	1	選	*	*	*	*	
		地域協創H	1	選	*	*	*	*	
地域協創I	1	選	*	*	*	*			
キャリアを考えるA	2	選	*	*	*	*			
キャリアを考えるB	2	選	*	*	*	*			
日本事情A	2	選	*	*	*	*			
日本事情B	2	選	*	*	*	*			
多文化コミュニケーションA	2	選	*	*	*	*			
多文化コミュニケーションB	2	選	*	*	*	*			

表 共通教育科目の修得すべき単位数

区分	科目名	単位数	要件	開講学期				卒業要件	
				1年次		2年次			
				前	後	前	後		
配置大学特色科目群	理数系基礎	獣医細胞生物学	2	必	*				必修4単位 選択8単位 (計12単位) 修得
		基礎生物学実験	1	選		*			
		情報基礎A	2	必	*				
		情報基礎B	2	選		*			
	理数系アドバンス	物質科学	2	選	*	*	*	*	
		自然科学	2	選	*	*	*	*	
		材料科学	2	選	*	*	*	*	
		電気電子工学	2	選	*	*	*	*	
		エネルギー科学	2	選	*	*	*	*	
		数理情報科学	2	選	*	*	*	*	
		機械科学	2	選	*	*	*	*	
		環境・防災学	2	選	*	*	*	*	
		メディア情報学	2	選	*	*	*	*	
		農学基礎	2	選	*	*	*	*	
		食品健康科学	2	選	*	*	*	*	
		分子生物機能科学	2	選	*	*	*	*	
		分子生命医科学	2	選	*	*	*	*	
		農業環境工学	2	選	*	*	*	*	
		森林科学	2	選	*	*	*	*	
		動物科学	2	選	*	*	*	*	
		水産学基礎	2	選	*	*	*	*	
		データ分析演習	1	選			*		
統計的機械学習実践	2	選				*			

備考(1) 印の授業科目は必修とする。

(2) 獣医学部以外の学部の教養教育の授業科目は他学科科目として履修できるが、卒業要件単位数に参入しない。

(3) 健康・スポーツは2月～3月頃の集中開講科目。

大学教育導入科目群（2単位）

必修単位（2単位）

獣医学基礎ゼミナール（2単位）を修得すること。

スポーツ健康科目群（2単位）

必修単位（1単位）

健康・スポーツA（1単位）を修得すること。

選択（必修）単位（1単位）

次の科目から1科目（1単位）を修得すること。

なお、健康・スポーツCは、人数制限があること、開講しない年度があることに注意すること。

健康・スポーツB（1単位）

健康・スポーツC（シーズン）（1単位）

外国語科目群（6単位）

必修単位（6単位）

次の全科目の6単位を修得すること。

英語総合（1単位）

英語コミュニケーション（1単位）

英語総合（1単位）

英語コミュニケーション（1単位）

英語総合（1単位）

英語コミュニケーション（1単位）

人文社会科学科目群（8単位）

選択（必修）単位（8単位）

次の2つの区分から8単位を修得すること。

なお、区分ごとに修得しなければならない単位数があるので注意すること。

「人文社会科学」から6単位

「持続可能な環境・社会」から2単位

配置大学特色科目群（12単位）

必修単位（4単位）

次の全科目の4単位を修得すること。

「理数系基礎」の獣医細胞生物学（2単位）

「理数系基礎」の情報基礎A（2単位）

選択（必修）単位（8単位）

次の2つの区分から8単位を修得すること。

「理数系基礎（必修科目を除く）」

「理数系アドバンス」

#### 履修上の注意事項

- 1 共通教育科目は、1・2年次の定められた時間帯に履修すること。
- 2 履修については、本冊子及び授業時間割表を参考にし、間違いのないよう注意すること。  
なお、同一名称の授業科目は重複して履修できない。  
また、履修にあたっては前期のみ又は後期のみの開設授業科目や年度により開設しない授業科目があるので注意すること。

## 4．専門教育について

### 履修上の留意点

#### 1．本籍

本共同獣医学科においては、入学を許可された大学を本籍とします。

#### 2．履修

履修は、原則として本籍の大学で行います。

#### 3．受講の学年進行（進級制度）および獣医学共用試験

共同獣医学科では、基礎獣医学、病態獣医学、応用獣医学および臨床獣医学を積み上げ式で履修することを理想とするため、カリキュラムマップ（コースツリー）に記載の順序で講義・実習の単位を修得することを基本とします。このため、共同獣医学科では進級制度を採用しています。

- 1) 毎年度、後期末において在籍する学年までに履修すべき必修の専門教育科目のうち講義科目の未修得単位数が6単位以下、かつ実習科目（行政体験実習を除く）の全てを修得した場合に進級できます。例えば3年生後期末時点で1～3年生で履修すべき講義科目全体のうち未修得単位数が6単位以下、かつ実習科目（行政体験実習を除く）を全て修得している場合に4年生に進級できます。
  - 2) 共通教育科目は、3年生後期末までに卒業に必要な単位（30単位）を全て修得する必要がある、必要単位数が不足する場合は4年生に進級できません。
  - 3) 4年生後期から研究室に配属され、専修科目（獣医学演習、アドバンス演習および卒業研究）を履修することができます。ただし、卒業研究を履修するには、獣医学演習（4単位）を修得していることが必要です。
  - 4) 4年前期末に必修の専門教育科目のうち講義科目の未修得単位数が6単位以下、かつ実習科目（行政体験実習を除く）を全て修得している学生は4年生終了時に獣医学共用試験<sup>（注1）</sup>を受験する資格を得ます。
  - 5) 5年生に開講される「総合参加型臨床実習 ～ <sup>（注2）</sup>」を履修するには、4)に記載した獣医学共用試験に合格しStudent Doctorの認定を受ける必要があります。なお、総合参加型臨床実習 ～ の履修にあたっては、当該実習に必要な経費をその都度徴収する場合があります。
- （注1） 獣医師の資格がない学生が動物病院等において実施される臨床実習で症例に接する場合には、必要不可欠な知識、技能、態度が備わっていることを動物の所有者に示し、その質を社会に保障する必要があります。臨床実習に必要な最小限の知識、技能、態度の到達レベルを評価するためにNPO法人・獣医系大学間獣医学教育支援機構が主催する試験（以下「獣医学共用試験」という。）を4年生終了時に行います。獣医学共用試験を受験するには、上記4)を満たしている必要があります。獣医学共用試験の合格者はStudent Doctorとして認定されます。獣医学共用試験はvetCBTならびにvetOSCEから構成されますが、その両方に合格しなければStudent Doctorの認定は得られません。なお、vetCBTおよびvetOSCEは、4年生の間に追・再試がそれぞれ1回ずつ実施されます。獣医学共用試験の受験にあたっては、別途受験料が必要です。
- （注2） 本実習は、大学等の動物診療施設等において、指導教員の指導下で症例（一般市民が所有する動物）に接する臨床実習です。本実習は、農林水産省通知「獣医学生の臨床実習における獣医師法第17条の適用について」（平成22年6月30日付け）に基づいて実施されます。

#### 4．相手大学における研究室所属および専修科目・専門科目の履修

若干名の学生<sup>(注3)</sup>は、5,6年次に本籍でない大学の共同獣医学科の専修コースにおいて専修科目を履修することができます。その場合、本籍の大学において、4年次終了時までの学科専門教育科目のうち、必修科目のすべての単位および選択科目から5単位以上を修得していなければなりません。また、本籍以外の大学の研究室に配属する学生の選出は本籍大学が行います。

(注3) これらの学生は、本籍でない大学の共同獣医学科において、5,6年次の専門教育科目のすべてを履修することになります。

#### 5．その他

本学科では、実習科目にかかる経費を別途徴収する場合があります。

獣医学部共同獣医学科専門教育科目

区分1	区分2	授業科目	単位数		履修年次												備考					
					1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次							
					必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期						
基礎獣医学科目群	基礎獣医学科目群	獣医学概論	1		○																	
		獣医倫理	1		○																	
		獣医倫理	1									○										
		獣医事法規	1								○	○										
		畜産学概論	2		○																	
		家畜飼養学	2						○													
		生物統計学	1									○										
		運動器・神経系解剖学	2			○																
		内臓・脈管系解剖学	2				○															
		解剖学実習	1			○																
		解剖学実習	2					○														
		組織学	2					○														
		組織学実習	1					○														
		発生学	1		○																	
		生理学	2		○																	
		生理学	2				○															
		生理学実習	1				○															
		獣医遺伝育種学	1					○														
		実験動物学	2					○														
		実験動物学実習	1						○													
		基礎放射線学	2							○												
		獣医基礎生化学	2		○																	
		獣医代謝生化学	1				○															
		生化学実習	1				○															
		基礎薬理学	2					○														
		統合薬理学	2						○													
		薬理学実習	1						○													
		小計	40																			
		病態獣医学科目群	病態獣医学科目群	微生物学総論	2			○														
				病原微生物学	2				○													
				微生物学実習	1				○													
				微生物学実習	1					○												
				免疫学	2				○													
				寄生虫学	2					○												
				寄生虫学	1						○											
				寄生虫学実習	1							○										
				動物感染症学	2						○											
				家畜疾病学	2							○										
				動物病理学総論	3							○										
				動物病理学各論	2							○										
動物病理学各論	2										○											
動物病理学実習	1										○											
動物病理学実習	1											○										
小計	25																					
応用獣医学科目群	応用獣医学科目群	公衆衛生学総論	1					○														
		疫学	2						○													
		人獣共通感染症学	2							○												
		食品衛生学(獣医)	2							○												
		食品衛生学実習	1								○											
		環境衛生学	2									○										
		公衆衛生学実習	1										○									
		毒性学	2										○									
		毒性学実習	1											○								
		動物衛生学	2											○								
		動物衛生学実習	1												○							
		野生動物学	1													○						
		魚病学	2														○					
行政体験実習	1																	時期選択				
小計	21																					
小動物臨床獣医学科目群	小動物臨床獣医学科目群	内科学総論	1						○													
		外科学総論	1							○												
		呼吸器病・循環器病学	2								○											
		臨床病理学	2									○										
		臨床薬理学	1										○									
		小動物内科学実習・基礎編	1											○								
		小動物内科学実習・応用編	1												○							
		小動物外科学実習・基礎編	1													○						
		小動物外科学実習・応用編	1														○					
		消化器病学	2											○								
		麻酔学・手術学	1												○							
		軟部外科学	1													○						
		内分泌病・皮膚病学	2														○					
		泌尿器病・生殖器病学	1															○				
		獣医動物行動学	2																○			
		代謝病・中毒学	1																	○		
		血液免疫病学	1																	○		
		神経病・運動器病学	2																	○		
		臨床腫瘍学	1																	○		
		臨床栄養学	1																	○		
画像診断学	2																	○				
画像診断学実習	1																	○				
眼科学	1																	○				
総合参加型臨床実習	1															○						
総合参加型臨床実習	1																○					
総合参加型臨床実習	1																	○				
総合参加型臨床実習	1																	○				
小計	34																					

区分 1	区分 2	授業科目	単位数		履修年次												備考	
					1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次			
					必修	選択	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
大動物臨床獣医学科目群	繁殖機能制御学	2																
	繁殖機能制御学実習	1																
	臨床繁殖学	2																
	臨床繁殖学実習	1																
	産業動物臨床学	2																
	産業動物臨床学	2																
	大動物臨床実習・基礎編	1																
	大動物臨床実習・応用編	1																
	馬臨床学	2																
	総合参加型臨床実習	1																
	総合参加型臨床実習	1																
	小計	16																
	選択科目	学外実習（国内）		1														時期選択
		学外実習（国外）		1														時期選択
人と動物関係学			2														集中講義（岩手）	
動物園動物学			2														集中講義（東京）	
動物介在学			2														集中講義（岩手）	
国際感染症制御学			2														集中講義（東京）	
宿主寄生体関係特論			1														集中講義（岩手）	
動物病院経営学			1														集中講義（東京）	
小計		5																
科専修	獣医学演習		4															
	アドバンス演習		4															
	卒業研究		10															
	小計		18															
計			154	5	・専門教育科目については岩手大学と東京農工大学で独自に開講する科目および遠隔講義システムを利用する科目を含みます													
合計			159															

獣医学部共同獣医学科 カリキュラムマップ

	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次		6年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
共通教育科目	大学教育導入 スポーツ健康 外国語 人文社会科学 理教系基礎 持続可能な社会 理教系アパハンス											
基礎獣医学科目群	獣医学概論 獣医倫理I 畜産学概論 発生学 運動器・神経系解剖学 解剖学実習 組織学 組織学実習 生理学 生理学実習 獣医基礎生化学 生化学実習	内臓・脈管系解剖学 解剖学実習 組織学 組織学実習	家畜飼養学	獣医事法規	獣医倫理 生物統計学							
基礎獣医学科目	微生物学総論	微生物学実習 微生物学実習	免疫学 免疫学実習 動物感染病学 動物病理学総論	微生物学実習 寄生虫学 寄生虫学実習 家畜疫病学 動物病理学名論 動物病理学実習	魚病学 野生動物学 動物衛生学実習 環境衛生学 公衆衛生学実習 毒性学 毒性学実習	行政体験実習						
専門教育科目				公衆衛生学総論	内科学総論 外科学総論	小動物内科学実習・基礎編 臨床病理学 臨床薬理学 呼吸器病・循環器病学	小動物内科学実習・応用編 小動物外科実習・基礎編 麻酔・手術学 獣外科学 泌尿器病・生殖器病学 獣医動物行動学 消化器病学 内分泌・皮膚病学 臨床栄養学	血液免疫病学 小動物外科実習・応用編 臨床腫瘍学 神経病、運動器病学 眼科学 画像診断学実習 代謝病、中毒学 臨床栄養学				
実臨床医学科目	小動物臨床実習 臨床実習 臨床実習 臨床実習											
選択科目			人と動物関係学 動物園動物学 学外実習(国内) 学外実習(国外)	動物介在学 国際感染症制御学	繁殖機能制御学 繁殖機能制御学実習 産業動物臨床学 大動物臨床実習・基礎編 馬臨床学	繁殖機能制御学 繁殖機能制御学実習 産業動物臨床学 大動物臨床実習・応用編 馬臨床学						
専修科目												

# 教育職員免許状・ 各種資格の取得方法

# 教育職員免許状・各種資格の取得方法

## 1 教育職員免許状の取得に当たって

岩手大学の学科・課程のうち、教育学部の学校教育教員養成課程以外の学科・課程は教員養成を目的としていません。これらの学科・課程の学生は、教育職員免許状を取得しようとする場合は、正規の卒業資格単位のほかに教育職員免許法施行規則でいう**教科及び教科の指導法に関する科目**（教科に関する科目のほとんどの科目は卒業単位で代替できるが、学科・課程によっては代替できない場合もある）、**教職に関する科目**（免許の種類によって異なるが2.5単位～3.7単位）及び教養教育科目として開講している「**憲法**」2単位、「**健康・スポーツ科目**」から2単位、「**英語コミュニケーション**」**・**、**中級ドイツ語**、**中級フランス語**、**中級ロシア語**、**中級中国語**、**中級韓国語**」から2単位、「**情報基礎A**」2単位を修得する必要があるため、相当な決意と努力が必要です。

取得すべき科目及び単位数等は、次ページ以降（人文社会科学部、理工学部、農学部）のとおりです。教育学部の学生は - 8 ページ以降のとおりです。

獣医学部では教育職員免許状を取得することはできません。

### ・介護等の体験

教科に関する科目及び教職に関する科目とは別に、教育学部及び人文社会科学部の学生で**小学校及び中学校の教諭**の普通免許状を取得しようとする者は、障害者、高齢者等に対する介護・介助等の体験を7日間行うことが必要です。ただし、介護等に関する専門知識及び技術を有する者又は身体上の障害により介護等の体験を行うことが困難な者は免除されます。

### ・各学部において課程認定を受けている教育職員免許状の種類と教科・領域

学 部	学 科 等	免許状の種類	教 科 ・ 領 域	
人文社会科学部	人間文化課程	中学校教諭1種免許状	国語、社会、英語	
		高等学校教諭1種免許状	国語、地理歴史、公民、英語	
	地域政策課程	高等学校教諭1種免許状	公民	
教育学部	学校教育教員養成課程	小学校教諭1種免許状		
		中学校教諭1種免許状	国語、社会、数学、理科、音楽、美術、保健体育、技術、英語	
		高等学校教諭1種免許状	国語、地理歴史、公民、数学、理科、情報、音楽、美術、保健体育、英語	
		特別支援学校教諭1種免許状	知的障害者に関する教育の領域、肢体不自由者に関する教育の領域、病弱者に関する教育の領域	
理工学部	理工 学科	化学コース	高等学校教諭1種免許状	数学、理科、情報、工業
		数理・物理コース		
		材料科学コース		
		知能情報コース		
		クリエイティブ 情報コース		
		電気電子・情報通信 コース		
		機械知能航空 コース		
		社会基盤・環境工学 コース		
農学部	食料農学科	高等学校教諭1種免許状	理科、農業	
	生命科学科		理科	
	地域環境科学科		理科、農業	
	動物科学・水産科学科			

## 人文社会科学部

本学部所属学生が教育職員免許状（以下「教員免許」という。）を取得するには、以下の条件を満たしていなければなりません。

教員免許取得の基礎資格（学士の学位）を有していること。

表1の単位を修得していること。

教養教育で開講する以下の授業科目の単位を修得していること。

・憲法 2単位

・健康・スポーツ 2単位

・英語コミュニケーション 2単位

中級ドイツ語，中級フランス語，中級ロシア語，中級中国語，中級韓国語でも可

・情報基礎A 2単位

中学校教員免許を取得する場合は、「介護等の体験（特別支援学校2日間，社会福祉施設等5日間の実習）」を実施していること。

詳細については1年前期に開講する「教職入門」で説明するので，教員免許取得希望者は必ず「教職入門」を申告のうえ履修してください。

なお，各課程で取得できる教員免許は，前ページの「1 教育職員免許状の取得に当たって」で確認してください。

表1 教員免許取得に必要な単位数

	教職に関する科目	独自科目	各教科の指導法	教科に関する科目	計
中学校1種	30単位	3単位	8単位	20単位	61単位
高等学校1種	26単位	11単位	4単位	20単位	61単位

### 教育実習について

「教育実習事前事後指導（1単位）」の内容

#### 1. 教育実習ガイダンス（3年次4月中～下旬）

教育実習申込に係る必要書類配付および実習実施にあたっての注意事項説明

#### 2. 事前指導（3年次）

事前指導（7月）

教員養成支援センター教員による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

事前指導（7月）

教育学部附属中学校教諭による教職，教育実習にあたっての心構えに関する講義

および附属中学校見学にあたっての注意事項説明

事前指導（8月）

教育学部附属中学校における観察実習

事前指導（12月下旬）

教育実習報告会の聴講

#### 3. 事前指導（4年次4月中～下旬）

教育実習記録簿配付と教育実習直前での実習実施に係る心構えに関する講話

#### 4. 事後指導（4年次後期）

事後指導（教育実習終了後2週間以内）

教育実習レポートの提出

事後指導（12月下旬）

教育実習報告会に参加し、他の学生の教育実習実施報告を聴講し、教育実習を振り返る

#### 教育実習実施の要件

3年次末までに、以下に掲げる要件を満たしていること。

事前指導をすべて受講している

「教育実習ガイダンス」に参加している

卒業に必要な単位（課外科目を除く）を96単位以上修得している

教職に関する科目のうち3年次末までに修得できる単位数の半数以上を修得している

「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得している

教育実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得している

教科に関する科目を10単位以上修得していること

#### 教育実習の実施について

教育実習を行う学校は、原則、各自の出身校（母校）です。母校での実習が困難な時は、学生センター 番窓口にご相談ください。中学校教員免許取得の場合は、中学校で4週間（約160時間）、高等学校教員免許取得の場合は、高等学校で2週間（約80時間）、実習を行わなければなりません。実習は、5月中旬～6月下旬に行われることが多いですが、実習校により異なりますので、申込みの際に必ず確認してください。

教育実習実施希望者は、3年次の「教育実習ガイダンス」に参加してください。教育実習申込書を配付しますので、期日までに必要事項を記入した申込書を学生センター 番窓口提出してください。7月中旬頃に、実習予定校宛の依頼文書等をお渡しします。

実習予定校への申し込みは、事前に実習予定校に連絡し、訪問日時を予約した後、長期休業（夏休み）期間中に上記依頼文書持参で、実習予定校に依頼してください。近年、教育実習生の受け入れを制限する学校が増えており、実習を断られる場合もあります。2年次から実習予定校のHPの確認や実習予定校への連絡を行い、教育実習実施の意思を伝えると共に、教育実習の申込時期を問い合わせるなど、早めの行動を心がけてください。

教育実習終了後は、2週間以内にレポートを提出してください。教育実習事後指導の一部で、「教育実習事前事後指導」の単位修得に関わりますので、忘れずに提出してください。

#### 教育職員免許取得に係る注意事項

##### 教職ポートフォリオの作成

教員免許取得に関する指導の際に、その学修状況を確認するため、教職ポートフォリオ（学修記録）を作成しなければなりません。毎年度末に教職eポートフォリオに入力してもらいますので、日頃から配付された資料の整理や記録を行ってください。入力時期等は掲示板・アイアシスタントでお知らせします。

4年次後期に履修する「教職実践演習」では、教職ポートフォリオを使ってグループワーク等を行います。毎年度末の教職ポートフォリオの確認を受けていないと「教職実践演習」を履修することができませんので、十分注意してください。

##### 「介護等の体験」の実施（中学校教員免許取得希望者のみ）

中学校教員免許を取得するには、「介護等の体験（介護等体験実習）」を行わなければなりません。

ん。この実習は個人で申し込むことはできませんので、中学校教員免許取得を希望する場合は、2年次11月中～下旬に行われるガイダンスと3年次4月に行われる事前指導に必ず出席してください。2年次のガイダンスでは介護等体験実習の申込用紙等を配付しますので、期日までに学生センター 番窓口に提出してください。3年次の事前指導は2回行いますが、全て出席しなければなりません。

介護等体験実習は、3年次の6～12月に行われ、期間は、社会福祉施設5日間、特別支援学校2日間の計7日間です。実習先や実習日は、申込書に基づき、岩手県社会福祉協議会（社会福祉施設等）および岩手県教育委員会（特別支援学校）が決めます。

#### 教員免許状の授与申請

教員免許は、岩手県教育委員会に申請し、授与されますが、本学では、卒業見込者の教員免許状申請を一括して行っています。卒業と同時に免許状授与を希望する場合は、期日までに必要書類を学生センター 番窓口提出してください。申請書類の配付や提出締切等は掲示板・アイアシスタントでお知らせいたします（12月中旬頃）。

#### 教職に関する科目の履修について

教職に関する科目は、一部授業科目で履修する順番が下記のとおり決まっています。

「教職入門」履修後でなければ、他の教職に関する科目を履修できない

国語科教育法は、          、          、          の順に履修しなければならない

中学校（社会）の免許取得希望者の「各教科指導法」の履修に当たって、社会科教材研究法は、少なくとも中等社会科教育法A（社会・地理）あるいは中等社会科教育法B（社会・公民）のどちらかの科目を履修した後に履修すること。

高等学校（地理歴史）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法A（社会・地歴）、地理歴史科教育法の順に履修しなければならない。

高等学校（公民）の免許取得希望者の「各教科の指導法」は、中等社会科教育法B（社会・公民）、公民科教育法の順に履修しなければならない。

上記以外にも履修の要件がある場合もありますので、シラバスや掲示板をよく確認して履修してください。

#### 教科に関する科目および独自科目の履修について

「教科に関する科目」は、免許状の種類および教科により、表2のとおり科目（区分）が定められています。各科目（区分）1単位以上修得したうえで「教科に関する科目」の免許取得に必要な単位数を修得しなければなりません。「独自科目」は、教科に関する科目、各教科の指導法、および教職に関する科目のそれぞれの免許取得に必要な修得単位数を超えて修得した単位が算入されます。

表2 免許種・教科別の科目区分

免許種	教科	科目（区分）	
中学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）	
		国文学（国文学史を含む。）	
		漢文学	
		書道（書写を中心とする。）	
	社会	日本史・外国史	
		地理学（地誌を含む。）	
		「法律学、政治学」	
		「社会学、経済学」	
	英語	英語学	
		英語文学	
		英語コミュニケーション	
		異文化理解	
	高等学校 第1種	国語	国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）
			国文学（国文学史を含む。）
			漢文学
		地理歴史	日本史
外国史			
人文地理学・自然地理学			
地誌			
公民		「法律学（国際法を含む。） 政治学（国際政治を含む。）」	
		「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	
		「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	
英語		英語学	
		英語文学	
		英語コミュニケーション	
		異文化理解	

「 」は、鍵括弧内の科目（区分）から、1つ以上の科目（区分）の授業科目の単位を修得しなければなりません。例えば、中学校社会の「法律学、政治学」では、法律学の科目（区分）の授業科目だけを修得しても教員免許を取得できます。

教職に関する科目(中学校30単位、高校26単位)

科目	各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位		備考
				中学 必選	高校 必選	
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。) 「(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)」を含む。	教職入門	1前	2	2	
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項を含む。 「(チーム学校運営への対応を含む。)」を含む。	教育概論	2前	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育法規	2前	2	2	教育法規、学校経営・制度論から2単位必修
		学校経営・制度論	2後	2	2	
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1後	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2前	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳教育の理論と実践	2後	2		中学のみ
	総合的な学習の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2後	2	2	
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2後	2	2	
	教育の方法及び技術 「教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)」を含む。	教育課程・教育方法論	2前	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	3年	1	1	
	生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導	1後	2	2	
	進路指導及びキャリア教育の理論及び方法 教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2前	2	2	
教育実践に関する科目	教育実習 中5単位、高3単位 事前指導含むこと	教育実習事前事後指導	3~4	1	1	
		中学校教育実習	4通	4		
		高等学校教育実習	4通		2	
	教職実践演習	教職実践演習	4後	2	2	

各教科の指導法に関する科目(中学校8単位、高校4単位)

各科目に含める必要事項	授業科目名	履修年次	修得単位		備考
			中学 必選	高校 必選	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国語科教育法	2前	2	2	から の順に履修 高校: を履修した場合独自科目に算入する
	国語科教育法	2後	2	2	
	国語科教育法	3前	2	2	
	国語科教育法	4後	2	2	
	中等社会科教育法A(社会・地歴)	2後	2	2	高校地歴: 中等社会科教育法Aと地理歴史科教育法を履修
	中等社会科教育法B(社会・公民)	2前	2	2	
	社会科教材研究法	2前	2	2	高校公民: 中等社会科教育法Bと公民科教育法を履修
	社会科学習内容構築論	4後	2	2	
	地理歴史科教育法	2前	2	2	
	公民科教育法	2後	2	2	
	英語科教育法	2前	2	2	高校: を履修した場合独自科目に算入する
	英語科教育法	2・3後	2	2	
	英語科教育法	2・3後	2	2	
	英語科教育法	4後	2	2	

教科に関する科目 科目区分別授業科目一覧

人間文化課程

科目	科目(区分)	授業科目名	単位	免許種	備考	
国	国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)	必 日本語学概説	2	中学 高校	高等学校免許取得希望者が「書法基礎」を修得しても、「独自科目」の単位には算入できない。 授業科目名の「必」は必修の授業科目であることを意味している(以下同様)。	
		日本語学講義 A	2	中学 高校		
		日本語学講義 B	2	中学 高校		
		日本語学講義 C	2	中学 高校		
		日本語学講義 D	2	中学 高校		
		日本語学講読 A	2	中学 高校		
		日本語学講読 B	2	中学 高校		
		日本語学特講 A	2	中学 高校		
		日本語学特講 B	2	中学 高校		
		日本語表現基礎(アカデミック・ライティング)	2	中学 高校		
		日本語読解基礎(クリティカル・リーディング)	2	中学 高校		
		中国語学講義 B	2	中学 高校		
		語	国文学(国文学史を含む。)	必 日本文学講義 A		2
必 日本文学講義 B	2			中学 高校		
必 日本文学講義 C	2			中学 高校		
必 日本文学講義 D	2			中学 高校		
日本文学特講 A	2			中学 高校		
日本文学特講 B	2			中学 高校		
漢文学	必 漢文学概論			2	中学 高校	
	漢文学講義	2	中学 高校			
	書道(書写を中心とする。)	必 書法基礎	2	中学		
社 会 ・ 地 理 史	日本史	必 日本史講義 A	2	中学 高校	中学校免許では、日本史+外国史の授業科目=日本史・外国史の授業科目、人文地理学・自然地理学+地誌の授業科目=地理学(地誌を含む。)の授業科目。必修、選択必修の授業科目も同様である。 授業科目名の「選必」は選択必修の授業科目であることを意味している(以下同様)。	
		必 日本史講義 B	2	中学 高校		
		日本史講義 C	2	中学 高校		
		日本史講義 D	2	中学 高校		
		日本史特講 A	2	中学 高校		
		日本史特講 B	2	中学 高校		
		日本史特講 C	2	中学 高校		
		日本史講読 A	2	中学 高校		
		日本史講読 B	2	中学 高校		
		考古学講義 A	2	中学 高校		
		考古学講義 B	2	中学 高校		
	外国史	必 西洋史講義 A	2	中学 高校	選必 アジア史講義 A, 同 B から 2 単位修得すること。	
		必 西洋史講義 B	2	中学 高校		
		西洋史講義 C	2	中学 高校		
		選必 アジア史講義 A	2	中学 高校		
		選必 アジア史講義 B	2	中学 高校		
		西洋史特講 A	2	中学 高校		
		西洋史特講 B	2	中学 高校		
		西洋史講読 A	2	中学 高校		
西洋史講読 B	2	中学 高校				
人文地理学・自然地理学	必 人文地理学概論 A	2	中学 高校	課外科目		
	必 自然地理学概論 A	2	中学 高校			
	地誌	必 地誌学	2		中学 高校	課外科目

科目	科目（区分）	授業科目名	単位	免許種	備考
社	「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」	必 政治学（政治過程）	2	中学 高校	中学校免許では、「法律学（国際法を含む。）、政治学（国際法を含む。）」の授業科目＝「法律学、政治学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。 本科目（区分）の授業科目は、全て地域政策課程の授業科目（一部専修プログラムでは専修プログラム科目になっている授業科目もある）。
		民法（総則）	2	中学 高校	
		民法（総則）	2	中学 高校	
		民法（物権）	2	中学 高校	
		民法（物権）	2	中学 高校	
		民法（家族法）A	2	中学 高校	
		民法（家族法）B	2	中学 高校	
		憲法（人権）	2	中学 高校	
会	「社会学、経済学（国際経済を含む。）」	必 社会学入門A	2	中学 高校	中学校免許では、「社会学、経済学（国際経済を含む。）」の授業科目＝「社会学、経済学」の授業科目。必修の授業科目も同様である。
		社会学入門B	2	中学 高校	
		社会学入門C	2	中学 高校	
		地域社会学	2	中学 高校	
		地域社会学特講	2	中学 高校	
		ジェンダー論講義	2	中学 高校	
		エスニシティ論講義	2	中学 高校	
公 民	「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人文学入門A	2	中学 高校	中学校免許では、「哲学、倫理学、宗教学、心理学」の授業科目＝「哲学、倫理学、宗教学」の授業科目である。心理学は高等学校のみで、中学校免許取得のための修得単位数には算入できない。 中学社会「選必」人文学入門A、日本思想史講義A、日本思想史講義Bから2単位修得すること。 高校公民「選必」人文学入門A、日本思想史講義A、日本思想史講義B、心理学概論から2単位修得すること。
		人文学入門B	2	中学 高校	
		人文学入門C	2	中学 高校	
		人間学講義	2	中学 高校	
		倫理学講義	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義A	2	中学 高校	
		人間学特講A	2	中学 高校	
		人間学特講B	2	中学 高校	
		倫理学特講A	2	中学 高校	
		倫理学特講B	2	中学 高校	
		選必 日本思想史講義B	2	中学 高校	
		日本思想史講義C	2	中学 高校	
		日本思想史講義D	2	中学 高校	
		日本思想史特講A	2	中学 高校	
		日本思想史特講B	2	中学 高校	
		日本思想史特講C	2	中学 高校	
		日本思想史講読	2	中学 高校	
		日本思想史講読	2	中学 高校	
		社会文化思想論講義	2	中学 高校	
		選必 心理学概論	2	高校	
		実験心理学（神経・生理心理学）	2	高校	
		認知心理学（知覚・認知心理学）	2	高校	
		社会心理学（社会・集団・家族心理学）	2	高校	
臨床心理学（臨床心理学概論）	2	高校			
認知心理学特講（知覚・認知心理学）	2	高校			
人格心理学特講	2	高校			

科目	科目(区分)	授業科目名	単位	免許種	備考	
英語	英語学	必 英語学講義 D	2	中学 高校		
		言語習得論 A	2	中学 高校		
		言語習得論 B	2	中学 高校		
		英語学講義 A	2	中学 高校		
		英語学講義 B	2	中学 高校		
		英語学講義 C	2	中学 高校		
	英語文学	必 英米文学講義 D	2	中学 高校		
		英米文学講義 A	2	中学 高校		
		英米文学講義 B	2	中学 高校		
		英米文学講義 C	2	中学 高校		
	英語コミュニケーション	選必 英語コミュニケーション基礎	2	中学 高校		選必 英語コミュニケーション基礎 ，スキルアップ・イン グリッシュBから2単位修 得すること。
		選必 スキルアップ・イングリッシュB	2	中学 高校		
		英語コミュニケーション基礎	2	中学 高校		
		スキルアップ・イングリッシュA	2	中学 高校		
	異文化理解	必 英米文化論講義 E	2	中学 高校		
		英米文化論講義 A	2	中学 高校		
		英米文化論講義 B	2	中学 高校		
		英米文化論講義 C	2	中学 高校		
英米文化論講義 D		2	中学 高校			
英米文化論講義 F		2	中学 高校			

地域政策課程

科目	科目(区分)	授業科目名	単位	免許種	備考	
公	「法律学(国際法を含む。)、政治学(国際法を含む。)」	必 政治学(政治過程)	2	高校		
		民法(総則)	2	高校		
		民法(総則)	2	高校		
		民法(物権)	2	高校		
		民法(物権)	2	高校		
		民法(家族法)A	2	高校		
		民法(家族法)B	2	高校		
		憲法(人権)	2	高校		
	憲法(人権)	2	高校			
	民	「社会学、経済学(国際経済を含む。)」	必 経済学基礎	2	高校	
			環境社会学	2	高校	
			環境社会学	2	高校	
			経済学基礎	2	高校	
			農業経済論	2	高校	
農業経済論			2	高校		
理論経済学			2	高校		
理論経済学			2	高校		
財政学			2	高校		
財政学			2	高校		
環境経済論A	2	高校				
環境経済論特講	2	高校				
「哲学、倫理学、宗教学、心理学」	選必 人文学入門A	2	高校	選必：人文学入門A，日本思想史講義A，日本思想史講義B，心理学概論から2単位修得すること。本科目(区分)の授業科目は，全て人間文化課程の授業科目。		
	選必 日本思想史講義A	2	高校			
	選必 日本思想史講義B	2	高校			
	選必 心理学概論	2	高校			

## 理工学部

本学部で取得できる教員免許状（ -1ページ参照）を取得するためには、以下の条件を満たす必要があります。

- 1) 基礎資格（学士の学位）を有していること
- 2) -11ページ表1に示す、教職に関する科目を **26単位** 修得していること
- 3) 表2に示す各教科の指導法に関する科目を **4単位** 修得していること及び -13～ -18ページ表3に示す教科に関する科目を **31単位** 修得していること（計 **35単位以上**）
- 4) 教養教育科目で開講している、下記の単位を修得していること（計 **8単位**）  
 「憲法」2単位 「健康・スポーツA」1単位 「健康・スポーツB」又は「健康・スポーツC」1単位  
 「英語コミュニケーション」1単位 「英語コミュニケーション」1単位 「情報基礎A」2単位

詳細については、**1年次前期に開講する「教職入門」で教育職員免許状を取得するためのガイダンスを行います。免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修してください。**なお1年次前期に「教職入門」を履修できない学生は、学生センターA棟 番窓口（学務課）に相談してください。

教員免許状に関する問い合わせ先は、学生センターA棟 番窓口（学務課）です。

表1. 教職に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 注1	修得すべき単位数 (合計26単位)				履修年次	開講期
			数学	理科	情報	工業 注4		
教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	2	2	2	2	1	前期
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2	2	2	2	2～	前期
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	2	2	2	2	1～	後期
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規 注2	2	2	2	2	2～	前期
		学校経営・制度論 注2						後期
特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2	2	2	2	2～	前期	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2	2	2	2	2～	後期
	特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	2	2	2	2	1～	後期
	教育の方法及び技術 「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2	2	2	2	2～	前期
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育におけるICT活用法	1	1	1	1	3～	後期
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導	2	2	2	2	1～	後期
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	2	2	2	2	1～	後期
教育実践に関する科目	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	2	2	2	2	4	後期
	教育実習	教育実習（教育実習事前・事後指導1単位含む） 注3	3	3	3	3	3～4	

表 2 . 各教科の指導法に関する科目及び修得すべき単位数

免許法上の区分	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名 注 1	修得すべき単位数 (合計 4 単位)				履修年次	開講期
			数学	理科	情報	工業 注 4		
教科の指導法に関する科目	各教科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)	数学科教育法	2	-	-	-	2~	前期
		数学科教育法	2	-	-	-	2~	後期
		理科教育法	-	2	-	-	2~	前期
		理科教育法	-	2	-	-	2~	後期
		情報教育法	-	-	2	-	2~	前期
		情報教育法	-	-	2	-	2~	後期
		工業教育法	-	-	-	2	2~	前期
		工業教育法	-	-	-	2	2~	後期

注 1 ・理工学部在籍時に、理工学部で開設している科目で必要単位を取得してください。  
 ・隔年開講又は専門科目(必修)と開講時期が重なる等で履修できない場合は、次年度以降に履修して単位を取得してください。

注 2 「教育法規」又は「学校経営・制度論」から 1 科目を選択履修してください。

注 3 教育実習については、ガイダンスを 3 年次の 5 月頃におこないますが、特に以下のことに注意してください。

(1) 教育実習ができる条件について(下記 1~5 を全て満たしている必要があります)

- 1) 卒業見込みの者(研究室に配属されていること)
- 2) 教職に関する科目の単位の 1 / 2 以上(13 単位)を修得していること
- 3) 教科に関する科目の単位の 1 / 2 以上(16 単位)を修得していること
- 4) 実習で実施する教科の教育法を 2 単位以上修得していること
- 5) 「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること

\* ただし、編入学生には適用しません。

(2) 実習校及び実習期間について

実習校は、原則として各自の出身校とします。実習期間は 2 週間で、例年 6 月~9 月の予定ですが、実習校の事情により多少の変更もあります。

3 年次の 7 月頃に、大学から実習校への依頼書を配付し、夏期休業中に実習予定者自身が持参して内諾をもらう必要がありますが、受け入れ人数に制限があり受け入れを断られる場合もあるので、2 年次の終わり頃など、早めに出身校と連絡を取って確認してください。

(3) 事前・事後指導について

教育実習は、実習の他に事前指導(3 年次・4 年次)と事後指導(4 年次)を必ず受けなければなりません。日程は掲示でお知らせしますので、注意してください。

注 4 「工業」の免許状における教職に関する科目の 2.6 単位及び教科の指導法に関する科目の 4 単位の計 3.0 単位については、全部又は一部を教科に関する科目(工業)で代替することができます。ただし、コースによっては履修すべき単位(職業指導を除き 5.9 単位)に不足することもありますので、その場合は、学生センター A 棟番窓口(学務課)に相談してください。

表3. 教科に関する科目の修得すべき単位数

**理工学科 【数学】**

数理・物理コース、材料科学コース、知能情報コース、クリエイティブ情報コース、  
電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等	修得すべき単位数	
代 数 学	○ 基礎数学	1		1以上	合計 31
	○ 線形代数学A	2			
	線形代数学B	2			
	離散数学	2			
	電気数学	2			
	計算力学	2			
幾 何 学	ベクトル解析	2		1以上	
	物理数学演習	1			
	○ 幾何学	2			
	幾何学	2			
解 析 学	○ 微分積分学	2		1以上	
	微分積分学	2			
	微分方程式	2			
	複素解析	2			
	フーリエ解析	2			
	物理数学演習	1			
	応用微分方程式	2			
	応用解析学	2			
	複素解析入門	1			
「確率論、統計学」	○ 確率統計学	2		1以上	
	応用確率統計学	2			
	データ解析	2			
コンピュータ	数値計算法	2		1以上	
	プログラミング学	2			
	人工知能	2			
	論理回路	2			
	数値計算	2			
	コンピュータアーキテクチャ	2			
	形式言語とオートマトン	2			
	数値計算アルゴリズム	2			
	システム制御工学	2			

印科目は、科目区分ごとの必修科目を示す。

印科目は、当該科目区分の選択必修科目を示す。（印から1科目2単位以上修得すること）

- ・ 下線付きの授業科目は、一般的包括的内容を含む科目。

各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分( -19ページ表4参照)を確認し、開設コースで受講してください。  
他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

理工学科 【理科】

化学コース、数理・物理コース、材料科学コース、社会基盤・環境工学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等	修得すべき単位数	
物 理 学	○ 物理学A	2		1以上	
	物理学B	2			
	熱力学	2			
	電磁気学	2			
	電磁気学	2			
	量子物理学	2			
	統計物理学	2			
	光学	2			
	固体物理学	2			
	電子物性学	2			
	磁性理工学	2			
	超伝導理工学	2			
	ナノ理工学	2			
	量子物理学	2			
	粒子線計測学	2			
	現代物理学	2			
	現代物理学	2			
	振動論	2			
	構造力学	2			
	構造力学	2			
	構造力学演習	1			
	水理学	2			
	水理学	2			
	水理学演習	1			
	土質力学	2			
	土質力学	2			
	土質力学演習	1			
耐震工学	2				
化 学	○ 化学A	2		1以上	合計 31
	化学B	2			
	有機化学	2			
	有機化学	2			
	無機化学	2			
	無機化学	2			
	物理化学	2			
	物理化学	2			
	化学工学	2			
	有機化学演習	1			
	有機化学演習	1			
	有機化学演習	1			
	無機化学演習	1			
	無機化学演習	1			
	無機化学演習	1			
	物理化学演習	1			
	物理化学演習	1			
	物理化学演習	1			
	高分子化学	2			
	無機分析化学	2			
	医薬品化学	2			
	無機材料化学	2			
	化学工学	2			
	次世代電池工学	2			
	触媒化学	2			
	有機分析化学	2			
	表面化学	2			
	応用電気化学	2			
	結晶工学	2			
	エネルギー環境科学	2			
半導体分子化学	2				
化学概論	2				

	化学研修	1		
	化学理工学情報	1		
	化学理工学情報	1		
	化学理工学研修	1		
	材料物理化学I	2		
	材料電気化学	2		
	水環境工学	2		
	大気環境工学	2		
生 物 学	○ 生物学	2		1以上
	生物化学	2		
	生物化学	2		
	生物有機化学	2		
	ケミカルバイオロジー	2		
地 学	○ 地学	2		1以上
	地質工学	2		
	地震・火山防災工学	2		
	水・土砂防災工学	2		
「物理学実験、化学実験、 生物学実験、地学実験」	物理学実験	1		1以上
	物理・材料理工学実験	2		
	化学理工学実験	3		
	化学理工学実験	3		
	化学実験	1		
	物理・材料理工学実験	2		
	社会基盤・環境工学実験	1		

印科目は、科目区分ごとの必修科目を示す。

印科目は、当該科目区分の選択必修科目を示す。（印から1科目1単位以上修得すること）

・下線付きの授業科目は、一般的包括的内容を含む科目。

各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分（-19ページ表4参照）を確認し、開設コースで受講してください。

他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

理工学科 【情報】

知能情報コース、クリエイティブ情報コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等	修得すべき単位数	
情報社会（職業に関する内容を含む。）・情報倫理	○ 情報社会と倫理	2	教育学部開設科目	1以上	合計 31
	セキュリティとプライバシー	2			
	○ 情報職業論	1			
コンピュータ・情報処理	信号処理	2		1以上	
	デジタル回路設計	2			
	○ オペレーティングシステム	2			
	数理計画法	2			
	コンパイラ	2			
	○ プログラミング言語及び演習	2			
	○ プログラミング言語及び演習	2			
	○ データ構造とアルゴリズム	2			
	ハードウェア設計及び演習	2			
情報システム	○ データベース	2		1以上	
	ロボティクス	2			
	○ ソフトウェア構成論	2			
	○ ソフトウェア設計及び演習	2			
	○ システム創成プロジェクト	2			
情報通信ネットワーク	○ コンピュータネットワーク	2		1以上	
	デジタル通信	2			
	○ ネットワーク実験	1			
マルチメディア表現・マルチメディア技術	画像処理とパターン認識	2		1以上	
	○ メディアシステム	2			
	ヒューマンインタフェース	2			
	コンピュータグラフィックス	2			
	情報デザイン	2			

印科目は、科目区分ごとの必修科目を示す。

・下線付きの授業科目は、一般的包括的内容を含む科目。

各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分( -19ページ表4参照)を確認し、開設コースで受講してください。

理工学科 【工業】

数理・物理コース、材料科学コース、電気電子・情報通信コース、機械知能航空コース、社会基盤・環境工学コース

科目区分	開設授業科目	単位数	開設コース等	修得すべき単位数
職業指導	○ 職業指導	2	理工学科	2
工業	材料組織学	2		29
	電気回路学	2		
	材料計測学	2		
	誘電体材料学	2		
	半導体理工学	2		
	半導体デバイス工学	2		
	材料力学	2		
	材料物理化学	2		
	材料組織学	2		
	金属構造材料学	2		
	材料強度学	2		
	工口材料学	2		
	接合工学	2		
	反応工学	2		
	製錬工学	2		
	鑄造材料学	2		
	複合材料学	2		
	生体材料学	2		
	非鉄金属材料学	2		
	電子デバイス工学	2		
	電子デバイス工学	2		
	半導体LSI工学	2		
	電気回路論Ⅰ	2		
	電気回路論	2		
	電気回路論	2		
	電磁気学	2		
	電磁気学	2		
	電磁波工学	2		
	電子材料物性学	2		
	アナログ電子回路	2		
	応用電子回路	2		
	電気電子計測学	2		
	通信システム	2		
	制御システム工学	2		
	光エレクトロニクス	2		
	エネルギー変換工学	2		
	電気機器工学	2		
	高電圧プラズマ工学	2		
	発電工学	2		
	送配電工学	2		
	組込ソフトウェア実習	1		
	組込ハードウェア実習	1		
	電気電子・情報通信工学特別講義	2		
電気設計製図	2			
精密工学	2			
トライボロジー	2			
機械製図	1			
CAD実習	1			
材料力学	2			
機械材料学	2			
流体力学	2			
機械製図	1			
機械加工学	2			
機械力学	2			
熱力学	2			
制御工学	2			
機械設計学	2			
材料力学	2			
粘性流体工学	2			
			合計	31

	固体力学	2		
	伝熱工学	2		
	燃焼工学	2		
	生体工学	2		
	センシング工学	2		
	航空流体工学	2		
	機械材料学	1		
	ロボティクス工学	2		
	航空宇宙システム工学	1		
	測量学	2		
	環境工学	2		
	測量学実習	1		
	測量学実習	1		
	鋼構造学	2		
	コンクリート工学	2		
	鉄筋コンクリート工学	2		
	道路工学	2		
	施設維持管理工学	2		
	水工学	2		
	岩盤力学	2		
	都市計画学	2		
	交通計画学	2		
	公共政策学	2		
	上下水道工学	2		
	土壌環境工学	2		
	生態環境保全学	2		
	資源循環工学	2		
	設計製図	1		

印科目は、科目区分ごとの必修科目を示す。

印科目は、当該科目区分の選択必修科目を示す。( 印から1科目1単位以上修得すること)

・下線付きの授業科目は、一般的包括的内容を含む科目。

各コース教育課程表備考欄に示されている科目区分( -19ページ表4参照)を確認し、開設コースで受講してください。  
他コースの開設科目を履修する場合は、設備等の関係で受け入れできない場合もありますので、担任及び科目担当教員と必ず相談してから受講してください。

表4 . 教科に関する科目 科目区分一覧

教育課程表の備考欄に表示する略語

教科名	科目区分	略語
数学	代数学	代
	幾何学	幾
	解析学	解
	「確率論、統計学」	確
	コンピュータ	コ
理科	物理学	物
	化学	化
	生物学	生
	地学	地
	「物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験」	物実 化実 生実 地実
情報	情報社会（職業に関する内容を含む）・情報倫理	情社
	コンピュータ・情報処理	情コ
	情報システム	情シ
	情報通信ネットワーク	情ネ
	マルチメディア表現・マルチメディア技術	情マ
工業	工業の関係科目	工
	職業指導	

## 農 学 部

農学部では高等学校教諭 1 種免許状（理科・農業）が取得可能です。そのためには下記のように修得する必要があります。（注：生命科学科は農業の免許状を取得できません。）

基礎資格（「学士の学位」）を有している

下記に示した A 表から 26 単位と B 表から 35 単位以上の合計 61 単位以上を修得している

教養教育科目から決められた科目と単位数を修得している

（教育職員免許状・各種資格の取得方法（-1 ページ）を参照）

詳細については、1 年次前期に開講する「教職入門」で説明するので、免許取得希望者は必ず「教職入門」を履修申告のうえ受講してください。

A 表 教職に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名	履修年次	履修時期	最低修得単位数		
					農業	理科	
教職に関する科目	教育の基礎的理解に関する科目	教職の意義及び教員の役割・職務内容（チーム学校運営への対応を含む。） 「（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）」を含む。	教職入門	1	前期	2	2
	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想 「教育に関する社会的、制度的又は経営的事項」を含む。 「（チーム学校運営への対応を含む。）」を含む。	教育概論	2～	前期	2	2	
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）	教育法規	2～	前期	} 1科目 選択	} 1科目 選択	
		学校経営・制度論	2～	後期			2
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	教育・学校心理学	1～	後期	2	2	
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別支援教育	2～	前期	2	2	
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	総合的な探究の時間の指導法	総合的な学習の時間の理論と実践	2～	後期	2	2
		特別活動の指導法	特別活動の理論と方法	1～	後期	2	2
	教育の方法及び技術 「教育課程の意義及び編成の方法（カリキュラム・マネジメントを含む。）」を含む。	教育課程・教育方法論	2～	前期	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育における ICT 活用方法	3～	後期	1	1	
	生徒指導の理論及び方法 進路指導及びキャリア教育の理論及び方法	生徒指導・進路指導	1～	後期	2	2	
	教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法	教育相談	1～	後期	2	2	
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習（教育実習事前事後指導含む） （注 1・注 2）	3～4		3	3	
	教職実践演習（中・高）	教職実践演習	4	後期集中	2	2	
A 表 小 計					26	26	

B表 教科及び教科の指導法に関する科目及び修得単位数

	免許法施行規則に規定される科目	授業科目名	履修年次	履修時期	開設科目単位数による最低修得単位数		
					農業	理科	
教科及び教科の指導法に関する科目	理科に関する専門的事項	物理学	物理学入門			2	
		化学	化学入門			2	
		生物学	生物学入門			2	
		地学	地学入門			2	
		「物理学実験(コンピュータ活用を含む。)、化学実験(コンピュータ活用を含む。)、生物学実験(コンピュータ活用を含む。)、地学実験(コンピュータ活用を含む。)」	基礎化学実験 基礎生物学実験	}			このうちから 1
	理科の関係科目	(注3)				2 2	
	理科の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		理科教育法	2 ~	前期		2
			理科教育法	2 ~	後期		2
	農業に関する専門的事項	農業の関係科目	(注3)			2 9	
職業指導		職業指導	1 ~	前期集中	2		
農業の指導法(情報通信技術の活用を含む。)		農業教育法	2 ~	前期	2		
		農業教育法	2 ~	後期	2		
B表 小 計					3 5	3 5	
A表 B表 合 計					6 1	6 1	

(注1) 教育実習について

1) 教育実習は4年次の6~9月頃に2週間の日程で行います。実習校は原則として各自の出身高等学校とします。

3年次の4月下旬~5月上旬にガイダンスを行ったうえで、7月頃に、実習校への大学からの依頼文を配布し、希望者が実習校に持参することにしてはいますが、実習生の受入人数を制限している学校があるので、実習を希望する学生は、2年次の終わり頃に出身校に連絡を取り、受け入れ手続きの確認をしておいてください。

2) 実習のほかに事前指導(3年次・4年次)と事後指導(4年次)を必ず受ける必要があります。日程は掲示でお知らせしますので、注意してください。

(注2) 教育実習実施にあたっては、下記の条件を全て満たしていなければなりません。

- 1) 卒業見込の者(研究室配属されていること)
- 2) 教職に関する科目の単位の1/2以上(13単位以上)を取得していること
- 3) 教科に関する科目の単位の1/2以上(18単位以上)を取得していること
- 4) 実習で実施する教科の教育法を2単位以上修得していること
- 5) 「生徒指導・進路指導」又は「教育相談」の単位を修得していること
- 6) 教育実習事前指導を受講していること

(注3) 理科及び農業の関係科目に対応する授業科目については、農学部専門教育科目履修表の備考欄の教員免許法上の科目の表示を確認し、所属学科(所属学科の他コースも含む。)の科目を修得してください。なお、所属学科(所属学科の他コースも含む。)で指定されている、免許を取得するための必修科目(「必」が記載された科目)を必ず履修してください。

教員免許状授与と申請について

免許状は都道府県の教育委員会に必要書類を取りそろえて申請することによって授与されます。卒業時に岩手県教育委員会に一括して申請しますので、希望者は必要書類を学生センターA棟 番窓口に提出して下さい。

必要書類や提出の日程については冬季休業前に掲示します。

## 2 その他各種資格の取得に当たって

所属する学部・学科・課程等によっては、特定科目の単位取得と卒業をもって、各種の資格を取得できたり、資格取得のための試験科目が一部免除される場合があります。

取得できる資格等については次の表にあげるページを参照してください。

また、この「履修の手引き」に掲載されていない資格について講習会等が開催される場合もありますので掲示にも注意してください。

所属学部	資格等の掲載ページ
人文社会科学部	Ⅲ－４８～５０ページ
教育学部	Ⅳ－４３～６６ページ
理工学部	各コース課程表の注釈欄
農学部	専門教育科目履修表の注釈欄

# 国際教育科目について

## 国際教育科目について

### 1. 国際教育科目の理念と教育目標

岩手大学では、次の2種類の内容の「国際教育科目」を開講しています。

#### 共修科目群

概要・目的：本学の海外交流協定大学からの交換留学生や日本語・日本文化研修留学生等と本学の学生が共修し、日本や国際社会についての知識を高め、それらについての討論、体験などを通じて、主体的に行動する態度を涵養することを目的とします。授業は日本語または英語で行われます。

対象：本学の海外交流協定大学からの交換留学生、本学の各学部在籍する日本人学生及び外国人留学生在が履修できます。本学の学部生がこの科目を履修した場合、専門教育科目の自由選択科目として卒業要件の単位が認められる場合がありますので、学務課に確認のうえ履修してください。

#### < 共修科目群リスト >

科目区分	授業科目名	単位数	対象学年	開講学期	備考
文化	Comparative Japanese History A	2	1	前期	英語
	Comparative Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese History A	2	1	前期	英語
	Japanese History B	2	1	後期	英語
	Japanese Traditional Culture A - Ikebana A	2	1	前期	英語
	Japanese Traditional Culture B- Ikebana B	2	1	後期	英語
国際研修	海外研修事前事後指導	2	2	前期 後期	教養教育科目「海外研修 世界から地域を考える」履修者対象
	学内留学	2	2、3、4	後期	
	国際合宿	2	2、3、4	前期	集中

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「英語」とある科目は英語で授業を行います。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講予定です。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

### 交換留学生専用科目群

概要・目的：本学に在籍する外国人留学生のために、初級から上級まで5レベルの日本語教育、および地域学や研究に関する国際教育を実施します。

対象：本学の海外協定大学からの交換留学生、日本語・日本文化研修留学生に単位が認められます。また、科目区分「日本語」の科目は本学に在学する全ての外国人留学生が受講することができますが、正規学部留学生には単位は認められません。総合科学研究科の正規留学生が「アカデミック日本語」\*として登録した科目については単位が認められます。

### < 交換留学生専用科目群 >

#### 日本語

授業科目名	単位数	開講学期	備考
初級日本語総合	10	前期・後期	月～金×2 コマ
初級日本語総合漢字	1	前期・後期	月・木×0.5 コマ
初級日本語 会話	1	前期・後期	
初級日本語 表記・読解	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 文法	1	前期・後期	
初級日本語 漢字	1	前期・後期	
初級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
中級日本語 会話	1	前期・後期	
中級日本語 文法	1	前期・後期	
中級日本語 漢字	1	前期・後期	
中級日本語 アカデミック日本語	1	前期・後期	
中級日本語 読解	1	前期・後期	
中級日本語 作文	1	前期・後期	
上級日本語ビジネス日本語	1	前期・後期	
上級日本語アカデミック日本語	1	前期・後期	

## 国際教育

授業科目名	単位数	開講学期	備考
理系研究 A	2	前期	
理系研究 B	2	後期	
特別研究 A	3	前期	大学院科目
特別研究 B	3	後期	大学院科目
農学系研究	1	前期・後期	
農学系特別研究 1	1	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 2	2	前期・後期	大学院科目
農学系特別研究 3	3	前期・後期	大学院科目
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	前期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系研究	2	後期	
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	前期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
芸術系特別研究	2	後期	大学院科目
岩手学 A	2	前期	
岩手学 B	2	後期	
個別研究	2	前期・後期	文系・芸術系科目

時間割、単位数、履修手続き、試験、成績評価等については、「岩手大学における国際教育科目に関する要項」その他に定めます。

## 2. 履修方法および開設授業科目

履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、中央掲示板および国際課前の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

# その他プログラムについて

## 数理・データサイエンス・AI教育プログラム（MDASH 認定教育プログラム）

本学は「岩手大学ビジョン 2030」の教育目標及び第 4 期中期目標・中期計画のアクションプランで「社会における様々なデータを数理・統計・情報を用いて解析し、社会における課題を発見し解決することができる能力を身につけるため教養教育と専門教育を融合させた数理・データサイエンス・AIに係る教育の体系化の確立」を掲げています。このアクションプラン実現のため、教養教育と各学部の専門教育では、数理・データサイエンス・AIに関する授業科目を開設しています。新しい時代の「読み・書き・そろばん」とされる数理・データサイエンス・AIに係る知識やスキルは、理系学部生の必須能力に留まらず、人文社会科学分野の文系の学生においても必須能力となっています。特に近年成長著しいAIは、今後の社会を大きく変革するゲームチェンジャーになると考えられています。このようなことから、本学では、在籍するすべての学生が関係する知識やスキルを習得し、実践的に活用できる能力を身につけられる教育プログラムとしています。

本学では、令和 4 年度に文部科学省から、「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」認定制度(MDASH)による「リテラシーレベル」の認定を受けています。リテラシーレベルは、教養教育科目の必修科目で対応しているため、全学生が認定されます。また、MDASH「応用基礎レベル」の教育プログラムは、教養教育科目と各学部の専門教育科目で構成されており、学部の専門性を活かした教育プログラムとなっています。令和 6 年度には教育学部の教育プログラムが認定され、令和 5 年度入学生から適用されています。人文社会科学部、理工学部、農学部、獣医学部（令和 6 年度入学生までは農学部共同獣医学科）については令和 6 年度入学生から同教育プログラムを開始しており、令和 7 年度に認定されました。

なお、令和 7 年度から入学する理工学部、農学部の学生については、「応用基礎レベル」の科目がすべて必修科目となっています。「応用基礎レベル」の認定科目はいずれも基礎的な内容であり、データエビデンスに基づく問題解決能力等の実践力を形成するために、認定科目の多くを演習形式としています。選択的に履修することになる人文社会科学部、教育学部、獣医学部の学生の積極的な履修を期待します。

本教育プログラムにより身につけることのできる能力や対象授業科目、修了要件等は本学ホームページで確認してください。

リテラシーレベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/ds.html>

応用基礎レベル



<https://www.iwate-u.ac.jp/campus/course/mdash-AL.html>

## IHATOVO グローバルコースについて

### 1. IHATOVO グローバルコースの理念と教育目標

岩手大学国際教育センターでは、岩手に顕在化する課題をグローバルな視点から理解し、解決に貢献し、発信する力の養成をめざし、「IHATOVO グローバルコース」を企画・運営しています。このコースの参加によって「知識・探求力」、「コミュニケーション力」、「人間力」を向上させ、地域社会、国際社会で活躍する人材を育成します。

### 2. コースの構成

コースは、A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践の4つのカテゴリーに分類された、授業および課外活動で構成されています。各授業、活動に参加すると、Global Mileage が付与されます。

A～Dのすべてのカテゴリーのいずれかの授業、課外活動に最低1つ参加し、一定程度のGlobal Mileage を獲得した者にはIHATOVO グローバルコース履修認定証を授与します。コース認定されなくても、Global Mileage の獲得実績に応じて表彰します。また、海外研修、留学などの際にインセンティブを与えることがあります。

### 3. コースの評価・認定方法

認定要件を満たした学生には、学長から認定証を授与し、記念品を贈呈します。また、毎学期、学年別に Global Mileage 獲得上位者を表彰し、記念品およびオープンバッジを贈呈します。

\* 一定以上のマイル獲得後、海外研修、留学に行く場合は、海外派遣奨学金、留学のための語学検定試験の受験料補助などの奨学資金を支給します。

\* マイルの獲得実績を、海外研修、留学等の参加要件(成績、単位数、面接評価等)に加えることもあります。

#### < 認定方法 >

1) A. 外国語、B. コミュニケーション、C. 国際教養、D. 実践、の4領域すべての授業、活動をそれぞれ最低1つずつ履修、参加していること

2) マイルの合計が一定のマイル数に到達していること

ブロンズ = 800 マイル   シルバー = 1200 マイル   ゴールド = 2000 マイル

### <認定基準>

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	外国語	コミュニケーション	国際教養	実践	合計マイル数
ブロンズ	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	800マイル
シルバー	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	1200マイル
ゴールド	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	10マイル以上	2000マイル

#### 4. 履修方法および開設授業科目・課外活動

IHATOVO グローバルコース対象授業科目の履修については、国際教育センターホームページ、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび国際課（学生センターB棟）の掲示等で確認してください。

対象学年以上の正規学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講します。

講師の都合等により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

IHATOVO グローバルコース対象課外活動リスト及び詳細については、以下を参照願います。

<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/japanese-student/index.html>



# イーハトーヴ協創コースについて

## 1. イーハトーヴ協創コースの理念と教育目標

岩手大学では、全学部の学生を対象とした共修プログラム（ ）「イーハトーヴ協創コース」を開講しています。

岩手大学（前身の盛岡高等農林学校）の卒業生である宮沢賢治の想い「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」(Well-being)を受け継ぎ、誰一人取り残さない持続可能な社会の実現を目指し、岩手で生きる、岩手と縁のある地域の多様な方々との協創活動を通じ、心の豊かさとイノベーションマインドを併せ持ち、高い専門性と実践力を兼ね備えたレジリエントな人材を育成します。

（ ）共修プログラムとは？

自身が所属する主専攻（学部）以外の分野を系統的に学修するプログラムです。

### （1）コースの概要

イーハトーヴ協創コースでは、教養教育科目を中心に、デザイン思考、マーケティング、プロジェクトマネジメント、課題解決型インターンシップなど、アントレプレナーシップ（起業家精神）の醸成や、地域のイノベーションに必要な創造性やチャレンジ精神を高めるための科目、企業・自治体との提携講義を学部横断型で学びます。

さらに地域における実践活動（正課外）も併せて評価することで、専門性と実践力を身につけます。

これらの学修過程を可視化するため、「地域協創マイレージ」を導入し、正課教育に加え正課外活動を含めてポイント化し、履修・研修経験を段階的に評価します（地域協創マイレージの取得状況は「アイフォリオ」で確認することができます）。

### （2）コースの受講対象者、登録・認定方法

- ・ 本学の各学部 に在籍する日本人学生及び外国人留学生（非正規生を除く）が履修できます。
- ・ コースは自動エントリー制であり、履修をするための特段の手続きは不要です。
- ・ コースに関連する科目の単位を取得した場合や、課外活動を実施し所定の手続きを行った場合、「地域協創マイレージ」が自動的に付与されます。
- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。

## 2. コースの構成

### （1）正課教育

「イーハトーヴ協創コース関連科目」に指定されている以下の科目から受講します。なお、授業科目には、必修科目とコア（選択必修）科目、選択科目の3種類があり、段階ごとに修得すべき単位数が定められていますので、注意してください。

なお、正課教育で取得した単位は1単位 = 50 地域協創マイレージに換算します。

## コースの構成

必修・選択の別		科目名称	科目区分
必修科目		地域協創入門	教養（地域）
コア科目 （選択必修）	1単位	地域協創 A・B・C・D・E・F・G・H・I	教養（地域）
	2単位	社会連携学 A・B、 キャリアを考える A・B キャリアデザイン実践 地域課題演習 A・B・C・D インターカレッジ・フィールド実践演習	教養（地域/地域課題演習）
選択科目（教養）		コア科目及び探究知科目（環境科目、地域科目）・実践知科目（地域課題演習科目）から選択	教養（環境/地域/地域課題演習）
選択科目（専門）		各学部専門科目におけるイーハトーヴ協創コース関連科目から選択	専門

## 開講科目

イーハトーヴ協創コース関連科目リスト及び詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

対象学年以上の学生が履修可能です。

備考欄に「集中」とある科目は集中講義で開講する場合があります。

講師等の都合により、開講しないことがあります。また、この他の科目が開講される可能性があります。各学期の開講案内を確認してください。

## （2）正課外活動

- 地域課題解決プログラム、学内カンパニー、NEXT STEP 工房など本学が実施・支援する実践活動プログラムや、イーハトーヴ協創ラボ（TOVLAB）及びグローバルビレッジ等でのイベント参加、他大学や他機関との連携プログラム等について、以下の基準に基づき「地域協創マイレージ」を付与します。

### < 地域協創マイレージの算定基準（標準的な目安） >

正課・課外の別	主な事業	付与マイル数
正課教育	イーハトーヴ協創コース関連科目 1単位科目	50
	イーハトーヴ協創コース関連科目 2単位科目	100
正課外活動	単発型のイベント	10
	3日程度の短期イベント	50
	3日以上～1週間程度の中長期イベント	100
	インターンシップ、通年の実践活動（メンバーの一人として参画）	150
	長期研修・長期インターンシップ、通年の実践活動（リーダーとして参画）	300

地域協創マイレージの対象事業等の詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

### 3. コースの評価・認定方法

- ・ 修了認定要件を満たし、「修了認定申請書」を自己申請すると、修了認定を受けることができます。
- ・ 修了が認定されると、成績証明書の特記事項欄に「イーハトーヴ協創コース（受講中または修了）」と記載されます。
- ・ また、本学が提供する学習プログラム等の修了者に対してデジタル修了証である「オープンバッジ」を付与する予定です。
- ・ 大学時代に経験した実践的な取組を就職や進学の際にアピールするものとしての効果が期待できます。
- ・ 認定証と併せ、就職活動等に活用可能なコース概要説明書を発行します。

#### (1) 認定方法

- ・ イーハトーヴ協創コース関連科目事業における主な修得能力を5つのカテゴリーに分類し、それぞれの「地域協創マイレージ」取得状況に基づき評価します。

マインドセット
ツール
キャリア
アクション
専門知識

- ・ 各カテゴリーから、該当する授業、活動を最低1つずつ取得していることが認定要件となります。
- ・ マイレージの認定について、授業は自動認定されますが、正課外活動については、認定申請が必要となる場合があります。申請方法はプログラム毎に案内します。
- ・ 地域協創マイレージの取得状況については「アイフォリオ」で確認することができますので、随時活用してください。

#### (2) 認定基準

総取得マイル数に応じ、ブロンズ、シルバー、ゴールドの3段階で認定します。

ランク	正課教育		正課外活動	総取得マイル数
	単位数（必修・コア）	単位数（選択）		
ブロンズ	必修2、コア2 （200マイル）	専門2 （100マイル）	100マイル	400マイル
シルバー	必修2、コア4 （300マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	300マイル	800マイル
ゴールド	必修2、コア8 （500マイル）	教養2、専門2 （200マイル）	500マイル	1200マイル

#### 4. 履修モデル

- ・ イーハトーフ協創コースを受講する学生に対し、カリキュラムデザインの参考としてもらうとともに、コースの認知度や有用性を図りたい個別のキャリア像を意識した履修モデルを複数提示します。
- ・ 履修モデルはあくまでも参考提示であり、学生はコースに指定する科目を自由に受講することが可能ですので、履修の参考としてください。

なお、専門科目については、原則、所属する学部の科目を受講してください。

各履修モデルの詳細については、地域協創教育センターホームページを参照願います。

#### 5. 履修方法および開設授業科目

イーハトーフ協創コースの履修については、本冊子及び時間割を参考にし、大学からのお知らせ、アイアシスタントおよび地域協創教育課（学生センターB棟）の掲示等に注意して、間違いのないように手続きをしてください。具体的な履修方法及び開設授業科目については、当該学期の開始までに別途掲示によりお知らせします。

各学部、学科、課程ごとにそれぞれ履修できる範囲及び修得すべき単位数等が定められていますので、各学部の説明の項を熟読してください。また、履修にあたっては前期のみまたは後期のみ開講する授業科目や、年度により開設しない科目があるので注意してください。

#### 6. 本件担当

地域協創教育センター（学生センターB棟1階）

<https://www.iwate-u.ac.jp/rcec/ihatov-course.html>



# 関係法規等

## 岩手大学諸規則

1. 国立大学法人岩手大学学則
2. 国立大学法人岩手大学大学院学則
3. 岩手大学教養教育規則
4. 岩手大学における授業科目の履修登録単位数の上限に関する規則
5. 岩手大学における在学期間の特例に関する規則
6. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する規則
7. 岩手大学における長期にわたる教育課程の履修に関する申し合わせ
8. 岩手大学転学部に関する規則
9. 岩手大学転学科及び転課程取扱要項
10. 岩手大学編入学取扱規則
11. 岩手大学編入学生の教養教育科目及び共通教育科目履修基準
12. 岩手大学再入学取扱規則
13. 岩手大学研究生規則
14. 岩手大学科目等履修生規則
15. 岩手大学外国人留学生規則
16. 成績評価基準について
17. 気象警報等の発令時等における授業等の取扱いに関する申合せ

## 関係法令（e-Gov 法令検索にリンク）

1. 日本国憲法
2. 教育基本法
3. 学校教育法
4. 教育職員免許法
5. 教育職員免許法施行規則
6. 小学校及び中学校の教諭の普通免許状授与に係る教育職員免許法の特例等に関する法律